水戸市埋蔵文化財調査報告　第８集

坏 遺 跡

（第３地点）

－ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００７

水　戸　市　教　育　委　員　会
株式会社　グリーン・ハウジング
株式会社　地域文化財コンサルタント

口絵写真１

調査区全景（1）

口絵写真２

調査区全景（2）

口絵写真 3

縄文時代出土土器

口絵写真 4

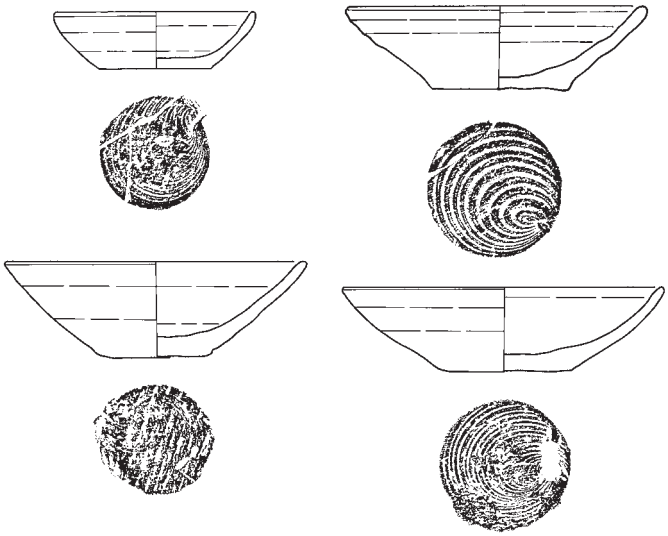
SK-36（遺物番号 2）展開写真

水戸市埋蔵文化財調査報告　第８集

坏 遺 跡

（第３地点）

－ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－



２００７

水　戸　市　教　育　委　員　会
株式会社　グリーン・ハウジング
株式会社　地域文化財コンサルタント

序

坏遺跡のある河和田の地は，桜川を南に望む，風光明媚な丘陵上に位置しております。

平成８年２月，共同住宅建設に伴い坏遺跡の最初の発掘調査が実施されました。この時の調査では，わずかな調査面積にもかかわらず，多量の縄文時代中期の土器とともに多くの住居址や貯蔵穴が検出され，水戸市を代表する縄文時代の集落遺跡であることが判明いたしました。

また，坏遺跡の周辺においても，高天原遺跡・高天原古墳群・若林遺跡・赤塚遺跡・赤塚古墳群など，先土器時代から奈良・平安時代までの多くの遺跡が分布しており，さらに桜川の対岸には，本市の代表的な中世城館である河和田城跡が存在することが知られております。このように河和田の地は，先土器時代から現代まで絶え間ない無数の人々の営みの上に立った，豊かな歴史的景観を有する場所であると言えましょう。

近年，赤塚駅周辺や見和地区の市街地化に伴い遺跡周辺も開発が増加しつつあります。埋蔵文化財は工事や開発により一度破壊されると二度と原状に戻すことはできません。先人の営みを尊重し，歴史的景観を生かしたまちづくりが望まれるところであります。

本書は，平成 18 年６月から７月にかけて，ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴い実施した発掘調査の報告書です。調査では縄文時代および中世を中心とした遺構・遺物が検出され，坏遺跡の範囲や性格について重要な成果を得ることができました。

本書が学術研究資料として充分に活用されるとともに，市民の皆さまが文化財保護への関心を深められ，また郷土の歴史を再認識されるきっかけとなれば，これに勝る喜びはありません。

最後になりましたが，発掘調査の実施および本書の刊行にあたり，事業者の株式会社グリーン・ハウジングをはじめ，地域住民の皆様には多大なご理解とご協力を賜りました。末筆ながら心から感謝申し上げ，序の言葉といたします。

平成 19 年３月

水戸市教育委員会
教育長　鯨 岡　武

例　言

1　本書は茨城県水戸市に所在する圷遺跡のうち，河和田１丁目のマンション（ヴィヴァンコート赤塚）建設工事に先立ち実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2　発掘調査は株式会社グリーン・ハウジングの委託を受け，茨城県教育委員会・水戸市教育委員会の調査指導のもと，株式会社地域文化財コンサルタントが主体となって実施した。

3　遺跡の所在地，調査面積，調査期間等は以下のとおりである。

所 在 地　茨城県水戸市河和田１丁目 1645-13 地内

調査面積　1,445 ㎡

調査期間　平成 18 年６月 21 日～平成 18 年７月 12 日

整理期間　平成 18 年７月 13 日～平成 19 年３月 20 日

4　圷遺跡の本調査および試掘・確認調査は今回で３回目であるため，本調査区について「圷遺跡第３地点」と称する。

5　発掘調査の組織は別記のとおりである。

6　本書の編集は関口慶久（水戸市教育委員会）の指導のもと，小川将之（株式会社地域文化財コンサルタント）が担当し，執筆は関口・川口武彦（水戸市教育委員会）・新垣清貴（水戸市教育委員会）・小川が分担した。文責は各文末に記載している。

7　出土した遺物および原図・写真類は，水戸市教育委員会が保管している。

8　発掘調査の実施から報告書刊行に至るまで，下記の方々および機関より御指導･御協力を賜った。記して謝意を表したい（順不同・敬称略）。

稲田義弘　斎藤弘道　江原　英　河野一也　大熊佐智子　長井正欣　日沖剛史　野神　伸

折原　繁　折原洋一　榊原　剛　齋藤　洋　間宮正光　高野浩之

茨城県教育庁文化課　株式会社グリーン・ハウジング

調 査 組 織

事　務　局　　鯨岡　武（水戸市教育委員会教育長）

小澤邦夫（水戸市教育委員会教育次長）

森田秀人（水戸市教育委員会生涯学習課長）

成田行弘（水戸市教育委員会生涯学習課長補佐）

宮崎賢司（水戸市教育委員会生涯学習課文化財係長）

黒須雅継（水戸市教育委員会生涯学習課文化財係主事）

川口武彦（水戸市教育委員会生涯学習課文化財係文化財主事）

新垣清貴（水戸市教育委員会生涯学習課文化財係埋蔵文化財専門員）

調 査 指 導　　関口慶久　　（水戸市教育委員会生涯学習課文化振興係文化財主事）
主任調査員　　小川将之　　（株式会社地域文化財コンサルタント調査研究部）
調　査　員　　遠藤雄一郎　（株式会社地域文化財コンサルタント調査研究部）
調　査　員　　佐々木正治　（株式会社地域文化財コンサルタント調査研究部）
調　査　員　　野村浩史　　（株式会社地域文化財コンサルタント調査研究部）
調　査　員　　天池　学　　（株式会社地域文化財コンサルタント調査研究部）

調査・整理参加者名簿

石川　勉　海老原四郎　小山司農夫　河原井俊吉郎　高安幸且　飛田とし子　広水一真　福原雅美
皆川明子　冨田　仁　中山忠雄　榎澤由紀江　高柳悦子　花田繁二郎　宮澤美代子　渡辺恵子
川村理華　増田香里　藤井陽子　石井葉子　遠藤恵子　小林　嵩

凡 例

1　遺構実測図は国家標準直角座標Ⅸ系を基に作成し，方位は真北を示す。
2　遺構実測図における主軸の方向は長軸が基準であるが，地下式坑は入口部を基準に計測している。
3　遺構実測図における土層説明文で，微・少・中・多はそれぞれ，微量（土層内での割合が 1 ～ 3%）・少量（5 ～ 10%）・中量（15 ～ 25%）・多量（30% 以上）を意味する。
4　遺構実測図における「K」は攪乱を意味する。
5　遺物観察表の計測値は（　）が復元値，[　] は残存値を示す。
6　遺構・遺物実測図の縮尺は各図面に記した。遺物写真の縮尺は原則として実測図に合わせた。
7　遺構・遺物の色調表記は，『新版標準土色帖 2003 年版（財団法人日本色彩研究所ほか)』を使用し，記載した。
8　引用・参考文献は一括して本書末に示した。

凡 例 図

遺構実測図・遺物実測図中の網掛け及び土器類記号は下記のとおりである。

焼土　赤彩　漆塗り　煤　●　土器　▲　石器

目 次

序
例言
凡例
目次
第Ⅰ章　はじめに――――――――――――――――――――――――――――――――――――――― 1
第１節　調査に至る経緯・・（１）
第２節　試掘・立会調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（１）
第１項　試掘調査・・・（１）
第２項　立会調査・・・（２）
第３節　調査・整理の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（４）
第１項　調査の方法・・（４）
第２項　整理の方法・・（４）
第４節　発掘作業の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（４）
第５節　整理作業の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（６）
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境――――――――――――――――――――――――――――――――――― 7
第１節　地理的環境・・（７）
第２節　歴史的環境・・（８）
第１項　先土器時代～縄文時代草創期・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（８）
第２項　縄文時代・・・（８）
第３項　弥生時代～奈良・平安時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（９）
第４項　中世～近世・・・(14)
第Ⅲ章　基本層序――――――――――――――――――――――――――――――――――――――― 17
第Ⅳ章　発見された遺構――――――――――――――――――――――――――――――――――― 18
第１節　縄文時代・・(18)
第１項　土坑・・(18)
第２項　ピット・・・(29)
第２節　中世以降・・(31)
第１項　掘立柱建物跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(31)
第２項　溝跡・・(33)
第３項　地下式坑・・(35)
第４項　土坑・・(39)
第５項　井戸跡・・・(49)
第６項　ピット・・・(51)

第３節　時代不明・・(55)
第１項　炉跡・・・(55)
第Ⅴ章　出土した遺物――――――――――――――――――――――――――――――――――――――― 56
第１節　縄文時代・・(56)
第２節　弥生時代・・(81)
第３節　古墳時代・・(81)
第４節　中世・・(82)
第５節　近現代・・・(92)
第６節　時代不明・・(92)
第Ⅵ章　総括――― 100
第１節　縄文時代における土地利用と中期の土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(100)
第２節　坏遺跡と河和田城－中世常陸国における村落と城館の一例－・・・・・・・・・・・(102)
第１項　問題の所在・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(102)
第２項　中世における土地利用の変遷－遺跡理解のための基礎的考察－・・・・・・・・・(102)
第３項　中世坏遺跡の歴史的位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(108)
第４項　中世東国村落としての坏遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(112)
おわりに――― 113
引用・参考文献・・・(114)
写真図版
報告書抄録

表 目 次

第１表　坏遺跡と周辺遺跡一覧表・・・・・13
第２表　縄文時代 Pit 一覧表・・・・・・・29
第３表　中世以降 Pit 群 -1 ピット一覧表・・52
第４表　中世以降 Pit 群 -2 ピット一覧表・・52
第５表　中世以降 Pit 一覧表・・・・・53・55
第６表　縄文時代土器観察表 ・・・・・・70
第７表　縄文時代土製品観察表 ・・・・・78
第８表　縄文時代石器計測・観察表・・・・79
第９表　縄文時代石器組成表・・・・・・・79
第10表　縄文時代石材別器種組成表・・・・80
第11表　出土地点別石材組成表・・・・・・80
第12表　弥生時代遺物観察表・・・・・・・81
第13表　古墳時代遺物観察表・・・・・・・81
第14表　内耳土鍋分類表・・・・・・・・・83
第15表　中世遺物観察表・・・・・・・・・89
第16表　時代不明遺構外出土遺物観察表・・92
第17表　出土遺物一覧表・・・・・・・・・93
第18表　中世遺物器種組成表 (1)　・・・・103
第19表　中世遺構の変遷一覧 ・・・・・・104
第20表　中世遺物器種組成表 (2)　・・・・104

図 版 目 次

第１図　試掘区トレンチ配置図・・・・・・３
第２図　立会調査時の遺構確認面図・・・・３
第３図　水戸市域の地形・・・・・・・・・７
第４図　圷遺跡の範囲と既存の調査地点・・10
第５図　圷遺跡の位置と周辺の遺跡・・・・11
第６図　明治期における圷遺跡周辺の地形・12
第７図　調査区全体測量図・土層図・
　　グリッド図・・・・・・・・・・15・16
第８図　調査区配置図・・・・・・・・・15・16
第９図　基本層序図・・・・・・・・・・・・17
第10図　SK-14・15（縄文時代土坑）　・・・19
第11図　SK-16・17（縄文時代土坑）・・・・20
第12図　SK-19・20（縄文時代土坑）・・・・22
第13図　SK-21・36（縄文時代土坑）・・・・24
第14図　SK-3・5（縄文時代土坑）　・・・・26
第15図　SK-6・22・23（縄文時代土坑）・・28
第16図　Pit-2・5 ～ 7・9 ～ 12・
　　15 ～ 18・22・37 ～ 42
　　（縄文時代ピット）・・・・・・・・・30
第17図　SB-1・2
　　（中世以降掘立柱建物跡）・・・・・32
第18図　SD-1・3・SK-1
　　（中世以降溝跡・土坑）・・・・・・34
第19図　SD-2・SK-41・Pit-36
　　（中世溝跡・中世以降地下式坑）・・36
第20図　SK-26・29・SE-2
　　（中世・中世以降地下式坑・
　　井戸跡）・・・・・・・・・・・・・38
第21図　SK-2・28
　　（中世地下式坑・中世以降土坑）・・40
第22図　SK-4・8 ～ 13・Pit-26
　　（中世以降土坑・ピット）・・・・・42
第23図　SK-24・25・31・37・38
　　（中世以降土坑・現代炭焼き
　　関連施設）・・・・・・・・・・・・44
第24図　SK-27・30・32 ～ 35・39・
　　Pit-63・65（中世以降土坑・ピット）・46
第25図　SE-1 ～ 3（中世井戸跡）・・・・・50
第26図　Pit 群 -1・2（中世以降ピット群）
　　Pit-1・3・4・8・13・14・
　　19 ～ 21・23 ～ 36・43 ～ 71
　　（中世以降ピット）・・・・・・・・・54
第27図　炉跡－１（時代不明）・・・・・・・55
第28図　SK-14 出土遺物 (1)（縄文時代）・・58
第29図　SK-14 出土遺物 (2)・
　　SK-15 出土遺物 (1)
　　（縄文時代）・・・・・・・・・・・・59
第30図　SK-15 出土遺物 (2)・
　　SK-16 出土遺物 (1)
　　（縄文時代）・・・・・・・・・・・・60
第31図　SK-16 出土遺物 (2)（縄文時代）・・61
第32図　SK-16 出土遺物 (3)（縄文時代）・・62
第33図　SK-16 出土遺物 (4)
　　（縄文時代）・・・・・・・・・・・・63
第34図　SK-17 出土遺物（縄文時代）・・・64
第35図　SK-19 出土遺物・SK-20 出土遺物 (1)
　　（縄文時代）・・・・・・・・・・・・65
第36図　SK-20 出土遺物 (2)・SK-36 出土遺物 (1)
　　（縄文時代）・・・・・・・・・・・・66
第37図　SK-36 出土遺物 (2)・SK-1・2・
　　12・26 出土遺物（縄文時代）・・・67
第38図　SK-33・38・SB-2・SD-2・
　　SE-1・Pit 群 -1・2 出土遺物・
　　遺構外出土遺物 (1)
　　（縄文時代）・・・・・・・・・・・・68
第39図　遺構外出土遺物 (2)
　　（縄文時代）・・・・・・・・・・・・69
第40図　SD-2 出土遺物（弥生時代）・・・・81
第41図　炉跡 -1・SB-2・遺構外出土遺物
　　（古墳時代）・・・・・・・・・・・・81
第42図　中世陶器・カワラケ・内耳土鍋
　　集成図・・・・・・・・・・・・・・84
第43図　SD-2 出土遺物 (1)（中世）・・・・85
第44図　SD-2 出土遺物 (2)（中世）・・・・86
第45図　SK-2・26・28・32 出土遺物
　　（中世）・・・・・・・・・・・・・・87
第46図　SK-33・SE-1・3・遺構外出土遺物
　　（中世）・・・・・・・・・・・・・・88
第47図　遺構外出土遺物（時代不明）・・・92
第48図　縄文時代遺構分布図 ・・・・・・101
第49図　中世遺構変遷図 ・・・・・・・・105
第50図　中妻 33 郷・・・・・・・・・・・109
第51図　河和田城実測図 ・・・・・・・・111

写 真 図 版 目 次

口絵写真１　調査区全景 (1)
口絵写真２　調査区全景 (2)
口絵写真３　縄文時代出土土器
口絵写真４　SK-36（遺物番号 2）展開写真
挿入写真１　試掘トレンチ１掘削状況
挿入写真２　試掘トレンチ２掘削状況
挿入写真３　試掘トレンチ３掘削状況
挿入写真４　遺構検出作業
挿入写真５　SK-2 掘削状況
挿入写真６　SK-2 実測状況
挿入写真７　基本層序
写真図版１　調査地点の位置（数字は地点名，平成 15 年撮影）・圷遺跡と河和田城跡（昭和 22 年米軍撮影）
写真図版２　遺構全景 (1)・遺構全景 (2)
写真図版３　遺構全景 (3)・遺構全景 (4)
写真図版４　遺構検出状況・縄文時代の遺構 (1)　SK-14・15
写真図版５　縄文時代の遺構 (2)　SK-16・17・19
写真図版６　縄文時代の遺構 (3)　SK-20・21・36
写真図版７　縄文時代の遺構 (4)・中世以降の遺構 (1)　SK-3・5・6・22・23・SB-1
写真図版８　中世以降の遺構 (2)　SB-2・SD-1・2・3
写真図版９　中世以降の遺構 (3)　SD-2・SK-2
写真図版 10　中世以降の遺構 (4)　SK-26・29・41・SE-1
写真図版 11　中世以降の遺構 (5)　SE-2・3・SK-1・4・8
写真図版 12　中世以降の遺構 (6)　SK-9 ～ 13・24・25
写真図版 13　中世以降の遺構 (7)　SK-27・28・30 ～ 35・37 ～ 39
写真図版 14　中世以降の遺構 (8)・時代不明の遺構・調査区壁土層・調査参加者　SK-38・Pit 群 -1・2・炉跡 -1・調査区東壁土層・調査区西壁土層・調査参加者
写真図版 15　SK-14 出土遺物 (1)（縄文時代）
写真図版 16　SK-14 出土遺物 (2)・SK-15 出土遺物・SK-16 出土遺物 (1)（縄文時代）
写真図版 17　SK-16 出土遺物 (2)（縄文時代）
写真図版 18　SK-16 出土遺物 (3)（縄文時代）
写真図版 19　SK-16 出土遺物 (4)（縄文時代）
写真図版 20　SK-17・19 出土遺物　（縄文時代）
写真図版 21　SK-20 出土遺物・SK-36 出土遺物 (1)（縄文時代）
写真図版 22　SK-36 出土遺物 (2)・SK-1・2・12 出土遺物・SK-26 出土遺物 (1)（縄文時代）
写真図版 23　SK-26 出土遺物 (2)・SK-33・38・SB-2・SD-2・SE-1・Pit 群 -1・2・遺構外出土遺物 (1)（縄文時代）
写真図版 24　遺構外出土遺物 (2)（縄文時代）SD-2 出土遺物（弥生時代）SB-2・炉跡 -1・遺構外出土遺物（古墳時代）
写真図版 25　SD-2 出土遺物 (1)（中世）
写真図版 26　SD-2 出土遺物 (2)（中世）
写真図版 27　SK-2・26・28・32 出土遺物（中世）
写真図版 28　SK-33・SE-1・3・遺構外出土遺物（中世）遺構外出土遺物（時代不明）

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

平成 17 年９月，周知の埋蔵文化財包蔵地「圷遺跡」の隣接地においてマンション建設工事が具体化し，事業者 株式会社グリーン・ハウジング（以下「事業者」という）から「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」（教生第 738 号）が水戸市教育委員会（以下「市教委」という）へ提出された。

照会地である水戸市河和田１丁目 1645-13 は周知の埋蔵文化財包蔵地「圷遺跡」の北側に隣接しており，遺跡の範囲が広がっているか，未確認の埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから，平成 17 年９月 15 日に水戸市教育委員会が試掘調査を実施することになった。

試掘調査の結果，遺構は確認されなかったものの縄文土器片が数十点出土し，土地利用は希薄ながらも，若干の埋蔵文化財が包蔵されている可能性が窺えた。この試掘結果に基づき市教委は，茨城県教育委員会（以下，「県教委」という）と協議の上，工事に際して市教委による立会いの協力を求め，工事中に万一埋蔵文化財が発見された場合は，その保存等について別途協議を要する旨，事業者あて回答した（教生第 739 号）。

平成 18 年６月，事業者からマンション工事着工に伴う根切り工事を実施する旨，市教委に連絡があった。６月９日に市教委が立会いのため工事現場を訪れたところ，根切り底から複数の袋状土坑のプランとともに，覆土中に縄文土器が多数包蔵されている状況が確認された。これを受け，事業者は工事を一時中断し，文化財保護法第 96 条の規定に基づき「遺跡発見の届出について」（教生第 584 号）を提出するとともに，文化財の保護について市教委と再三協議を重ねた。しかしながら計画変更は困難であるとのことから，工事着手前に発掘調査を実施し，記録保存の措置を講ずることとなった。

県教委からは平成 18 年６月 15 日付で回答があり（文第 589 号），当該地区が周知の埋蔵文化財包蔵地「圷遺跡」の範囲拡大部分に当たることが認定され，さらに工事着手前に発掘調査を実施する必要がある旨の勧告があった。

これを受け事業者は発掘調査を株式会社地域文化財コンサルタントに委託し，また市教委･事業者･株式会社地域文化財コンサルタントの３者で協定書を締結し，発掘調査を実施することとなった。

第２節　試掘・立会調査の経過

第１項　試掘調査

試掘調査は，平成 17 年９月 15 日に実施した。調査にあたっては，開発対象地に 2.0ｍ ×1.0ｍの試掘トレンチを任意に３本設定し（第１図），人力にて表土掘削を行った。

掘削の結果，各トレンチにおいて地表下60㎝で関東ローム層が確認された（挿入写真１～３）。遺構は確認されなかったものの，阿玉台式を主体とする縄文土器の破片が数十点，漸移層中から出土した。

なお，平成17年８月に調査対象地の隣地について試掘調査を実施し（坏遺跡第２地点），58.4㎡という比較的広範囲のトレンチを設定したが，全く遺構は検出されなかった。これに比べ，開発対象地の西側約250ｍ先で実施された発掘調査（坏遺跡第１地点）では，縄文時代中期を主体とする多くの遺構・遺物が検出され，非常に活発な土地利用が認められている。

以上のような試掘調査結果および周辺における調査の状況,そして遺物の表面散布状況などを考慮すると，集落の中心は坏遺跡第１地点付近にあり，第２地点・第３地点周辺は集落のはずれにあたる可能性が強いと判断された。しかしながら試掘区出土の遺物は，表土中ではなく漸移層中というプライマリーな層位からの出土であるため，調査地一帯は，遺構密度は必ずしも高くないものの，若干の遺構が存在する可能性を窺わせるものであった。

しかしながら開発対象地は当時，周知の埋蔵文化財包蔵地のエリア外に位置しており，また埋蔵文化財の包蔵状況が明確に判断できなかったことから，県教委と協議の上，本工事中に工事立会の協力を事業者に求めることとなった。なお試掘調査費用は国庫補助金を充当した。

挿入写真１　試掘トレンチ１掘削状況（南から）

挿入写真２　試掘トレンチ２掘削状況（南から）

挿入写真３　試掘トレンチ３掘削状況（南から）

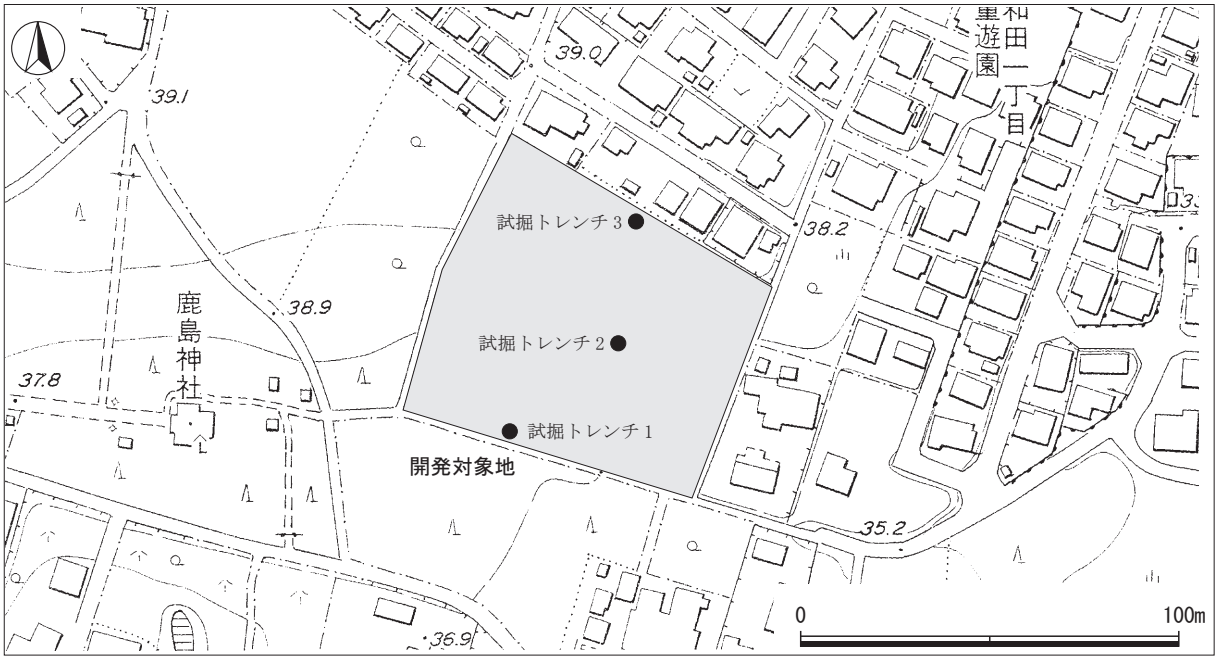
第２項　立会調査

立会調査は，平成18年６月９日に実施した。工事現場ではすでに基礎工事が開始されており，現場を訪れた時には約250㎡の範囲について，地表下約１ｍまで掘削が及んでいた状況であった。現場には少なくとも８基以上の円形土坑（後に袋状土坑と判明）をはじめとする複数の遺構プランが確認され，またその覆土中に多くの縄文土器が包蔵されていることが確認された。確認面はハードローム層であった。断面観察の結果，本来の遺構確認面であるソフトローム上面は表土下約60㎝前後であることから，そこを40㎝程度掘りこんでいる状況が確認された。

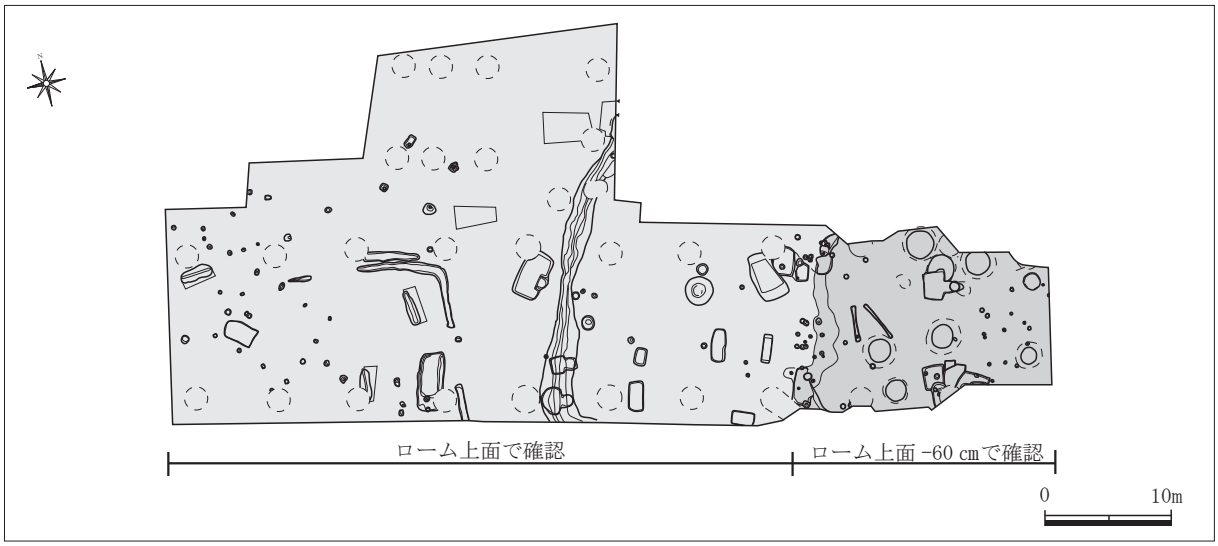
工事における掘削面積は 1,000 ㎡を超えるため，今後の工事の進捗に伴って，遺構と遺物がさらに確認され，埋蔵文化財に相当の影響が及ぶ可能性が高いことは明白であった。そこで市教委は工事に立ち会う形で，遺跡の広がりと遺構密度を確認することとなった。なお事業者に対しては，掘削深度は表土層までとし，遺構確認面を損なわないよう理解・協力を求めた。

平成 18 年６月 12・13 日の両日にわたり，掘削範囲全域についての表土掘削が，事業者の全面的協力を得て実施された。その結果，掘削範囲のほぼ全域に，縄文時代から中世・近現代にかかる遺構が分布していることが確認された。試掘調査の所見と同様，濃密な遺構分布ではないものの，大小の遺構プランを合わせて 100 基以上の遺構が存在していることが判明した。

以上の調査結果をもって，本格的な発掘調査の必要性があると判断された。　（関口）



第１図　試掘区トレンチ配置図（S=1/2,000）



第２図　立会調査時の遺構確認面図（S=1/600）

第３節　調査・整理の方法

第１項　調査の方法

調査範囲は，基礎工事により埋蔵文化財への影響が避けられない建物部分1,445㎡を対象とした(第８図)。

表土掘削は重機（バックホー）を使用して行い，その後人力により遺構検出を実施した。調査区内には公共座標に基づき10m四方のグリッドを設定し（第７図），それを基準に遺構検出後の遺構概略図を縮尺1/100で作成した。

遺構の調査は，土層観察用ベルトを十字もしくは任意に設定し覆土の掘削を行い，遺物出土状況等を記録した後に完掘した。平面図実測は，光波(トータルステーション)を用いてX･Y座標を割り出し，その数値をA2図面に縮尺1/20を基準に適宜1/10で作図した。写真撮影は35㎜判一眼レフカメラ(モノクローム・カラーリバーサル)・中判カメラ（６× ７cmカラーリバーサル)・デジタルカメラ（500万画素・300万画素）を使用し，調査の進捗に応じ随時撮影を実施した。

第２項　整理の方法

整理にあたっては，図面台帳・遺物台帳・写真台帳を作成し作業を実施した。

遺構実測図については，調査時に作成した図面を整理事務所にてスキャナーで読み込み，グラフィックソフトウェアを用いてデジタルトレースを行い編集した。

出土遺物は原則として全点について水洗･注記(「ミ 15-3　遺構番号－遺物番号」を基本として記入)･接合を行い，調査区全体・グリッド・遺構・遺構間接合毎に集計し，個体・破片毎に一覧表を作成した。なお，土器については，発掘調査報告書に掲載する為の実測及び写真撮影に必要な補強を行った。

遺物実測図を作成し，製図ペンによるトレースと併用して，グラフィックソフトウェアを用いてデジタルトレースも行い編集した。また，遺物観察表の作成も行った。

収納は，報告書掲載遺物を挿図と対照出来るようにし，未掲載遺物は時代・種類毎に出土場所で分類し収納した。

写真は，ファイルに各カットのキャプション・インデックスを記入し収納した。

発掘調査報告書は,DTP編集ソフトウェアと版下を用いて作成した。

第４節　発掘作業の経過

本調査は，平成18年６月21日から開始し，同年７月12日に終了した。調査期間中は梅雨時にもかかわらず，所謂本降りの雨は１日だけであった。また，少々の降雨では現場調査の中止を行わず，状況を見ながら調査を継続したため，多少効率がよくなかった面もあったが，期間内に調査を終了させる事ができた。以下に経過を箇条書きで記す。

平成 18 年６月９日（金）　曇り

水戸市教育委員会で立会調査実施。表土掘削実施。

６月 21 日（水）　曇り

現場へ機材搬入。

６月 22 日（木）　曇り時々雨→曇り

調査開始。一部分，表土除去後に排出されずに残存していた土を手作業にて排出。同時に調査区壁面整形作業。遺構検出作業。

挿入写真４　遺構検出作業（北から）

６月 23 日（金）　曇り時々晴れ→晴れ

前日に引き続き土を排出し終了。遺構検出作業が終了し，部分的に遺構検出状況の写真撮影を実施。

６月 24 日（土）　晴れ時々曇り

前日に引き続き，調査区全体の遺構検出状況の写真撮影を実施。SD-2 溝跡の覆土掘削。SK-3 陥し穴状土坑・SK-4 土坑の覆土掘削。

６月 26 日（月）　曇り→雨時々曇り

SB-2 掘立柱建物跡柱穴の土層断面写真撮影。SD-2 溝跡の覆土掘削，土層断面写真撮影・実測，遺物出土状況写真撮影。SK-3 陥し穴状土坑の断ち割り調査前の上端写真撮影・実測。SK-4 土層断面写真撮影。

６月 27 日（火）　晴れ時々曇り

SB-2 の土層断面写真撮影・実測，各柱穴の完掘。SD-1・2・3 の覆土掘削，土層断面写真撮影・実測。SK-4 完掘。SK-5 の断ち割り調査前の上端写真撮影。ピットの覆土半截掘削後完掘。

６月 28 日（水）　曇り時々晴れ

SD-1 の土層断面実測，完掘。SD-2 の完掘。SK-1・2 の覆土掘削，土層断面写真撮影・実測。ピットの土層断面写真撮影・実測，完掘。

６月 29 日（木）　晴れ　湿気があり蒸し暑い。

SB-1 の土層断面写真撮影・実測，完掘状況写真撮影。SD-1・2 の完掘状況実測。SK-1 土層断面写真撮影後，完掘状況写真撮影・実測。SK-2 の覆土掘削。SK-6 陥し穴状土坑の断ち割り調査前の上端写真撮影・実測。SK-7 ～ 10 の覆土掘削。ピットの完掘状況実測。

挿入写真５　SK-2 掘削状況（南東から）

６月 30 日（金）　晴れ時々曇り

SB-2 の完掘状況実測作業。SK-2 の土層断面写真撮影・実測。SK-7 の半截掘削を行うが，深度 2m に達してもなお下方へ 1m 以上の掘り込みがある事が確認され，井戸跡と考えられたため，現状での記録後下層の調査を行う事にする。SK-8 ～ 11 の土層断面写真撮影・実測。SK-12・13・Pit-26 の土層断面写真撮影。SK-14 ～ 18 の覆土掘削。Pit 群 -1 の各穴の覆土掘削。ピットの覆土掘削，完掘状況実測。

７月１日（土）曇り時々雨→晴れ

SB-1・2,SD-1・3,SK-4・8・9・11 の完掘状況写真撮影。SK-2・7 土層断面写真撮影・実測。SK-12・13・Pit-26 の土層断面実測。Pit 群 -1 の調査。各遺構完掘状況実測。

７月３日（月）曇り→午後雷雨のため待機有り

SK-5・6・14 ～ 20 覆土半截掘削。SK-2・24・25 土層断面写真撮影。SK-10・12・13・Pit-26 完掘状況写真撮影。SK-8・9 完掘状況写真撮影。各遺構完掘状況写真撮影。

挿入写真６　SK-2 実測状況（北から）

７月４日（火）晴れ

SK-3・5・6・24・25 土層断面写真撮影・実測，完掘。SK-14 ～ 18・20 覆土掘削。

７月５日（水）曇り→雨

SK-2・5 完掘状況写真撮影。SK-21 土層断面写真撮影。SK-14・17・19 ～ 21・26 覆土掘削。

７月６日（木）曇り時々小雨

SK-14・15・19 ～ 20・26・41 土層断面写真撮影。SK-3・19・27 完掘状況写真撮影。SK-28 覆土掘削。各遺構完掘状況実測。

７月７日（金）曇り時々晴れ

SK-14 ～ 16 遺物出土状況写真撮影。SK-17・27 ～ 29・31 ～ 35 土層断面写真撮影・実測。

７月８日（土）曇り時々晴れ

SK-16・37・38 土層断面写真撮影・実測。SK-14・20・21・26 ～ 28・29・32 ～ 38 完掘状況写真撮影。Pit 群 -2 ピット土層断面写真撮影・実測。各遺構完掘状況実測。

７月 10 日（月）雨→曇り時々雨

地元の方々４名が，現場と出土遺物を見学のため来跡。調査区内クリーニング。ラジコンヘリコプターによる調査区遺構全景空撮。調査区遺構全景写真撮影。各遺構完掘状況実測。

７月 11 日（火）曇り

遺構完掘状況個別写真撮影。調査区東・西壁土層写真撮影・実測。各遺構完掘状況実測。現場での調査終了。

７月 12 日（水）曇り時々雨

事務所清掃。機材撤収。

第５節　整理作業の経過

平成 18 年７月 18 日整理作業に着手。

８月２日グラフィックソフト及び DTP 編集ソフトウェアでの編集作業を開始。

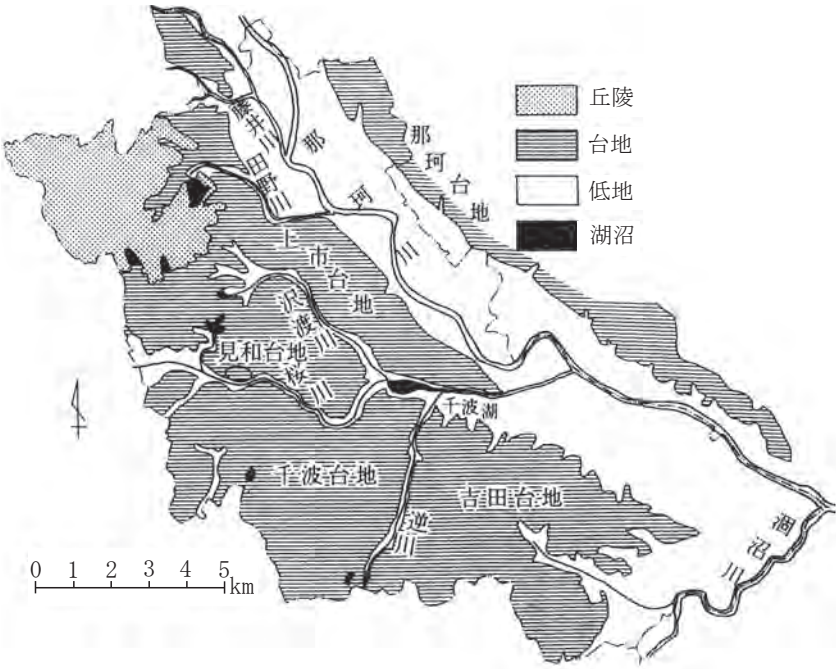
11 月 16 日入稿。

平成 19 年３月 26 日校正作業を行ったのち，報告書を刊行に至る。　（小川）

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

水戸市域の自然地形は，大きく三つの地形に区分される。一つは北部から東部に流れる那珂川とその支流の桜川・涸沼川より構成される沖積低地であり，一つは東茨城台地の北東部をなす水戸台地（通称上市台地，見和台地，千波台地，吉田台地等），もう一つは八溝山地に属する鶏足山塊の東南に連なる丘陵地である。水戸台地には沢渡川，桜川，逆川が開析する支谷が深く入り込み，上市台地，見和台地，千波台地，吉田台地と呼ばれる台地が構成される（第３図）。



第３図　水戸市域の地形（○が坏遺跡，小野寺 1999 に加筆）

坏遺跡は桜川の左岸，標高約 38 m～ 30 mの台地縁辺部に展開する。周知の埋蔵文化財包蔵地としての範囲は東西約 500 m，南北約 300 mであるが，北側と南側については，試掘調査などによるデータが少なく，本来の遺跡の範囲はやや不明瞭と言わざるをえない。

坏遺跡が展開する見和台地は更新世後期の海の侵入による海成面からなる。海退後に桜川が河岸段丘を形成した。台地は関東ロームに覆われ，第三紀の泥岩・砂岩を基盤とし，海成面は砂層・泥層からなっている。

坏遺跡の地理的環境を窺う上で重要なポイントは桜川である。桜川は那珂川水系の支流で，水戸市有賀町を源にして，見川町で狭間川，偕楽園の南側で沢渡川に合流する。大正 10(1921) 年から昭和７(1932) 年にかけての千波湖の干拓工事によって，桜川は千波湖と分離されたものの，かつては千波湖を経由して下市の中央を流れて那珂川に注いでいた。すなわち桜川は水戸市西部（中世江戸氏の最重要の所領であった中妻 33 郷に相当する）から坏遺跡と河和田地区の間を通り，千波湖を経て那珂川へ注ぐ，水戸市の主要河川として位置づけられるのである。

坏遺跡をはじめ赤塚遺跡，赤塚古墳群，高天原遺跡，若林遺跡，河和田城跡など，先土器時代から中世・近世にかかる遺跡が桜川に接して集中的に分布している地理的背景には，桜川の豊富な水とその両岸に広がる肥沃な湿地帯が大きな作用を果たしていたと考えられる。（関口）

第２節　歴史的環境

第１項　先土器時代ー縄文時代草創期

坏遺跡の周辺における当該期の遺跡としては，赤塚遺跡と清水遺跡，松原遺跡，一本松遺跡が挙げられる。これらのうち，発掘調査が行われているのは，赤塚遺跡と松原遺跡に限られる。

赤塚遺跡は，昭和 46 年に赤塚西団地建設に伴う発掘調査が行われており（第１次調査），その 10 年後の昭和 56 年には国道 50 号バイパス建設に伴う発掘調査が行われている（第２次調査，外山 1983）。第１次調査は正式報告書が未刊行であるが，ソフトローム層ーハードローム層にかけて１基の石器集中地点が検出されており，55 点の石器が出土しているようである（金子・川崎・渡辺 1973）。複数時期の石器群が混在している可能性もあるが，編年的には武蔵野台地のⅢ層から出土する槍先形尖頭器石器群とみられる。

他方，第２次調査では，第二黒色帯上部付近から炭化物集中地点１箇所とともに，55 点の石器からなる１基の石器集中地点が検出されている。石斧が組成から欠落していることから編年的には武蔵野台地の第二黒色帯上部（Ⅶ層段階）相当石器群とみられる。

松原遺跡は，昭和 55 年に常磐自動車道建設に伴う発掘調査が行われているが，遺構外出土遺物に縄文時代草創期の長者久保・神子柴石器群に帰属するとみられる安山岩製の石斧と剥片，頁岩製の石錐がある（石井 1981）。

また，清水遺跡からは，硬質頁岩製の削器と石刃が（橋本 1995），一本松遺跡からは槍先形尖頭器が採集されており（鴨志田 1999），いずれも長者久保・神子柴石器群に帰属するとみられる。

以上の遺構･遺物から，桜川流域とその周辺における最終氷期人類の土地利用は，AT（姶良丹沢火山灰）降灰以前にまで確実に遡り，長者久保･神子柴文化期の土地利用が点在している状況がうかがえる。（川口）

第２項　縄文時代

坏遺跡周辺における縄文時代の遺跡の分布は，桜川の流水がその生態環境に大きく寄与していたものと考えられ，桜川北岸の台地縁辺部には縄文時代以降，多くの遺跡の変遷を垣間見ることができる。その代表的な集落遺跡としては，坏遺跡第１地点・高天原遺跡・若林遺跡・赤塚遺跡が挙げられる。

坏遺跡第１地点は平成８年に実施された共同住宅建設に伴う発掘調査である（井上・鈴木 1996）。270 ㎡の限られた調査面積の中で，縄文時代中期の住居跡４軒と大小の土坑 15 基が確認されている。出土遺物は阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期の縄文土器を中心として，加曽利Ｅ式，大木式，綱取式等の縄文土器が出土している。報告書では所与の条件下にあって掲載遺物が限られているが，実際には相当量の遺物が出土しており，坏遺跡が該期における中心的な集落であった可能性は高い。

高天原遺跡は坏遺跡に東接する遺跡で，昭和 59 年から昭和 60 年にかけて実施された住宅団地造成工事に伴う発掘調査では，中期の阿玉台Ⅲ～加曽利ＥⅡ式期と考えられる住居跡１軒が検出されている。規模は長辺が 9.8m の長大な隅丸長方形のものである。その他，大木 8b 式期の袋状土坑４基が確認されている。時期的には概ね中期末葉であり，坏遺跡とほぼ同時期に営まれていた集落の一つと理解される（井上 1985）。

また高天原遺跡に東接する若林遺跡は，これまで発掘調査の事例はなく分布調査に止まるが，高天原遺跡や坏遺跡と同様，中期前葉から中期中葉の阿玉台式や中期後葉加曽利Ｅ式土器を主体とする土器が多量に採集されており，該期の集落が展開することは疑いない。なお一部に後期の土器も混ざるようである。

また赤塚遺跡では，発掘調査の際に，前期の浮島・興津系土器も出土しており，一部には，晩期の土器もみられる（外山 1983）。

このように桜川北岸に面する台地縁辺部に約２㎞にわたって細長く展開する赤塚遺跡・坏遺跡・高天原遺跡・若林遺跡一帯は，縄文時代中期を中心としながら，草創期から晩期に至るまでの比較的安定した土地利用が展開していたと考えられる。

第３項　弥生時代～奈良・平安時代

坏遺跡周辺に展開する弥生時代の遺跡としては，高天原遺跡，仙光内遺跡，飯島町遺跡，清水遺跡，大塚新地遺跡，向原遺跡などが挙げられる。うち発掘調査が実施されているのは高天原遺跡（前掲），大塚新地遺跡（石井 1981），向井原遺跡（伊東 1974）に止まる。

大塚新地遺跡では，発掘調査の成果からも知られるように，弥生時代後期の竪穴住居跡 10 軒，土坑 50 基，弥生時代中期の壺棺墓１基が確認されており，弥生時代中期から後期の拠点的な集落と考えられる。向井原遺跡では弥生時代の住居跡３軒と後期の住居跡８軒が検出されている。

また坏遺跡に東接する高天原遺跡では遺構はみられなかったものの，弥生時代後期の土器・石器が多く出土し，該期の土地利用を窺わせている。

また仙光内遺跡・飯島町遺跡の分布調査では，弥生時代後期の十王台式土器が採集されている。

市内の弥生時代における活動の痕跡は，他時代のそれと比べて概して低調であり，坏遺跡一帯においてもその傾向は変わらないが，その中で大塚新地遺跡の発掘調査成果は注目すべき事例である。大塚新地遺跡を中心とした弥生時代集落の展開過程については，坏遺跡の終焉を考える際にも興味ある課題といえよう。

古墳時時代の遺跡としては坏遺跡第１地点，高天原遺跡，大塚新地遺跡，向原遺跡，赤塚遺跡，赤塚古墳群，仙光内遺跡，飯島町古墳群が挙げられ，うち大塚新地遺跡（前掲），向井原遺跡（前掲）で発掘調査が実施されている。

大塚新地遺跡では古墳時代前期の竪穴住居跡 15 軒，中期の住居跡２軒，後期の住居跡 27 軒が検出されたほか古墳時代前期の方形周溝墓１基なども見られ，比較的大きな集落であった可能性が考えられる。

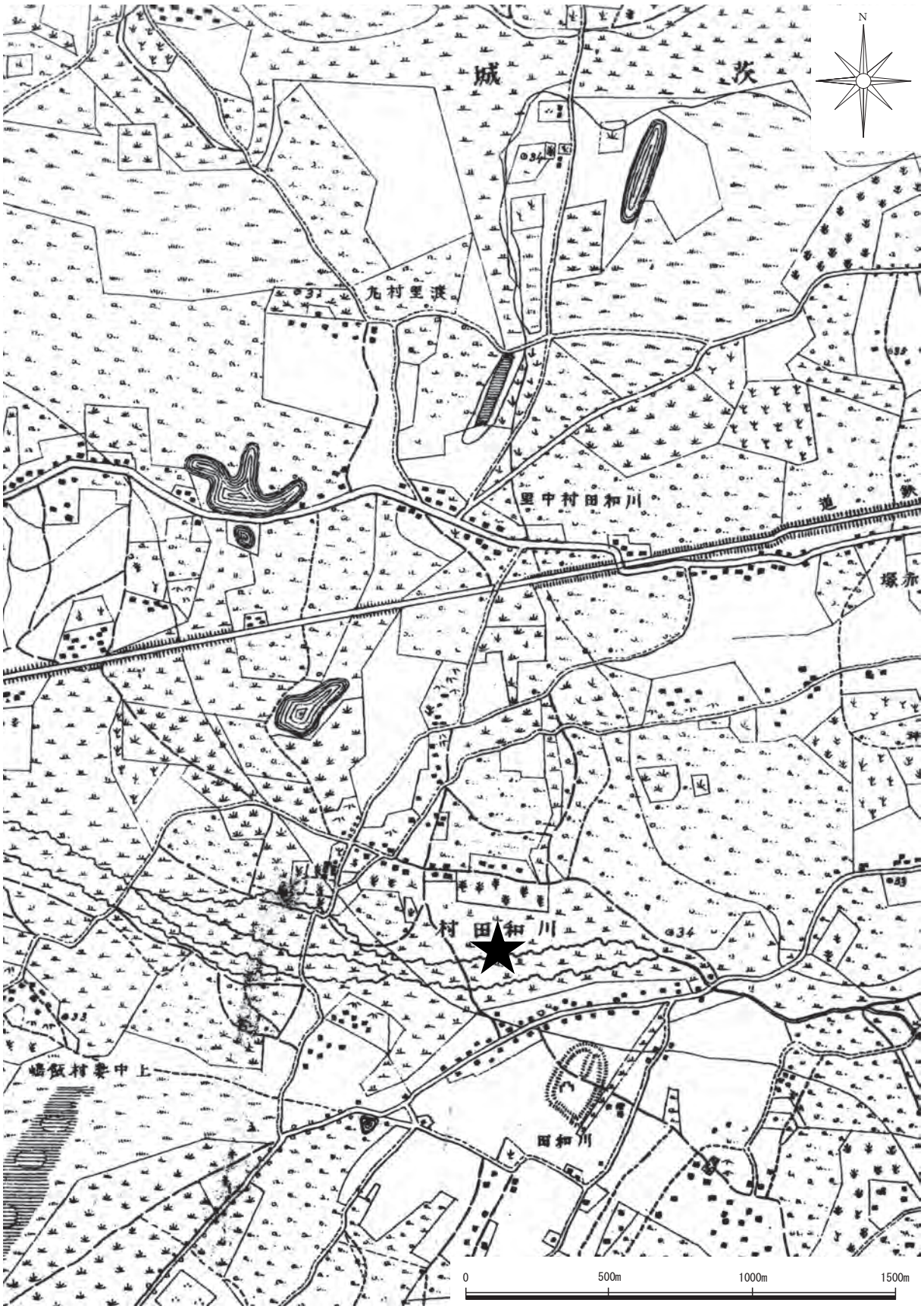
また古墳時代の墳墓としては桜川周辺の洪積台地上や，大塚池，双葉台周辺の台地に多く展開している。赤塚古墳群では 23 基の古墳が確認され(伊東 1971),円筒型埴輪や朝顔型埴輪が採集されており，赤塚団地内に帆立貝式古墳が１基，円墳２基が現存している。飯島町古墳群では円墳３基が確認されており，直径 25 ｍおよび 15 ｍの規模を有する古墳が現存している。

坏遺跡における既往の調査

地点名	調査年度	調査の種別	遺構の有無	遺物の有無
①第１地点	平成８年	本調査	有	有
②第２地点	平成17年	試掘・確認調査	無	有

第４図　坏遺跡の範囲と既存の調査地点（S=1/5,000）

第５図　坏遺跡の位置と周辺の遺跡（『茨城県遺跡地図　地図編 1/25,000』より転載，加筆）



第６図　明治期における坏遺跡周辺の地形

（★が坏遺跡，大日本帝国陸地測量部明治 25 年出版 1/20,000 地形図「水戸上市」に加筆）

第１表　坏遺跡と周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	遺物	備考
014	高天原遺跡	集落跡	縄文土器（早・中・晩）,弥生土器（後）,土師器（古）	S60年発掘調査
015	坏遺跡	集落跡	縄文土器（中・後）,土師器（古）	H８年発掘調査
016	若林遺跡	集落跡	縄文土器（中・後）,石斧	
017	一本松遺跡	集落跡	尖頭器（縄草）,縄文土器（早・中）,土師器（古）,須恵器（古）	
042	赤塚遺跡	集落跡	削器・ナイフ形石器・台形様石器・尖頭器・掻器（先）,縄文土器（前～晩）,弥生土器（中・後）,土師器（古・奈・平）,蔵骨器,土玉	
064	堀遺跡	集落跡	弥生土器（後）,土師器（奈・平）	円1
081	堀町西古墳	古墳	土師器（古）,須恵器（奈・平）	円1
082	下荒句古墳群	古墳群		円2(20?)
083	街道端古墳群	古墳群		円0(3)消滅
084	高天原古墳群	古墳群		方0(2),円0(7)消滅
085	赤塚古墳群	古墳群	円筒埴輪	帆1(2),円2(21)
102	河和田城跡	城館跡		
119	飯島町遺跡	集落跡	弥生土器（後）,土師器（古）	
120	仙光内遺跡	集落跡	弥生土器（後）,土師器（古前～後・奈・平）	
122	池上遺跡	集落跡	土師器（奈・平）,須恵器（奈・平）	
123	清水遺跡	集落跡	石刃（縄草）,縄文土器（前）,弥生土器（後）,土師器（古）	
124	釜久保遺跡	集落跡	弥生土器（後）,土師器（古前・奈・平）	
132	山田遺跡	集落跡	縄文土器（中）, 弥生土器（後）,須恵器	
134	金剛寺遺跡	集落跡	縄文土器（中）,土師器（奈・平）,須恵器,内耳土器	
135	寺山遺跡	集落跡	縄文土器（中）,土師器（古）,須恵器（古）	消滅
136	峯山古墳	古墳	土師器（古）	
137	向原遺跡	集落跡	尖頭器（先）,縄文土器（前）,弥生土器（中・後）,土師器（古）	
138	北原古墳群	古墳群		円1(2)
139	北原遺跡	集落跡	縄文土器,土師器（古）,須恵器	
145	巡見遺跡	集落跡	縄文土器（前・中）,土師器（古）	消滅
148	山田A古墳群	古墳群		円2(4)
149	全隈権現台遺跡	集落跡	縄文土器（前・中）	消滅
150	大久保遺跡	集落跡	土師器（古）	
153	開江宿遺跡	集落跡	土師器（奈・平）,須恵器（奈・平）	
155	小鍋遺跡	集落跡	縄文土器（中・後）,土師器（古）	
163	大久保古墳群	古墳群		円0(3)
164	毛勝谷原遺跡	集落跡	弥生土器（古）,土師器（古前）	消滅
166	毛勝谷原古墳群	古墳群		円1(3)
220	松原遺跡	集落跡	石斧・石刃・石錐（縄草）,縄文土器（早）,弥生土器（後）,土師器（古前・後,奈・平）・石製品・土製品,石製切子玉	
221	稲荷塚古墳群	古墳群	勾玉	円3
222	大塚新地遺跡	集落跡	弥生土器（後）,土師器（古前・奈・平）,勾玉,石製品・土製品・鉄製品・木製品	
223	飯島町古墳群	古墳群		円3
273	淡島神社経塚	塚	古銭・内耳土器・陶磁器（近）	
274	経塚遺跡	包蔵地	陶器・土器	
280	街道端愛宕神社塚	塚	土師器	

坏遺跡周辺における奈良・平安時代の遺跡は，弥生時代同様あまり確認されていない。むしろ，遺跡北方の大塚池周辺において多く分布するものと考えられている。

しかしながら，坏遺跡第１地点の発掘調査（前掲）では７世紀末から８世紀前半の竪穴住居跡が１軒確認されているほか，赤塚遺跡第２次調査（前掲）では奈良・平安時代と考えられる火葬墓が確認されており，10 基の墓坑とともに短頸壺を主体とした蔵骨器が確認されるなど，注目すべき成果もみられる。該期の土地利用が皆無というわけではなく，今後も注意深く土地利用の痕跡を探っていく必要があろう。（新垣・関口）

第４項　中世～近世

中世における圷遺跡周辺の遺跡としては，桜川の対岸の台地上に位置する河和田城跡がまず挙げられる。河和田城は東西約 510 m，南北約 600 mの範囲にわたって土塁・空堀・水堀などの遺構が良好に現存している。また，その範囲の外側においても中世の遺構・遺物が分布することが近年の試掘・確認調査によって判明しており，河和田城に関連する中世遺跡の範囲は少なくとも南北 800 m，東西 900 mの広大な範囲に及ぶことが確認されている。また，同遺跡に南接する経塚遺跡についても，平成 17 年度に実施した試掘調査の結果，16 世紀代と思われる堀や地下式坑などが集中して確認されており，河和田城跡と密接に関わる遺跡であると思われる。

河和田城の来歴については，小室栄一氏によれば「諸説があり，にわかに決め難いが，その最初は大掾氏の家臣，鍛冶弾正貞国（川和田入道）が延元元年（1337）に築き，その子貞基のとき，江戸通房に取って代わられた。この江戸氏が応永末年頃,水戸城に移ったのちはその家臣春秋氏に与えられ,天正 18 年（1590）の没落まで，約１世紀半の間，春秋氏の支配下にあったとしてよかろう。そして,佐竹氏時代には廃城となった」とされ(小室 1963),14 世紀後半頃から江戸氏の支配下にあったという。

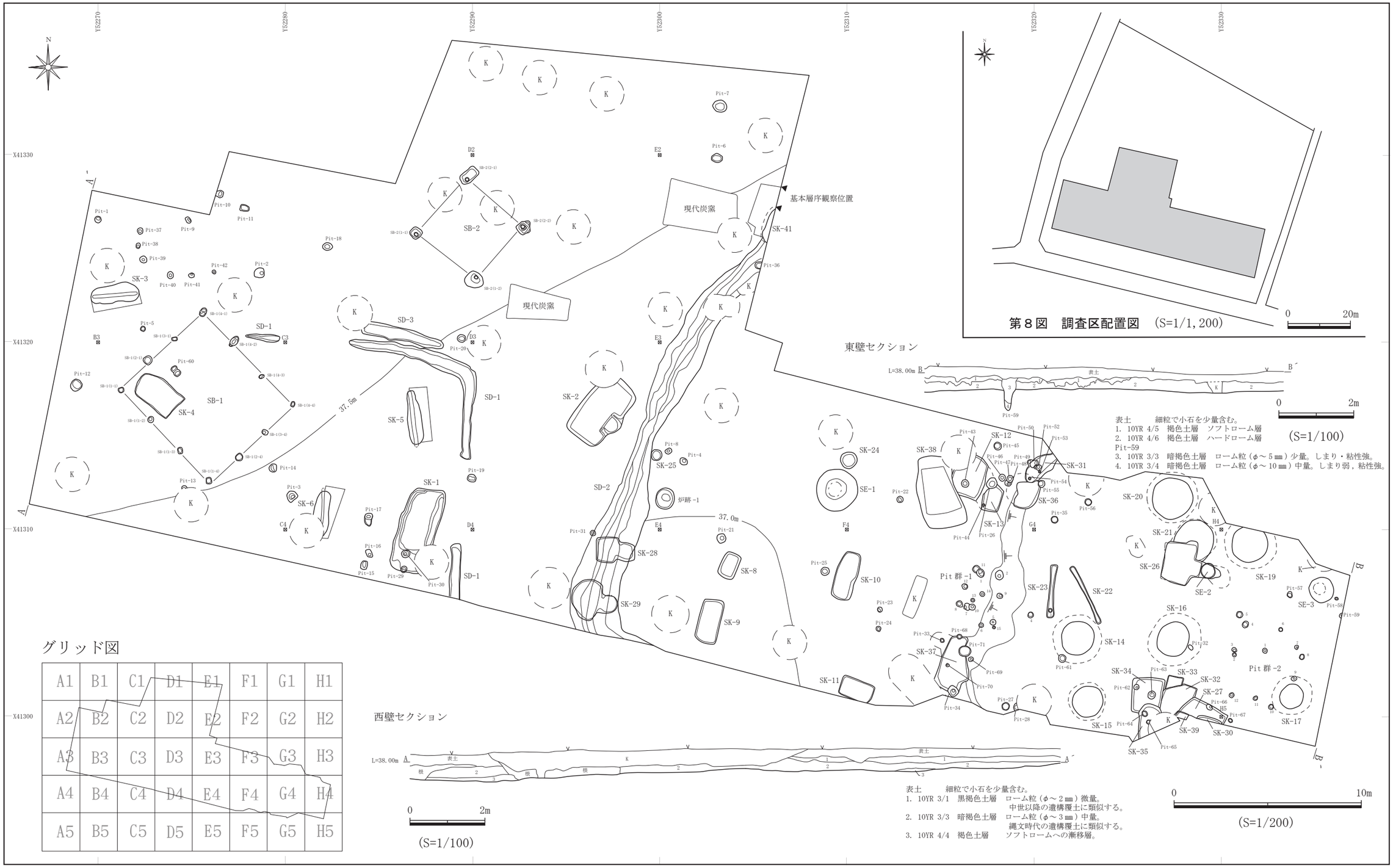
しかしながら，これらの記述の典拠は『水府志料』『新編常陸国誌』など，19 世紀以降に編纂された地誌によるもので，同時代資料に基づくものではないことから，その解釈において一定の留意は必要であろう。

いずれにせよ圷遺跡周辺における中世の土地利用は，桜川南岸の台地上がその中心的地域であったことは,遺跡の分布状況からみてほぼ確実である。それに対し,圷遺跡のある桜川北岸一帯においては,圷遺跡に東接する高天原遺跡の発掘調査がわずかに認められるのみである（前掲)。調査は昭和 59 年から昭和 60 年にかけて実施され，当初２基の“古墳”と認識されていた高塚が，実は中世から近世にかかる塚であったことが判明した。出土遺物としてカワラケを中心とした中世末の土器が十数点程度出土している。報文中には「かつて９基の古墳（円墳）が存在していた」と報告されていることから，桜川北岸の台地縁辺部に中世～近世塚群が築かれていた可能性が高い。

『新編常陸国誌』によれば，近世河和田の地は茨城郡川和田村といい，水戸藩内の一村落であった。村域は東西 17 町，南北１里 11 町の範囲に及び，元禄 15 年（1702）には戸数 137 戸，石高 1187 石で，天保 13 年（1842）には石高 1273 石と記載されている（宮崎報恩会編 1969)。

地理的には，水戸城下町から 5 ㎞程度と近く，村内を城下と領内村落を結ぶ岩間街道が走っていることから，城下町近郊村落として相応の人・モノの流通があったものと思われる。

また，桜川南岸の台地上にも淡島神社経塚，街道端愛宕神社塚などの塚・経塚が現存しており，近世村落における民間信仰の一端を窺うことができる。（関口）

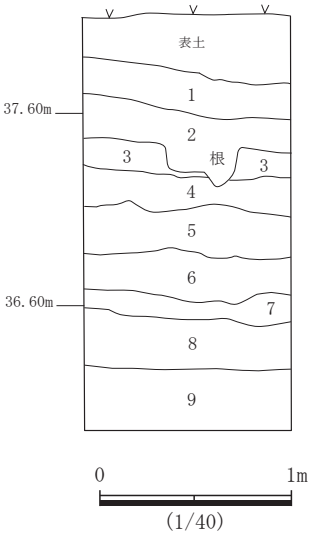


第７図　調査区全体測量図・土層図・グリッド図

第Ⅲ章　基本層序

第３地点は台地上平坦部に位置する。調査区の地形は現地表面で，西側から東側に向かって緩やかに傾斜している。調査区の壁での土層観察の結果によると，調査区東側ではソフトローム層の上層が表土層になっている（第７図）。西側ではソフトローム層上に，縄文時代の遺構覆土に類似する10YR3/3 暗褐色土（第７図）が堆積し，その上層には中世以降の遺構覆土に類似する 10YR3/1 黒褐色土の堆積がみられた。西側でのこれらの土壌の堆積が東側ではないため，西側から東側に向かって緩やかな傾斜となって表れたものと考えられる。

基本層序を記録した調査区内での位置は，おおよそ中央である。表土層下は 10YR3/3 暗褐色土が堆積しており，縄文時代の遺構覆土に類似する。（小川）



第９図　基本層序図

挿入写真７　基本層序

土層説明

表土

１	10YR3/3 暗褐色土	縄文時代の遺構覆土に類似する。
２	10YR3/4 暗褐色土	ソフトローム層への漸移層。
３	10YR5/7 黄褐色土	ソフトローム層。今市・七本桜軽石（φ ～２㎜）を微量含む。
４	10YR5/6 黄褐色土	ハードローム層。黒褐色スコリア（φ ～２㎜）を微量含む。
５	10YR5/4 にぶい黄褐色土	ハードローム層。赤褐色スコリア（φ ～２㎜）を微量含む。 AT 降灰層の可能性がある。
６	10YR6/6 明黄褐色土	ハードローム層。黒褐色スコリア（φ ～２㎜）を微量含む。 下層の影響によるものなのか，鹿沼軽石（φ ～２㎜）を微量含む。 黒褐色スコリア（φ ～２㎜）を微量含む。
７	2.5Y5/4 黄褐色土	鹿沼軽石層への漸移層。鹿沼軽石（φ ～３㎜）を多量含む。
８	2.5Y7/6 明黄褐色土	鹿沼軽石層。軽石（φ ～３㎜）。
９	2.5Y5/6 黄褐色土	ハードローム層。

第Ⅳ章　発見された遺構

第１節　縄文時代

本遺跡第３地点の調査においては，土坑 13 基とピット（小穴）19 基が検出された。土坑の多くは調査区東側に存在し，断面形が袋状を呈する中期（阿玉台Ⅰｂ～Ⅳ式）の土器を主体とする土坑と，断面形状がおおよそＶ字状を呈する陥し穴状土坑の二形態のみである。陥し穴状土坑は遺物の出土が無かったため時期は不明である。

第１項　土坑

13 基の土坑を検出した。この内８基は断面形が袋状を呈し，５基は陥し穴状土坑である。断面形が袋状を呈する土坑は，調査区東側にまとまりをもって存在するが重複することはない。いずれの土坑もマンション建設工事での削平を大きく被り上部構造は明らかでないが，SK-19 は調査区北壁において部分的であるものの，開口部が断面として現れていた。その状況によると，底面が円形に対し楕円形を呈すると考えられる。陥し穴状土坑の内３基は平面形が長楕円を呈し，断面形がおおよそＶ字状を呈する。２基は遺構上面が大きく削平されているものの，同様の形状と考えられる。主軸方向は SK-3 のみ東西である。なお，SK-3・5・6 については，遺構掘削深度に対し開口部が狭かったため，覆土を半截しながら地山も掘削する調査方法を実施した。

断面形が袋状を呈する土坑

SK-14　（第 10・28・29 図，第６・８～ 11・17 表，写真図版 4・15・16）

位置・重複関係等　G4 区に位置する。確認面はハードローム層である。上部を大きく削平される。Pit-61 に切られる。

形態　平面形は円形を呈する。規模は開口部が 1.74 ～ 1.80m, 底面は 2.60m, 確認面からの深さは 0.47 ～ 0.52m を測る。断面形は袋状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦で外方へ 40 ～ 43cm 拡がる。

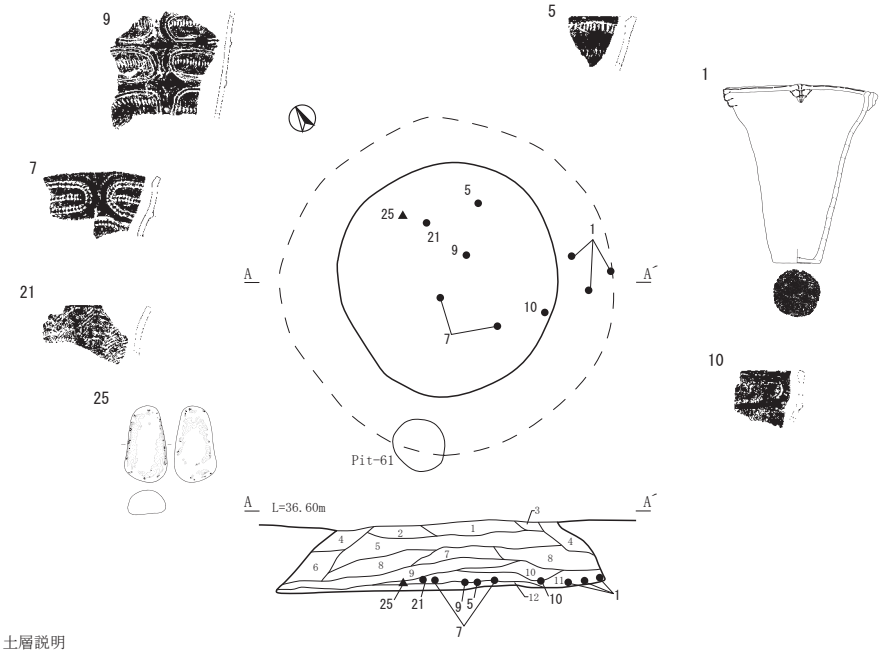
覆土　人為的埋め戻しと考えられる。

遺物　底面のオーバーハングする箇所から阿玉台Ⅰｂ式のほぼ完形の深鉢（SK-14. 1）が出土した。このほか，阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式・Ⅱ式・大木 7b 式・中期の土器が出土した。石器は磨石が１点出土している（第 28･29 図，第６・８～ 11･17 表，写真図版 15･16）。SK-14. 1 は SK-15 出土土器と，SK-16. 49 は SK-14 出土土器と遺構間接合がある。

時期　阿玉台Ⅰｂ式期。

所見等　底面のオーバーハングする箇所から横位で出土した阿玉台Ⅰｂ式の深鉢（SK-14. 1）は，底面と深鉢の間に土をほとんど挟まない事から，埋納された状態を呈しているとみられる。

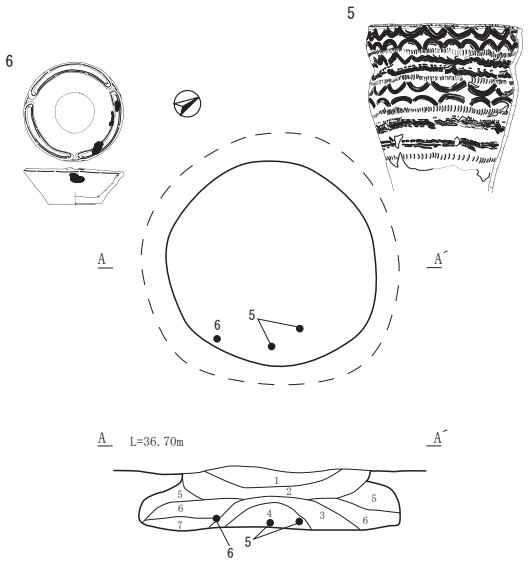
SK-14



SK-14 土層説明

1. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）少量，白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ～5㎜）微量。締まり・粘性強。
2. 10YR 3/1.5 黒褐色土層　ローム粒（φ～4㎜）少量，白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
3. 10YR 5/8　黄褐色土層　ロームブロック。締まりやや強，粘性強。
4. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量，白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～8㎜）微量。締まり・粘性強。
5. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量，鹿沼軽石（φ～10㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ～30㎜）微量。締まり・粘性強。
6. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量，鹿沼軽石（φ5～20㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）微量，炭化物（φ～5㎜）少量。締まり・粘性強。
7. 10YR 4/6　褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）・鹿沼軽石（φ～10㎜）中量，白色粒子（φ～2㎜）少量，赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
8. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）中量，ロームブロック（φ～40㎜）・鹿沼軽石（φ～10㎜）微量，白色粒子（φ～2㎜）少量，炭化物（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
9. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）少量，白色粒子（φ～2㎜）中量，炭化物（φ～5㎜）少量，鹿沼軽石（φ～3㎜）・赤褐色スコリア（φ～5㎜）微量。締まり・粘性強。
10. 10YR 4/6　褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）・鹿沼軽石（φ～15㎜）微量。白色粒子（φ～2㎜）少量，赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～5㎜）微量。締まり・粘性強。
11. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）微量，鹿沼軽石（φ～5㎜）・白色粒子（φ～2㎜）少量，赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～10㎜）微量。締まり・粘性強。
12. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体（φ～2㎜）・鹿沼軽石（φ～3㎜）多量，白色粒子（φ～2㎜）少量。締まり・粘性強。

SK-15



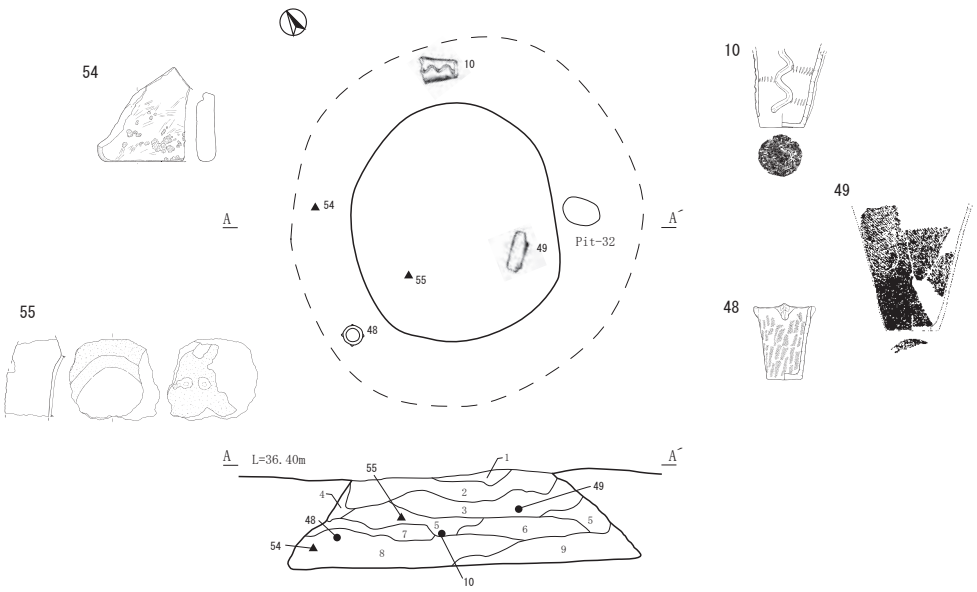
SK-15 土層説明

1. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）少量，鹿沼軽石（φ～5㎜）微量，白色粒子（φ～3㎜）中量，赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ2～5㎜）微量。締まり・粘性強。
2. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～3㎜）中量，鹿沼軽石（φ～5㎜）微量，白色粒子（φ～2㎜）中量，赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ3～10㎜）微量。締まり・粘性強。
3. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）少量，鹿沼軽石（φ～15㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～5㎜）・炭化物（φ2～10㎜）微量。締まり・粘性強。
4. 10YR 4/4　褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）多量，鹿沼軽石（φ～5㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～5㎜）・炭化物（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
5. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）中量，鹿沼軽石（φ～5㎜）・白色粒子（φ～8㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
6. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）多量，鹿沼軽石（φ～8㎜）・白色粒子（φ～3㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）少量，炭化物（φ～10㎜）微量。締まり・粘性強。
7. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）中量，鹿沼軽石（φ～20㎜）微量，白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）少量，炭化物（φ～10㎜）微量。締まり・粘性強。

0　1m
(1/60)

第 10 図　SK-14・15（縄文時代土坑）

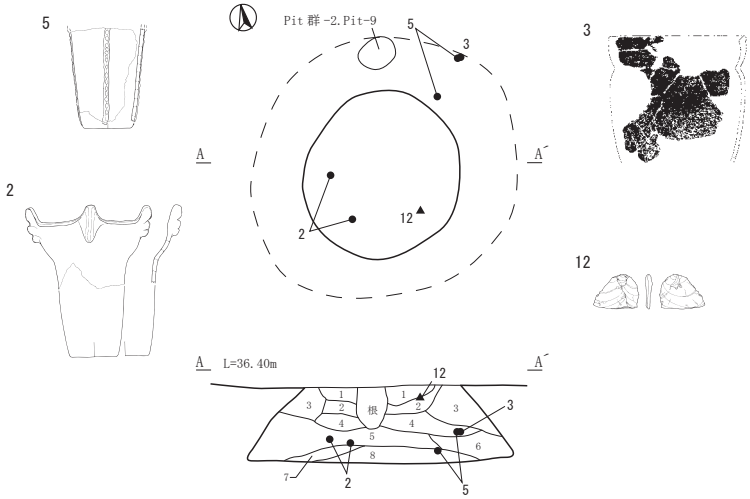
SK-16



SK-16 土層説明

1. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）中量，鹿沼軽石（φ～15㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）微量。締まり強，粘性やや強。
2. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）多量，鹿沼軽石（φ～3㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～3㎜）微量。締まり強，粘性やや強。
3. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～15㎜），鹿沼軽石（φ～100㎜）少量とブロックが点在。白色粒子（φ～3㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ～4㎜）微量。締まりやや強，粘性強。
4. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）・鹿沼軽石（φ～20㎜）少量，白色粒子（φ～2㎜）微量。締まりやや弱，粘性強。
5. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）中量，鹿沼軽石（φ～3㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～15㎜）微量。締まり・粘性強。
6. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）中量，鹿沼軽石（φ～15㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～10㎜）微量。締まり・粘性強。
7. 10YR 5/6　黄褐色土層　鹿沼軽石主体（φ～60㎜），白色粒子（φ～2㎜）少量，ローム粒（φ～10㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
8. 10YR 3/1.5 黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）中量，鹿沼軽石（φ～5㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
9. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～5㎜），鹿沼軽石（φ～10㎜）少量，白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。

SK-17



SK-17 土層説明

1. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）多量，白色粒子（φ～2㎜）少量，赤褐色スコリア（φ2～3㎜）・炭化物（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
2. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量，白色粒子（φ～2㎜）少量，赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～4㎜）微量。締まりやや強，粘性強。
3. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）多量，白色粒子（φ～2㎜）少量，赤褐色スコリア（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
4. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），鹿沼軽石（φ～20㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・炭化物（φ～3㎜）微量。締まり弱，粘性強。
5. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）多量，鹿沼軽石（φ～5㎜）・白色粒子（φ～3㎜）中量，赤褐色スコリア（φ～3㎜）少量，炭化物（φ～15㎜）微量。締まり・粘性強。
6. 10YR 4/4　褐色土層　ローム粒（φ～3㎜）多量，鹿沼軽石（φ～5㎜）・白色粒子（φ～3㎜）少量，赤褐色スコリア（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
7. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）・鹿沼軽石（φ～20㎜）・白色粒子（φ～2㎜）少量，赤褐色スコリア（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
8. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）・鹿沼軽石（φ～20㎜）多量，白色粒子（φ～2㎜）中量，赤褐色スコリア（φ～2㎜）・炭化物（φ～5㎜）微量。締まり・粘性強。

0　1m
(1/60)

第 11 図　SK-16・17（縄文時代土坑）

SK-15　（第 10・29・30 図，第６・８～ 11・17 表，写真図版４・16）

位置・重複関係等　G4・5 区に位置する。確認面はハードローム層である。上部を大きく削平される。

形態　平面形は円形を呈する。規模は開口部が 1.60 ～ 1.66m, 底面は 2.00m, 確認面からの深さは 0.50 ～ 0.66m を測る。断面形は袋状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦で外方へ 17 ～ 20cm 拡がる。

覆土　人為的埋め戻しと考えられる。

遺物　阿玉台Ⅱ式の深鉢・完形の浅鉢が出土した。このほかに阿玉台Ⅰｂ式・中期に比定される土器，後期以降と考えられる土器片１点が出土した。石器は磨石と敲石の用途を併せ持つものが１点出土している（第 29・30 図，第６・８～ 11・17 表・写真図版 16)。出土土器は SK-14. 1 と，SK-15. 5 は SK-17 出土土器と遺構間接合がある。

時期　阿玉台Ⅱ式期。

所見等　口縁～胴部が 1/2 残存の阿玉台Ⅱ式の深鉢 (SK-15. 5) は，器外面を上にしており底部が欠損する。完形の浅鉢 (SK-15. 6) は漆塗りが施されていたと考えられる痕跡があり，正位で出土している。いずれも底面から約 10cm の高さで出土し，同時期の廃棄だと考えられることから，本遺構の廃絶時期を示すものと考えられる。

SK-16　（第 11・30 ～ 33 図，第６～ 11・17 表，写真図版５・16 ～ 19）

位置・重複関係等　G4 区に位置する。確認面はハードローム層である。上部を大きく削平される。Pit-32 に切られる。

形態　平面形はほぼ円形を呈する。規模は開口部が 1.60×1.86m。底面は 2.74 ～ 2.90m, 確認面からの深さは 0.80 ～ 0.85m を測る。断面形は袋状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦で外方へ 50 ～ 57cm 拡がる。

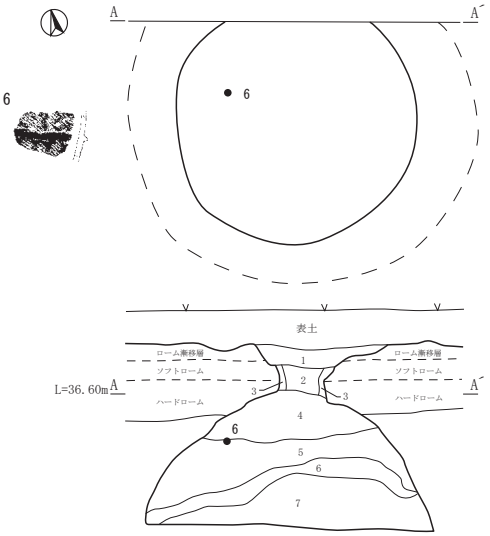
覆土　人為的埋め戻しと考えられる。

遺物　阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ式，大木 7b 式の深鉢，阿玉台Ⅱ式の土器片を用いた小型の土製円盤が出土している。このほか，阿玉台Ⅰｂ式・中期に比定される土器が出土している。石器は凹石１点と凹石と石皿の用途を併せ持つものが１点出土している（第 30 ～ 33 図，第６～ 11・17 表，写真図版 16 ～ 19)。SK-16. 49 は SK-14 出土土器と，SK-17. 2・5 は SK-16 出土土器と遺構間接合がある。なお，検出された土坑の中で本遺構の遺物出土数が最も多い。

時期　阿玉台Ⅱ式期。

所見等　底面から壁がオーバーハングして立ち上がる部分において，大木 7b 式の完形である小型深鉢（SK-16. 48）が逆位で出土している。この小型深鉢の口縁部から底面までは約 3cm ほど土を挟み，底部を壁に付ける状態であった。器内部には褐色土が密に入る。その対面する北側寄りでは，底面のオーバーハング部壁にほぼ接して，阿玉台Ⅱ式の深鉢下半部（SK-16. 10）が横位で出土している。その周囲では深鉢底部片と阿玉台Ⅱ式の深鉢口縁部片がやや上層から出土している。これらの遺物から，本遺構の廃絶時期は阿玉台Ⅱ式期と考えられる。

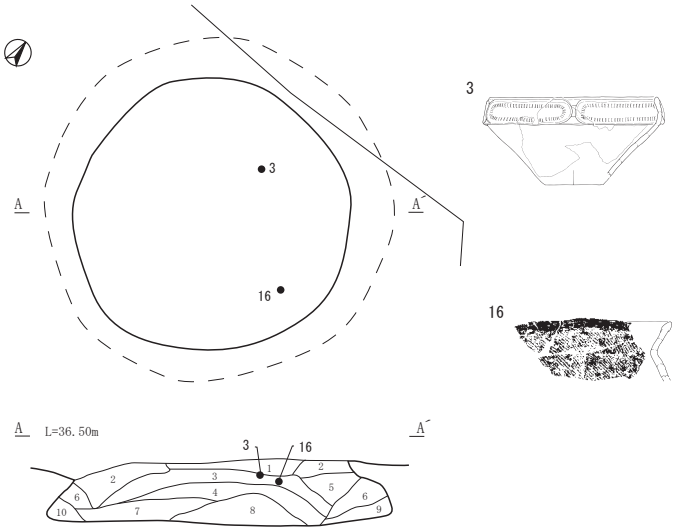
SK-19



SK-19 土層説明

1. 10YR 3/1.5 黒褐色土層　ローム粒（φ～3㎜）少量。締まりやや弱，粘性弱。
2. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）中量，斑紋状に含む。締まり・粘性やや強。
3. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）多量，ロームブロック（φ40㎜）微量。締まり弱，粘性強。
4. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）中量，鹿沼軽石（φ～2㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～5㎜）・炭化物（φ～10㎜）微量。締まり強，粘性やや強。
5. 10YR 5/4　にぶい黄褐色土層　ローム土主体（φ～200㎜），鹿沼軽石（φ～5㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～4㎜）・炭（φ～8㎜）微量，暗褐色土（φ～2㎜）中量。締まり・粘性強。
6. 10YR 5/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量，鹿沼軽石（φ～5㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ～10㎜）微量。締まりやや強，粘性強。
7. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），鹿沼軽石（φ～40㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）微量。締まり弱，粘性強。

SK-20



SK-20 土層説明

1. 10YR 3/1.5　黒褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）中量，ロームブロック（φ40㎜前後）・鹿沼軽石（φ3～15㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・炭化物（φ～3㎜）微量。赤褐色スコリア（φ～3㎜）少量，締まり・粘性強。
2. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）・鹿沼軽石（φ～10㎜）多量，白色粒子（φ～2㎜）少量，赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ2～5㎜）微量。締まり・粘性強。
3. 10YR 4/4　褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量，鹿沼軽石（φ～10㎜）・白色粒子（φ～2㎜）中量，赤褐色スコリア（φ～3㎜）・炭化物（φ2～3㎜）微量。締まり・粘性強。
4. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量，鹿沼軽石（φ～10㎜）中量，白色粒子（φ～2㎜）少量，赤褐色スコリア（φ～5㎜）微量。締まり・粘性強。
5. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）多量，鹿沼軽石（φ～25㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～5㎜）少量。締まり・粘性強。
6. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量，ロームブロック（φ25㎜）微量，鹿沼軽石（φ～10㎜）中量，赤褐色スコリア（φ～5㎜）少量。締まり・粘性強。
7. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量，ロームブロック（φ30㎜）・鹿沼軽石（φ～35㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
8. 10YR 5/4　にぶい黄褐色土層　ローム土主体（φ～50㎜），鹿沼軽石（φ～5㎜）微量。締まり強，粘性やや弱。
9. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム土主体（φ～15㎜），鹿沼軽石（φ～35㎜）微量，白色粒子（φ～2㎜）少量，赤褐色スコリア（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
10. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）多量，鹿沼軽石（φ～15㎜）・白色粒子（φ～20㎜）・赤褐色スコリア（φ～5㎜）微量。締まり・粘性強。

0　1m
(1/60)

第 12 図　SK-19・20（縄文時代土坑）

SK-17　（第 11・34 図，第６・８～ 11・17 表，写真図版５・20）

位置・重複関係等　H4 区に位置する。確認面はハードローム層である。上部を大きく削平される。Pit 群 -2.Pit-9 に切られる。

形態　平面形は円形を呈する。規模は開口部が 1.20 ～ 1.30m。底面は 2.00 ～ 2.28m, 確認面からの深さは 0.68 ～ 0.63m を測る。断面形は袋状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦で外方へ 40 ～ 49cm 拡がる。

覆土　人為的埋め戻しと考えられる。

遺物　阿玉台Ⅰｂ式・Ⅱ式・中期に比定される土器が出土している。剥片は調整痕がみられない黒曜石製と石英製のものが出土しており，黒曜石製を図示した（第 34 図，第６・８～ 11・17 表，写真図版 20)。出土土器は SK-15. 5 と ,SK-17. 2・5 は SK-16 出土土器と遺構間接合がある。

時期　阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式期。

所見等　底面及びそれに近い位置から遺物の出土が無く，時期決定の根拠に欠けるが，出土遺物全体からみると阿玉台Ⅰｂ式が最も新しいため，本遺構の廃絶時期は阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式期と考えられる。

SK-19　（第 12・35 図，第６・８～ 11・17 表，写真図版５・20）

位置・重複関係等　H3・4 区に位置し，北側の一部分は調査区外になる。確認面はハードローム層である。上部を大きく削平される。

形態　平面形は円形と考えられる。規模は開口部が 1.90m。調査区壁面での計測値は開口部 1.06m, 窄まり部分が 0.26m。底面は 2.72 ～ 2.87m, 確認面からの深さは 0.87 ～ 0.94m を測り，調査区壁面での計測値は 1.58m を測る。断面形は袋状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦で外方へ 41 ～ 48cm 拡がる。

覆土　人為的埋め戻しの後，自然堆積をしたと考えられる。

遺物　阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ・Ⅲ式，大木 8a 式，中期に比定される土器が出土している。石器は部分研磨石器が１点出土している（第 35 図，第 6・8 ～ 11・17 表，写真図版 20)。

時期　阿玉台Ⅲ式期。

所見等　調査区の壁面に表土層以下の遺構断面が現れており，他の袋状土坑で消滅している上部構造が明らかとなった。

SK-17 と同様に底面及びそれに近い位置から遺物の出土が無く，時期決定の根拠に欠けるが，出土遺物全体からみると本遺構の廃絶時期は阿玉台Ⅲ式期と考えられる。

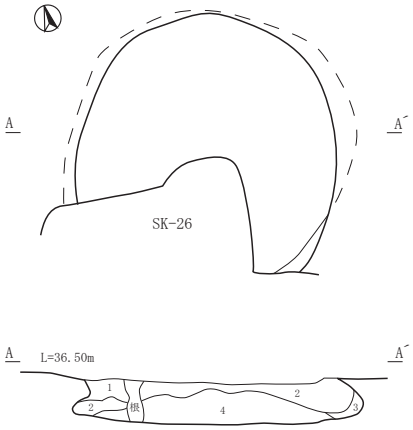
SK-20　（第 12・35・36 図，第６・７・11・17 表，写真図版６・21）

位置・重複関係等　G3 区に位置する。確認面はハードローム層である。上部を大きく削平される。

形態　平面形は円形を呈する。規模は開口部が 2.16 ～ 2.22m, 底面は 2.62 ～ 2.68m。確認面からの深さは 0.58 ～ 0.63m を測る。断面形は袋状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦で外方へ 23cm 拡がる。

覆土　人為的埋め戻しと考えられる。

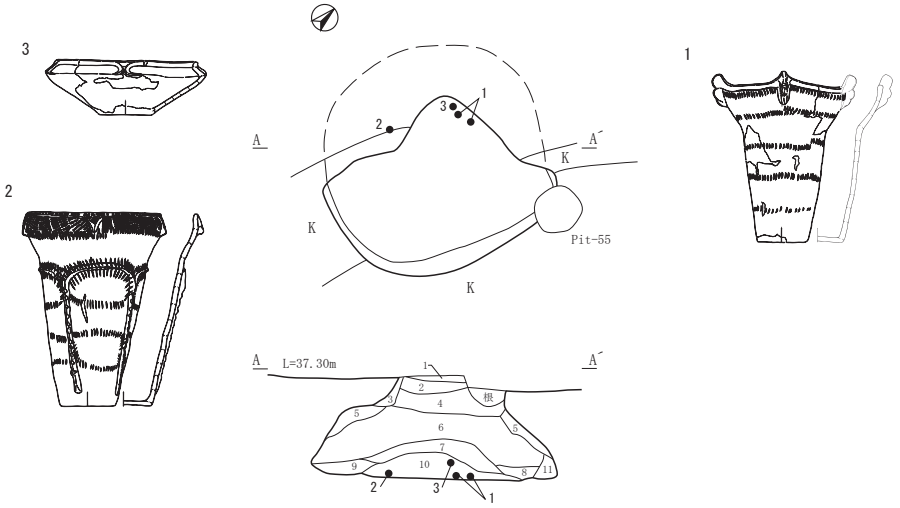
SK-21



SK-21 土層説明

1. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）中量，ロームブロック（φ20～35㎜）・鹿沼軽石（φ～3㎜）・白色粒子（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
2. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）少量，ロームブロック（φ20～35㎜）・鹿沼軽石（φ～15㎜）・白色粒子（φ～2㎜）微量。締まり・粘性やや強。
3. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～3㎜）少量，鹿沼軽石（φ～3㎜）・白色粒子（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
4. 2.5YR 6/6　明黄褐色土層　鹿沼軽石主体（φ～25㎜），根の影響で黒褐色土が混入。締まりやや弱，粘性強。

SK-36



SK-36 土層説明

1. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～8㎜）微量。締まり強，粘性やや弱。
2. 10YR 3/1.5　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）中量，白色粒子（φ～3㎜）・炭化物（φ～3㎜）微量。締まり強，粘性やや弱。
3. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）多量，炭化物（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
4. 10YR 3/3.5　暗褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量，白色粒子（φ～3㎜）・炭化物（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
5. 10YR 3/3.5　暗褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量，炭化物（φ～2㎜）少量。締まり弱，粘性強。
6. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～40㎜）少量，黒褐色土粒（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
7. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量，ロームブロック（φ20～50㎜）微量。締まり・粘性強。
8. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），黒褐色土粒（φ～2㎜）中量。締まりやや弱，粘性強。
9. 10YR 3/1.5　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）中量。締まり・粘性強。
10. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～50㎜）微量。締まり弱，粘性強。
11. 10YR 5/4　にぶい黄褐色土層　ローム土主体（φ～2㎜）多量。締まり弱，粘性強。

0　1m
(1/60)

第 13 図　SK-21・36（縄文時代土坑）

遺物　阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ・Ⅲ式以降・ⅢないしⅣ式・Ⅳ式，大木 7b・8a 式，中期中葉の土器片を用いている土製円盤が出土している（第 35･36 図，第 6･7･11･17 表，写真図版 21）。石器は出土していない。

時期　阿玉台Ⅳ式期と考えられる。

所見等　出土した土器は阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式と阿玉台Ⅳ式の２時期に分けられる。この事から再度遺構の重複について精査したが，平面・断面共遺構の重複は確認されず，阿玉台Ⅳ式期に阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ式の遺物が混入したと考えられる。

SK-21　（第 13 図，写真図版６）

位置・重複関係等　G3・4 区に位置する。確認面はハードローム層である。SK-26 地下式坑に南側 1/4 を切られ，上部を大きく削平される。

形態　平面形は円形と考えられる。規模は開口部が 2.00 ～ 2.10m，底面は 2.20m。確認面からの深さは 0.31 ～ 0.36m を測る。断面形は袋状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦で外方へ５～ 10cm 拡がるが，南東側は上部が崩落しているため外方へ拡がらない。

覆土　人為的埋め戻しと考えられる。

遺物　無し。

時期　不明だが土坑形状からみると，SK-20 の帰属時期に近いと考えられる。

所見等　遺物が出土しておらず，周辺に存在する袋状土坑と違いがある。確認面より上部には存在していたのであろうか。覆土についても，坑中央部底面から確認面近くまで鹿沼軽石が主体になって堆積しており，これも他の袋状土坑にみられない事である。なお，本遺構を部分的に切る SK-26（中世地下式坑）からは阿玉台Ⅰｂ･Ⅰ～Ⅱ･Ⅲ式以降，大木８式，中期に比定される土器片が出土している。

SK-36　（第 13・36・37 図，第６・11・17 表，写真図版６・21・22）

位置・重複関係等　F3・G3 区に位置する。確認面はハードローム層である。東側半分の上部を大きく削平される。Pit-55 に切られる。

形態　平面形はほぼ円形を呈する。規模は開口部が 1.40 ～ 1.84m，底面は 1.64 ～ 1.84m。確認面からの深さは 0.17 ～ 0.86m を測る。断面形は袋状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦で，攪乱を受けない部分では外方へ 40 ～ 70cm 拡がる。

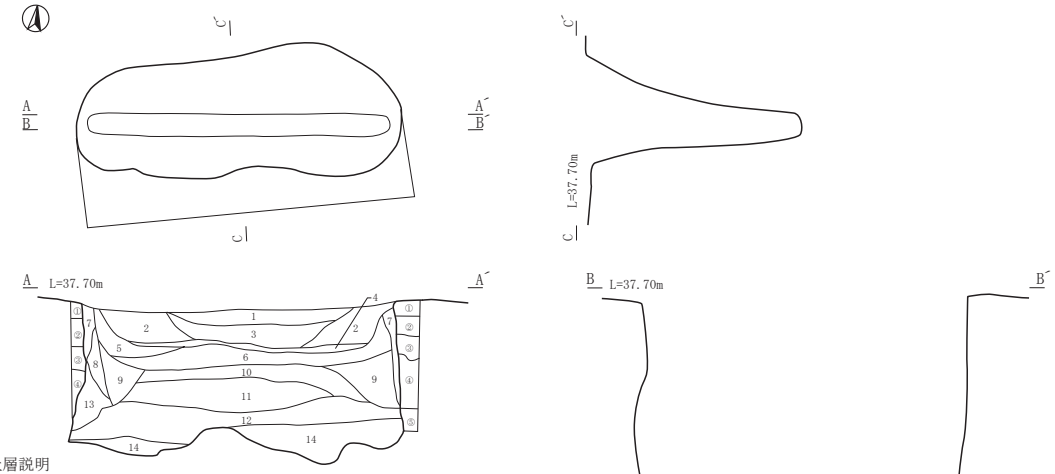
覆土　人為的埋め戻しと考えられる。

遺物　阿玉台Ⅱ式のほぼ完形である深鉢（SK-36. 2）が逆位で出土している。底面には 1/2 個体の深鉢が破片となり出土している。出土遺物 32 点の内１点であるが勝坂式深鉢の破片が出土している（第 36・37 図，第６・11・17 表，写真図版 21・22）。石器は出土していない。

時期　阿玉台Ⅱ式期。

所見等　逆位で出土した深鉢（SK-36. 2）の口縁と坑底面には約 5cm の褐色土を挟み，土器内部にも同様の土が密に入る。

SK-3

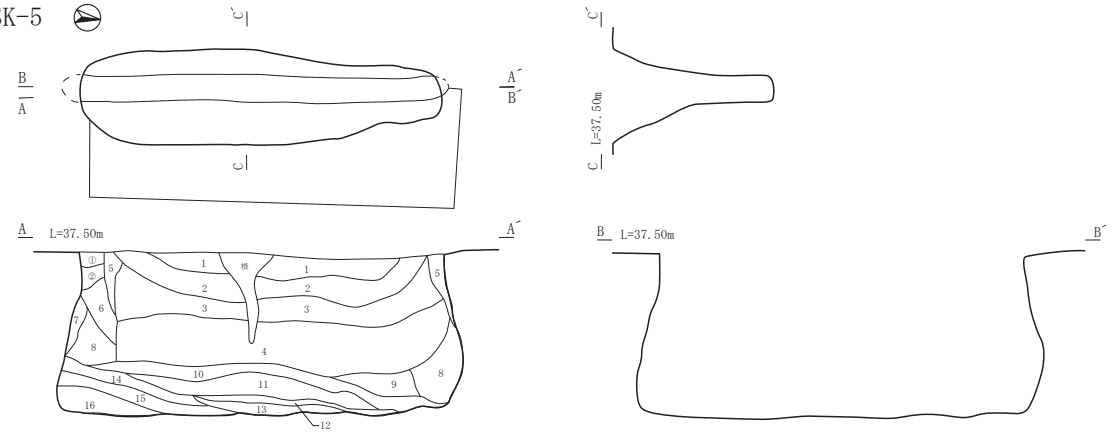


SK-3 土層説明

1. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒(φ～8mm)微量，白色粒子(φ～2mm)少量，赤褐色スコリア(φ～3mm)微量。締まり・粘性強。
2. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒(φ～2mm)中量，鹿沼軽石(φ～4mm)・白色粒子(φ～3mm)少量，赤褐色スコリア(φ～3mm)微量。締まり・粘性強。
3. 10YR 3/1.5　黒褐色土層　ローム粒(φ～2mm)斑紋状に中量，鹿沼軽石(φ～5mm)微量,白色粒子(φ～2mm)中量，赤褐色スコリア(φ～2mm)微量。締まり・粘性強。
4. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒(φ～２mm)多量，鹿沼軽石(φ～3mm)少量,白色粒子(φ～2mm)中量，赤褐色スコリア(φ～10mm)少量。締まり・粘性強。
5. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒(φ～２mm)多量，鹿沼軽石(φ～5mm)・白色粒子(φ～2mm)中量，赤褐色スコリア(φ～3mm)微量。締まり・粘性強。
6. 10YR 4/6　褐色土層　ローム粒(φ～20mm)多量，ロームブロック(φ20～35mm)微量，鹿沼軽石(φ～5mm)・白色粒子(φ～3mm)少量,赤褐色スコリア(φ～5mm)中量。締まり・粘性強。
7. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体(φ～２mm)，黒褐色土粒(φ～2mm)微量。締まり弱,粘性強。
8. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒(φ～2mm)多量，鹿沼軽石(φ～2mm)少量，白色粒子(φ～2mm)微量，赤褐色スコリア(φ～2mm)少量。締まり・粘性強。
9. 10YR 4/4　褐色土層　ローム粒(φ～20mm)多量，鹿沼軽石(φ～3mm)少量,白色粒子(φ～5mm)・赤褐色スコリア(φ～5mm)中量。締まり・粘性強。
10. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒(φ～20mm)多量，ロームブロック(φ20～40mm)中量，鹿沼軽石(φ～5mm)・白色粒子(φ～2mm)・赤褐色スコリア(φ～5mm)少量。締まり・粘性強。
11. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)，暗褐色土粒(φ～2mm)・赤褐色スコリア(φ～2mm)少量。締まり・粘性強。
12. 10YR 4/6　褐色土層　ローム粒(φ～20mm)多量，ロームブロック(φ20～40mm)少量，鹿沼軽石(φ～2mm)・白色粒子(φ～2mm)微量，赤褐色スコリア(φ～5mm)少量。締まりやや弱,粘性強。
13. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)，鹿沼軽石(φ～5mm)微量，白色粒子(φ～2mm)・赤褐色スコリア(φ～5mm)少量。締まり・粘性強。
14. 10YR 3.5/4　暗褐色土層　ローム粒(φ～3mm)中量，ロームブロック(φ20～25mm)・鹿沼軽石(φ～3mm)微量，白色粒子(φ～2mm)少量，赤褐色スコリア(φ～5mm)微量。締まり弱,粘性強。

① ソフトローム漸移層
② ソフトローム
③ ハードローム　10YR 4/6
④ ハードローム　10YR 5/6
⑤ ハードローム　10YR 5/4

SK-5



SK-5 土層説明

1. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒(φ～3mm)中量，鹿沼軽石(φ～5mm)・白色粒子(φ～2mm)・赤褐色スコリア(φ～5mm)少量。締まり強,粘性やや強。
2. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒(φ～3mm)多量斑紋状，鹿沼軽石(φ～5mm)・白色粒子(φ～3mm)少量,赤褐色スコリア(φ～10mm)中量。締まり強,粘性やや強。
3. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体(φ～20mm)，ロームブロック(φ20～50mm)少量，鹿沼軽石(φ～5mm)微量，白色粒子(φ～3mm)少量,赤褐色スコリア(φ～10mm)中量。締まり・粘性強。
4. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体(φ～２０mm)，鹿沼軽石(φ～5mm)・白色粒子(φ～3mm)微量，赤褐色スコリア(φ～10mm)少量。締まり・粘性強。
5. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体(φ～２０mm)，暗褐色土粒(φ～2mm)中量,白色粒子(φ～2mm)・赤褐色スコリア(φ～3mm)微量。締まり・粘性強。
6. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体(φ～20mm)，白色粒子(φ～2mm)・赤褐色スコリア(φ～3mm)微量。締まり・粘性強。
7. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)，赤褐色スコリア(φ～2mm)微量。締まり・粘性強。
8. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)，赤褐色スコリア(φ～5mm)微量。締まり・粘性強。
9. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)，鹿沼軽石(φ～3mm)・白色粒子(φ～2mm)微量,赤褐色スコリア(φ～10mm)中量。締まり・粘性強。
10. 10YR 3/4　褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)，暗褐色土粒(φ～2mm)多量，鹿沼軽石(φ～3mm)・白色粒子(φ～2mm)微量,赤褐色スコリア(φ～5mm)少量。締まり・粘性強。
11. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)，鹿沼軽石(φ～2mm)・白色粒子(φ～2mm)微量,赤褐色スコリア(φ～8mm)少量。締まり・粘性強。
12. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)，暗褐色土粒(φ～2mm)多量，鹿沼軽石(φ～2mm)・白色粒子(φ～2mm)・赤褐色スコリア(φ～8mm)微量。締まり・粘性強。
13. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)。締まり強,粘性極強。
14. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)，鹿沼軽石(φ～3mm)・赤褐色スコリア(φ～10mm)微量。締まり強,粘性極強。
15. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒(φ～15mm)中量，赤褐色スコリア(φ～2mm)少量。締まり・粘性強。
16. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム土主体(φ～2mm)，赤褐色スコリア(φ～2mm)微量。締まり・粘性強。

① ソフトローム漸移層
② ソフトローム

0　1m
(1/60)

第 14 図　SK-3・5（縄文時代土坑）

陥し穴状土坑

SK-3　（第 14 図，写真図版７）

位置・重複関係等　A2・B2 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。

形態　平面形は長楕円形を呈する。規模は長軸 2.54m× 短軸 0.78 ～ 1.00m, 底面は 2.40m×0.18m。確認面からの深さは 1.72m を測る。主軸方位は N-85°-E である。断面形は V 字状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　遺物の出土が無く不明である。

SK-5　（第 14 図，写真図版 7）

位置・重複関係等　C3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。

形態　平面形は長楕円形を呈する。規模は長軸 2.74m× 短軸 0.46 ～ 0.78m, 底面は 3.06m×0.22m, 確認面からの深さは 1.33m を測る。主軸方位は N-8°-W である。断面形は V 字状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦で両端が 10 ～ 22cm 外方へ拡がる。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　遺物の出土が無く不明である。

SK-6　（第 15 図，写真図版 7）

位置・重複関係等　C3・4 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。南側をコンクリートパイルに攪乱される。

形態　平面形は長楕円形を呈する。規模は長軸 2.42m 以上 × 短軸 0.78m 以上，底面は 1.80m 以上 ×0.10m 以上。確認面からの深さは 0.96m を測る。主軸方位は N-1°-E である。断面形は V 字状を呈する。壁面はやや雑であり，底面はほぼ平坦で北端が 10cm 外方へ拡がる。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　遺物の出土が無く不明である。

SK-22　（第 15 図，写真図版 7）

位置・重複関係等　G4 区に位置する。確認面はハードローム層である。上部を大きく削平される。

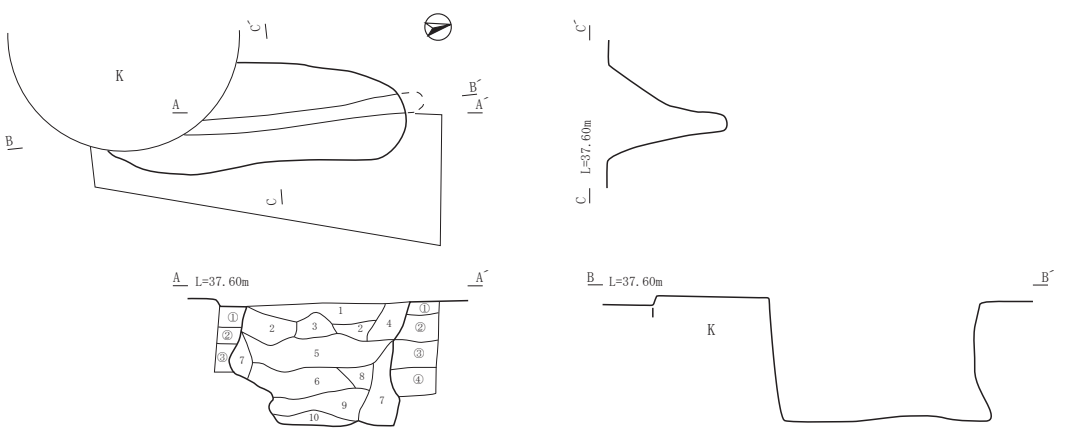
形態　平面形は長楕円形を呈する。規模は長軸 3.40m× 短軸 0.20m。確認面からの深さは 0.34m を測る。主軸方位は N-28°-W である。断面形は U 字状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　遺物の出土が無く不明である。

SK-6



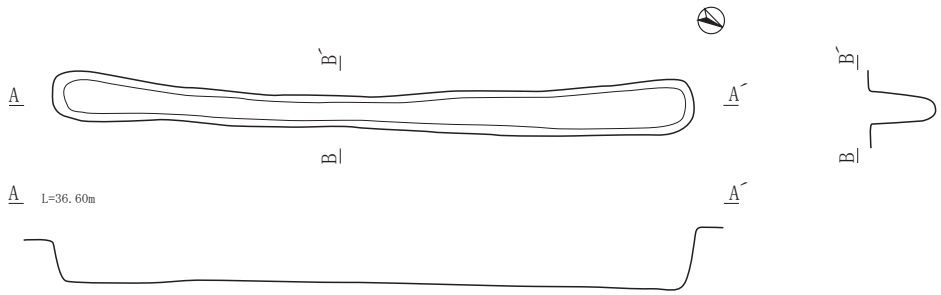
SK-6 土層説明

①. ソフトロームへの漸移層
②. ソフトローム
③. ハードローム
④. ハードローム

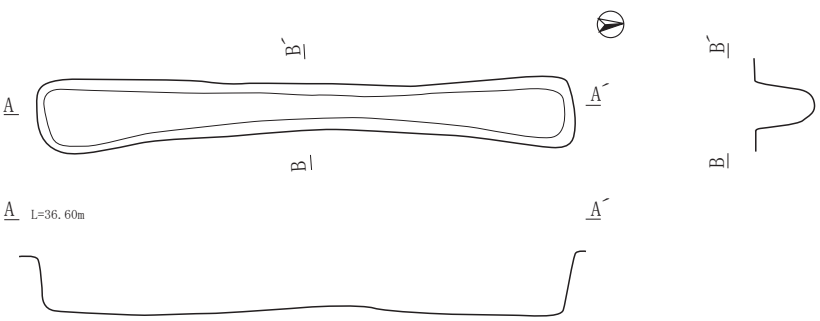
1.	10YR 3/2	黒褐色土層	ローム粒（φ～2㎜）微量。締まり強，粘性やや強。
2.	10YR 3/3	暗褐色土層	ローム粒（φ～15㎜）多量，白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～5㎜）微量。締まりやや強，粘性やや強。
3.	10YR 3/3	暗褐色土層	ローム粒（φ～3㎜），鹿沼軽石（φ～3㎜）微量，白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～5㎜）少量。締まり強，粘性強。
4.	10YR 4/4	褐色土層	ローム土主体（φ～2㎜），暗褐色土粒（φ～2㎜）中量。締まり弱，粘性強。
5.	10YR 4/3	にぶい黄褐色土層	ローム土主体（φ～20㎜），鹿沼軽石（φ～4㎜）・白色粒子（φ～2㎜）微量，赤褐色スコリア（φ～10㎜）・暗褐色土粒（φ～2㎜）中量。締まり強，粘性強。
6.	10YR 4/6	褐色土層	ローム土主体（φ～20㎜），鹿沼軽石（φ～3㎜）・白色粒子（φ～2㎜）微量，赤褐色スコリア（φ～5㎜）・暗褐色土粒（φ～2㎜）少量。締まり強，粘性強。
7.	10YR 4/5	褐色土層	ローム土主体（φ～20㎜），鹿沼軽石（φ～5㎜）中量，赤褐色スコリア（φ～5㎜）・暗褐色土粒（φ～2㎜）少量。締まりやや強，粘性強。
8.	10YR 4/6	褐色土層	ローム土主体（φ～20㎜），鹿沼軽石（φ～5㎜）少量，白色粒子（φ～2㎜）微量，赤褐色スコリア（φ～10㎜）少量，暗褐色土粒（φ～2㎜）多量。締まり強，粘性強。
9.	10YR 4/4	褐色土層	ローム土主体（φ～20㎜），暗褐色土粒（φ～2㎜）少量，鹿沼軽石（φ～5㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～10㎜）微量。締まり強，粘性強。
10.	10YR 3/3	暗褐色土層	10YR5/6 黄褐色ロームブロック（φ20～50㎜）多量。ローム粒（φ～20㎜）少量，白色粒子（φ～2㎜）微量。締まりやや強，粘性強。

0　1m
(1/60)

SK-22



SK-23



0　1m
(1/50)

第 15 図　SK-6・22・23（縄文時代土坑）

SK-23　（第 15 図，写真図版 7）

位置・重複関係等　G4 区に位置する。確認面はハードローム層である。上部を大きく削平される。

形態　平面形は長楕円形を呈する。規模は長軸 2.84m× 短軸 0.24m。確認面からの深さは 0.37m を測る。主軸方位は N-4°-E である。断面形は U 字状を呈する。壁面は整っており，底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　遺物の出土が無く不明である。

第２項　ピット

Pit-2・5 ～ 7・9 ～ 12・15 ～ 18・22・37 ～ 42　（第 16 図，第２・17 表）

19 基のピット（小穴）を検出した。いずれも柱穴状を呈さない。調査区北西側では，掘り込みが皿状を呈するピットが住居跡の柱穴のように同心円状に並ぶが，住居跡であると言える根拠に乏しかったため，単独のピットとして扱った。覆土については以下の内容に基づいて A 類･B 類と大別し，記録を行った。

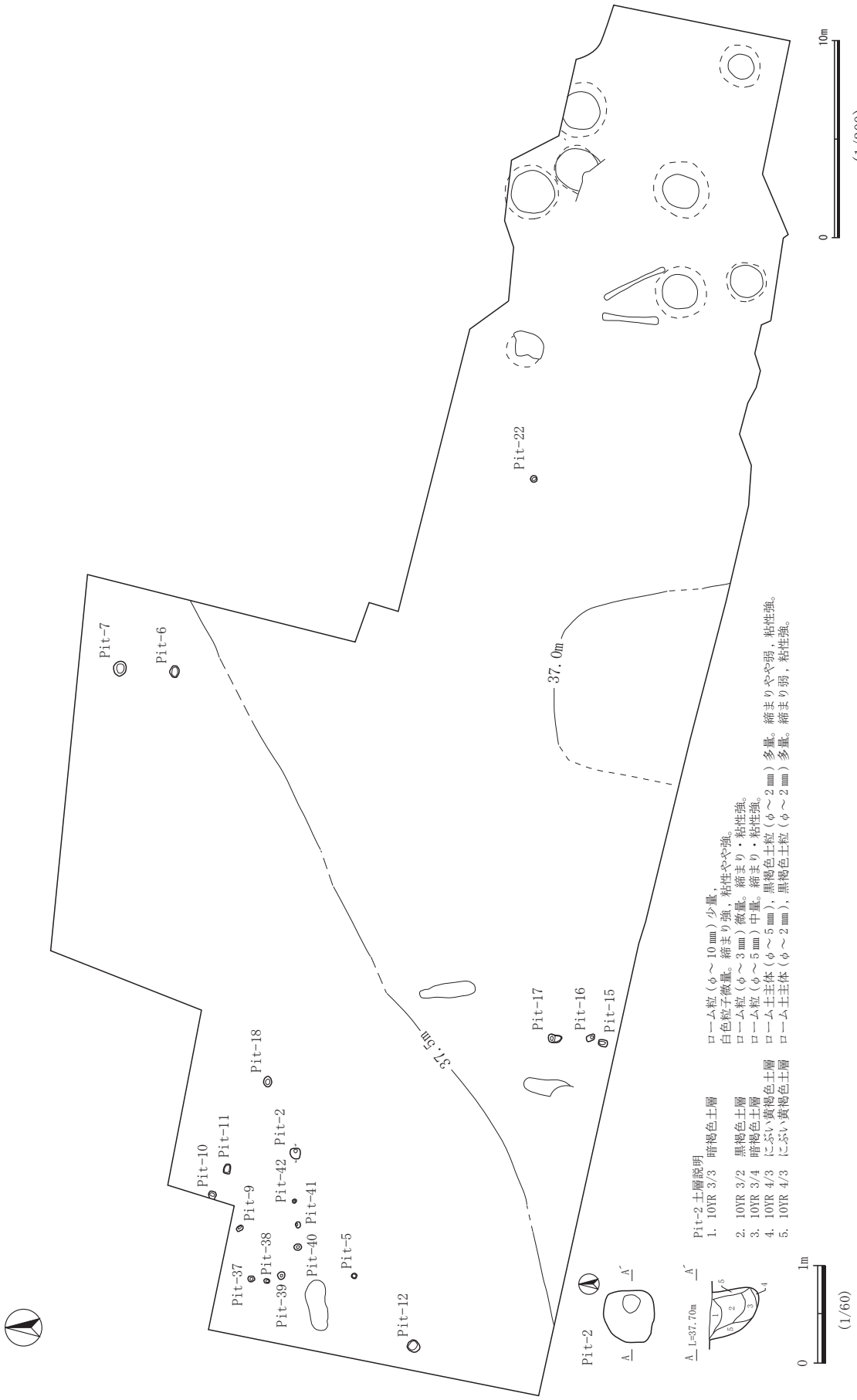
A 類：10YR3/2 黒褐色土層　ローム粒（φ ～ 3mm）多量，白色粒子（φ ～ 2mm）少量，赤褐色スコリア（φ ～ 1mm）微量。

B 類：10YR3/3 暗褐色土層　ローム粒（φ ～ 2mm）中量。

第２表　縄文時代 Pit 一覧表

［規模欄 / 長径×短径×深さ（単位 cm），下段は底面標高（単位 m）］

番号	位置（グリッド）	確認面	時期	平面形	規模 底面標高	覆土	新旧関係	出土遺物	図版番号
2	B2	ソフトローム層	中期	楕円形	53×50×62 [36.93]	(第16図)	単独	第17表	第16図
5	B2	ソフトローム層	中期	円形	37×－×16 [37.45]	A類	単独	第17表	第16図
6	E1・E2	ソフトローム層	中期	楕円形	58×50×22 [37.45]	B類	単独	第17表	第16図
7	E1	ソフトローム層	中期	楕円形	76×64×16 [37.52]	B類	単独	第17表	第16図
9	B2	ソフトローム層	不明	楕円形	36×24×18 [37.47]	A類	単独	—	第16図
10	B2	ソフトローム層	不明	楕円形	40以上×36×23 [37.51]	A類	単独	—	第16図
11	B2	ソフトローム層	不明	楕円形	50×35×12 [37.55]	A類	単独	—	第16図
12	A3	ソフトローム層	不明	楕円形	62×58×19 [37.40]	A類	単独	—	第16図
15	C4	ソフトローム層	不明	楕円形	46×35×28 [37.12]	A類	単独	—	第16図
16	C4	ソフトローム層	不明	楕円形	43×30×19 [37.19]	A類	単独	—	第16図
17	C3	ソフトローム層	不明	楕円形	68×42×33 [37.08]	A類	単独	—	第16図
18	C2	ソフトローム層	不明	楕円形	53×43×28 [37.40]	A類	単独	—	第16図
22	F3	ソフトローム層	中期	円形	33×－×65 [36.68]	B類	単独	第17表	第16図
37	B2	ソフトローム層	不明	楕円形	33×30×16 [37.52]	A類	単独	—	第16図
38	B2	ソフトローム層	不明	楕円形	30×23×11 [37.53]	A類	単独	—	第16図
39	B2	ソフトローム層	不明	楕円形	40×35×17 [37.44]	A類	単独	—	第16図
40	B2	ソフトローム層	不明	楕円形	37×31×10 [37.44]	A類	単独	—	第16図
41	B2	ソフトローム層	不明	楕円形	30×24×18 [37.35]	A類	単独	—	第16図
42	B2	ソフトローム層	不明	円形	20×－×6 [37.52]	A類	単独	—	第16図



第16図　Pit-2・5～7・9～12・15～18・22・37～42（縄文時代ピット）

第２節　中世以降

検出された遺構は，掘立柱建物跡２棟・溝跡３条・土坑 22 基・地下式坑４基・井戸跡３基・ピット群２ヵ所・ピット 52 基である。この内該期の遺物を伴う遺構は，溝跡２条・土坑８基・地下式坑２基・井戸跡２基であり，各遺構報告中に時期を記した。中世以降における本遺跡第３地点の様相は，出土遺物から 15 世紀後半～ 16 世紀へかけての時期が中心になると考えられる。遺物を伴わない遺構については，覆土の状況からみて中世以降と考えられたため，中世以降とした。また，現代の炭焼き関連施設と思われる３ヵ所の掘り込みの内１ヵ所の調査を行った。

第１項　掘立柱建物跡

調査区の西側で２棟検出された。SB-1 は桁行３間 × 梁行３間で柱間隔は 2.3m・2.0m を測るが，柱穴は小規模である。SB-2 の柱穴の規模は 58 ～ 104cm, 確認面からの深さは 66 ～ 82cm と規模が比較的大きい。柱穴は４基のみの確認であることから，他の柱穴の存在を想定し精査を実施したが，検出に至らなかった。柱間隔が検出された値より大きいとすれば，調査区外に続くことも考えられる。

SB-1　（第 17 図，第 17 表，写真図版７）

位置・重複関係等　B2・B3・C3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。大きく攪乱されていないが，所々木根の影響を受ける。

形態　規模は桁行３間(6.90m)×梁行３間(6.00m)。建物方向は南北棟であり，方位は N-45°-W である。柱間寸法は桁行 2.30m ほぼ等間，梁行 2.00m ほぼ等間である。柱穴の平面形は円形・楕円形を呈する。柱穴の規模は長軸 30 ～ 67cm ×短軸 19 ～ 38cm, 確認面からの深さは７～ 31cm を測る。

遺物　該期の遺物の出土は無く，縄文時代時期不明の土器細片１点しか出土していない。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

所見等　全体的に柱穴の掘り込み規模は確認面から浅い。P(1-1) と P(1-3) では明確でないが，柱の痕跡と考えられる土層が確認されたが，その他の柱穴では確認されなかった。なお，P(1-3) の柱の痕跡と考えられる土層の下層土は硬く締まっていた。P(4-1) と P(4-2) では掘り込みに段を有するが，その規模から建て替えや柱の抜き取りに伴う痕跡では無いと考えられる。

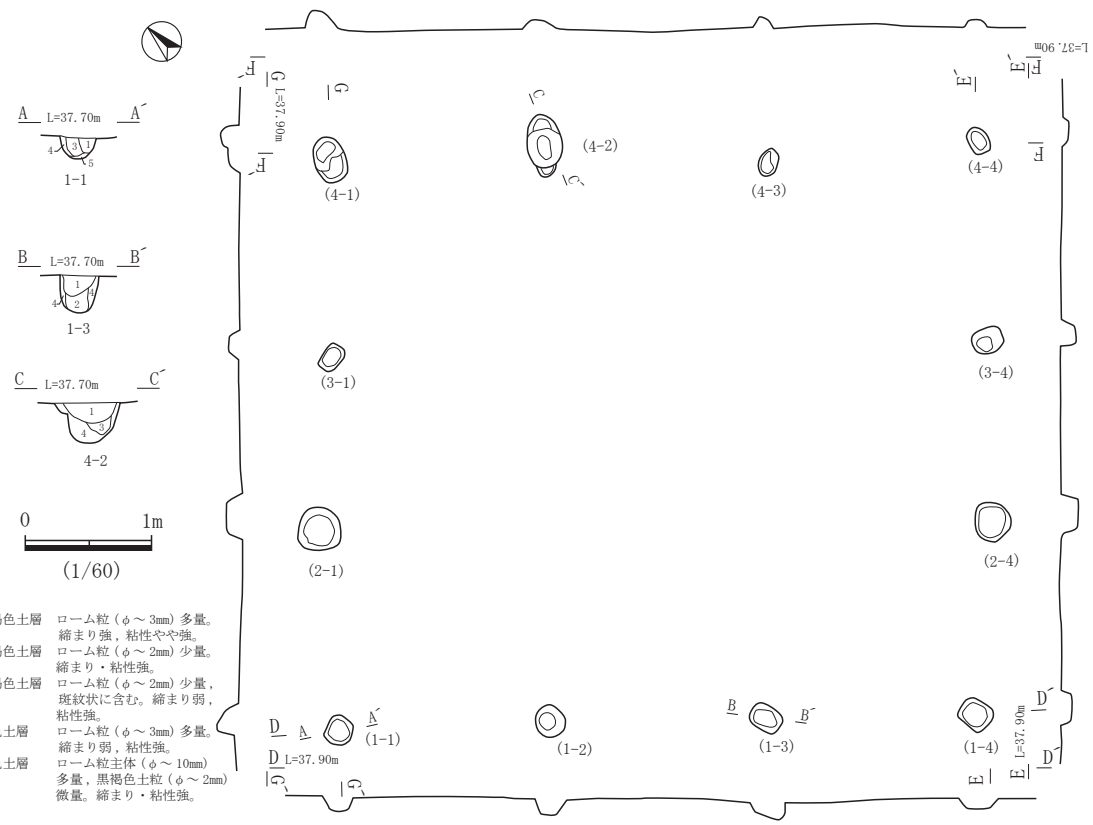
SB-2　（第 17・38・41 図，第６・11・13・17 表，写真図版８・23・24）

位置・重複関係等　C2・D2 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。大きく攪乱されていないが，所々現代の攪乱を受ける。

形態　規模は南北１間（4.00m・3.70m）× 東西１間（3.90m)。建物方位は N-41°-E である。柱穴の平面形は長方形・隅丸方形・不整楕円形を呈する。柱穴の規模は長軸 60 ～ 104cm× 短軸 58 ～ 85cm, 確認面からの深さは 66 ～ 82cm を測る。

遺物　該期の遺物の出土は無く，縄文時代中期土器細片 21 点，縄文時代時期不明土器細片４点，柱抜き取り穴と考えられる土層の上層から古墳時代中期土師器甕の破片１点（第 38・41 図，第６・11・

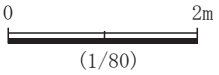
SB-1



SB-1 土層説明

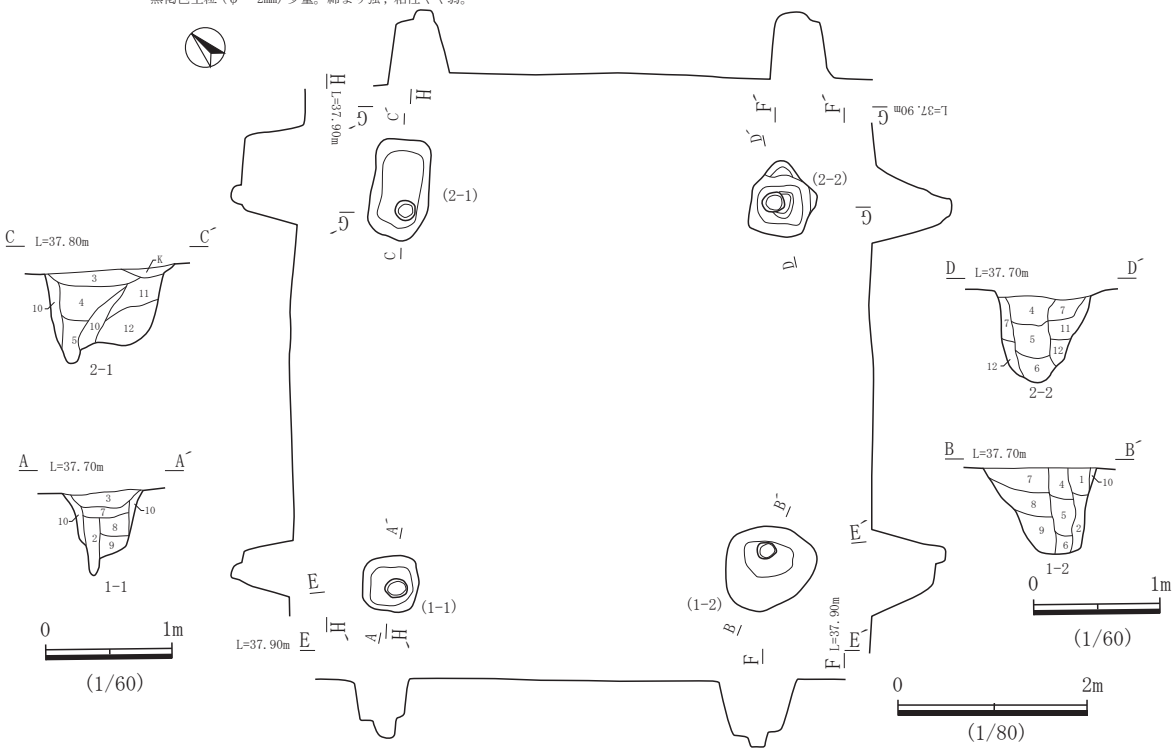
1. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～3mm）多量。締まり強，粘性やや強。
2. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～2mm）少量。締まり・粘性強。
3. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～2mm）少量，斑紋状に含む。締まり弱，粘性強。
4. 10YR 4/4　褐色土層　ローム粒（φ～3mm）多量。締まり弱，粘性強。
5. 10YR 4/6　褐色土層　ローム粒主体（φ～10mm）多量，黒褐色土粒（φ～2mm）微量。締まり・粘性強。

SB-2



SB-2 土層説明

1. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～2mm）微量。締まりやや強，粘性弱。
2. 10YR 2.5/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～3mm）微量，暗褐色土（φ～2mm）少量。締まりやや強，粘性弱。
3. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～4mm）中量。締まり強，粘性やや弱。
4. 10YR 3/2　黒褐色土層　3層よりやや色調が淡い。
5. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～20mm）多量。締まり強，粘性やや弱。
6. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～2mm）少量。締まり・粘性弱。
7. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～15mm）多量，黒褐色土粒（φ～2mm）少量。締まり強，粘性やや弱。
8. 10YR 2/1.5　黒褐色土層　ローム粒（φ～3mm）少量。細粒。締まり強，粘性やや強。
9. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒（φ～20mm）多量，ロームブロック（φ20～50mm）微量。締まり・粘性強。
10. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～10mm），黒褐色土粒（φ～3mm）微量。締まり弱，粘性強。
11. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体（φ～10mm），黒褐色土粒（φ～2mm）中量。締まり・粘性強。
12. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～30mm），黒褐色土粒（φ～2mm）中量。締まり・粘性強。



第 17 図　SB-1・2（中世以降掘立柱建物跡）

13･17表，写真図版23･24)，時期不明の土師器甕ないし壺細片１点，時期･器種不明の土師器細片５点，瑪瑙細片１点が出土している。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

所見等　確認面での柱穴の平面形は長方形・隅丸方形・不整楕円形と様々であるが，全ての柱穴の底面には径20cm前後，深さがP(1-1) では21cm,P(1-1) 以外では14cmの柱アタリ部分が認められた。また,P(1-1) には柱の痕跡と考えられる土層が確認され,P(1-1) 以外の柱穴では，柱の抜き取りに伴うと考えられる土層が確認された。

第２項　溝跡

溝跡は３条検出された。SD-1とSD-3は並行に近接し形状と覆土が類似するが,SD-1は鉤の手状に屈曲し,SD-3は4.46mと短く直線状である。SD-1はコの字状に廻るとも考えられたため，調査区南壁において検出されていない部分の掘り込みの確認精査に努めたが，検出に至らなかった。SD-2は調査区中央部を南北に延び，調査区南壁際では東へ延びる状況が僅かに確認された。

SD-1　(第18図，第14・17表，写真図版８)

位置・重複関係等　B2・C2・C3・C4・D3区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。全体的に削平され，３ヵ所に分断される。掘り込みが浅いためであろうか西側では消滅する。南側では調査区外へ続く。

形態　規模は南北の長さが南から2.90m＋4.62m, 東西の長さは東から6.58m＋1.82m, 幅0.42～0.82m, 確認面からの深さは0.03～0.23mを測る。主軸方位はC4区でN-0°-W,C3区では鉤の手状に向きを変え，南北方向はN-3°-E, 東西方向はN-81°-W,B2区ではN-85°-Wである。断面形は浅い皿状を呈する。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　内耳土鍋の細片が16点出土している。

時期　覆土と出土遺物から中世以降と考えられる。

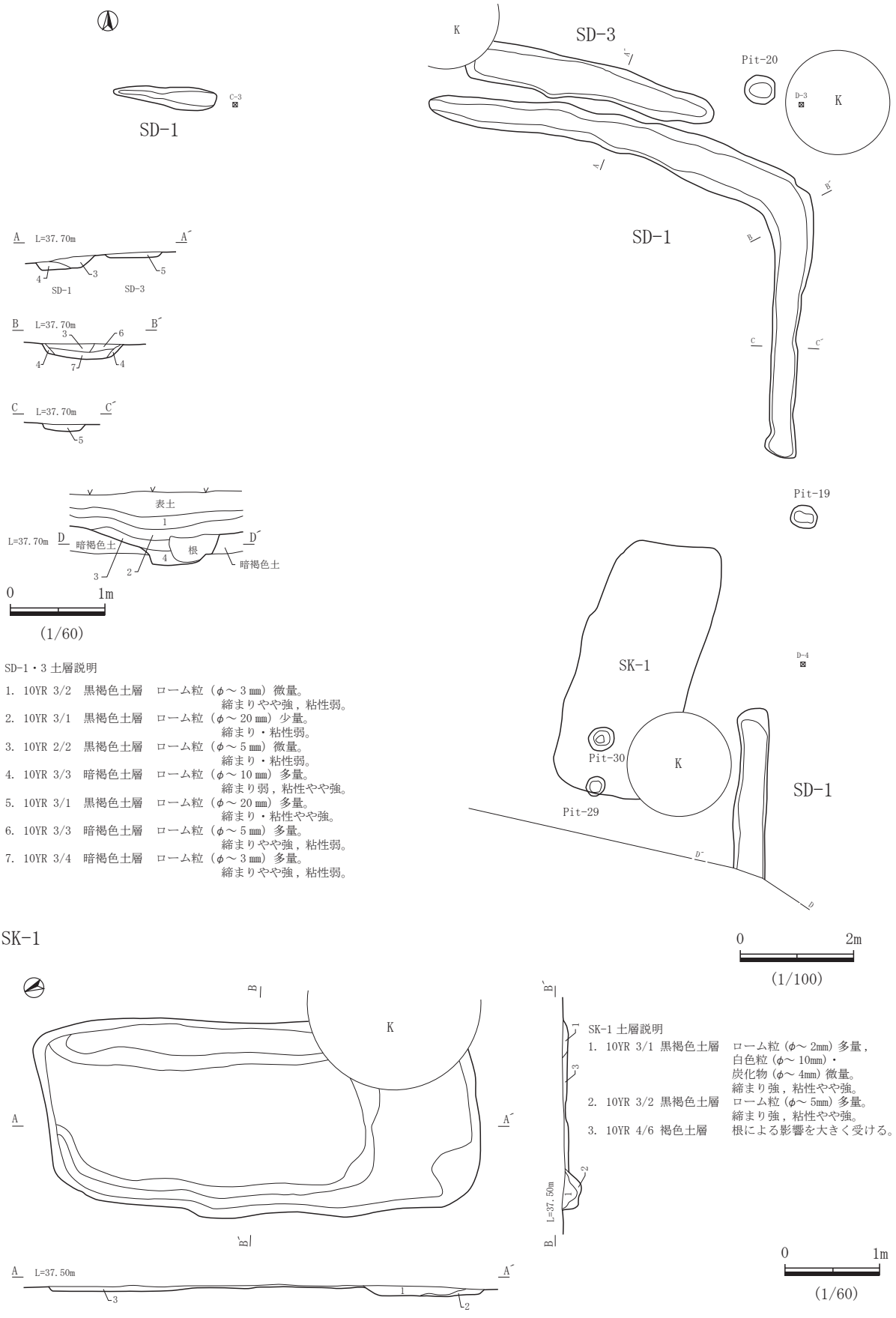
所見等　鉤の手状に屈曲するが，溝の区画の内側からは，本遺構に伴う土坑や井戸跡は検出されなかった。なお，ピットは数基検出されている。

SD-2　(第19・38・40・42～44図，第６・11・12・14・15・17表・写真図版８・９・23～26)

位置・重複関係等　D3・D4・E2・E3区に位置する。確認面はソフトローム層上面～ハードローム層である。検出範囲の中央部が大きく削平され，所々コンクリートパイルに攪乱される。SK-29・41地下式坑及びSK-28土坑・Pit-36を切る。Pit-31とは新旧関係が不明である。

形態　規模は長さ22.70m, 幅0.86～2.60m, 確認面からの深さは0.17～0.71mを測る。主軸方位はD3・E3区でN-20°-E,E2区付近でN-46°-Eに向きを変える。なお，調査区南際ではN-66°-Wに向きを変えると考えられる。断面形は緩やかなV字状を呈し，一部分は段を持つ二段形である。

覆土　自然堆積と考えられる。



SD-1・3 土層説明

1. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～3㎜）微量。
　　締まりやや強，粘性弱。
2. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）少量。
　　締まり・粘性弱。
3. 10YR 2/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）微量。
　　締まり・粘性弱。
4. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）多量。
　　締まり弱，粘性やや強。
5. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量。
　　締まり・粘性やや強。
6. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）多量。
　　締まりやや強，粘性弱。
7. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～3㎜）多量。
　　締まりやや強，粘性弱。

SK-1 土層説明

1. 10YR 3/1 黒褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）多量，
　　白色粒（φ～10㎜）・
　　炭化物（φ～4㎜）微量。
　　締まり強，粘性やや強。
2. 10YR 3/2 黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）多量。
　　締まり強，粘性やや強。
3. 10YR 4/6 褐色土層　根による影響を大きく受ける。

第 18 図　SD-1・3・SK-1（中世以降溝跡・土坑）

遺物　検出範囲の南側に出土が偏り，青白磁合子と考えられる細片１点・陶器卸皿破片１点・15 ～ 16 世紀の内耳土鍋 1/2 個体１点と破片 313 点・在地産のカワラケ破片１点・常滑窯産の甕と考えられる破片１点が出土した（第 42 ～ 44 図，第 14・15・17 表，写真図版 25・26)。該期以外では縄文時代中期土器細片 257 点，後期土器細片２点，時期不明土器細片 21 点（第 38 図，第６・17 表，写真図版 23），弥生時代後期と考えられる壺細片１点（第 40 図，第 12・17 表，写真図版 24），古墳時代土師器甕細片 14 点，奈良･平安時代土師器甕細片１点，時期不明の土師器甕と考えられる細片６点，時期不明の須恵器壺類細片１点と壺ないし甕の細片２点，礫 39 点が出土した。

時期　覆土と出土遺物から 15 ～ 16 世紀と考えられる。

所見等　調査区南壁際で東へ延びる状況が僅かにみられたが，調査区外であるため詳細は不明である。

SD-3　（第 18 図，写真図版８）

位置･重複関係等　C2･C3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面。全体的に削平され，コンクリートパイルに攪乱される。

形態　規模は長さ 4.46m, 幅 0.50 ～ 0.78m, 確認面からの深さは 0.07 ～ 0.12m を測る。主軸方位は N-76°-W である。断面形は浅い皿状を呈する。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

所見等　SD-1 と並行に近接し，覆土が類似するが，その関係は不明である。

第３項　地下式坑

地下式坑と考えられる遺構は４基検出された。骨片等の埋葬痕跡は確認できなかった。

形状については，構築時に竪坑であったと考えられる掘り込みを入口部とし，主体となる掘り込みを玄室部とし，入口部から玄室部へ続く通路的な部分を有する場合はそれを羨道部と呼称した。

平面形状に違いがあり，SK-2 は入口部が半円形で玄室部は長方形を呈する。SK-26 は入口部が楕円形で玄室部は長方形，SK-29 は入口部が円形で玄室部は楕円形を呈する。SK-41 は僅かに楕円形の玄室部が検出されただけで，ほとんどの部分は調査区外に存在する。

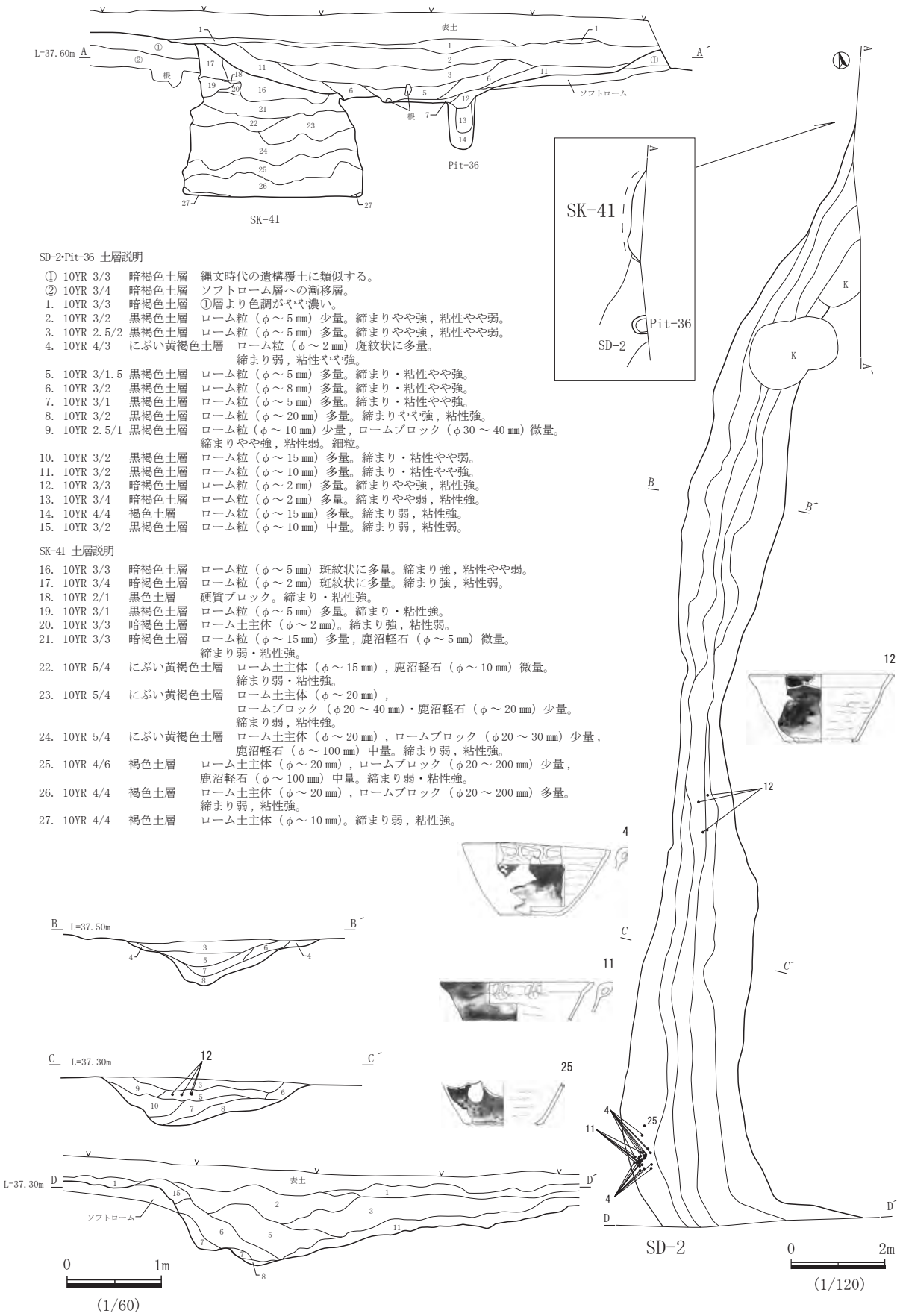
SK-2 では玄室中央部の覆土中～下層からカワラケが３個体出土し，SK-26 覆土下層からは常滑窯産甕片が出土している。

SK-2　（第 21・37・42・45 図，第６・11・15・17 表，写真図版９・22・27）

位置・重複関係等　D3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。北西角をコンクリートパイルに攪乱される。

形態　主軸は長さ 2.44m を測り，方位は N-38°-E である。

入口部は半円形を呈し，規模は長軸 0.94m× 短軸 0.80m, 確認面からの深さは 0.93m ～ 0.98m を測る。入口に対し両脇の地山を掘り残す。羨道部は無い。玄室部は長方形を呈し，規模は長軸 3.84m



SD-2･Pit-36 土層説明

① 10YR 3/3　暗褐色土層　縄文時代の遺構覆土に類似する。
② 10YR 3/4　暗褐色土層　ソフトローム層への漸移層。
1. 10YR 3/3　暗褐色土層　①層より色調がやや濃い。
2. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）少量。締まりやや強，粘性やや弱。
3. 10YR 2.5/2 黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）多量。締まりやや強，粘性やや弱。
4. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）斑紋状に多量。締まり弱，粘性やや強。
5. 10YR 3/1.5 黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）多量。締まり・粘性やや強。
6. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～8㎜）多量。締まり・粘性やや強。
7. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）多量。締まり・粘性やや強。
8. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量。締まりやや強，粘性強。
9. 10YR 2.5/1 黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）少量，ロームブロック（φ30～40㎜）微量。締まりやや強，粘性弱。細粒。
10. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量。締まり・粘性やや弱。
11. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）多量。締まり・粘性やや強。
12. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）多量。締まりやや強，粘性強。
13. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）多量。締まりやや弱，粘性強。
14. 10YR 4/4　褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量。締まり弱，粘性強。
15. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）中量。締まり弱，粘性弱。

SK-41 土層説明

16. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）斑紋状に多量。締まり強，粘性やや弱。
17. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）斑紋状に多量。締まり強，粘性弱。
18. 10YR 2/1　黒色土層　硬質ブロック。締まり・粘性強。
19. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）多量。締まり・粘性強。
20. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム土主体（φ～2㎜）。締まり強，粘性弱。
21. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量，鹿沼軽石（φ～5㎜）微量。締まり弱・粘性強。
22. 10YR 5/4　にぶい黄褐色土層　ローム土主体（φ～15㎜），鹿沼軽石（φ～10㎜）微量。締まり弱・粘性強。
23. 10YR 5/4　にぶい黄褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～40㎜）・鹿沼軽石（φ～20㎜）少量。締まり弱，粘性強。
24. 10YR 5/4　にぶい黄褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～30㎜）少量，鹿沼軽石（φ～100㎜）中量。締まり弱，粘性強。
25. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～200㎜）少量，鹿沼軽石（φ～100㎜）中量。締まり弱・粘性強。
26. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～200㎜）多量。締まり弱，粘性強。
27. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～10㎜）。締まり弱，粘性強。

第19図　SD-2・SK-41・Pit-36（中世溝跡・中世以降地下式坑）

×短軸 2.2m, 確認面からの深さは 0.97m ～ 1.40m を測る。

遺物　入口部先の覆土中層と玄室の中央部分の覆土下層から 15 ～ 16 世紀のカワラケが３個体，常滑窯産甕の破片２点，瀬戸・美濃産の陶器皿類１点が出土した（第 42・45 図，第 15・17 表，写真図版 27)。当該期以外では，縄文時代前期（繊維を含む）土器細片１点，縄文時代中期土器細片 292 点，中期と考えられる土器細片３点，縄文時代後期加曽利 B 式土器細片３点，縄文時代時期不明の土器細片 96 点，古墳時代土師器細片 12 点，時期不明土師器細片 29 点（第 37 図，第６・17 表，写真図版 22），礫 81 点（総重量 16,190g）が出土した。

時期　出土遺物から 15 ～ 16 世紀と考えられる。

所見等　天井部と考えられる土の堆積はみられなかった。入口部には黒褐色硬質土が層を成して堆積していた。

SK-26　（第 20・37・42・45 図，第６～ 11・15・17 表，写真図版 10・22・23・27）

位置・重複関係等　G4 区に位置する。確認面はハードローム層上面である。入口部と羨道部が SE-2 井戸跡を切る。

形態　主軸は長さ 2.70m を測り，方位は N- 75°-W である。

入口部は楕円形を呈し，規模は長軸 0.68m 以上 × 短軸 0.30m 以上，確認面からの深さは 0.67m を測る。オーバーハング部は長軸 0.58m × 1.10m, 確認面からの深さは 0.62m を測る。長軸方向東側に対するオーバーハングが顕著である。羨道部の規模は幅 1.00m× 長さ 0.46m 以上，入口部との比高差 0.73m を測る。玄室部は長方形を呈し，規模は長軸 2.20m ×短軸 1.60m, 確認面からの深さは 1.41m ～ 1.47m を測る。

遺物　15 世紀末～ 16 世紀前葉常滑窯産甕片１点，15 ～ 16 世紀の瀬戸・美濃産の陶器平碗片１点が出土した（第 42・45 図，第 15・17 表，写真図版 27)。他には縄文時代中期土器細片 22 点，土製円盤１点（第 37 図，第６・７・17 表，写真図版 22・23），石器３点（第 37 図，第８～ 11・17 表，写真図版 22・23），古墳時代土師器甕細片１点，時期不明土師器甕細片３点，礫 10 点が出土している。

時期　覆土と出土遺物より 15 世紀末～ 16 世紀前葉と考えられる。

所見等　検出時には本遺構を切る遺構を確認できなかったが，調査を進めていくと羨道部内にほぼ収まる形で SE-2 井戸跡が検出された。新旧関係を考慮し，土層堆積状況は特に注意し記録を行った。それによると，SK-26 覆土上層においては本遺構の堆積土が井戸跡上を覆っている状況であり，中層より下層では明確に本遺構が切っていた。覆土には崩落した天井部と考えられるローム土の堆積がみられた。覆土上層からは 15cm 程の破砕礫が 4 点出土しているが，縄文時代遺構からの流入の可能性が高い。

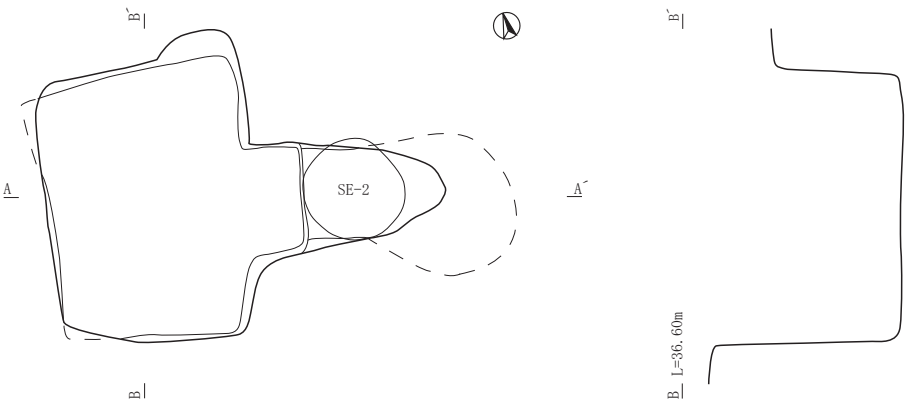
SK-29　（第 20 図，写真図版 10）

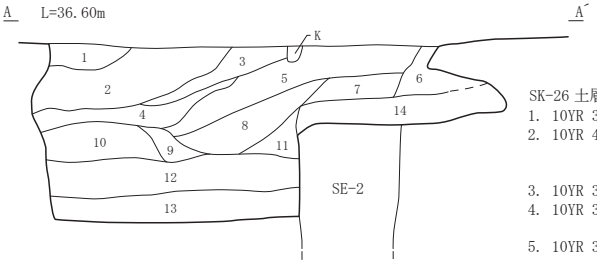
位置・重複関係等　D4 区に位置する。確認面はハードローム層上面である。SD-2 溝跡に上面を削平される。

形態　主軸は長さ 2.52m を測り。方位は N- 90°-W である。

入口部は円形を呈し，規模は長軸 0.98m ×短軸 0.86m, 確認面からの深さは 1.14m を測る。羨道部は無い。玄室部は楕円形を呈し，規模は長軸 2.18m× 短軸 1.66m, 確認面からの深さは 0.70m ～ 0.91m を測る。

SK-26

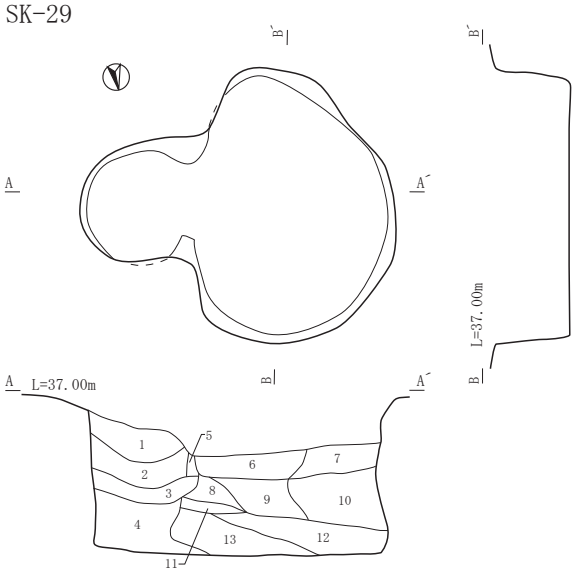




SK-26 土層説明

1. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）中量。締まり弱，粘性強。
2. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～150㎜）・黒褐色土粒（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
3. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）微量。締まり・粘性強。
4. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量。ロームブロック（φ20～100㎜）微量。締まり・粘性強。
5. 10YR 3/1.5　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）中量。鹿沼軽石（φ2～10㎜）・炭化物（φ10㎜前後）微量。締まりやや強，粘性強。
6. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）多量。締まり・粘性強。
7. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）中量。締まり弱，粘性強。
8. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）少量。締まり・粘性強。
9. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）中量，ロームブロック（φ20～100㎜）少量，鹿沼軽石（φ～30㎜）微量。締まり・粘性強。
10. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～150㎜）多量。締まり・粘性強。
11. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量。締まり・粘性強。
12. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～150㎜）中量，鹿沼軽石（φ～250㎜）少量。締まり・粘性強。
13. 10YR 4/5　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～100㎜）多量。締まり・粘性強。
14. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）中量，鹿沼軽石（φ～10㎜）多量。締まり・粘性強。

SK-29



SK-29 土層説明

1. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）多量，鹿沼軽石（φ～20㎜）・白色粒子（φ～2㎜）微量。締まり弱，粘性強。
2. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量，鹿沼軽石（φ～10㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
3. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）多量，鹿沼軽石（φ～10㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～3㎜）微量。締まり・粘性強。
4. 10YR 4/4　褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量，鹿沼軽石（φ～10㎜）・白色粒子（φ～2㎜）・赤褐色スコリア（φ～2㎜）微量。締まり・粘性強。
5. 10YR 5/8　黄褐色土層　ロームブロック主体（φ20㎜前後）。締まりやや強，粘性強。
6. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）中量。締まり・粘性強。
7. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），暗褐色土（φ～2㎜）少量。締まり弱，粘性強。
8. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～40㎜）微量。赤褐色スコリア（φ～2㎜）中量。締まりやや弱，粘性強。
9. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量，白色粒子（φ～2㎜）少量。締まり・粘性強。
10. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～200㎜）少量，黒褐色土粒（φ～2㎜）微量。締まりやや弱，粘性強。
11. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量。締まりやや弱，粘性強。
12. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）・ロームブロック（φ20～50㎜）多量。締まりやや弱，粘性強。
13. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～200㎜）多量，黒褐色土粒（φ～2㎜）少量。締まりやや弱，粘性強。

0　1m
(1/60)

第20図　SK-26・29・SE-2（中世・中世以降地下式坑・井戸跡）

遺物　無し。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

所見等　覆土の堆積状況において，入口部が先に埋没し，時間を置かずに天井部が崩落した状況がみられた。

SK-41　（第 19 図，写真図版 10）

位置・重複関係等　E2 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。調査区際で玄室部の一部分が検出されただけであり詳細は不明だが，SD-2 溝跡に上面を切られる。

形態　主軸不明。方位不明。入口部形状・規模，不明。羨道部不明。玄室部は南北壁が検出され，形状は楕円形を呈する。規模は長軸 1.94m ×短軸 0.42m, 確認面からの深さは 1.90m を測る。

遺物　無し。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

所見等　覆土下層では天井部の崩落と考えられる土層がみられた。覆土と掘り込みの形状から，SK-26 に類似すると考えられる。

第４項　土坑

中世以降は 20 基，現代の炭焼き関連施設が３基（内，覆土を掘削し調査した SK-38 が１基）検出された。

SK-27・30・32・33・34・35・39 は 3×4m の範囲に存在し，切り合い関係を有する。新しい順に，SK-30, SK-39, SK-27, SK-32 となり，また，SK-33, SK-35, SK-34, SK-32 の順になる。上部は削平を被り，遺存状態は良好でないが，SK-32 からは 15 ～ 16 世紀の常滑窯産の捏鉢片と壺片が底面近くより出土している。

SK-28 は形状が地下式坑に類似するが，規模は小さい。しかし，SD-2 溝跡に上部を削平されており，検出面が低い事を考慮すれば，小規模な地下式坑であった可能性がある。その他の土坑は用途不明であり，ほとんどが検出面からの掘り込みが浅い。

SK-1　（第 18・37 図，第６・17 表・写真図版 11・22）

位置･重複関係等　C3･C4 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。上部を大きく削平され，南東角をコンクリートパイルに攪乱される。Pit-29・30 と重複関係があり，本遺構の方が新しい。

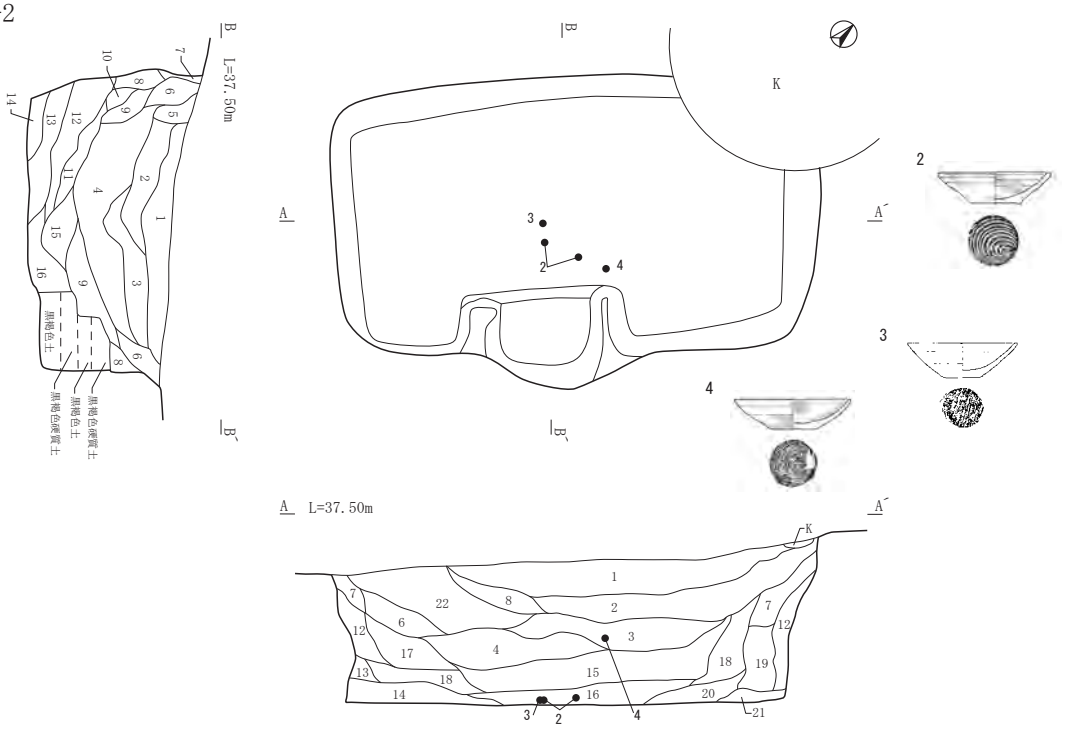
形態　平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 4.58m× 短軸 2.10m, 確認面からの深さは 0.03 ～ 0.06m を測る。主軸方位は N-15°-E である。底面はほぼ平坦であるが，北側の一部を除き周溝状の掘り込みを有する。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　該期の遺物の出土は無く，縄文時代中期土器片が９点出土しており，この内２点を図示した（第 37 図，第６・17 表，写真図版 22）。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

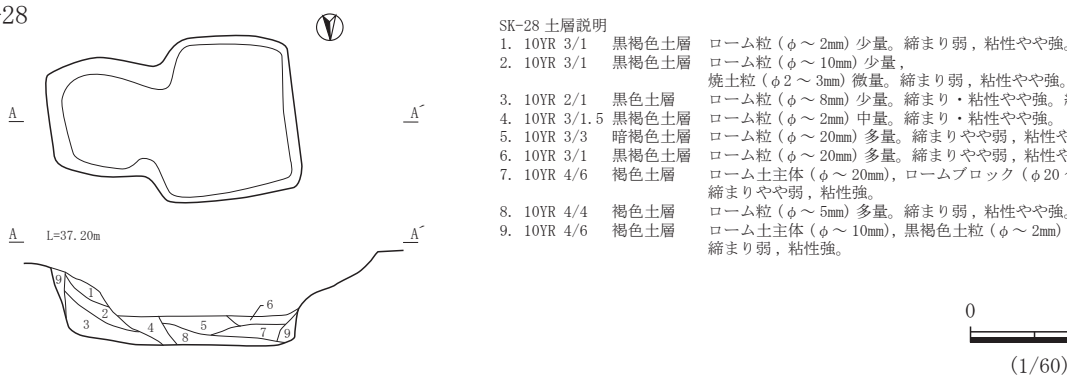
SK-2



SK-2 土層説明

1. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）・白色粒子（φ～3㎜）微量。締まり強，粘性やや弱。
2. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）・白色粒子（φ～3㎜）微量。締まりやや強，粘性やや弱。
3. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）少量。締まり・粘性やや弱。
4. 10YR 2.5/1 黒褐色土層　ローム粒（φ1㎜前後）微量。締まりやや強，粘性やや弱。
5. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～3㎜）少量。締まり・粘性やや強。
6. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量。締まりやや弱，粘性やや強。
7. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（地山の崩落）。締まり弱，粘性強。
8. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量。締まり弱，粘性強。
9. 10YR 3/2.5 黒褐色土層　ローム粒（φ～3㎜）中量。締まりやや弱，粘性強。
10. 10YR 3/2.5 黒褐色土層　ローム土主体（φ～3㎜）。締まり弱，粘性強。
11. 10YR 3/1.5 黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）多量。締まり弱，粘性強。
12. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～100㎜）微量，黒褐色土粒（φ～2㎜）少量。締まり・粘性強。
13. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～5㎜），ロームブロック（φ30㎜前後）微量，黒褐色土粒（φ～2㎜）中量。締まり弱，粘性強。
14. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～5㎜），白色粒子（φ～3㎜）微量。締まり弱，粘性強。
15. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～3㎜）中量。締まり弱，粘性強。
16. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～15㎜）多量。締まりやや強，粘性強。
17. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量，ロームブロック（φ20～40㎜）少量，
黒褐色土粒（φ～10㎜）中量，白色粒子（φ～3㎜）微量。締まりやや弱，粘性強。
18. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜）中量。締まり・粘性強。
19. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜）。ロームブロック（φ20～200㎜）多量，黒褐色土粒（φ～2㎜）中量。締まり・粘性強。
20. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土（φ～10㎜）多量。　締まりやや弱，粘性強。
21. 10YR 5/6　黄褐色土層　ローム土主体（φ～15㎜），鹿沼軽石（φ～5㎜）少量。締まり弱，粘性強。
22. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム土粒（φ～3㎜）多量，白色粒子（φ～3㎜）少量。締まりやや強，粘性弱。

SK-28



SK-28 土層説明

1. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）少量。締まり弱，粘性やや強。細粒。
2. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～10㎜）少量，
焼土粒（φ2～3㎜）微量。締まり弱，粘性やや強。細粒。
3. 10YR 2/1　黒色土層　ローム粒（φ～8㎜）少量。締まり・粘性やや強。細粒。
4. 10YR 3/1.5 黒褐色土層　ローム粒（φ～2㎜）中量。締まり・粘性やや強。
5. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量。締まりやや弱，粘性やや強。
6. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～20㎜）多量。締まりやや弱，粘性やや強。
7. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～20㎜），ロームブロック（φ20～40㎜）微量。
締まりやや弱，粘性強。
8. 10YR 4/4　褐色土層　ローム粒（φ～5㎜）多量。締まり弱，粘性やや強。
9. 10YR 4/6　褐色土層　ローム土主体（φ～10㎜），黒褐色土粒（φ～2㎜）中量。
締まり弱，粘性強。

第 21 図　SK-2・28（中世地下式坑・中世以降土坑）

所見等　遺構全体として確認面からの掘り込みが浅い。周溝状の掘り込みの形状・規模は，東西壁に沿う方がＵ字形を呈し，幅 0.28 ～ 0.56m, 深さ 0.06 ～ 0.20m である。南壁では浅い皿状を呈し，幅 1.24m, 深さ 0.05 ～ 0.08m である。

SK-4　（第 22 図，第 17 表，写真図版 11）

位置・重複関係等　B3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。全体的に根による攪乱を受ける。

形態　平面形は長方形を呈する。規模は長軸 2.50m× 短軸 1.54m, 確認面からの深さは 0.11 ～ 0.14m を測る。主軸方位は N-50°-W である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　該期の遺物の出土は無いが，縄文時代中期土器細片が５点出土している。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-8　（第 22 図，写真図版 11）

位置・重複関係等　E4 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。全体的に削平を受ける。

形態　平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 1.42m× 短軸 0.94m, 確認面からの深さは 0.02 ～ 0.06m を測る。主軸方位は N-25°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-9　（第 22 図，第 11・14・17 表，写真図版 12）

位置・重複関係等　E4 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。全体的に削平を受ける。

形態　平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 2.38m× 短軸 1.18m, 確認面からの深さは 0.03 ～ 0.10m を測る。主軸方位は N-14°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　内耳土鍋細片１点，縄文時代中期土器細片２点，礫細片が１点出土している。

時期　覆土の状況からら中世以降と考えられる。

SK-10　（第 22 図，第 11・17 表・写真図版 12）

位置･重複関係等　E4･F4 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。全体的に削平を受ける。

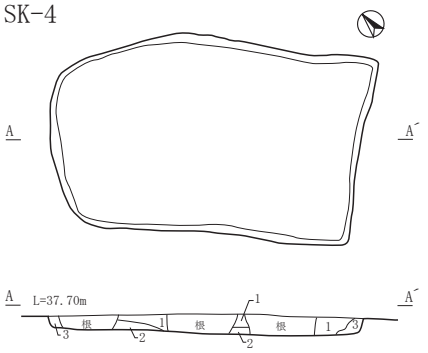
形態　平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 2.60m× 短軸 1.16m, 確認面からの深さは 0.07 ～ 0.13m を測る。主軸方位は N-17°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　縄文時代中期土器細片４点，縄文時代時期不明土器細片 22 点，礫細片が２点が出土している。

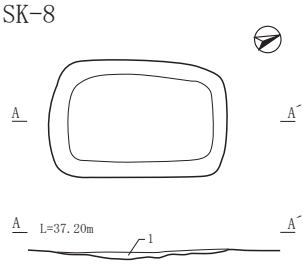
時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-4

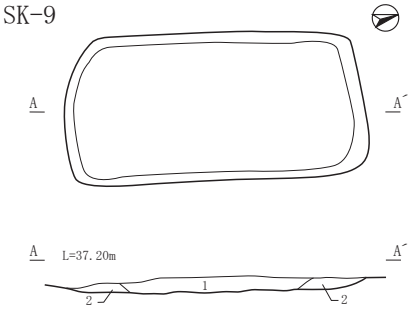


SK-4
1. 10YR 3/3　暗褐色土層
　ローム粒（φ～5mm）中量。
　締まり強，粘性弱。粗粒。
2. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土層
　ローム粒（φ～20mm）多量。
　締まり弱，粘性強。粗粒。
3. 10YR 3/2.5　黒褐色土層
　ローム粒（φ～15mm）多量。
　締まり弱，粘性強。粗粒。

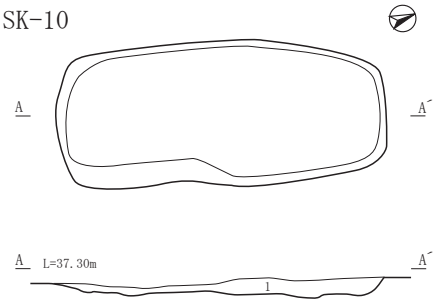
SK-8



SK-9

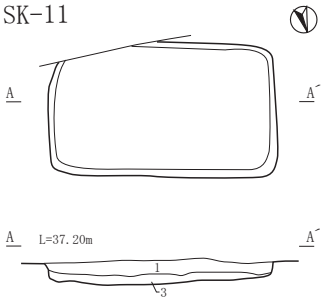


SK-10

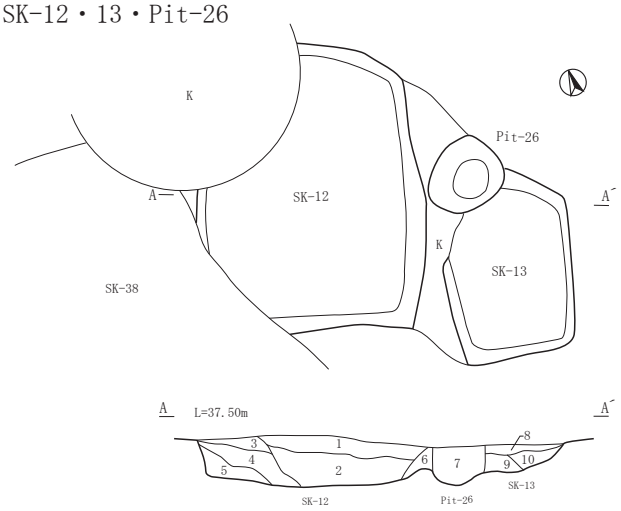


SK-8～11 共通土層説明
1. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～20mm）多量。締まり・粘性弱。粗粒。
2. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～10mm）多量。締まり・粘性弱。
3. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～20mm）多量。締まり強，粘性やや強。

SK-11



SK-12・13・Pit-26



SK-12 土層説明
1. 10YR 4/2　灰黄褐色土層　ローム粒（φ～3mm）多量。
　締まり・粘性弱。細粒。
2. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～20mm）中量。
　締まり・粘性やや強。
3. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～5mm）少量。
　締まり・粘性やや強。
4. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～20mm）多量。
　締まり・粘性やや強。
5. 10YR 3/2.5　黒褐色土層　ローム粒（φ～15mm）多量。
　締まり強，粘性やや強。
6. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒（φ～3mm）多量。
　締まり・粘性やや強。

Pit-26 土層説明
7. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～2mm）多量。
　締まりやや強，粘性強。

SK-13 土層説明
8. 10YR 4/4　褐色土層　ローム粒（φ～5mm）多量。
　締まり弱，粘性強。
9. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒（φ～20mm）多量。
　締まり弱，粘性強。
10. 10YR 4/3　にぶい黄褐色土層　ローム粒（φ～10mm）多量。
　締まり弱，粘性強。

0　1m
(1/60)

第22図　SK-4・8～13・Pit-26（中世以降土坑・ピット）

SK-11　（第 22 図，第 17 表，写真図版 12）

位置･重複関係等　E4･F4 区に位置し，南東角は調査区外に続く。確認面はソフトローム層上面である。

形態　平面形は長方形を呈すると考えられる。規模は長軸 1.82m× 短軸 1.06m, 確認面からの深さは 0.15 ～ 0.19m を測る。主軸方位は N-20°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　時期不明土師器細片３点，縄文時代中期土器細片３点，縄文時代時期不明土器細片６点が出土している。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-12　（第 22・37 図，第６・11・17 表，写真図版 12・22）

位置・重複関係等　F3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。北西側をコンクリートパイルに，南西側は SK-38（現代・炭焼き関連施設）に，東壁は木根によりそれぞれ攪乱される。なお Pit-43 が本遺構の底面に存在するが，新旧関係は不明である。

形態　平面形は長方形と考えられる。規模は長軸 2.28m× 短軸 1.82m 以上，確認面からの深さは 0.27 ～ 0.34m を測る。主軸方位は N-20°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　縄文時代前期土器細片１点，中期土器細片 82 点，縄文時代時期不明土器細片５点が出土しており，この内７点を図示した（第 37 図，第６・17 表，写真図版 22）。礫は７点出土している。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-13　（第 22 図，第 11・14・17 表，写真図版 12）

位置・重複関係等　F3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。北西側を Pit-26 に，西壁は木根によりそれぞれ攪乱される。なお Pit-44 が本遺構の底面に存在するが，新旧関係は不明である。

形態　平面形は長方形を呈すると考えられる。規模は長軸 1.56m 以上 × 短軸 1.02m 以上，確認面からの深さは 0.20 ～ 0.29m を測る。主軸方位は N-11°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　内耳土鍋細片が１点，縄文時代中期土器細片６点とチャート破片３点・径 3cm 程の個体１点が出土している。

時期　出土遺物と覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-24　（第 23 図，写真図版 12）

位置・重複関係等　E3・F3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。

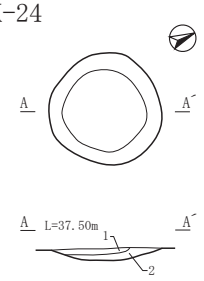
形態　平面形は円形を呈する。規模は径 0.90m, 確認面からの深さは 0.11m を測る。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

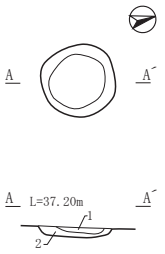
遺物　無し。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-24

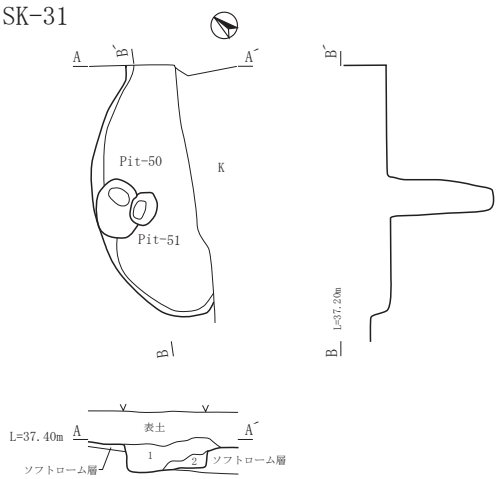


SK-25



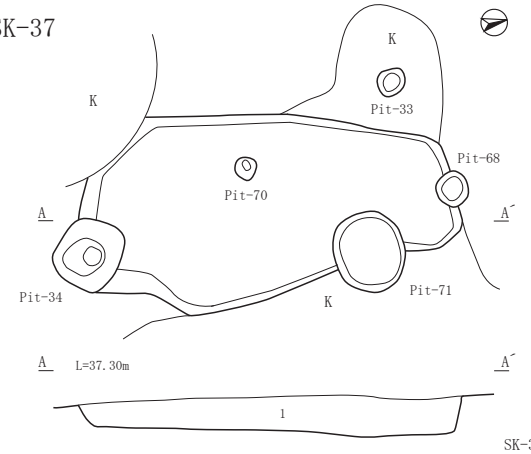
SK-24・25 共通土層説明
1. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～ 3mm）多量。
　　締まり弱，粘性弱。
2. 10YR 4/4　褐色土層　　ローム粒（φ～ 5mm）多量。
　　締まり弱，粘性強。

SK-31



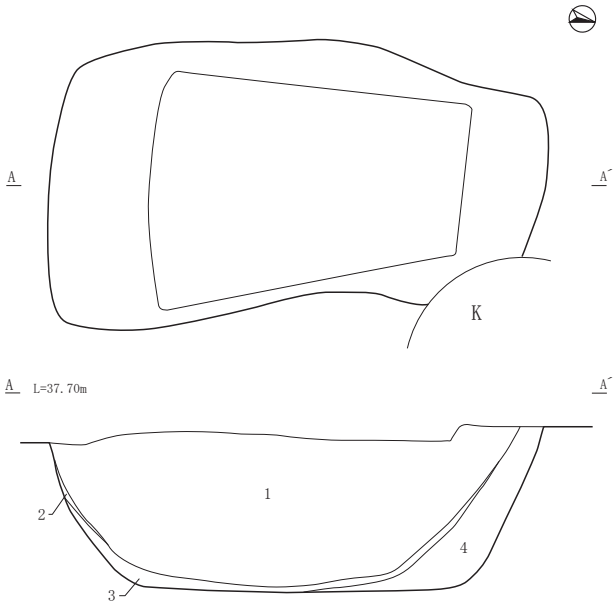
SK-31 土層説明
1. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～ 3mm）中量。
　　締まりやや弱，粘性強。
2. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～ 3mm）少量，
　　焼土粒（φ～ 3mm）微量。
　　締まりやや強，粘性やや強。

SK-37



SK-37 土層説明
1. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～ 20mm）多量，ロームブロック（φ20 ～ 50mm）・
　　焼土粒（φ～ 8mm）・炭化物（φ～ 5mm）微量。締まり・粘性弱。

SK-38



SK-38 土層説明

1. 10YR 4/6	褐色土層	黒褐色土・暗褐色土・ローム粒・ロームブロック・鹿沼軽石ブロックの混合土。炭微量。締まり・粘性弱。
2. 2.5YR 4/6	赤褐色土層	（焼土）。ローム土が被熱。締まりやや強，粘性弱。
3. 10YR 1.7/1	黒色（炭）層	炭（φ30 mm前後），灰が炭の上に約 10 mmの層を成す。締まり・粘性弱。
4. 10YR 3/3	暗褐色土層	1 層と類似するが，ロームブロックの割合が多い。締まり・粘性やや強。

0　1m
(1/60)

第 23 図　SK-24・25・31・37・38（中世以降土坑・現代炭焼き関連施設）

SK-25　（第 23 図，写真図版 12）

位置・重複関係等　D3・E3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。

形態　平面形は円形を呈する。規模は径0.58m，確認面からの深さは0.09mを測る。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-27　（第 24 図，第 11・17 表，写真図版 13）

位置・重複関係等　G4・G5・H4・H5 区に位置し，南側は調査区外に続く。確認面はハードローム層上面である。SK-30・39 に切られる。SK-32・Pit-66 とも重複関係があり，本遺構より SK-32 は新しく，Pit-66 とは新旧関係が不明である。

形態　平面形は長方形を呈すると考えられる。規模は長軸 2.30×0.96m 以上，確認面からの深さは 0.12m を測る。主軸方位は北東壁を基準にすると N-60°-W である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　時期不明の土師器甕ないし壺片１点，縄文時代中期土器細片１点，縄文時代時期不明土器細片 11 点，礫５点が出土している。

時期　覆土と出土遺物から中世以降と考られる。

SK-28　（第 21・42・45 図，第 11・14・15・17 表，写真図版 13・27）

位置・重複関係等　D4 区に位置する。確認面はソフトローム層～ハードローム層上面である。SD-2 溝跡に上部を削平される。

形態　平面形は東側が不整円形，西側が不整方形を呈する。規模は長軸2.04m× 短軸1.00m(東側)・1.38m(西側)，確認面からの深さは0.44 ～ 0.66mを測る。主軸方位はN-84°-Wである。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　内耳土鍋片１点（第 42・45 図，第 14・15・17 表，写真図版 27），在地産の瓦質土器の火舎と考えられる細片１点，縄文時代中期土器細片９点，礫３点が出土している。

時期　覆土と出土遺物から中世以降と考えられる。

所見等　SK-29 地下式坑の 1m 北側に位置し，形状が地下式坑に類似する。

SK-30　（第 24 図，写真図版 13）

位置・重複関係等　G5 区に位置し，一部が調査区南際で検出された。確認面はハードローム層上面である。SK-39 に切られ，SK-27 を切る。

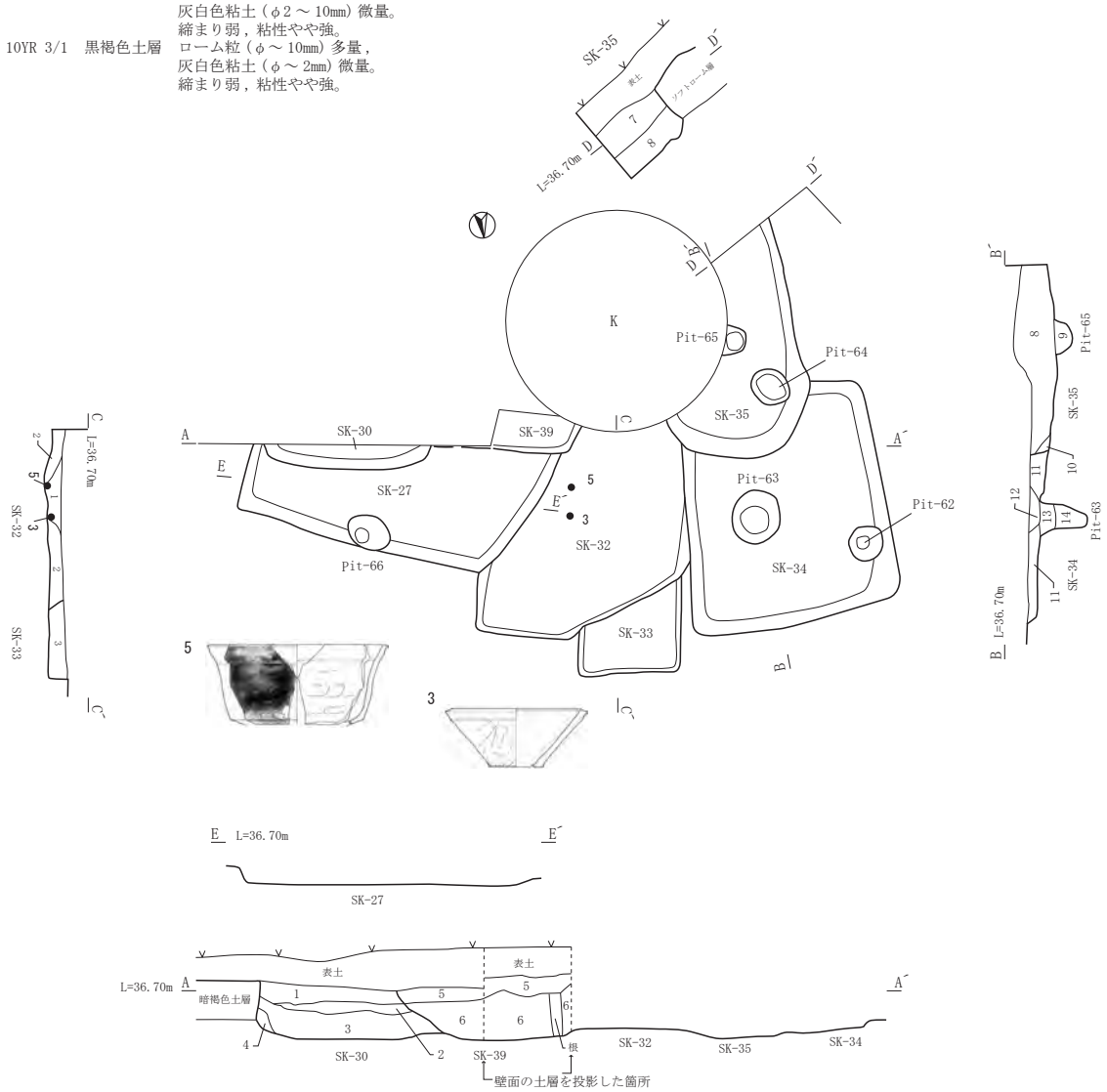
形態　平面形は楕円形を呈すると考えられる。規模は長軸 1.26m 以上 × 短軸 0.20m 以上，確認面からの深さは0.04m，調査区壁土層観察面においては0.50mを測る。主軸方位は不明。底面はほぼ平坦である。

覆土　ローム土ブロックが多く混入する。人為的埋め戻しによるものであろうか。

遺物　無し。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-32・33 共通土層説明
1. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～ 10mm）中量。締まり弱，粘性強。細粒。
2. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～ 5mm）多量，
灰白色粘土（φ2 ～ 10mm）微量。
締まり弱，粘性やや強。
3. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～ 10mm）多量，
灰白色粘土（φ～ 2mm）微量。
締まり弱，粘性やや強。



SK-30 土層説明
1. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～ 10mm）多量。締まり・粘性弱。
2. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～ 15mm）多量。締まり・粘性弱。
3. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～ 20mm）多量，ロームブロック（φ20 ～ 30mm）少量。締まり・粘性弱。
4. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～ 5mm）。締まり弱，粘性強。

SK-39 土層説明
5. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～ 10mm）多量。締まり・粘性弱。SK-30 の 1 層よりロームブロックを多く含む。
6. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～ 20mm）中量，ロームブロック（φ20 ～ 40mm）微量，
灰白色粘土ブロック（φ20 ～ 30mm）少量，焼土粒・ブロック（φ～ 30mm）微量。締まり弱，粘性強。

SK-35・Pit-65 土層説明
7. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～ 20mm）多量。締まり弱，粘性やや強。
8. 10YR 3/2　黒褐色土層　ローム粒（φ～ 20mm）多量。締まり弱，粘性やや強。
9. 10YR 3/2　黒褐色土層　8 層よりやや色調が濃い。
10. 10YR 3/4　暗褐色土層　ローム粒（φ～ 8mm）多量。締まり弱，粘性強。

SK-34・Pit-63 土層説明
11. 10YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～ 20mm），ロームブロック（φ20 ～ 30mm）微量，
黒褐色土粒（φ～ 2mm）少量，灰白色粘土ブロック（φ20mm 前後）微量。締まり弱，粘性強。
12. 10YR 3/1　黒褐色土層　ローム粒（φ～ 10mm）中量。締まり弱，粘性強。細粒。
13. 10YR 3/3　暗褐色土層　ローム粒（φ～ 20mm）多量。締まり・粘性強。
14. 10YR 3/3.5　暗褐色土層　ローム粒（φ～ 20mm）多量。締まり・粘性強。

0　1m
(1/60)

第 24 図　SK-27・30・32 ～ 35・39・Pit-63・65（中世以降土坑・ピット）

SK-31　（第 23 図，写真図版 13）

位置・重複関係等　F3・G3 区に位置し，北側は調査区外に続く。確認面はソフトローム層上面である。東側を大きく削平される。Pit-50・51 に切られ，SK-36 を切る。なお，Pit-49・52 ～ 54 と重複関係にあるが新旧は不明である。

形態　平面形は円形もしくは楕円形を呈すると考えられる。規模は長軸 2.02m 以上 × 短軸 0.75m 以上，確認面からの深さは 0.17m を測る。主軸方位は不明である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-32　（第 24・42・45 図，第 11・14・15・17 表，写真図版 13・27）

位置・重複関係等　G4 区に位置し，南側をコンクリートパイルに攪乱される。確認面はハードローム層上面である。調査区際で検出されたため詳細は不明であるが，SK-27・34・39 に切られる。

形態　平面形は不整長方形を呈すると考えられる。規模は長軸 1.76m 以上 × 短軸 1.70m 以上，確認面からの深さは 0.13m を測る。主軸方位は N-30°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　15 世紀後半～ 16 世紀の常滑窯産の捏鉢片３点と壺・甕類片１点と壺片１点が底面近くより出土した。内耳土鍋片は２点出土しており，１点（SK-32. 5）を図示した（第 42・45 図，第 14・15・17 表，写真図版 27）。ほかに縄文時代中期土器細片４点，古墳時代土師器高坏細片１点，被熱した礫３点と礫５点が出土している。

時期　覆土と出土遺物から 15 世紀後半～ 16 世紀と考えられる。

所見等　SK-33 を切っており，土層断面図において新旧関係が逆になってみえるが，これは締まりが無い覆土のため，土の移動があった結果であると考えられる。

SK-33　（第 24・38・46 図，第８～ 11・15・17 表，写真図版 13・23・28）

位置・重複関係等　G4 区に位置する。確認面はハードローム層上面。SK-32 に切られる。

形態　平面形は長方形を呈するのであろうか。規模は長軸 0.84m 以上 × 短軸 0.74m 以上，確認面からの深さは 0.11 ～ 0.17m を測る。主軸方位は N-12°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　15 世紀後半～ 16 世紀の常滑窯産壺片２点と甕片と考えられる１点が底面近くより出土している（第 46 図，第 15・17 表，写真図版 28）。縄文時代前期土器細片１点，中期土器細片は１点，磨石と敲石の用途を併せ持つ石器１点（第 38 図，第８～ 11・17 表，写真図版 23），被熱した礫１点と礫１点が出土している。

時期　出土遺物と覆土の状況から 15 世紀後半～ 16 世紀と考えられる。

SK-34　（第 24 図，第 11・14・17 表，写真図版 13）

位置・重複関係等　G4 区に位置する。確認面はハードローム層上面である。SK-35 に切られ，SK-32・

Pit-63 を切る。なお,Pit-62 と重複関係にあるが，新旧は不明である。

形態　平面形は長方形を呈する。規模は長軸 1.88m 以上 × 短軸 1.70m 以上，確認面からの深さは 0.11 ～ 0.17m を測る。主軸方位は N-6°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　内耳土鍋細片３点，縄文時代中期土器細片 10 点，時期不明土師器細片３点，礫２点が出土している（第 11・14・17 表)。

時期　覆土と SK-32 との切り合い状況から 15 ～ 16 世紀以降と考えられる。

SK-35　（第 24 図，写真図版 13）

位置・重複関係等　G4・G5 区に位置し，南側は調査区外へ続く。確認面はハードローム層上面である。南東側をコンクリートパイルに攪乱される。Pit-65 を切る。なお,Pit-64 と重複関係にあるが，新旧は不明である。

形態　平面形は楕円形を呈すると考えられる。規模は長軸 1.96m 以上 × 短軸 1.16m 以上，確認面からの深さは 0.05 ～ 0.12m を測る。主軸方位は N-6°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　覆土と SK-34 との切り合い状況から 15 ～ 16 世紀以降と考えられる。

SK-37　（第 23 図，第 11・17 表，写真図版 13）

位置・重複関係等　F4 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。南西側をコンクリートパイルに攪乱され，東壁の大部分が削平され消滅している。Pit-34・68・70・71 に切られる。

形態　平面形は長方形を呈すると考えられる。規模は長軸 3.00m× 短軸 1.62m 以上，確認面からの深さは 0.22 ～ 0.36m を測る。主軸方位は N-20°-E である。底面はほぼ平坦である。

覆土　自然堆積と考えられる。

遺物　内耳土鍋細片２点，奈良・平安時代の須恵器埦ないし壺類と考えられる細片１点，土師器皿の細片１点，時期不明の土師器細片６点，縄文時代中期土器細片 40 点，礫９点が出土している。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

SK-38　（第 23・38 図，第６・９～ 11・17 表，写真図版 13・14・23）

位置・重複関係等　F3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。北東側をコンクリートパイルに攪乱される。SK-12 を切る。

形態　平面形はほぼ台形を呈する。規模は長軸 3.94m× 短軸 2.16m 以上，確認面からの深さは 1.14 ～ 1.33m を測る。主軸方位は N-12°-W である。底面は坑掘削時のバックホーの爪痕が残り凹凸がある。

覆土　底面近くまでは，黒褐色土・ローム土（ブロックを含む)・鹿沼軽石（ブロックを含む)・小枝程度の炭が混入する褐色土が堆積し，その下層は被熱したローム土・炭・灰が２～ 10cm の層を成し，更に北側では下層にローム土ブロックの割合が多い暗褐色土が堆積する。人為的な埋め戻しと考えられる。

遺物　時代不明の瓦片１点，縄文時代中期土器細片が 15 点出土しており，この内２点を図示した(第

38 図，第６・17 表，写真図版 23)。縄文時代の石器では磨石１点が出土している（第９～ 11・17 表)。

時期　現代。

所見等　坑底面にバックホーの爪痕が残り，炭化しかけた生木が出土したことから考えて，現代の炭焼き関連施設であると言える。坑側面及び底面には明確な被熱の痕跡は無かった。

SK-39　（第 24 図，写真図版 13）

位置・重複関係等　G5 区に位置する。北西角が部分的に検出され，調査区外へ続く。確認面はハードローム層上面である。SK-27・32 を切る。

形態　平面形は方形を呈すると考えられる。規模は長軸 1.08m 以上 × 短軸 0.34m 以上，確認面からの深さは 0.05m を測る。主軸方位は不明である。底面はほぼ平坦である。

覆土　ローム土・灰白色粘土・焼土の各ブロックの混入状況から，人為的堆積と考えられる。

遺物　無し。

時期　覆土と SK-27・32 との切り合い状況から 15 ～ 16 世紀以降と考えられる。

第５項　井戸跡

素掘りの井戸が３基検出された。調査当初は土坑（SK-7・18・40）として扱っていたが，掘り込みの形状と湧水があることから井戸と判断した。SE-1（旧遺構番号 SK-7）は調査終了時にバックホーを使用し底面まで断ち割りを行ったが，底面の灰白色粘土層下から多量の湧水があり詳細な記録には至らなかった。SE-2（旧遺構番号 SK-40）は SK-26 地下式坑に切られていた。調査中に湧水があったため SK-26 底面からやや掘り下げたところで調査を止めざるを得なかった。SE-3（旧遺構番号 SK-18）は SE-1 に形状が類似し，掘削深度 2m が達した所で湧水もあることから調査を止めた。これら３基は形状が類似し，いずれからも井戸枠は確認されず，壁面は整形され足掛け穴等も検出されなかった。遺物は SE-1・3 から 15 ～ 16 世紀の内耳土鍋破片が出土している。

SE-1　（第 25・38・42・46 図，第６・８～ 11・14・15・17 表，写真図版 10・23・28）

位置・重複関係等　E3・F3 区に位置する。確認面はソフトローム層上面である。

形態　平面形は円形を呈する。規模は上面 1.10m, 底面 0.78m。確認面からの深さは 3.82m を測る。断面形は漏斗状を呈する。

覆土　確認面から 1.6m 掘り下げた位置までと底面から 2 層目まで記録し，それ以外は断ち割り調査時に覆土が脆く崩落している。上層の堆積状況は自然埋没と考えられ，ローム粒を多く含む。下層は黒褐色土及び褐色土で脆い。

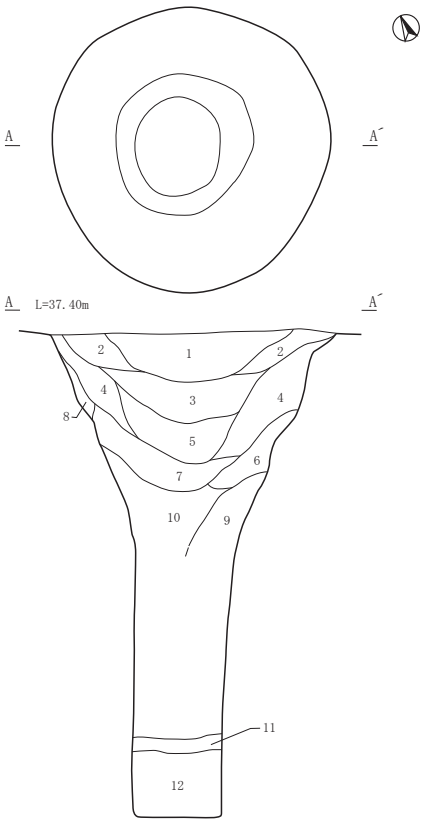
遺物　15 世紀後半～ 16 世紀の内耳土鍋破片８点，在地産カワラケの細片１点（第 42・46 図，第 14・15・17 表，写真図版 28）が出土している。ほかに時期不明の土師器甕ないし壺細片６点，縄文時代中期土器細片 40 点，縄文時代時期不明土器細片 18 点，石器は凹石が１点（第 38 図，第６・８～ 11・17 表，写真図版 23），礫は８点出土している。

時期　15 世紀後半～ 16 世紀と考えられる。

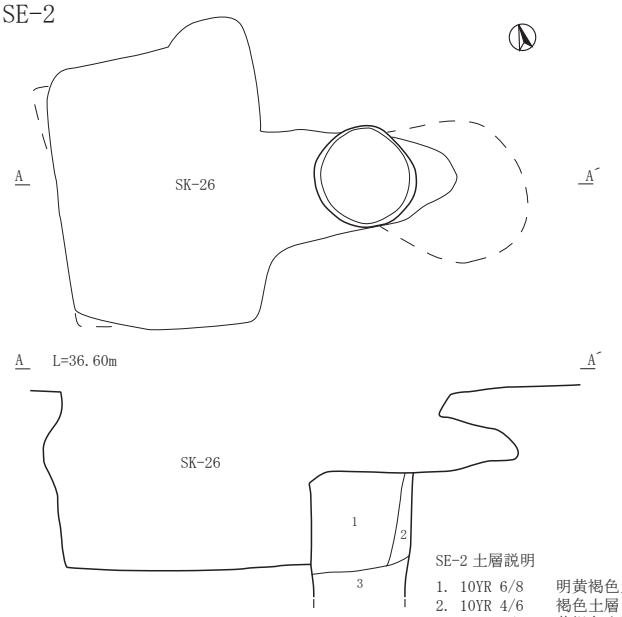
SE-1

SE-1 土層説明

1.	10YR 4/2	灰黄褐色土層	ローム粒（φ～3㎜）多量・斑紋状に含む。 締まり強，粘性弱。
2.	10YR 3/2	黒褐色土層	ローム粒（φ～2㎜）中量・斑紋状に含む。 締まり強，粘性弱。
3.	10YR 3/3	暗褐色土層	ローム粒（φ～2㎜）多量。 締まりやや強，粘性やや弱。
4.	10YR 3/4	暗褐色土層	ローム粒（φ～10㎜）多量。 締まりやや強，粘性やや弱。
5.	10YR 3/1.5	黒褐色土層	ローム粒（φ～5㎜）少量。締まり強，粘性強。
6.	10YR 4/4	褐色土層	ローム土主体（φ～30㎜）のローム粒，ロームブロック多量。 締まり弱，粘性強。
7.	10YR 4/3	にぶい黄褐色土層	ローム土主体（φ～20㎜）のローム粒を多量。 締まり弱，粘性強。
8.	10YR 5/6	黄褐色土層	ローム土主体，黒褐色土粒（φ～2㎜）中量。 締まり弱，粘性強。
9.	10YR 4/5	褐色土層	ローム土主体（φ～30㎜）のローム粒多量， 黒褐色土粒（φ～2㎜）少量。締まり弱，粘性強。
10.	10YR 4/3.5	にぶい黄褐色土層	ローム土主体（φ～15㎜）のローム粒多量。 締まり弱，粘性強。
11.	10YR 3/1	黒褐色土層	締まり弱。
12.	10YR 4/4	褐色土層	締まり弱。



SE-2



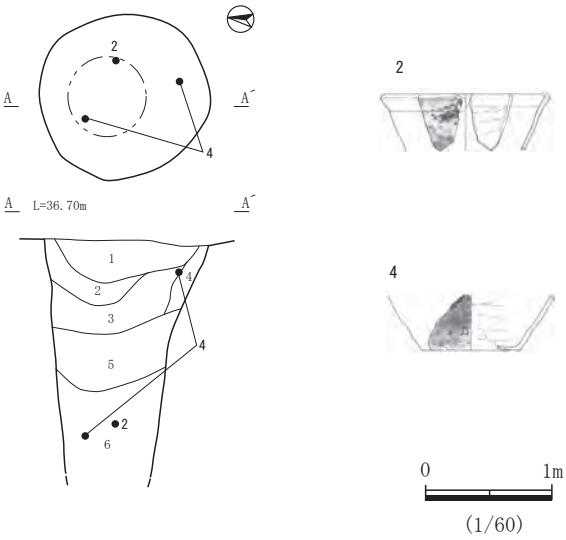
SE-2 土層説明

1.	10YR 6/8	明黄褐色土層	鹿沼軽石主体（φ～20㎜）。締まり弱，粘性強。
2.	10YR 4/6	褐色土層	ローム粒（φ～20㎜）多量，鹿沼軽石（φ～2㎜）少量。締まり弱，粘性強。
3.	10YR 5/6	黄褐色土層	ローム土主体（φ～35㎜），鹿沼軽石（φ～2㎜）少量。締まり弱。

SE-3

SE-3 土層説明

1.	10YR 3/2	黒褐色土層	ローム粒（φ～2㎜）少量， 赤褐色スコリア（φ～2㎜）微量。細粒。 締まり・粘性弱。
2.	10YR 3/4	暗褐色土層	ローム粒（φ～2㎜）多量。 斑紋状に含む。締まり弱，粘性やや強。
3.	10YR 3/4	暗褐色土層	ローム粒（φ～20㎜）多量。 締まり・粘性やや強。
4.	10YR 3.5/4	暗褐色土層	ローム粒（φ～15㎜）多量。 締まり弱，粘性強。
5.	10YR 3/4	暗褐色土層	ローム粒（φ～20㎜）中量。 締まり弱，粘性強。
6.	10YR 3/2	黒褐色土層	ローム粒（φ～20㎜）中量。 締まり弱，粘性強。



第 25 図　SE-1 ～ 3（中世井戸跡）

SE-2　（第 25 図，写真図版 11）

位置・重複関係等　G4 区に位置する。確認面は SK-26 地下式坑底面のハードローム層である。SK-26 に切られる。

形態　平面形は SK-26 地下式坑底面では円形と確認できた。規模は SK-26 底面での径 0.8m。形状は円筒形と考えられる。

覆土　ローム土及び鹿沼軽石が主体で脆い。

遺物　無し。

時期　SK-26 との重複関係から 15 世紀後半～ 16 世紀以降と考えられる。

SE-3　（第 25・42・46 図，第 11・14・15・17 表，写真図版 11・28）

位置・重複関係等　H4 区に位置する。確認面はハードローム層である。上部を大きく削平される。

形態　平面形はほぼ円形を呈する。規模は上面 1.32m, 底面は不明である。確認面からの深さは 1.90m 以上を測る。断面形は漏斗状を呈すると考えられる。

覆土　調査した範囲内では SE-1 に類似する。

遺物　15 世紀後半～ 16 世紀の内耳土鍋片が 30 点（第 42・46 図，第 14・15・17 表，写真図版 28），時代不明土師器甕ないし壺細片２点・器種不明１点，縄文時代中期土器細片６点，縄文時代後期堀之内式土器細片１点，礫が４点出土している。

時期　15 世紀後半～ 16 世紀世紀と考えられる。

第６項　ピット

79 基のピットを検出した。この内，掘り方が柱穴状を呈し，明確な建物跡にはならないがまとまりをもって存在するピットを Pit 群 -1・2 として扱った。

Pit 群 -1　（第 26・38 図，第３・６・17 表，写真図版 14・23）

位置・重複関係等　F4・G4 区に位置する。確認面はソフトローム層上面～ハードローム層である。多くが攪乱と削平を受ける。

形態　平面形は円形及び楕円形を呈する。規模は長軸 0.18 ～ 0.52m, 短軸 0.16 ～ 0.41m。確認面からの深さは 0.02 ～ 0.53m を測る。断面形は U 字形を呈する。

覆土　黒褐色土を主体に暗褐色土とローム土が混入する。

Pit-1・2・11 以外については以下の土層であり，第３表「覆土」の項目での A は下記の内容である。

A：10YR3/3 暗褐色土層　ローム粒（φ ～ 10mm）を多量含む。

遺物　Pit-1 から時代不明土師器甕細片１点，縄文時代中期土器細片６点（第 38 図，第６・17 表，写真図版 23)。Pit-2 から古墳時代土師器甕細片１点が出土している。

時期　覆土の状況から中世以降と考える。

所見等　まとまりを持って存在する 15 基のピットを Pit 群 -1 とした。本遺構の南側にも数基のピットが存在し，単独扱いの Pit-33・69・71 も含め建物跡としての復元に努めたが，東側を大きく削平されていることもあり，明確に建物跡であるとはいえない状況であった。

Pit 群 -2　（第 26・38 図，第４・６・17 表，写真図版 14・23）

位置・重複関係等　H4 区に位置する。確認面はハードローム層である。全体が大きく削平を受ける。

形態　平面形は円形及び楕円形を呈する。規模は長軸 0.20 ～ 0.37m, 短軸 0.19 ～ 0.34m。確面からの深さは 0.27 ～ 0.57m を測る。断面形はＵ字形を呈する。

覆土　黒褐色土を主体に暗褐色土とローム土が混入している。Pit-2 ～ 12 については以下の土層であり，第４表「覆土」の項目での A は下記の内容である。

A：10YR3/2 黒褐色土層　ローム粒（φ ～ 15mm）を多量含む。

遺物　Pit-3 から古墳時代土師器甕の細片１点，Pit-4 から阿玉台Ⅳ式土器口縁部片が１点出土している（第 38 図，第６・17 表，写真図版 23）。

時期　覆土の状況から中世以降と考えられる。

所見等　まとまりを持って存在する 12 基のピットを Pit 群 -2 とした。ピットの並びに規則性は無い。

第３表　中世以降 Pit 群 -1　ピット一覧表　［規模欄 / 長径×短径×深さ（単位 cm），下段は底面標高（単位 m）］

番号	位置（グリッド）	確認面	時期	平面形	規模 底面標高	覆土	新旧関係	出土遺物	図版番号
1	F4	ソフトローム層	－	楕円形	45×40×45 [36.84]	(第26図)	Pit群-1.Pit-11より新	第６・17表	第26図
2	F4	ソフトローム層	－	楕円形	52×43×59 [36.57]	(第26図)	単独	第17表	第26図
3	G4	ハードローム層	－	楕円形	21×18×25 [36.20]	A	SK-23より新	－	第26図
4	F4	ハードローム層	－	楕円形	37×31×79 [35.69]	A	単独	－	第26図
5	F4	ソフトローム層	－	円形	31×－×38 [36.65]	A	単独	－	第26図
6	F4	ソフトローム層	－	円形	25×－×33 [36.84]	A	単独	－	第26図
7	F4	ソフトローム層	－	楕円形	38×24以上×53 [36.65]	A	Pit群-1.Pit-10より旧	－	第26図
8	F4	ソフトローム層	－	楕円形	37×32×46 [36.86]	A	単独	－	第26図
9	F4	ソフトローム層	－	楕円形	30×25×44 [36.66]	A	単独	－	第26図
10	F4	ソフトローム層	－	円形	33×－×44 [36.72]	A	Pit群-1.Pit-7より新	－	第26図
11	F4	ソフトローム層	－	円形ヵ	38×27以上×36 [36.93]	(第26図)	Pit群-1.Pit-1より旧	－	第26図
12	F4	ソフトローム層	－	楕円形	31×29×42 [36.80]	A	単独	－	第26図
13	F4	ソフトローム層	－	円形	20×－×36 [36.81]	A	単独	－	第26図
14	F4	ソフトローム層	－	円形	27×－×31 [36.92]	A	単独	－	第26図
15	F4	ソフトローム層	－	円形	15×－×17 [36.57]	A	単独	－	第26図

第４表　中世以降 Pit 群 -2　ピット一覧表　［規模欄 / 長径×短径×深さ（単位 cm），下段は底面標高（単位 m）］

番号	位置（グリッド）	確認面	時期	平面形	規模 底面標高	覆土	新旧関係	出土遺物	図版番号
1	H4	ハードローム層	－	楕円形	27×24×57 [35.91]	(第26図)	単独	－	第26図
2	H4	ハードローム層	－	円形	20×－×27 [36.29]	A	単独	－	第26図
3	H4	ハードローム層	－	楕円形	26×23×28 [36.27]	A	単独	第17表	第26図
4	H4	ハードローム層	－	楕円形	37×30×51 [36.00]	A	単独	第６・17表	第26図
5	H4	ハードローム層	－	円形	36×－×40 [36.11]	A	単独	－	第26図
6	H4	ハードローム層	－	円形	20×－×21 [36.28]	A	単独	－	第26図
7	H4	ハードローム層	－	楕円形	22×19×17 [36.32]	A	単独	－	第26図
8	H4	ハードローム層	－	楕円形	30×26×21 [36.28]	A	単独	－	第26図
9	H4	ハードローム層	－	楕円形	30×24×20 [36.28]	A	SK-17より新	－	第26図
10	H4	ハードローム層	－	円形	27×－×13 [36.32]	A	単独	－	第26図
11	H4	ハードローム層	－	楕円形	26×20×27 [36.19]	A	単独	－	第26図
12	H4	ハードローム層	－	楕円形	27×25×23 [36.30]	A	単独	－	第26図

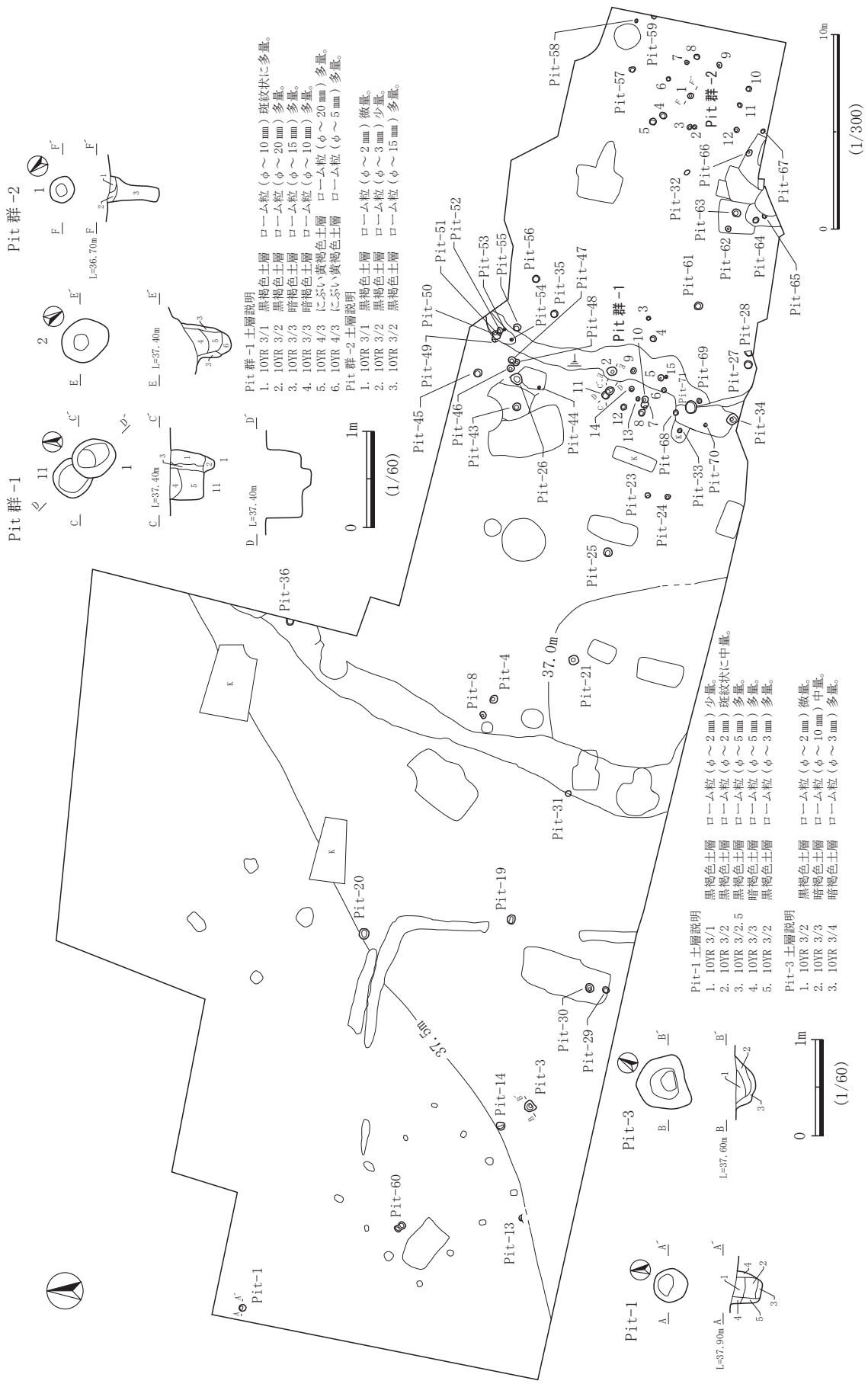
Pit-1・3・4・8・13・14・19～21・23～36・43～71　（第 19・22・24・26 図，第５・11・17 表）

52 基のピットを単独ピットとして扱った。調査区を東西２分割にして分布状況をみてみると，東側に 38 基が存在し，西側には 14 基が存在していた。

第５表　中世以降 Pit 一覧表

［規模欄 / 長径×短径×深さ（単位 cm），下段は底面標高（単位 m）］

番号	位置(グリッド)	確認面	時期	平面形	規模 底面標高	覆土	新旧関係	出土遺物	図版番号
1	A2・B2	ソフトローム層	－	円形	45×-×42 [37.39]	(第26図)	単独	第17表	第26図
3	C3	ソフトローム層	－	楕円形	61×59×24 [37.47]	(第26図)	単独	－	第26図
4	E3	ソフトローム層	－	楕円形	45×39×9 [37.03]	A類	単独	第17表	第26図
8	E3	ソフトローム層	－	楕円形	34×27×22 [36.86]	B類	単独	第17表	第26図
13	B3	ソフトローム層	－	楕円形	28×15以上×16 [37.39]	B類	単独	－	第26図
14	B3	ソフトローム層	－	楕円形	44×42×22 [37.28]	A類	単独	－	第26図
19	C3・D3	ソフトローム層	－	楕円形	46×40×11 [37.49]	B類	単独	－	第26図
20	C2	ソフトローム層	－	楕円形	43×40×15 [37.38]	A類	単独	－	第26図
21	E4	ソフトローム層	－	隅丸方形	47×－×41 [36.77]	A類	単独	第17表	第26図
23	F4	ソフトローム層	－	楕円形	28×25×29 [36.88]	B類	単独	－	第26図
24	F4	ソフトローム層	－	楕円形	37×33×21 [36.89]	B類	単独	－	第26図
25	E4	ソフトローム層	－	楕円形	46×－×16 [37.00]	B類	単独	－	第26図
26	F3	ソフトローム層	－	楕円形	61×53×27 [36.99]	(第22図)	SK-13より新	－	第22・26図
27	F4	ハードローム層	－	円形	40×－×44 [35.98]	B類	単独	－	第26図
28	F4	ハードローム層	－	不明	35以上×－×46 [36.00]	B類	単独	－	第26図
29	C4	ソフトローム層	－	円形	35×－×36 [37.03]	A類	SK-1より旧	－	第26図
30	C4	ソフトローム層	－	楕円形	47×41×24 [37.07]	A類	SK-1より旧	第11・17表	第26図
31	D4	ソフトローム層	－	楕円形	30×－×28 [36.87]	A類	SD-2と不明	－	第26図
32	G4	ハードローム層	－	楕円形	30×19×6 [37.52]	A類	SK-16より新	－	第26図
33	F4	ソフトローム層	－	楕円形	25×20×11 [36.74]	B類	単独	第11・17表	第26図
34	F4	ソフトローム層	－	隅丸方形	55×50×64 [37.52]	B類	SK-37より新	第17表	第26図
35	G3	ハードローム層	－	円形	37×－×85 [35.64]	B類	単独	第17表	第26図
36	E2	ソフトローム層	－	楕円形ヵ	31以上×38×62 [36.54]	(第19図)	SD-2より旧	－	第19・26図
43	F3	ソフトローム層	－	円形	40×－×67 [36.29]	B類	SK-12と不明	－	第26図
44	F3	ソフトローム層	－	楕円形	15×13×13 [36.92]	B類	SK-13と不明	－	第26図
45	f3	ソフトローム層	－	円形	41×－×71 [36.59]	B類	単独	－	第26図
46	F3	ソフトローム層	－	円形	35×－×52 [36.76]	B類	単独	－	第26図
47	F3	ソフトローム層	－	楕円形	37×32×32 [36.96]	B類	Pit-48と不明	－	第26図
48	F3	ソフトローム層	－	楕円形	43×23以上×31 [36.94]	B類	Pit-47と不明	－	第26図
49	F3	ソフトローム層	－	楕円形	34×20以上×38 [36.90]	B類	Pit-50・SK-31と不明	－	第26図
50	F3・G3	ソフトローム層	－	楕円形	48×30以上×23 [36.88]	B類	Pit-49・51・52と不明, SK-31より新	－	第26図
51	G3	ソフトローム層	－	楕円形	23×18×26 [37.44]	B類	Pit-52・SK-31より新	－	第26図
52	G3	ソフトローム層	－	楕円形	30×27×85 [36.28]	B類	Pit-51より旧,SK-31と不明	－	第26図
53	G3	ソフトローム層	－	円形	12×－×11 [37.03]	B類	SK-31と不明	－	第26図
54	F3	ソフトローム層	－	楕円形	15×－×14 [36.97]	B類	SK-31と不明	－	第26図
55	G3	ハードローム層	－	楕円形	40×36×87 [35.64]	B類	SK-36より新	－	第26図



第 26 図　Pit 群 -1・2（中世以降ピット群）・Pit-1・3・4・8・13・14・19～21・23～36・43～71（中世以降ピット）

番号	位置（グリッド）	確認面	時期	平面形	規模 底面標高	覆土	新旧関係	出土遺物	図版番号
56	G3	ハード ローム層	－	円形	36×－×80 [35.67]	B類	単独	－	第26図
57	H4	ハード ローム層	－	楕円形	34×27×35 [35.13]	B類	単独	－	第26図
58	H4	ハード ローム層	－	楕円形	19×15×13 [35.36]	B類	単独	－	第26図
59	H4	ハード ローム層	－	楕円形ヵ	27×14以上×52 [37.52	（第７図）	単独	－	第７・26図
60	B3	ソフト ローム層	－	楕円形	57×28×16 [37.49]	A類	単独	－	第26図
61	G4	ハード ローム層	－	楕円形	43×40×70 [35.80]	A類	単独	－	第26図
62	G4	ハード ローム層	－	円形	38×－×14 [36.30]	A類	SK-34と不明	－	第26図
63	G4	ハード ローム層	－	楕円形	44×40×39 [36.01]	（第24図）	SK-34より旧	－	第24・26図
64	G4・G5	ハード ローム層	－	楕円形	32×28×44 [36.47]	A類	SK-35と不明	－	第26図
65	G5	ハード ローム層	－	円形ヵ	25×16以上×17 [37.52]	（第24図）	SK-35より旧	－	第24・26図
66	G4	ハード ローム層	－	楕円形	38×26×55 [35.94]	A類	SK-27と不明	－	第26図
67	H5	ハード ローム層	－	楕円形	25×19×25 [36.24]	A類	単独	－	第26図
68	F4	ソフト ローム層	－	円形	28×－×57 [36.57]	B類	SK-37より新	－	第26図
69	F4	ハード ローム層	－	円形	25×－×38 [36.32]	B類	単独	－	第26図
70	F4	ソフト ローム層	－	円形	18×－×16 [36+.69]	B類	SK-37と不明	－	第26図
71	F4	ソフト ローム層	－	楕円形	65×55×83 [35.98]	B類	SK-37より新	－	第26図

第３節　時代不明

第１項　炉跡

炉跡 -1　（第 27・41 図，第 13・17 表，写真図版 14・24）

単体の炉跡が１基検出された。住居跡の炉のようであるが，周囲からは住居跡の痕跡が見受けられず，単体の炉跡として扱った。遺物は古墳時代前期の土師器甕細片が１点出土しているが，この遺物だけでの時代決定はできかねたので，時代不明として扱った。

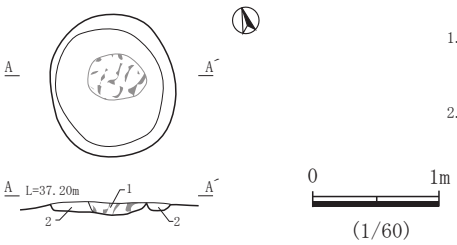
位置・重複関係等　D3・E3 区に位置する。確認面はソフトローム層である。遺存状態は炉跡単体としては良好である。

形態　平面形は円形を呈する。規模は長軸 0.92m× 短軸 0.74m。被熱範囲 0.36m×0.46m。確認面からの深さは 0.10m を測る。断面形は浅い皿状を呈する。

遺物　古墳時代前期の土師器甕細片が１点出土している（第 41 図，第 13・17 表，写真図版 24）。

時期　不明。

所見等　炉中心部のローム地山がやや強く被熱し，周囲が僅かに窪む。　（小川）



1. 5YR 3/2　暗赤褐色土層　ローム粒（φ～ 10 ㎜），黒褐色土粒（φ～ 3 ㎜）多量。粗粒。締まり・粘性弱。ローム地山がやや強く被熱。

2. 7.5YR 4/4　褐色土層　ローム土主体（φ～ 3 ㎜），黒褐色土粒（φ～ 3 ㎜）多量。締まり弱，粘性やや強。

0　1m

(1/60)

第 27 図　炉跡 -1（時代不明）

第Ⅴ章　出土した遺物

第１節　縄文時代

出土した縄文土器は 2,637 点で，この内，残存値が 1/2 以上の土器は６点である。中期に属する土器の割合が多く，袋状土坑から出土した資料が大多数を占める。

土製品は円盤３点がみられ，袋状土坑（SK-16・20）から１点ずつ，中世地下式坑（SK-26）からの出土であった。

石器は袋状土坑（SK-14 ～ 17･19）５基から５点，中世以降の遺構（SK-26･33･38･SE-1）から６点，遺構外（表採）から３点，剥片は袋状土坑から２点出土し，合計 16 点出土した。この他に 171 点の自然礫が縄文時代の遺構から出土し，中世以降の遺構（SB-2・SD-2・SE-1・3・SK-2・9・10・12・13・26 ～ 28・32 ～ 34・37・38・Pit-30・33）から 188 点，遺構外から 20 点出土している。

土器

以下，時期別に概要を述べる。詳細は土器観察表と石器計測・観察表，石器組成表，石材別器種組成表，出土地点別石材組成表に記載しているので，ここでは概要のみ記す。

早期においては，遺構外から該期と考えられる土器片が１点出土しているが，細片のため型式等の詳細は不明である。

前期の土器は中世地下式坑（SK-2）から胎土に繊維を含む１点が出土した。細片であるため詳細は不明である。

中期の土器については主体となるもので，以下に遺構内出土地点毎の概要を記した。

袋状土坑　（第 28 ～ 37 図，第６・17 表，写真図版 15 ～ 22）

SK-14　阿玉台Ⅰｂ･Ⅰｂ～Ⅱ・Ⅱ式，阿玉台（細分類不能）式，大木 7b 式，大木 7b 式ヵ，大木式（細分類不能），中期（細分類不能）が出土した。総点数は 230 点である。

SK-15　阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ式，阿玉台（細分類不能）式，中期（細分類不能）が出土した。総点数は 185 点である。

SK-16　阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ式，阿玉台（細分類不能）式，大木 7b 式，中期（細分類不能）が出土した。総点数は 362 点である。

SK-17　阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ式・Ⅱ式ヵ，中期（細分類不能）が出土した。総点数は 91 点である。

SK-19　阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ後半・Ⅲ式，大木 8a 式，中期中葉，中期（細分類不能）が出土した。総点数は 36 点である。

SK-20　阿玉台Ⅰｂ･Ⅰｂ～Ⅱ・Ⅱ・Ⅲ以降･Ⅲないし Ⅳ･Ⅳ式，大木 7b･8a 式，大木式（細分類不能），中期（細分類不能）が出土した。総点数は 82 点である。

SK-36　阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ式，阿玉台（細分類不能），大木 8a 式，勝坂式，中期（細分類不能）が出土した。総点数は 27 点である。

縄文時代の遺構以外からも土器が出土しており，主なものを図示した(第 37 ～ 39 図，第６･17 表，写真図版 22 ～ 24)。土坑（SK-12）では中峠式並行期の土器片が１点，掘立柱建物跡（SB-2）では勝坂式が１点，溝跡（SD-2）では加曽利ＥⅠ（Ⅱ初ヵ）式が１点，Pit 群 -1 では勝坂式が１点出土している。遺構外表採資料として勝坂式１点・中峠式１点の資料が得られている。

後期に帰属する遺構は認められなかったが，加曽利Ｂ式の口縁部片１点と胴部片２点（第 37 図，第６・17 表，写真図版 22）が中世地下式坑（SK-2）から，後期以降と考えられる平縁口縁で無文の土器片が袋状土坑(SK-15)から１点(第 30 図，第 6･17 表，写真図版 16)出土している。中世溝跡(SD-2)からは加曽利Ｂ式の口縁部片２点が出土した。これらの土器片は二次的な混入と判断される。

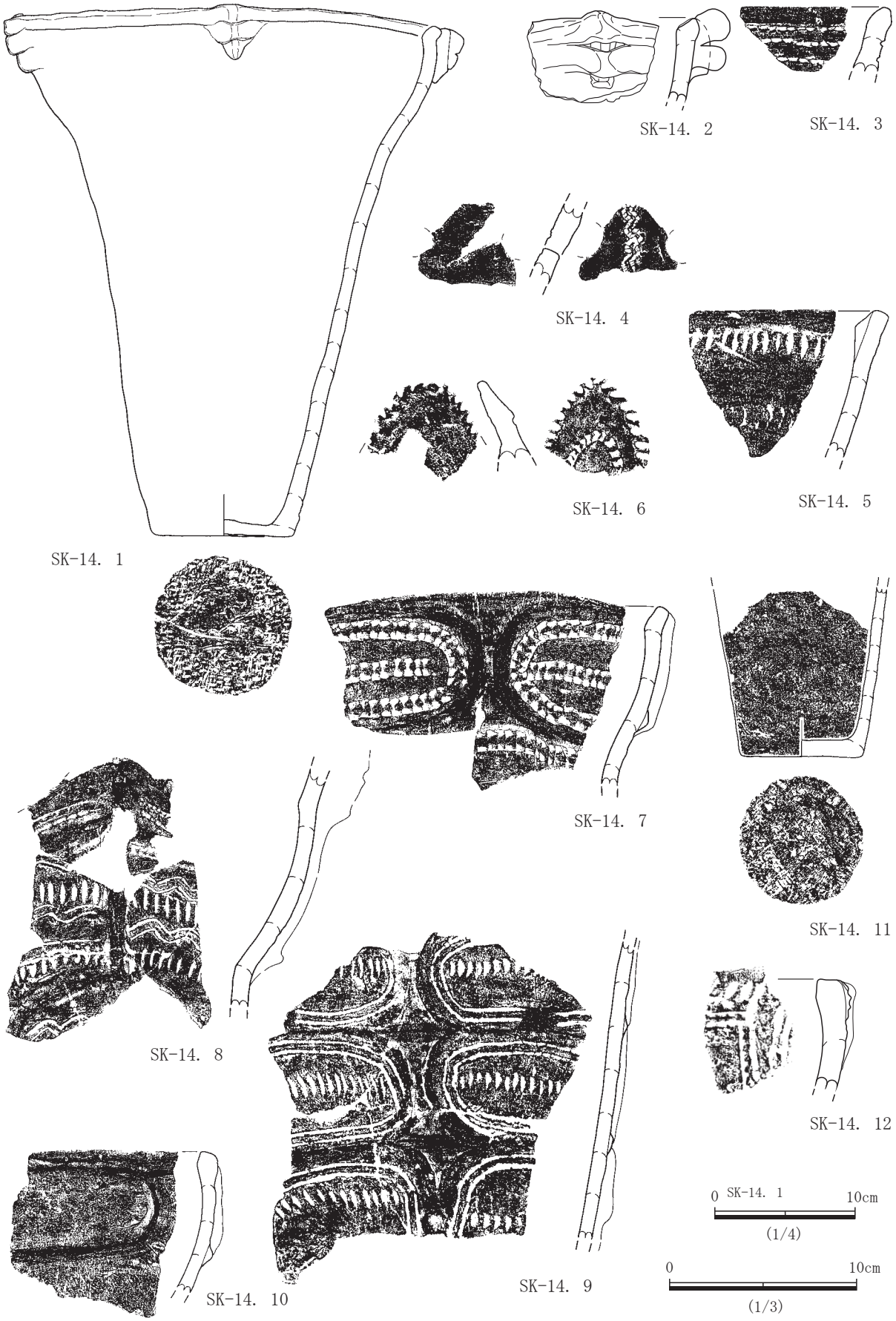
晩期の土器は出土していない。

以上のように中期の土器においては，勝坂式３点・加曽利ＥⅠ（Ⅱ初ヵ）１点・中峠式２点は客体的な出土であって，主体は阿玉台式と大木式にある。なかでも袋状土坑は阿玉台Ⅰｂ式と阿玉台Ⅱ式の割合が多いことが認められた。

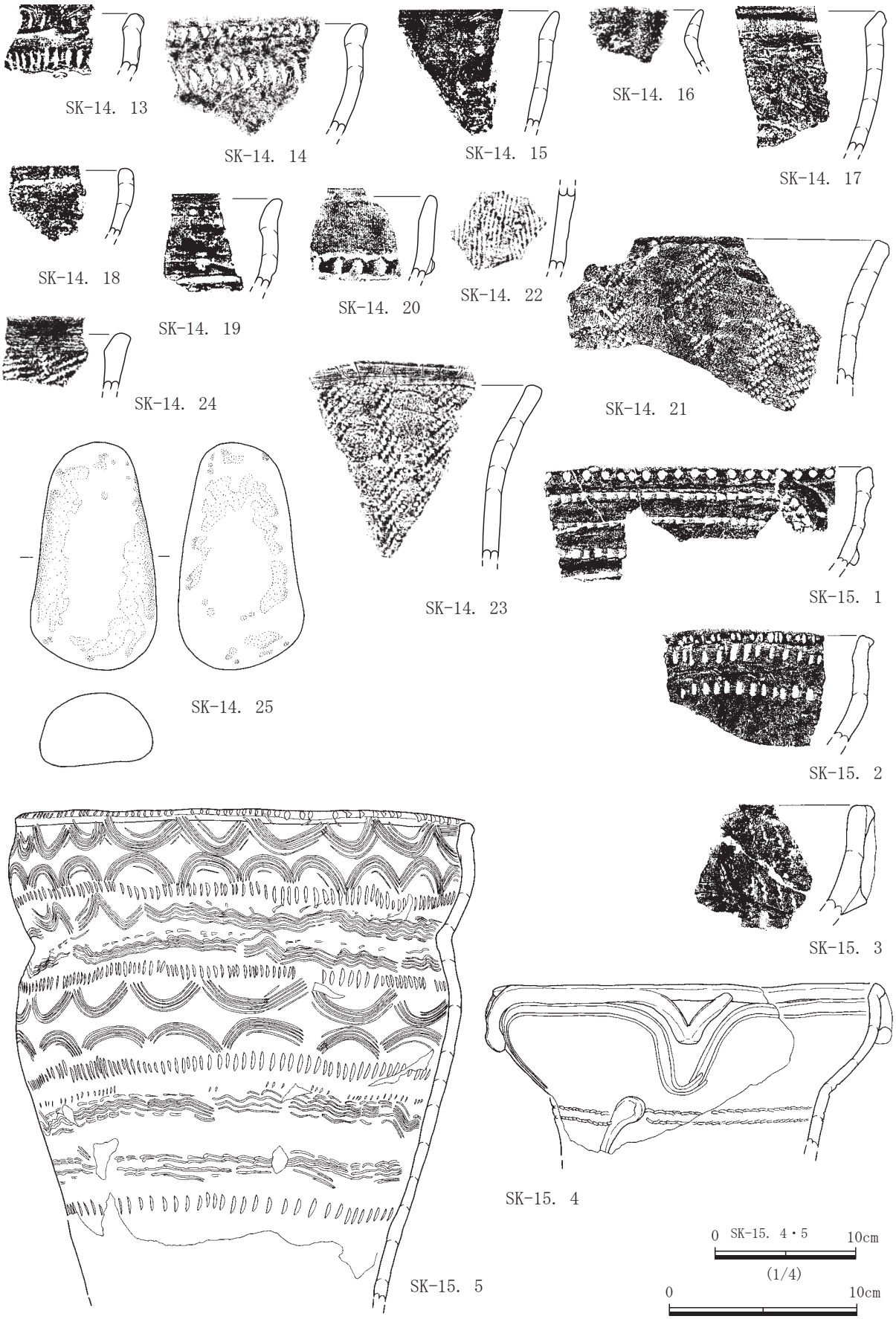
土製品は３点出土した。袋状土坑（SK-16)No.53 は外面に連続爪形文が残る阿玉台Ⅱ式の胴部片を利用している。袋状土坑（SK-20)No.20 は無節Ｌ縄文を縦位に施文する中期中葉の胴部片を利用している。中世地下式坑（SK-26）No.3 は無文の中期中葉の胴部片を利用している（第 33･36･37 図，第７・17 表，写真図版 19・21・22)。

石器では黒曜石製の石鏃が中世地下式坑（SK-26）から１点（SK-26. 4）出土している。磨石は３点出土しており，袋状土坑（SK-14）出土の輝石安山岩製１点（SK-14. 25），中世地下式坑（SK-26）出土の石英安山岩製１点（SK-26. 6）を図示した。敲石は１点中世地下式坑（SK-26）から出土し輝石安山岩製（SK-26. 5）である。磨石と敲石の機能を併せ持つものは４点出土し，袋状土坑（SK-15）出土は閃緑岩製（SK-15. 11），中世以降土坑（SK-33）出土は安山岩製（SK-33. 1）であり，これらの２点を図示した。凹石は２点出土し，袋状土坑（SK-16）出土が石英安山岩製（SK-16. 54），中世井戸跡（SE-1）出土が石英安山岩製（SE-1. 3）である。石皿と凹石の機能を併せ持つものは袋状土坑（SK-16）から１点出土し安山岩製（SK-16. 55）である。袋状土坑（SK-19）では頁岩製の部分研磨石器（SK-19. 9）が出土した。表採された石器では砂岩製の有溝砥石（遺構外．12）がある。
剥片は２点出土し，袋状土坑（SK-17）出土の１点（SK-17. 12）を図示した。黒曜石製で石鏃の素材剥片と推定されるものである（第 29・30・33・34・35・37 ～ 39 図，第８～ 11・17 表，写真図版 15・16・19・20・22 ～ 24)。

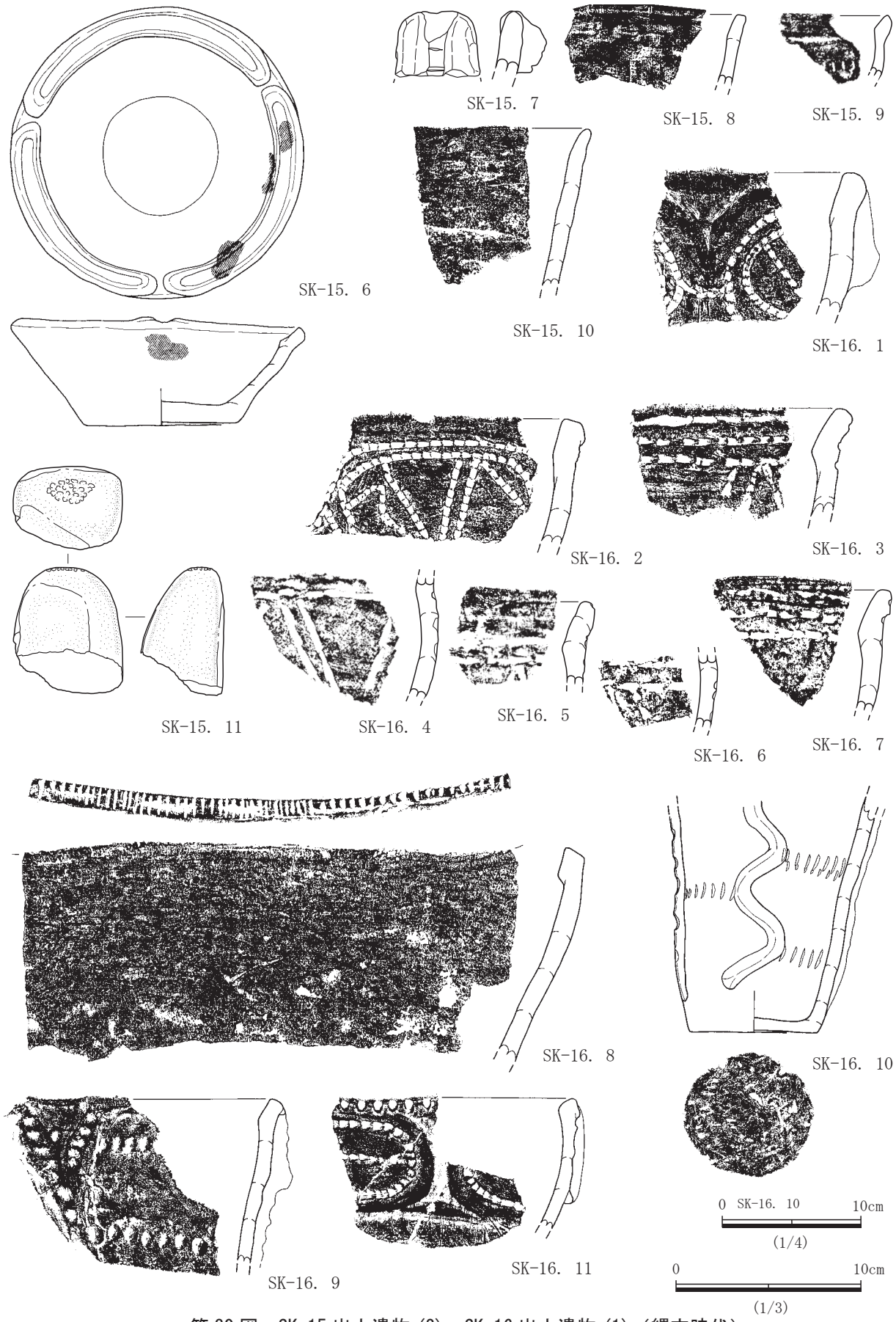
自然礫は縄文時代・中世以降の遺構・遺構外から合わせて 379 点出土しており，石材組成の参考のため縄文時代の石器 16 点と共に第 11 表にまとめた。しかし，時代分類については不明とせざるをえないため，第 17 表出土遺物一覧表では時代不明として分類を行った。（小川）



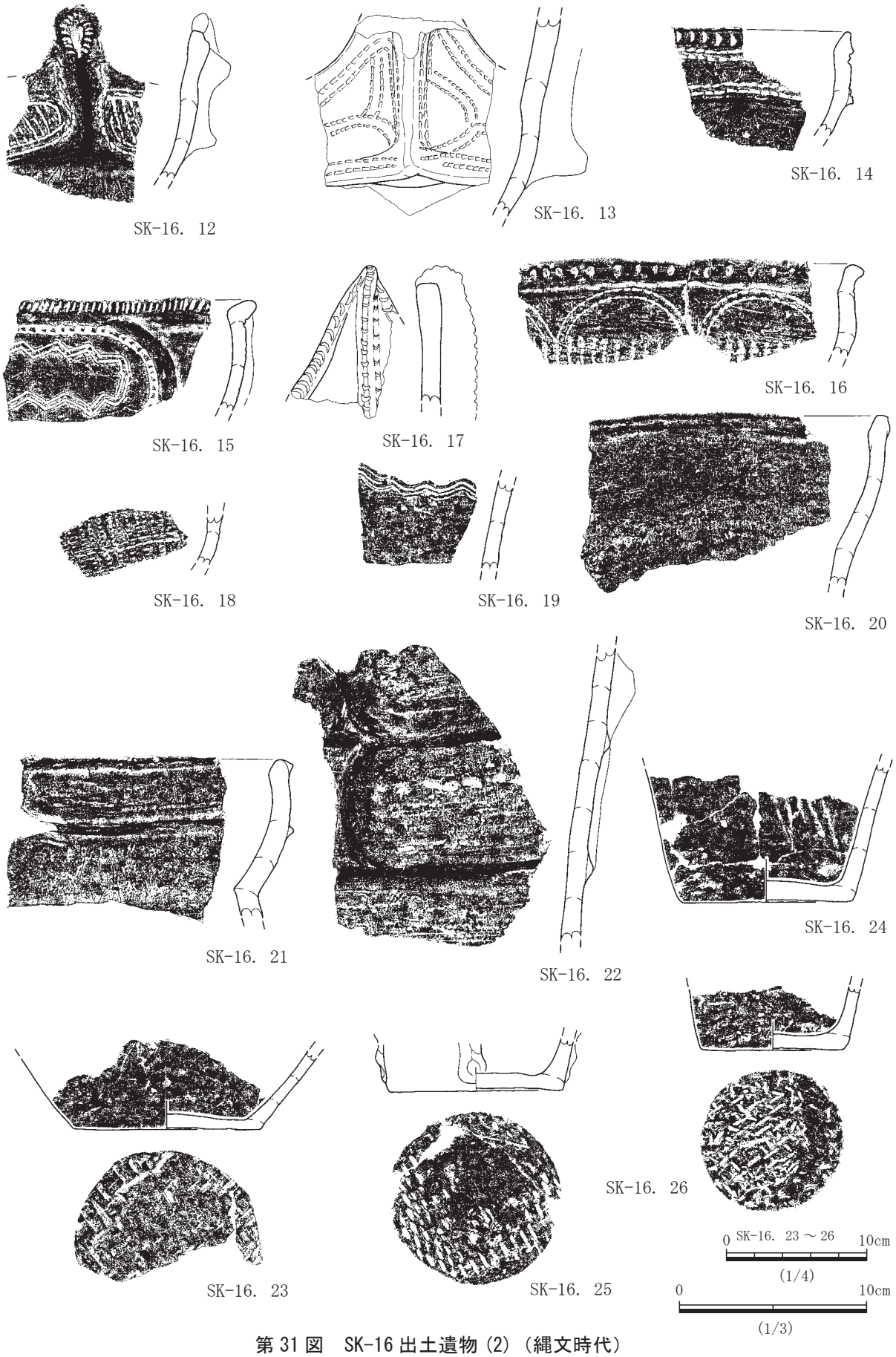
第 28 図　SK-14 出土遺物 (1)（縄文時代）



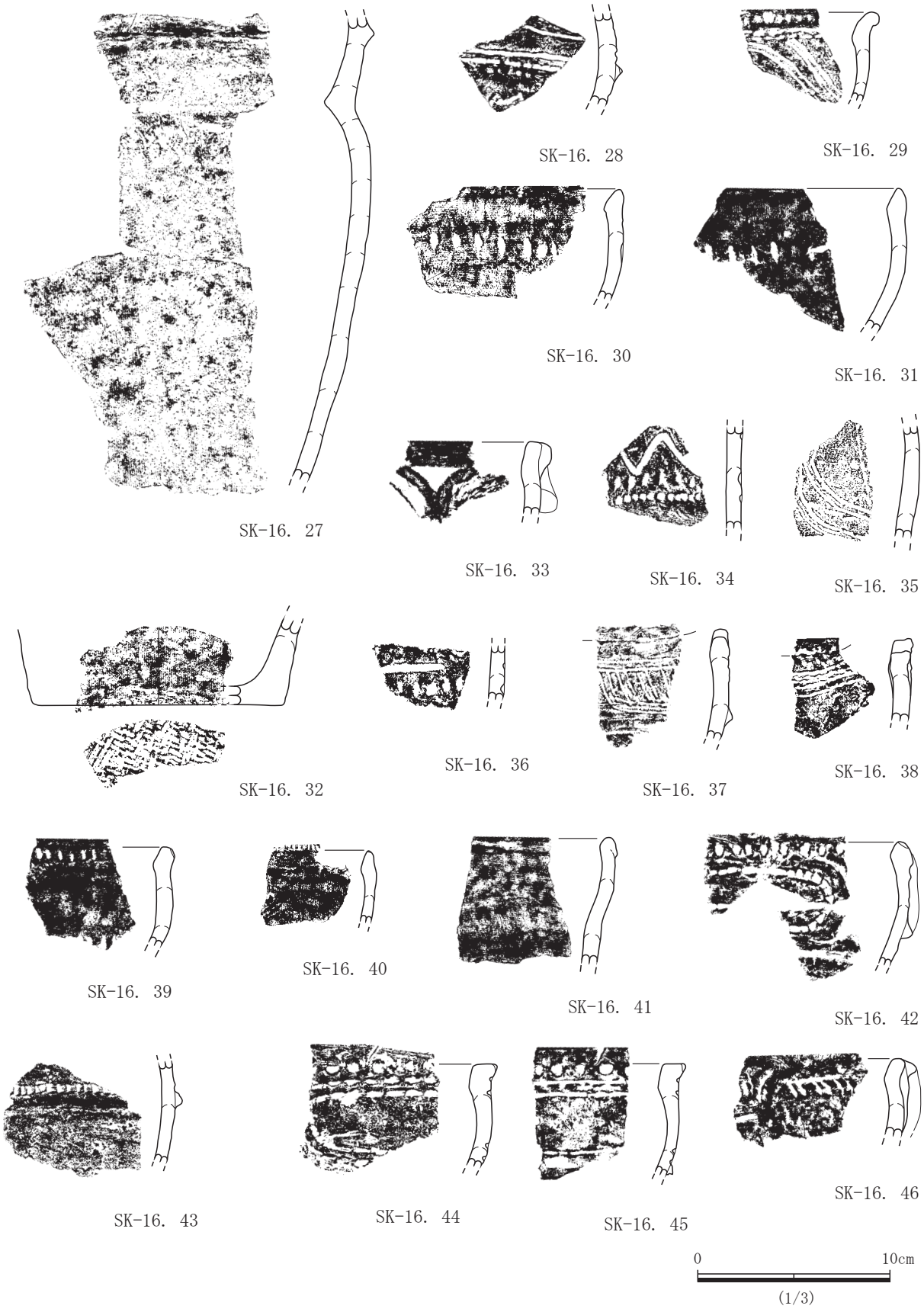
第 29 図　SK-14 出土遺物 (2)・SK-15 出土遺物 (1)（縄文時代）



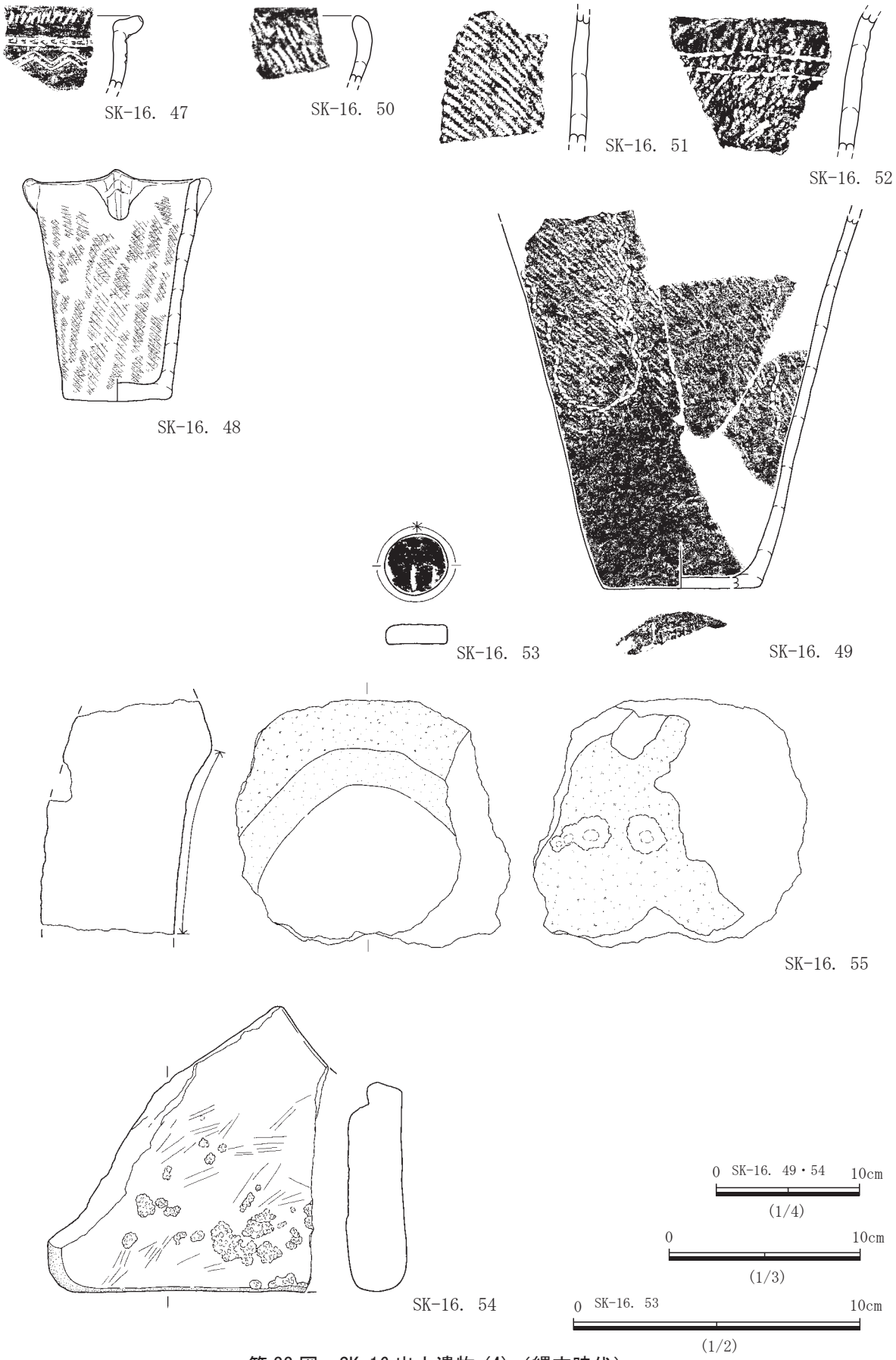
第 30 図　SK-15 出土遺物 (2)・SK-16 出土遺物 (1)（縄文時代）



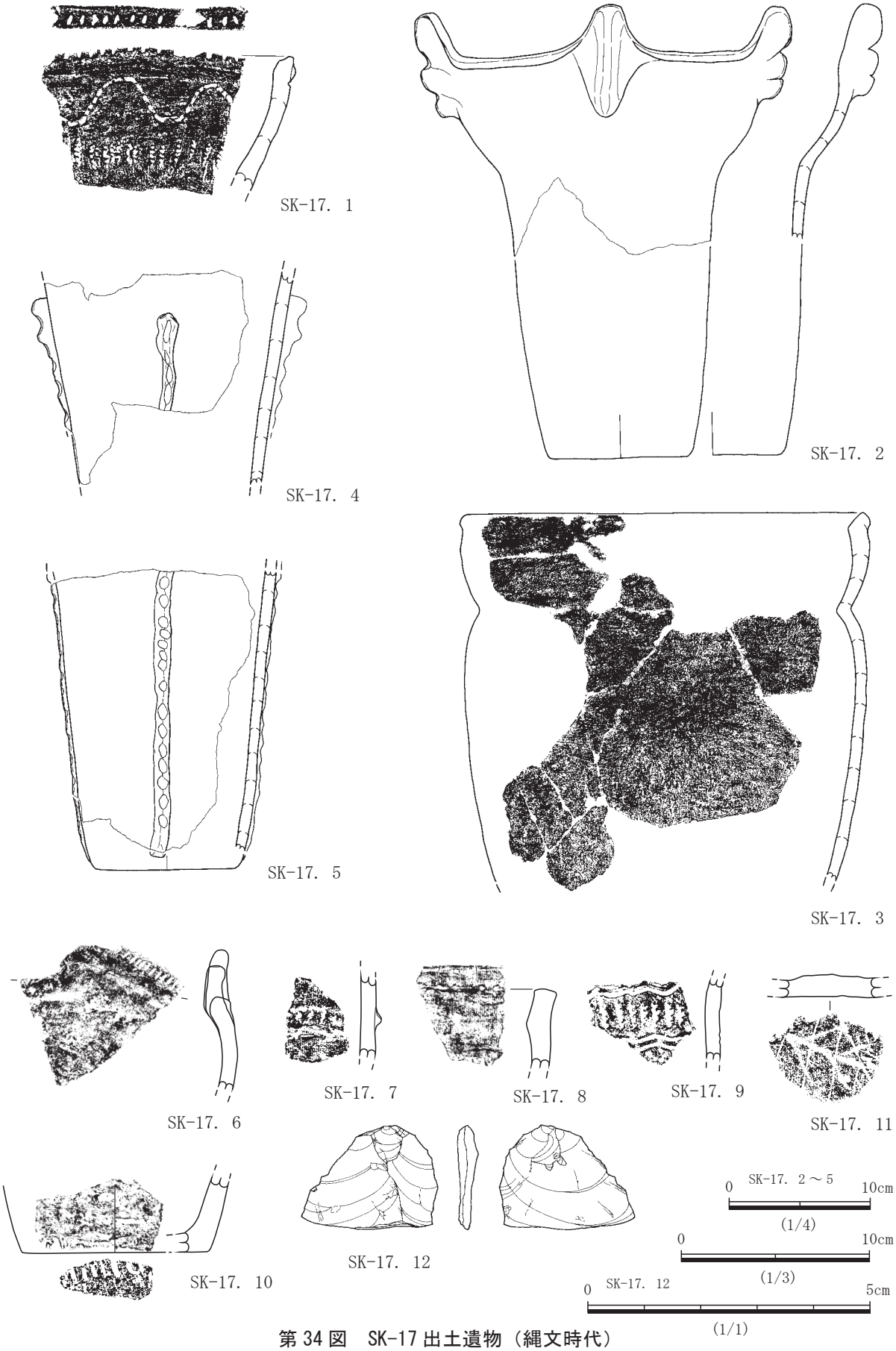
第 31 図　SK-16 出土遺物 (2)（縄文時代）



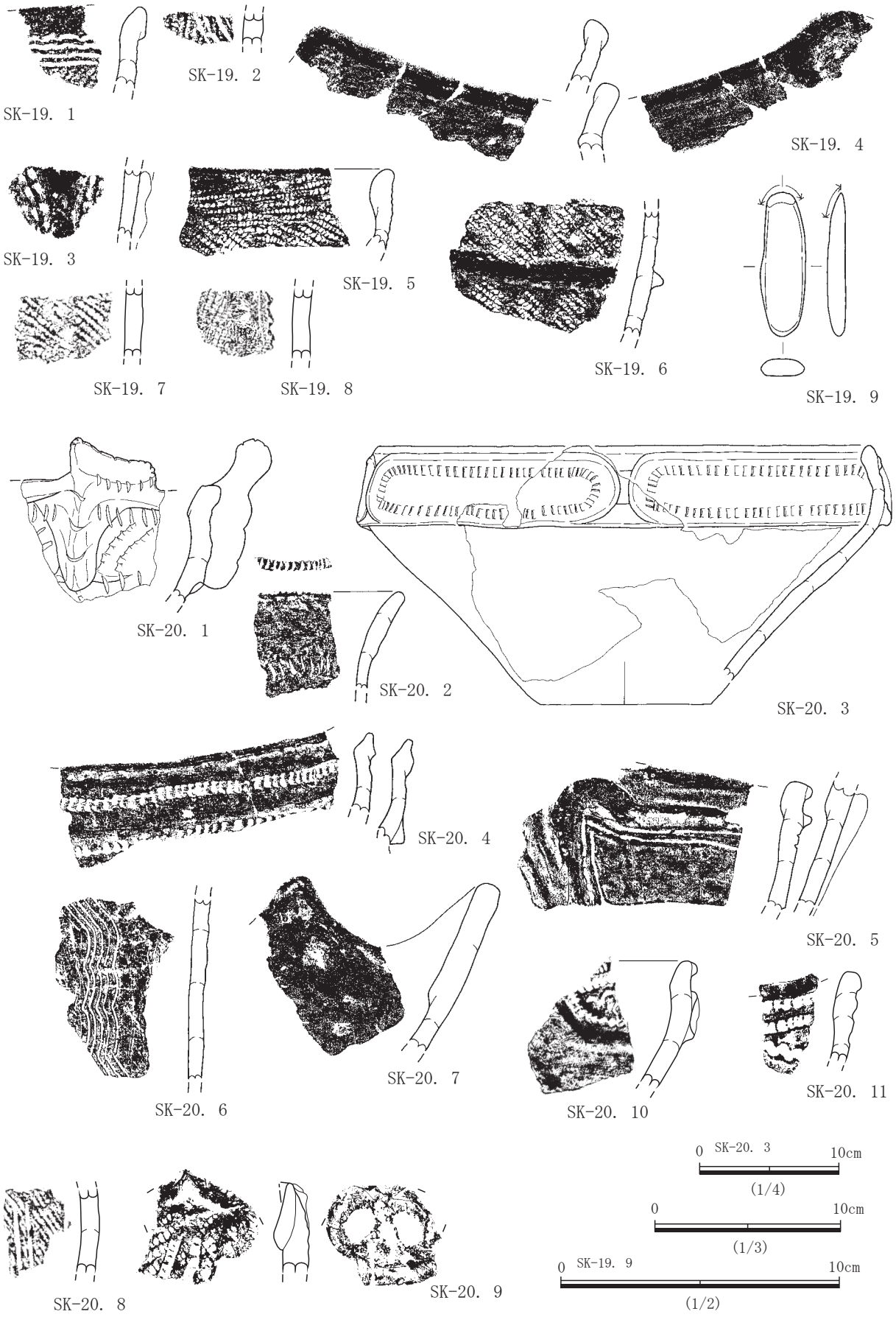
第 32 図　SK-16 出土遺物 (3)（縄文時代）



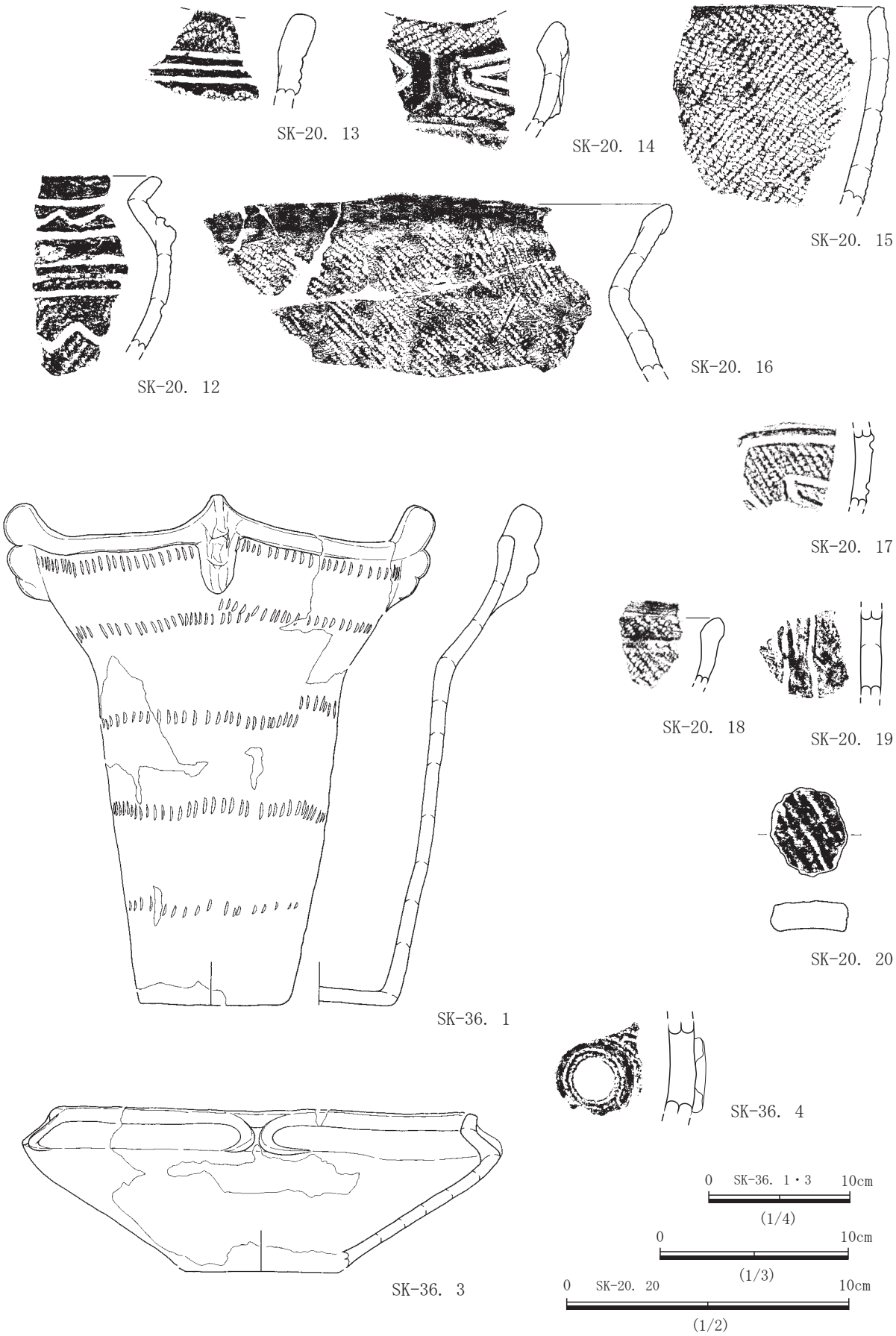
第 33 図　SK-16 出土遺物 (4)（縄文時代）



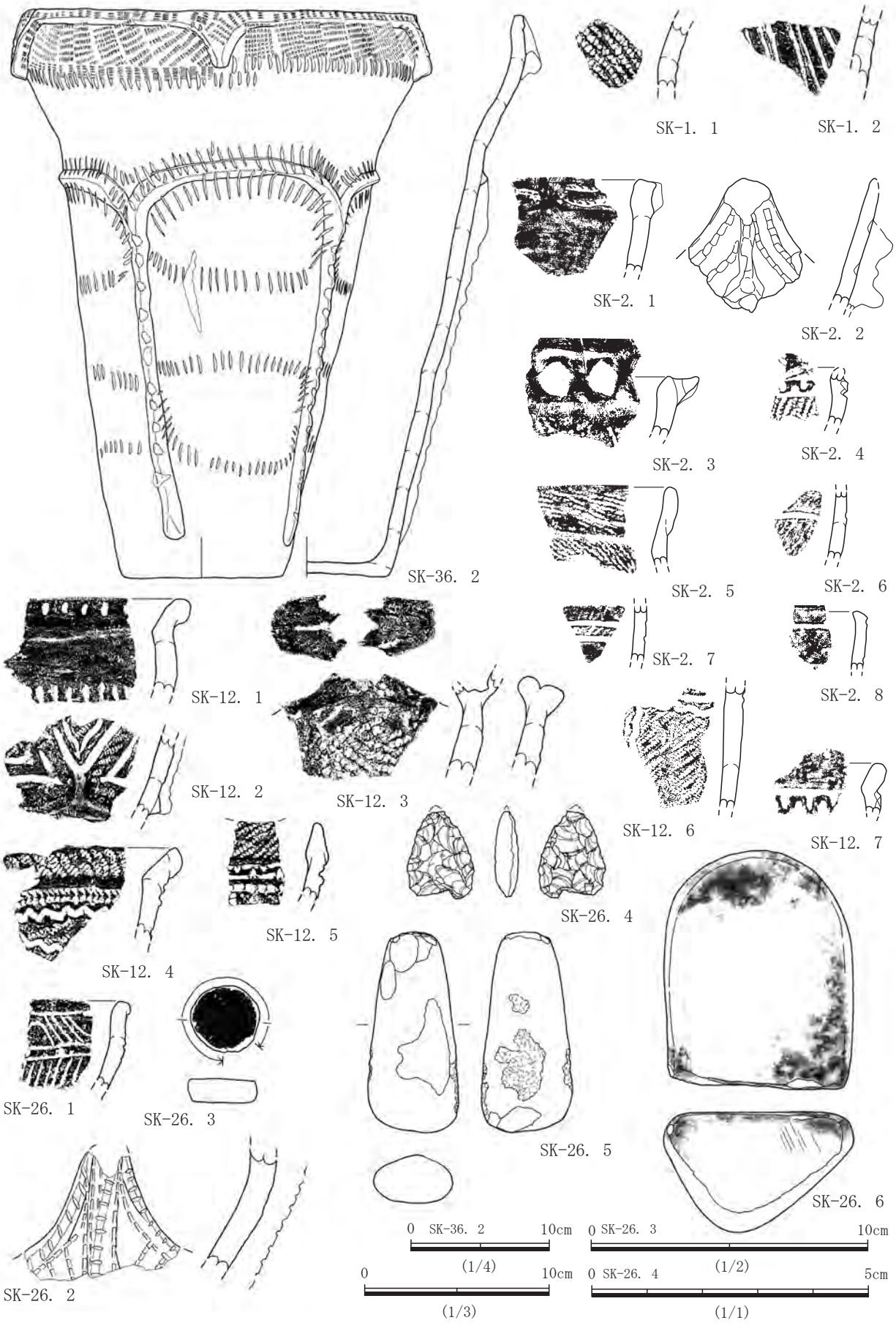
第 34 図　SK-17 出土遺物（縄文時代）



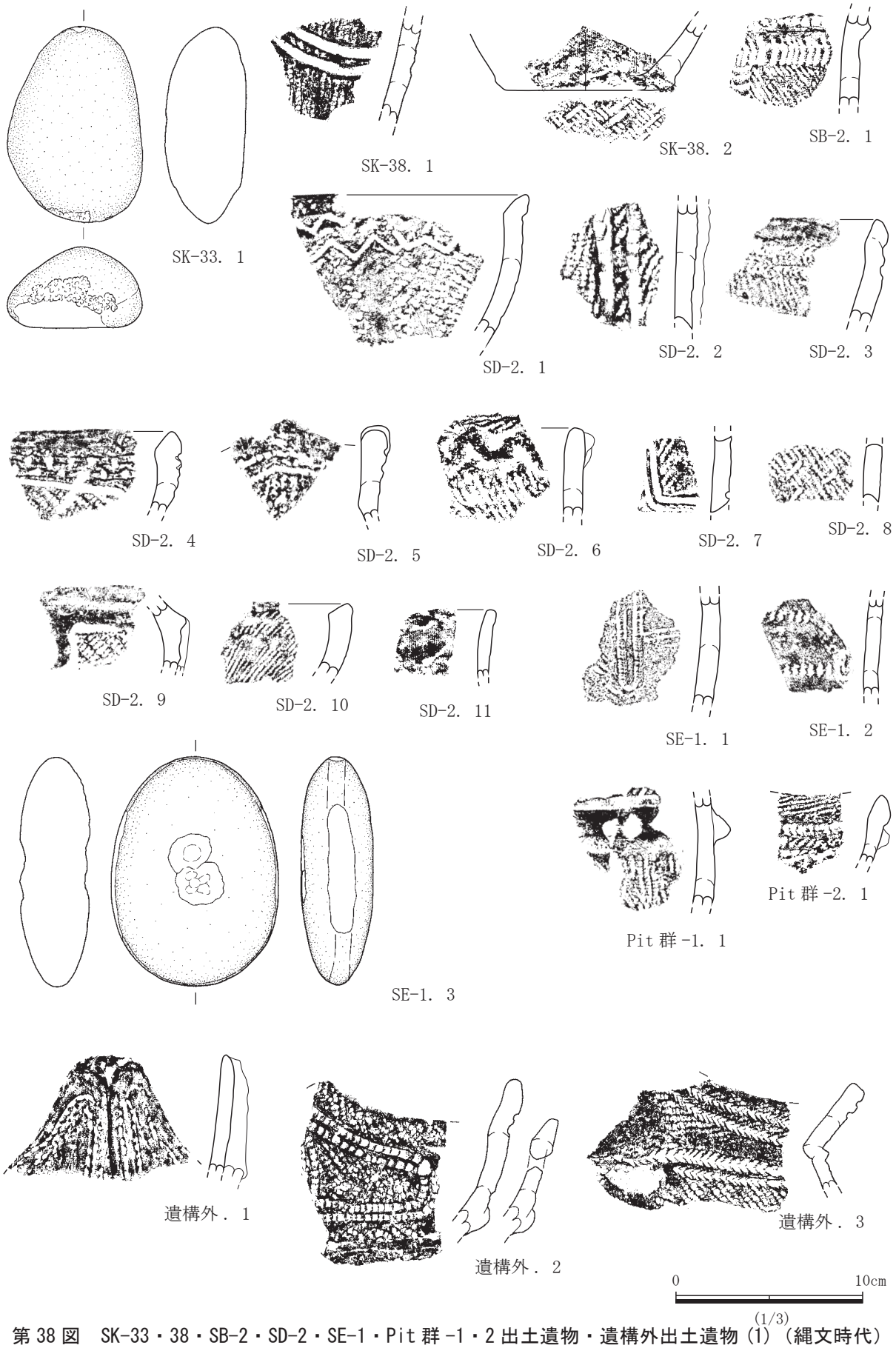
第 35 図　SK-19 出土遺物・SK-20 出土遺物 (1)（縄文時代）



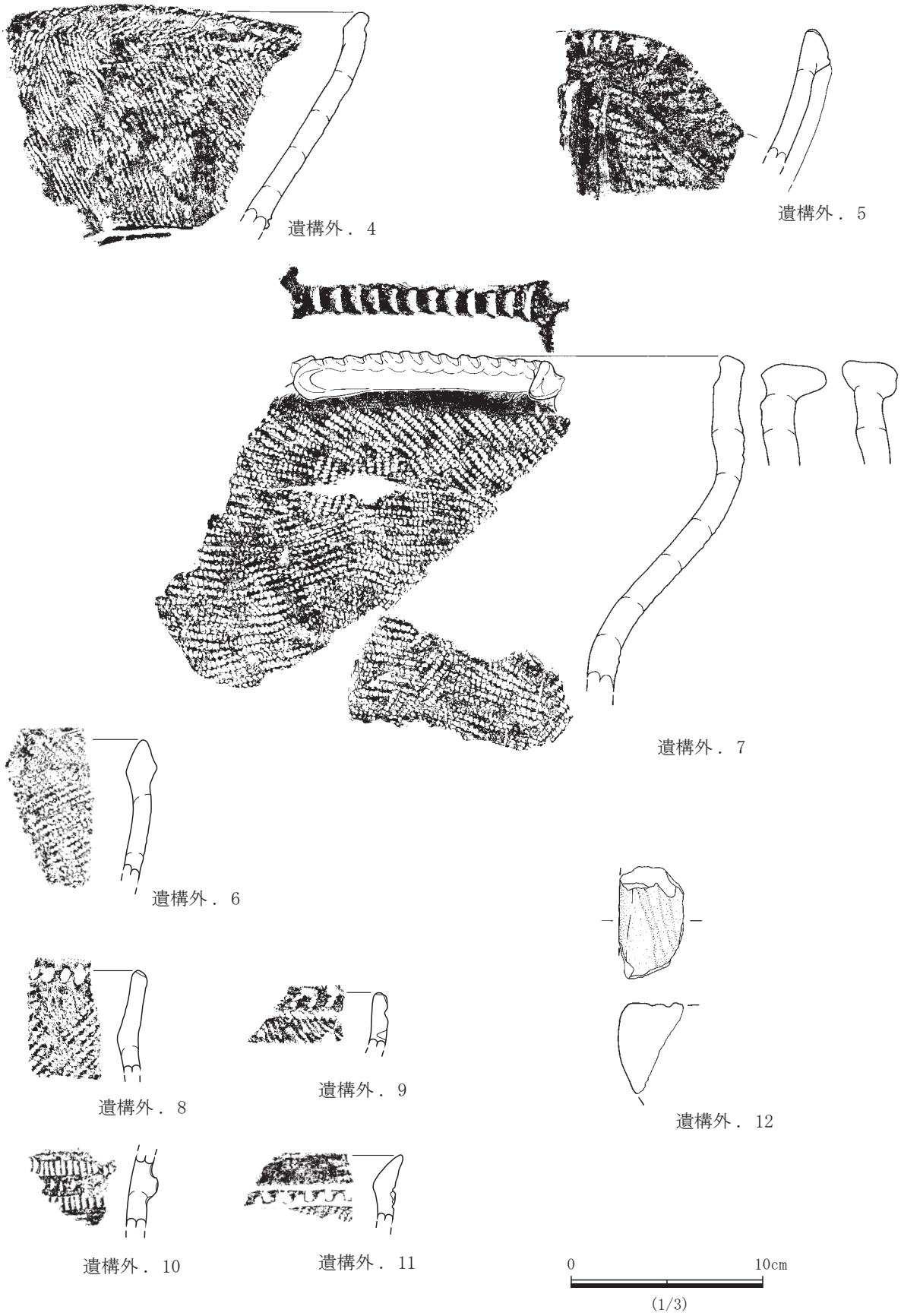
第 36 図　SK-20 出土遺物 (2)・SK-36 出土遺物 (1)（縄文時代）



第 37 図　SK-36 出土遺物 (2)・SK-1・2・12・26 出土遺物（縄文時代）



第 38 図　SK-33・38・SB-2・SD-2・SE-1・Pit 群 -1・2 出土遺物・遺構外出土遺物 (1)（縄文時代）



第 39 図　遺構外出土遺物 (2)（縄文時代）

第６表　縄文時代土器観察表

（ ）は復元値，［ ］は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①文様等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
28	SK-14	1	縄文土器深鉢	ほぼ完形	30.1	9.8	37.9	①平縁口縁。口縁部に４単位の棒状貼付。胴～底部無文。底面網代痕。 ②長石・雲母中量，石英少量含み，やや発泡。③5YR5/6明赤褐　④普通	阿玉台Ⅰb式	内・外面煤付着。SK-15出土遺物と遺構間接合。写15
		2	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.0］	①平縁口縁。口縁部に４単位の棒状貼付と推定。②長石・雲母・石英中量含む。③7.5YR4/2灰褐　④普通	阿玉台Ⅰb式	写15
		3	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.3］	①平縁口縁。口縁部文様帯に単列の結節沈線（横位）を多条に施文。内・外面丁寧な磨き。 ②長石・雲母多量，石英少量含み，密。 ③10YR4/2灰黄褐　④良好	阿玉台Ⅰb～Ⅱ式	写15
		4	縄文土器浅鉢	口縁部片	—	—	［4.2］	①4単位波状口縁と推定。内面には縦位に蛇行する複列の結節沈線及が施される。対となる孔を穿つ。内・外面丁寧な磨き。 ②雲母中量，石英・黒色粒少量含み，密。 ③5YR5/6明赤褐　④良好	阿玉台Ⅰb～Ⅱ式	写15
		5	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.8］	①平縁口縁。連続爪形文を多段に施文。内・外面丁寧な磨き。②雲母多量，石英少量含み，密。③10YR5/4にぶい黄褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写15
		6	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.2］	①４単位波状口縁の波頂部に付される突起と推定。端部に丸棒状工具による刻み。突起内を半截竹管状工具背面による結節沈線で施文。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③10YR6/4にぶい黄橙　④良好	阿玉台Ⅱ式	写15
		7	縄文土器深鉢	口縁～頸部片	—	—	［9.4］	①平縁口縁。口縁部文様帯は半截竹管状工具による複列の結節沈線を側した隆帯により楕円形に区画され，区画内に半截竹管状工具による複列の横位結節沈線を施文。頸部文様帯にも横位隆帯に沿って半截竹管状工具による複列の結節沈線を施文。 ②雲母多量，石英・長石中量含み，密。 ③5YR4/3にぶい赤褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
		8	縄文土器深鉢	口縁～胴部片	—	—	［12.9］	①４単位波状口縁と推定。口縁部文様帯は幅狭で，縦・横位隆帯により区画され，区画内に半截竹管状工具による複列の結節沈線を施文。頸部文様帯は波頂部より垂下する縦位隆帯により区画され，区画内に連続爪形文・半截竹管状工具による平行沈線・複列の結節沈線を施す。胴部文様帯には頸部隆帯より二分して垂下する隆帯が付され，隆帯間に半截竹管状工具による波状の平行沈線を施文。 ②雲母中量，石英・長石少量含み，密。 ③5YR5/6明赤褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
		9	縄文土器深鉢	胴部1/4	—	—	［15.6］	①現存で横位隆帯により文様帯を３段に分割。各段とも半截竹管状工具による平行沈線を側した隆帯により楕円形に区画し，区画内には連続爪形文を施す。隆帯による楕円形区画は各段毎に若干変化させる。 ②雲母多量，石英・長石中量含み，密。 ③10YR5/3にぶい黄橙　④良好	阿玉台Ⅱ式	写15
		10	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.4］	①平縁口縁。口縁部文様帯を隆帯により楕円形に区画。 ②長石・雲母中量，石英少量含み，密。③5YR4/3にぶい赤褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
		11	縄文土器深鉢	胴～底部	—	6.4	［8.9］	①残存部無文。底面網代痕。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
		12	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［6.0］	①平縁口縁。口縁部刻み。口縁部文様帯は半截竹管状工具による複列の結節沈線を側した隆帯により方形に区画されると推定。区画内に半截竹管状工具による複列の横位及び縦位結節沈線を施文。 ②石英・長石・雲母中量含み，密。 ③7.5YR4/1褐灰　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
29		13	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.2］	①平縁口縁。口唇部に連続爪形文を施文。口縁部文様帯は連続爪形文を施文し，半截竹管状工具による平行沈線を波状に施す。②石英・雲母少量含み，密。③7.5YR5/3にぶい褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写15
		14	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［6.0］	①平縁口縁。口唇部に連続爪形文を施文。口縁部文様帯は連続爪形文を施文。②雲母多量，石英少量含み，密。 ③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
		15	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［6.1］	①平縁口縁。残存部無文。②雲母中量，石英少量含み，密。 ③10YR4/1褐灰　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
		16	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.2］	①平縁口縁。残存部無文。内・外面赤彩。②雲母多量，石英少量含み，密。 ③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
		17	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.5］	①平縁口縁。残存部無文。②長石・石英・雲母中量含み，密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
		18	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.6］	①平縁口縁。残存部無文。②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③5YR5/4にぶい赤褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
		19	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.9］	①平縁口縁。横位沈線を施文。②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写15
		20	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.4］	①平縁口縁。横位隆帯に刻み。内・外面磨き。②石英・長石・雲母少量含み，密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④良好	大木式ヵ	写15

（ ）は復元値，［ ］は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①文様等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
29	SK-14	21	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.6］	①平縁口縁。単節RL縄文を縦位に施文。内面磨き。②雲母多量,石英・長石少量含み,密。③7.5YR4/3にぶい褐　④普通	大木7b式	写16
		22	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.3］	①無節LR縄文を縦位に施文。②雲母多量,石英・長石中量含み,密。③7.5YR5/3にぶい褐　④普通	大木7b式	写16
		23	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［9.4］	①平縁口縁。単節LR縄文を斜位に施文。 ②石英・長石・雲母中量含み,密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④良好	大木7b式ヵ	写16
		24	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［2.9］	①平縁口縁。単節RL縄文を縦位に施文。 ②雲母中量,石英・長石少量含み,密。　③7.5YR5/4にぶい褐　④良好	大木7b式ヵ	写16
	SK-15	1	縄文土器深鉢	口縁部1/5	—	—	［5.2］	①平縁口縁。口唇部に丸棒状工具による刻み。口縁部文様帯は単列の結節沈線を側した隆帯で楕円形に区画され,区画内に単列の横位結節沈線を施文。内面磨き。 ②雲母中量,石英・長石少量,黒色粒微量含み,密。 ③10YR4/2灰黄褐　④普通	阿玉台Ⅰb式	写16
		2	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.6］	①平縁口縁。口唇部に刻み。口縁部には幅広の結節沈線を施文。 ②雲母多量,石英・長石少量,黒色粒微量含み,密。 ③7.5YR5/4にぶい橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	外面煤付着 写16
		3	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.8］	①平縁口縁。口縁部文様帯は隆帯により楕円形に区画され,区画内に貝殻による連続爪形文を施文。 ②雲母多量,石英・長石少量,黒色粒微量含み,密。③7.5YR3/4褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	外面煤付着 写16
		4	縄文土器深鉢	口縁～胴部1/4	(27.9)	—	［11.6］	①平縁口縁。口唇部より垂下する「Ｖ」字状の隆帯が４単位付される。口縁部文様帯は明確に区画されていないが,口唇部と「Ｖ」字状の隆帯に沿って半截竹管状工具による平行沈線が施文される。体部には垂下する隆帯が付された後単列の波状結節沈線が横位に施される。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,密。③7.5YR4/2灰褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	外面煤付着 写16
		5	縄文土器深鉢	口縁～胴部1/2	32.7	—	［34.4］	①平縁口縁。口唇部に丸棒状工具による刻み。横位連続爪形文により口縁部～胴部を４段に分割し,上段から櫛歯状工具（貝：アナダラ属）により弧状のモチーフを上下対称に施文し,次段には同様の櫛歯状工具による波状文と列点文を施す。以下の段は同様の繰り返し。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,密。③10YR7/4にぶい黄橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	外面煤付着。SK-17出土遺物と遺構間接合。写16
30		6	縄文土器浅鉢	完形	15.8	8.1	5.8	①平縁口縁。内・外面漆塗り及び丁寧な磨き。外面は無文。内面口縁部には隆帯による３単位の長楕円形区画を施す。　②長石・雲母多量,石英少量含み,密。③10YR6/4にぶい黄橙　④良好	阿玉台Ⅱ式	写16
		7	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.4］	①波状口縁波頂部。波頂部より垂下する隆帯に刻みを施文。 ②雲母多量,石英・長石中量,密。 ③5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写16
		8	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.8］	①平縁口縁。無文。②石英・長石・雲母中量含み,密。 ③7.5YR4/2灰褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写16
		9	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.5］	①平縁口縁。連続爪形文を施文。内面赤彩。②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	内・外面煤付着。写16
		10	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［8.4］	①平縁口縁。残存部無文。外面に輪積みの調整痕が残る。②石英・長石少量,黒色鉱物微量含み,密。③7.5YR6/4にぶい橙　④普通	後期以降と推定される	内・外面煤付着。写16
	SK-16	1	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.5］	①平縁口縁。口唇部より「Ｖ」字状に垂下する隆帯が付される。口縁部文様帯には隆帯に沿って単列の結節沈線が楕円状に２条施され,区画内に斜位の結節沈線を施文。内面磨き。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,密。 ③10YR6/4にぶい黄橙　④良好	阿玉台Ⅰb式	写16
		2	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［6.7］	①平縁口縁。口縁部文様帯に単列の結節沈線を楕円状・斜位に施す。内面磨き。 ②長石・雲母多量,石英少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	阿玉台Ⅰb式	写16
		3	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.8］	①平縁口縁。口唇部下に横位沈線を施す。口縁部文様帯には横・斜位の単列結節沈線を２条１単位で施文。内面磨き。 ②石英・長石・雲母多量含み,やや発泡。③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅰb式	SK-16No.3～7は同個体。写16
		4	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［6.6］	①横・斜位の単列結節沈線を２条１単位で施文。内面磨き。 ②石英・長石・雲母多量含み,やや発泡。 ③10YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅰb式	写16
		5	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.4］	①平縁口縁。口唇部下に横位沈線を施す。口縁部文様帯には横・斜位の単列結節沈線を２条１単位で施文。内面磨き。 ②石英・長石・雲母多量含み,やや発泡。③10YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅰb式	写17
		6	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.0］	①横・斜位の単列結節沈線を２条１単位で施文。内面磨き。 ②石英・長石・雲母多量含み,やや発泡。 ③10YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅰb式	写17

（ ）は復元値，［ ］は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①文様等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
30	SK-16	7	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［6.5］	①平縁口縁。口唇部下に横位沈線を施す。口縁部文様帯には横・斜位の単列結節沈線を２条１単位で施文。内面磨き。 ②石英・長石・雲母多量含み，やや発泡。 ③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅰb式	写17
		8	縄文土器 浅鉢ヵ	口縁部片	—	—	［11.4］	①４単位小波状口縁と推定。口唇部刻み。内・外面丁寧な磨き。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③10YR5/3にぶい黄褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写17
		9	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［8.8］	①平縁口縁。口唇部より刻みを有する「Ｖ」字状の隆帯が付される。「Ｖ」字状隆帯先端より垂下する隆帯は逆「Ｖ」字状に分かれるものと推定。隆帯貼り付け後連続爪形文を施文。断面に炭が入り込む。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③10YR6/4にぶい黄橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	写17
		10	縄文土器深鉢	胴～底部	—	9.1	［17.1］	①波状垂下隆帯・指頭押圧を施す垂下隆帯を付した後連続爪形文を施文する。同形状の隆帯を対角に配置する。底面網代痕。 ②長石・雲母多量，石英少量含み，密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	外面煤付着 写17
		11	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［6.9］	①平縁口縁。口唇部刻み。口縁部文様帯を単列の幅広結節沈線を側した隆帯により楕円形に区画する。区画内には単列の結節沈線を横位に施文。内面磨き。 ②雲母中量，石英・長石・黒色粒少量含み，密。 ③10YR6/4にぶい黄橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	写17
31		12	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［8.7］	①４単位波状口縁と推定。波頂部には刻みを有する環状の突起が付される。口縁部文様帯は複列の結節沈線を側した隆帯により区画され，区画内には斜位の複列結節沈線を施文。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③7.5YR4/2灰褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写17
		13	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［10.5］	①４単位波状口縁と推定。口縁部文様帯と頸部は横位隆帯により分割。口縁部文様帯は波頂部より垂下する隆帯で区画され，区画内には区画に沿った複列の結節沈線を施文。空白部にも複列の結節沈線を施す。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③10YR6/4にぶい黄橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	写17
		14	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.5］	①平縁口縁。口縁端部に連続爪形文を施文。口縁部と胴部を横位隆帯で分割する。口縁部文様帯には複列の結節沈線を隆帯に沿って施文。内面磨き。 ②長石中量，石英・雲母少量含み，密。 ③10YR5/2灰黄褐 ④普通	阿玉台Ⅱ式	写17
		15	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.7］	①平縁口縁。口唇部に刻み。口縁部文様帯は半截竹管状工具による押引文を側した隆帯により楕円形に区画されるものと推定。区画内には半截竹管状工具による平行沈線を波状に施す。内面丁寧な磨き。 ②雲母中量，石英・長石少量含み，密。 ③10YR4/2灰黄褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写17
		16	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.9］	①平縁口縁。口唇部に刻み。口縁部文様帯には複列の結節沈線を波状に施した後貝殻による連続爪形文。内面丁寧な磨き。 ②雲母多量，長石中量，石英少量含み，密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写17
		17	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［8.0］	①４単位波状口縁と推定。口縁端部に半截竹管状工具背面による連続爪形文。口縁部文様帯は波頂部より垂下する刻みを有する隆帯で区画される。隆帯脇には半截竹管状工具背面による押引文を施文。内面磨き。 ②長石・雲母中量，石英少量含み，密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写17
		18	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［2.7］	①櫛歯状工具による押引文を横位に施文。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③10YR4/2灰黄褐 ④普通	阿玉台Ⅱ式	写17
		19	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.6］	①櫛歯状工具による波状沈線を施文。内面丁寧な磨き。 ②雲母多量，長石中量，石英少量含み，密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	阿玉台Ⅱ式	写17
		20	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［9.0］	①平縁口縁。口縁部無文。②雲母多量，長石中量，石英少量含み，密。 ③10YR4/3にぶい黄褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	内・外面煤付着。写17
		21	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［8.3］	①平縁口縁。口縁部と頸部を横位隆帯により分割。口縁部文様帯は隆帯により楕円形に区画されるものと推定。頸部無文。内面磨き。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，やや発泡。 ③10YR5/3にぶい黄褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	外面煤付着 写17
		22	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［15.4］	①横位隆帯により３分割され，上・中段は隆帯により楕円形に区画される。 ②長石・雲母多量，石英少量含み，密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	写17
		23	縄文土器浅鉢	胴～底部 1/2	—	13.3	［5.5］	①残存部無文。底面網代痕。内・外面丁寧な磨き。 ②長石・雲母中量，石英少量含み，密。 ③10YR5/4にぶい黄褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写18
		24	縄文土器深鉢	胴～底部	—	12.1	［9.7］	①残存部無文。底面丁寧な磨き。 ②長石多量，雲母中量，石英少量含み，やや発泡。 ③7.5YR5/4にぶい褐 ④普通	阿玉台Ⅱ式	内・外面煤付着。写18

（ ）は復元値，[ ] は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①文様等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
31		25	縄文土器深鉢	底部	—	12.3	[3.7]	①指頭押圧を施す垂下隆帯が４単位付されるものと推定。底面網代痕。 ②石英・長石・雲母多量含み,密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		26	縄文土器深鉢	底部	—	10.0	[4.5]	①残存部無文。底面網代痕。 ②長石多量,雲母中量,石英少量含み,密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
32	SK-16	27	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	[24.2]	①横位隆帯。 ②雲母多量,長石中量,少量含み,密。 ③7.5YR4/1褐灰　④普通	阿玉台Ⅱ式	写17
		28	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	[4.7]	①複列の結節沈線を横位隆帯に側し,横位隆帯には刻み。複列の結節沈線を楕円状ヵに施文。隆帯下に沈線を波状に施文。②雲母多量,長石中量,石英少量含み,密。③10YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		29	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[4.6]	①平縁口縁。口縁端部に刻み。口縁部文様帯には複列の結節沈線を横位・斜位に施文。 ②長石,石英,雲母少量含み,密。 ③10YR3/2黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		30	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[5.7]	①平縁口縁。連続爪形文を施文。②雲母多量,長石・石英少量含み,密。 ③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		31	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[7.5]	①平縁口縁。連続爪形文を施文。②雲母多量,長石・石英少量含み,密。 ③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		32	縄文土器深鉢	底部	—	(13.0)	[4.7]	①残存部無文。底面網代痕。 ②長石・雲母中量,石英少量含み,密。 ③10YR4/2灰黄褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		33	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[3.9]	①平縁口縁。口唇部より垂下する「Ｖ」字状の隆帯が付される。「Ｖ」字状隆帯に沿って半截竹管状工具による平行沈線が施される。②雲母多量,長石・石英少量含み,密。③2.5YR4/2灰赤　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		34	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	[5.5]	①横位の連続爪形文・半截竹管状工具による連続刺突文を施文。半截竹管状工具による波状の沈線を施文。 ②長石・石英・雲母少量含み,密。 ③7.5YR4/2灰褐 ④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		35	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	[5.9]	①縦位の半截竹管状工具による連続刺突文を施文。半截竹管状工具による弧状の沈線を施文。 ②雲母中量,長石・石英少量含み,密。 ③7.5YR4/3褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		36	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	[2.9]	①横位の連続爪形文・半截竹管状工具による沈線を施文。 ②長石・石英・雲母少量含み,密。 ③7.5YR4/3褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		37	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[5.8]	①波状口縁と推定。口縁部文様帯は半截竹管状工具による横位複列の結節沈線を施文し、隆帯で区画する。区画内には斜位の結節沈線を多条施文。 ②雲母多量,長石・石英少量含み,密。 ③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		38	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[4.2]	①波状口縁。口唇部刻み。口縁部文様帯は半截竹管状工具による横位の結節沈線を多条施文。 ②雲母中量,長石・石英少量含み,密。 ③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		39	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[5.2]	①平縁口縁。口唇部刻み。残存部無文。 ②雲母多量,長石・石英少量含み,密。 ③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		40	縄文土器浅鉢	口縁部片	—	—	[3.8]	①平縁口縁。口唇部刻み。残存部無文。 ②雲母多量,長石・石英少量含み,密。 ③5YR5/4にぶい赤褐 ④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		41	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[6.5]	①平縁口縁。無文。 ②雲母・長石・石英少量含み,密。 ③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
		42	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[6.5]	①平縁口縁。口唇部刻み。口縁部文様帯を単列の結節沈線を側した隆帯により楕円形に区画する。内面磨き。 ②雲母中量,石英・長石少量含み,密。 ③10YR2/1黒　④良好	阿玉台Ⅱ式	写18
		43	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	[5.4]	①半截竹管状工具による単列の結節沈線を側した隆帯により区画。 ②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③10YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	外面煤付着 写18
		44	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[5.4]	①平縁口縁。口縁部端に丸棒状工具による刻み。口縁部文様帯に複列の結節沈線を楕円状に施す。内面磨き。 ②長石・雲母多量,石英中量含み,密。 ③5YR4/3にぶい赤褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写18
		45	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[5.9]	①平縁口縁。口縁部端に丸棒状工具による刻み。口縁部文様帯に複列の結節沈線を楕円状に施すと推定。内面磨き。 ②雲母多量,石英・長石中量含み,密。 ③5YR4/2灰褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写18
		46	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[4.0]	①平縁口縁。隆帯により楕円形に区画され,区画内に貝殻による連続爪形文を施文。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,密。 ③7.5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写18
33		47	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[3.7]	①平縁口縁。口縁部端に刻み。複列の結節沈線を横位に施文し,半截竹管状工具による沈線を波状に施文。 ②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③7.5YR4/1褐灰 ④良好	阿玉台Ⅱ式	写19

（ ）は復元値，［ ］は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	番号	出土地点	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①文様等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
33	48	SK-16	縄文土器深鉢	完形	11.7	7.4	16.1	①４単位の小突起を有する平縁口縁。小突起は棒状貼付。突起貼り付け後無節縄文を縦位に施文。②雲母多量,石英・長石少量含み,密。　③10YR6/4にぶい黄橙　④普通	大木７b式	内・外面煤付着。写19
	49		縄文土器深鉢	胴～底部 1/3	—	(10.8)	［25.9］	①単節LR縄文を縦位施文後丸棒状工具による結節沈線を波状に垂下させ,下端で繋ぐ。底面網代痕。②長石・雲母多量,石英少量含み,密。　③7.5YR6/6橙　④良好	大木７b式	SK-14出土遺物と遺構間接合。写19
	50		縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.5］	①平縁口縁。単節LR縄文を縦位施文。②長石・雲母多量,石英少量含み,密。　③10YR3/2黒褐　④良好	大木７b式	写19
	51		縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［6.7］	①単節RL縄文を縦位施文。②長石・雲母多量,石英少量含み,密。　③7.5YR4/1褐灰　④良好	大木７b式	写19
	52		縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［7.4］	①単節LR縄文を縦位施文後丸棒状工具による結節沈線を横位に施文。　②長石・雲母多量,石英少量含み,密。　③10YR3/1黒褐　④良好	大木７b式	写19
34	1	SK-17	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.1］	①平縁口縁。口唇部刻み。口縁部と頸部を貝殻による連続爪形文により隔す。口縁部文様帯には丸棒状工具による波状の単列結節沈線を施文。　②長石多量,雲母中量,石英少量含み,密。　③2.5YR3/3暗赤褐　④普通	阿玉台Ⅰb式	写20
	2		縄文土器深鉢	口縁～胴部 7/8	26.7	—	［17.7］	①４単位波状口縁。波頂部の突起は各々異なり,棒状・指頭押圧を有する棒状・コイル状が見られる。②雲母多量,石英・長石少量含み,密。　③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	SK-16出土遺物と遺構間接合。外面煤付着。写20
	3		縄文土器深鉢	口縁～胴部1/5	(28.1)	—	［26.0］	①平縁口縁。残存部無文。　②雲母多量,石英・長石少量含み,密。　③10YR5/3にぶい黄褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	内面煤付着 写20
	4		縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［15.1］	①指頭押圧を有する垂下隆帯が４単位付されるものと推定。内・外面磨き。　②雲母多量,石英・長石少量含み,密。　③5YR4/4にぶい赤褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写20
	5		縄文土器深鉢	胴部1/2	—	—	［19.9］	①指頭押圧を有する垂下隆帯が４単位付されるものと推定。②雲母中量,石英・長石少量含み,密。③7.5YR6/4にぶい橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	SK-16出土遺物と遺構間接合。外面煤付着。写20
	6		縄文土器浅鉢	口縁部片	—	—	［7.7］	①双波状口縁と推定。残存部無文。　②長石・石英多量,雲母少量含み,密。　③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写20
	7		縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.9］	①横位の隆帯に連続爪形文を施文。②雲母多量,石英・長石少量含み,密。　③7.5YR4/3褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写20
	8		縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.2］	①平縁口縁。残存部無文。内・外面磨き。　②雲母中量,石英・長石少量含み,密。　③10YR3/1黒褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写20
	9		縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.5］	①複列の波状沈線を横位に施文し区画。区画内に櫛歯状工具（貝：アナダラ属）により横位連続施文。②雲母中量,石英,長石少量含み,密。　③10YR4/2灰黄褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写20
	10		縄文土器深鉢	胴部～底部片	—	(10.1)	［4.2］	①残存部無文。底面網代痕。②長石・石英中量,雲母少量含み,やや発泡。　③7.5YR5/3にぶい褐　④良好	阿玉台Ⅱ式ヵ	写20
	11		縄文土器深鉢ヵ	底部片	—	［5.8］	［1.2］	①底面木葉痕。②長石・石英中・雲母少量含み,密。③7.5YR4/2灰褐　④良好	阿玉台Ⅱ式ヵ	写20
35	1	SK-19	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.3］	①波状口縁。口縁部文様帯には縄文(無節Ｒの縦位又は単節LRの横位）施文後波状沈線・横位沈線を施す。内面磨き。　②長石中量,石英・雲母少量含み,密。③5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式後半	SK-19NO.1と2は同個体。写20
	2		縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［1.8］	①縄文(無節Ｒの縦位又は単節LRの横位）施文後斜位沈線を施す。内面磨き。　②長石中量,石英・雲母少量含み,密。③5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅱ式後半	写20
	3		縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［3.7］	①複列の結節沈線を側した隆帯が「Ｙ」字状に垂下する。隆帯には指頭押圧が施される。　②雲母多量,石英,長石少量含み,やや発泡。　③7.5YR6/4にぶい橙　④普通	阿玉台Ⅲ式	写20
	4		縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.0］	①波状口縁。外面口縁部無文。内面波頂部下に隆帯による円形状のモチーフ。内・外面丁寧な磨き。②長石・雲母中量,石英少量含み,密。　③7.5YR4/2灰褐　④良好	大木８a式	写20
	5		縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.3］	①平縁口縁。単節LR縄文を口縁部下で斜位・以下を縦位に施す。内面丁寧な磨き。　②石英・長石・雲母少量,黒色鉱物微量含み,密。　③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	大木８a式	写20
	6		縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［6.7］	①横位隆帯貼付け後単節LR縄文を縦位に施文。内面風化が顕著。　②長石中量,石英・雲母少量含み,やや発泡。　③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	大木８a式	SK-19NO.6と7は同個体。写20

（ ）は復元値，[ ] は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①文様等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
35	SK-19	7	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	[3.5]	①単節LR縄文を縦位に施文。内面風化が顕著。 ②長石中量,石英・雲母少量含み,やや発泡。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	大木８a式	写20
		8	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	[3.6]	①単節RL縄文を縦位に施文後縦位沈線を施す。内面風化が顕著。 ②雲母多量,長石・石英少量含み,やや発泡。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	大木８a式	写20
	SK-20	1	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[8.7]	①４単位波状口縁と推定。波頂部に刻みを有する扇状把手が付される。口縁部文様帯は扇状把手から垂下する棒状貼付文により区画され,区画内には連続爪形文・半截竹管状工具背面による連続刺突文が施される。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	阿玉台Ⅰb～Ⅱ式	写21
		2	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[5.2]	①平縁口縁。口唇部刻み。口縁部と頸部を連続爪形文で隔す。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,密。 ③5YR5/3にぶい赤褐　④普通	阿玉台Ⅱ式	写21
		3	縄文土器浅鉢	口縁～胴部1/4	(36.1)	—	[16.8]	①平縁口縁。口縁部文様帯を隆帯により長楕円に区画し,区画内に隆帯に沿った幅広の結節沈線を施す。外面磨き。 ②雲母多量,長石中量,石英少量含み,密。 ③2.5Y6/2灰黄　④良好	阿玉台Ⅱ式	写21
		4	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[5.6]	①波状口縁。口縁部と頸部を横位隆帯で隔す。口縁部文様帯には隆帯に沿って幅広の結節沈線を施す。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,やや発泡。 ③10YR6/4にぶい黄橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	写21
		5	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[6.8]	①波状口縁と推定。口縁部に突起が剥離した痕跡あり。横位隆帯と縦位隆帯の結合部は幅広の隆帯となる。隆帯に沿って半截竹管状工具による平行沈線が施される。内面丁寧な磨き。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,密。 ③10YR6/4にぶい黄橙　④良好	阿玉台Ⅱ式	写21
		6	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	[9.7]	①櫛歯状工具による波状沈線を縦位に施文。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	内面煤付着 写21
		7	縄文土器浅鉢	口縁部片	—	—	[9.0]	①波状口縁。残存部無文。内・外面磨き。内面口縁部下に稜。②雲母多量,石英・長石少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	阿玉台Ⅱ式	写21
		8	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	[4.4]	①単節LR縄文を縦位に施文後,縦位の沈線を施文。 ②雲母中量,石英・長石・小礫少量含み,密。 ③5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅲないし Ⅳ式	写21
		9	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[4.7]	①波状口縁波頂部。外面は単節LR縄文を縦位施文後幅広半截竹管状工具による横位・斜位の押引文を施す。内面は双円と推定される隆帯を付す。 ②長石・石英・雲母多い量含み,密。 ③2.5YR4/3にぶい赤褐 ④良好	阿玉台Ⅲないし Ⅳ式	写21
		10	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[6.7]	①平縁口縁。口縁部端押引文。楕円状と推定される隆帯内に側して連続押引文を施文し区画。区画内には波状の沈線を横位に施文。 ②長石・石英・雲母少量含み,密。 ③5YR4/2灰褐　④普通	阿玉台Ⅲないし Ⅳ式	写21
		11	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[4.9]	①波状口縁。口縁部文様帯には幅広の結節沈線を施し,同様工具を連続回転させ斜位に施文。②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③7.5YR4/1褐灰　④普通	阿玉台Ⅲないし Ⅳ式	写21
36		12	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[9.1]	①平縁口縁。口唇部の一部に単節RL縄文が横位に施文される。口縁部は横位隆帯により隔され,文様帯には丸棒状工具による横位沈線・波状沈線を施文。胴部には単節RL縄文を縦位施文後丸棒状工具による横位沈線・波状沈線が施される。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,密。 ③7.5YR6/6橙　④普通	阿玉台Ⅳ式	写21
		13	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[4.2]	①波状口縁。単節RL縄文を縦位施文後丸棒状工具による横位沈線・波状の結節沈線を施す。 ②長石中量,石英・雲母少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	阿玉台Ⅳ式	写21
		14	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[5.5]	①波状口縁。口縁部と頸部は横位沈線により隔される。口縁部文様帯は隆帯により楕円形状に区画後単節LR縄文を横位施文。区画内には丸棒状工具による沈線が隆帯に沿って施される。 ②雲母多量,石英・長石・雲母少量含み,密。 ③7.5YR4/2灰褐　④普通	阿玉台Ⅳ式	写21
		15	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	[10.5]	①平縁口縁。単節RL縄文を全体的に施す。縄文は口縁部下のみ横位施文で,他は縦位施文。内面磨き。 ②雲母中量,石英・長石少量含み,やや発泡。 ③7.5YR3/2黒褐　④良好	大木７b式	写21
		16	縄文土器深鉢	口縁部 1/4	—	—	[8.7]	①平縁口縁。単節LR縄文を縦位に施文。内面磨き。 ②雲母中量,石英・長石少量含み,やや発泡。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④普通	大木７b式	写21

（ ）は復元値，［ ］は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①文様等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
36	SK-20	17	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.1］	①単節LR縄文を縦位施文後楕円形状に棒状工具による沈線で区画。区画内にも同様の区画を施す。 ②雲母多量,石英・長石・雲母少量含み,密。 ③7.5YR4/1褐灰　④普通	大木8a式	写21
		18	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.5］	①平縁口縁。単節LR縄文を横位施文。 ②雲母中量,石英・長石・雲母少量含み,密。 ③7.5YR4/1褐灰　④普通	大木8a式	写21
		19	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.4］	①丸棒状工具による沈線を縦位に施文。 ②雲母中量,石英・長石少量含み,密。 ③7.5YR4/2灰褐　④普通	大木8a式	写21
	SK-36	1	縄文土器深鉢	ほぼ完形	25.5	10.3	36.0	①４単位波状口縁。波頂部には棒状貼付文。連続爪形文を多段に施文する。 ②長石・雲母多量,石英中量含み,やや発泡。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	内・外面煤付着。写22
37		2	縄文土器深鉢	ほぼ完形	28.2	11.5	41.2	①平縁口縁。口唇部に櫛歯状工具で押引文を施す。口縁部文様帯は口唇部より垂下する「Ｖ」字状の隆帯貼付け→連続爪形文→櫛歯状工具（８本単位）による斜位押引文で構成される。部分的に櫛歯状工具による押引文が横位に施文される。頸部無文。胴部は連続爪形文を側した「Ｖ」字状の隆帯を繋ぎ,隆帯先端より指頭押圧を有する隆帯を垂下させる。垂下隆帯間には連続爪形文で楕円形区画が構成される。 ②長石・雲母多量,石英少量含み,密。 ③7.5YR6/6橙　④普通	阿玉台Ⅱ式	写22
36		3	縄文土器浅鉢	口縁～胴部1/4	(30.4)	—	［11.1］	①平縁口縁。口縁部文様帯を隆帯により４単位の長楕円に区画。内面口唇部赤彩。内・外面丁寧な磨き。②石英・長石・雲母少量含み,密。③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	阿玉台Ⅱ式	写21
		4	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.9］	①円形の隆帯上に棒状工具先端による複列の連続刺突を施し,隆帯下にも側して連続刺突を施す。内面丁寧な磨き。②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③7.5YR4/3褐　④良好	勝坂式	写21
37	SK-１	1	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［3.6］	①単節LR縄文を縦位に施文。②雲母中量,石英少量含み,密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④良好	大木７b式ヵ	写22
		2	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［3.8］	①多条の沈線を縦位に施す。内面丁寧な磨き。②石英・長石少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	中期後半	写22
	SK-2	1	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.1］	①平縁口縁。隆帯により楕円形に区画され半截竹管状工具による連続爪形文を施文。②雲母中量,石英・長石少量含み,密。 ③5YR4/4にぶい赤褐　④良好	阿玉台Ⅰb～Ⅱ式	写22
		2	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.2］	①４単位波状口縁と推定。波頂部より隆帯が垂下し,複列の結節沈線を斜位に施文。 ②雲母中量,石英・長石少量含み,密。 ③7.5YR4/2灰褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写22
		3	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.2］	①平縁口縁。口縁部隆帯端部に丸棒状工具により刻みを施す。単節LR縄文を斜位に施文。 ②石英・長石・雲母少量含み,やや発泡。③7.5YR3/1黒褐　④普通	大木8a式	写22
		4	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［2.9］	①平縁口縁。半截竹管状工具による平行沈線間に丸棒状工具により交互に刺突。単節RL縄文を施す。 ②石英・長石・雲母少量含む。 ③7.5YR4/3褐　④普通	大木8a式	写22
		5	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.1］	①平縁口縁。単節LR縄文を斜位に施文。 ②石英・長石中量,雲母少量含む。 ③10YR5/3にぶい黄褐 ④普通	中期中葉	写22
		6	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［3.5］	①単節RL縄文を縦位施文後丸棒状工具による横位沈線を施す。内面磨き。 ②石英・長石中量,雲母少量含む。 ③2.5YR4/1赤灰　④良好	加曽利B式	写22
		7	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［2.8］	①単節LR縄文を斜位施文後丸棒状工具による横位平行沈線を施す。内面磨き。 ②石英・長石中量・雲母少量含む。 ③10YR4/1褐灰　④良好	加曽利B式	写22
		8	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.1］	①単節LR縄文を斜位施文後丸棒状工具により,口縁端部に横位沈線を施す。内面磨き。 ②石英・長石中量,雲母少量含む。 ③2.5YR4/1赤灰　④良好	加曽利B式	写22
	SK-12	1	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.0］	①平縁口縁。口唇部丸棒状工具による刻み。口縁部文様帯に連続爪形文を施文。内面磨き。②石英・長石・雲母少量,角閃石微量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④良好	阿玉台Ⅱ～Ⅲ式	写22
		2	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.5］	①横位・斜位隆帯により三角形区画を構成後単節RL縄文を施文。縄文施文後三角形区画に沿って丸棒状工具による沈線を施す。 ②長石・雲母多量,石英少量含み,密。 ③7.5YR6/6橙　④不良	阿玉台Ⅲ式	写22
		3	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.5］	①４単位波状口縁で波頂部に突起が付くと推定。単節LR縄文を横位・縦位に施文。 ②石英・長石・雲母多量含み,密。 ③7.5YR3/4褐　④普通	阿玉台Ⅲ式	写22

（ ）は復元値，［ ］は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①文様等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
37	SK-12	4	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.0］	①平縁口縁。口唇部０段多条RL縄文を横位に施文。口縁部文様帯は半截竹管状工具による結節沈線で区画。区画内は０段多条RL縄文を縦位に施文後丸棒状工具による波状沈線。内面磨き。 ②雲母中量,長石・石英少量含み,やや発泡。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	阿玉台Ⅲ～Ⅳ式	写22
		5	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.2］	①波状口縁。口縁部肥厚。単節LR縄文施文後丸棒状工具による単沈線・結節沈線を施す。横位単沈線上に円形竹管状工具による交互刺突。 ②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③10YR6/4にぶい黄橙　④良好	中峠式並行	写22
		6	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［2.7］	①単節RL縄文を縦位施文後丸棒状工具による横位・縦位沈線を施し,平行して波状沈線を施文。 ②石英・長石・雲母多量含む。 ③10YR4/2灰黄褐　④普通	中期中葉	写22
		7	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［6.6］	①平縁口縁。口縁部下に横位沈線。丸棒状工具弧状の沈線で飾る。②雲母多量,石英・長石少量含み,やや発泡。 ③2.5YR4/1赤灰　④普通	中期中葉	写22
	SK-26	1	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.8］	①平縁口縁。口縁部下に横位沈線。並走する単列の結節沈線を横位に施文し,上下を斜位・弧状の沈線で飾る。②雲母多量,石英・長石少量含み,やや発泡。 ③5YR5/6明赤褐　④普通	阿玉台Ⅰb式	写22
		2	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.0］	①４単位波状口縁と推定。口唇部に刻み。口縁部文様帯は波頂部より垂下する刻みを有する隆帯で区画され,区画内には丸棒状工具による単列の結節沈線が区画に沿って施文。空白部には斜位の丸棒状工具による単列結節沈線を充填する。波頂部に突起が付されるものと推定。 ②雲母多量,石英・長石少量含み,密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④良好	阿玉台Ⅰb～Ⅱ式	写22
38	SK-38	1	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［5.6］	①単節RL縄文施文後丸棒状工具による沈線。 ②雲母多量,長石中量,石英少量含み,密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	中期中葉	写23
		2	縄文土器深鉢	底部片	—	(9.2)	［3.8］	①残存部無文。底面網代痕。 ②長石・石英・雲母中量含み,密。 ③5YR5/4にぶい赤褐　④普通	中期中葉	写23
	SB-2(2-2)	1	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.8］	①単節LR縄文を横位に施文後,横位・縦位の幅広連続爪形文を施し,横位の爪形文と合わせ横位の隆帯を施す。 ②石英・長石・雲母少量含む。 ③5YR4/3にぶい赤褐　④良好	勝坂式	写23
	SD-2	1	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［8.0］	①平縁口縁。単節RL縄文を縦位に施文後口縁部下に平行する山形の沈線を施文。 ②石英・長石・雲母中量含み,密。 ③10YR3/2黒褐　④普通	阿玉台Ⅲ式	写23
		2	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［6.4］	①垂下する隆帯上に単節RL縄文を横位に施文後,隆帯両側に半截竹管状工具による押引文を施文。 ②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③10YR4/2灰黄褐　④普通	阿玉台Ⅲ式	写23
		3	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.4］	①平縁口縁。単節RL縄文を横位に施文後口縁下に半截竹管状工具による平行する刺突を施文する。 ②石英・長石多量,雲母少量含む。 ③7.5YR4/2灰褐　④普通	阿玉台Ⅳ式	写23
		4	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.4］	①平縁口縁。単節RL縄文を横位に施文後口縁部下に半截竹管状工具による平行する沈線を施文し,半截竹管状工具により沈線内に交互に刺突を施す。 ②雲母中量,石英・長石少量含み,密。 ③5YR4/3にぶい赤褐　④良好	大木8a式	写23
		5	縄文土器浅鉢	口縁部片	—	—	［5.2］	①波状口縁に2対の小突起を付す。単節LR縄文を横位に施文後口縁部下に半截竹管状工具による平行する押引文を弧状に施文。 ②雲母多量,石英・長石中量含む。 ③10YR3/2黒褐　④普通	大木8a式	写23
		6	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［4.7］	①平縁口縁。口唇部から単節LR縄文を横位に施文後,口縁部に横位波形の隆帯を施す。内面剥落顕著。 ②石英・長石・雲母少量含む。 ③5YR4/3にぶい赤褐　④良好	大木式	写23
		7	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［4.2］	①単節RL縄文を縦位に施文後半截竹管状工具による平行する沈線を施文する。 ②雲母多量,石英・長石中量含み,密。 ③7.5YR4/3褐　④良好	大木式	写23
		8	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［2.9］	①単節LR縄文を横位に施文する。絡条体圧痕。 ②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③10YR5/3にぶい黄褐　④良好	大木式	写23
		9	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［3.7］	①単節LR縄文を縦位に施文後隆帯によって区画。渦巻文を描くと推定。 ②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③10YR5/3にぶい黄褐　④良好	加曽利EⅠ（Ⅱ初ヵ）式	写23
		10	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.9］	①平縁口縁。単節LR縄文を横位に施文する。内面磨き。 ②石英・長石・雲母中量含み,密。 ③7.5YR4/2灰褐　④良好	加曽利B式	写23
		11	縄文土器浅鉢	口縁部片	—	—	［3.6］	①平縁口縁。内・外面磨き。 ②石英・長石・雲母中量含み,密。 ③10YR4/1褐灰　④良好	加曽利B式	写23

（ ）は復元値，［ ］は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①文様等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
38	SE-1	1	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［5.8］	①半截竹管状工具による縦位の細かい押引文をU字状に施文，横位の押引文を施文。②石英・長石・雲母中量含み，密。③5YR4/3にぶい赤褐　④普通	阿玉台Ⅲ式以降ヵ	写23
		2	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［5.0］	①横位の連続爪形文を施文。縦位の隆帯が剥落した痕跡を有す。②石英・長石・雲母少量含み，密。③10YR5/3にぶい黄褐　④普通	阿玉台Ⅲ式以降ヵ	写23
	Pit群-1. P-1	1	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［5.6］	①横位隆帯貼付け後単節RL縄文を横位に施文し，上部には横位沈線を施す。 ②雲母中量，石英・長石少量含む。 ③5YR4/3にぶい赤褐　④普通	勝坂式	写23
	Pit群-2. P-4	1	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.5］	①波状口縁。単節RL縄文を横位に施文後棒状工具先端で連続刺突を施す。内面磨き。 ②石英・長石多量，雲母少量含む。 ③7.5YR4/2灰褐　④普通	阿玉台Ⅳ式	写23
	遺構外	1	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［6.6］	①４単位波状口縁と推定。波頂部より隆帯が垂下。複列の結節沈線を施文。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③5YR4/4にぶい赤褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	写23
		2	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［8.3］	①波状口縁。口縁部文様帯は隆帯により区画した後単節RL縄文を施文。区画内には複列の幅広結節沈線が隆帯に沿って施される。内・外面からの補修孔。内面磨き。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，やや発泡。③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	阿玉台Ⅲ式	写23
		3	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.7］	①波状口縁。単節LR縄文を施文後２条１組の三角押文を施す。波頂部下の頸部文様帯には突起が付されていたものと推定。 ②雲母多量，長石中量，石英・黒色粒少量含み，やや発泡。 ③10YR6/4にぶい黄橙　④良好	阿玉台Ⅲ式	写24
39		4	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［11.3］	①平縁口縁。口縁部と頸部を丸棒状工具による横位沈線により分割する。口縁部文様帯には単節RL縄文を全体的に施文。縄文は口縁部下のみ横位施文で，以下は縦位施文。 ②長石・雲母多量，石英少量含み，密。③10YR5/3にぶい黄橙　④普通	阿玉台Ⅳ式	写24
		5	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.9］	①波状口縁。波頂部刻み。単節RL縄文施文後波頂部より垂下隆帯。 ②長石多量，雲母中量，石英少量含み，やや発泡。 ③7.5YR6/6橙　④普通	阿玉台Ⅳ式	写24
		6	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［7.4］	①平縁口縁。単節RL縄文を縦位に施文。 ②長石多量，雲母中量，石英少量含む。 ③5YR3/1黒褐　④普通	阿玉台Ⅳ式	写24
		7	縄文土器深鉢	口縁～胴部1/5	—	—	［17.4］	①平縁口縁。口唇部に刻み。口縁部文様帯には大小の突起が付される。内面口縁部には外面と対称的な突起が付される。頸～胴部に単節RL縄文を横位・縦位・斜位に施文。 ②長石多量，雲母中量，石英少量含み，密。③10YR4/2灰黄褐　④良好	大木７b式	写24
		8	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［5.1］	①平縁口縁。丸棒状工具による口唇部に刻み。単節RL縄文を縦位に施文。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③7.5YR4/2灰褐　④良好	大木７b式	写24
		9	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［2.7］	①平縁口縁。口唇部に丸棒状工具で刻み。口縁部に縄文原体を施文し，口縁部を縄文原体で区画する。単節LR縄文を縦位に施文。穿孔。 ②石英・長石・雲母少量含む。 ③7.5YR4/2灰褐　④普通	大木７b式	写24
		10	縄文土器深鉢	胴部片	—	—	［3.8］	①横位隆帯に爪形文を施文し，隆帯に沿ってキャタピラ状文を施文。 ②雲母多量，石英・長石少量含む。③7.5YR4/2灰褐　④普通	勝坂式	写24
		11	縄文土器深鉢	口縁部片	—	—	［3.5］	①平縁口縁。口縁部文様帯には棒状工具で平行沈線を施文し，棒状工具先端で交互に刺突。単節RL縄文縦位に施文。 ②雲母多量，石英・長石少量含む。③10YR4/2灰黄褐　④良好	中峠式	写24

第７表　縄文時代土製品観察表

（ ）は復元値，［ ］は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別	最大径(cm)	最小径(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	利用部位	①文様等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
33	SK-16	53	土製円盤	2.2	—	0.7	4.41	胴部	①外面に連続爪形文残る。②雲母多量，石英・長石少量含み，密。 ③10YR4/2灰黄褐　④良好	阿玉台Ⅱ式	側面は全体的に磨耗。写19
36	SK-20	20	土製円盤	2.9	2.5	1.0	9.40	胴部	①無節L縄文を縦位に施文。 ②石英・長石・雲母少量含み，密。 ③10YR4/2灰黄褐　④良好	中期中葉	側面は部分的に磨耗。写21
37	SK-26	3	土製円盤	2.5	2.4	0.8	6.80	胴部	①無文。 ②雲母多量，石英・長石少量含み，密。③5YR4/3にぶい赤褐　④良好	中期中葉	側面は一部を除き磨耗。内面磨き。写22

第８表　縄文時代石器計測・観察表

（ ）は復元値，［ ］は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	番号	出土地点	検出層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
29	25	SK-14	下層	磨石	12.0	6.7	4.0	503.62	輝石安山岩	風化が著しく，磨耗部分の表皮が剥離しているものと推定される。写15
30	11	SK-15	中層	磨石・敲石	［6.8］	［5.9］	［4.4］	214.7	閃緑岩	熱を受けて割れ，表面が赤化している。表裏面共に磨面あり。写16
33	54	SK-16	中層	凹石	［19.9］	［19.7］	4.3	2123.96	石英安山岩	表面と側面の一部は磨耗する。写19
33	55	SK-16	中層	石皿・凹石	［12.8］	［14.3］	［8.9］	1640.28	安山岩	表面を石皿，裏面を凹石として利用している。写19
34	12	SK-17	上層	剥片	1.85	2.4	0.35	1.09	黒曜石	調整痕はみられない。剥片の大きさから，石鏃の素材剥片と推定される。写20
35	9	SK-19	下層	部分研磨石器	5.1	1.6	0.6	9.05	頁岩	全体的に磨耗する。先端部分には研ぎ面が形成されている。写20
37	4	SK-26	下層	石鏃	［1.6］	1.25	0.4	0.88	黒曜石	先端部欠損。浅い抉りを持つ。押圧剥離による両面調整。写22
37	5	SK-26	下層	敲石	10.8	4.9	2.7	211.34	輝石安山岩	完形。裏面と側面に敲打痕が顕著にみられる。熱を受けており，裏面は煤で黒ずむ。写23
37	6	SK-26	下層	磨石	12.9	10.2	6.9	1169.41	石英安山岩	完形。全体的に熱を受ける。表面に煤の付着が顕著にみられる。写23
38	1	SK-33	―	磨石・敲石	10.4	7.2	4.3	426.95	安山岩	上下に敲打痕が顕著にみられる。裏面の磨耗が顕著にみられる。写23
38	3	SE-1	上層	凹石	12.2	8.9	3.9	602.01	石英安山岩	両面に凹あり。側面の磨耗が顕著にみられる。写23
39	12	表採	―	有溝砥石	［5.8］	［3.4］	［4.7］	69.71	砂岩	表面にやや熱を受けた痕跡あり。写24

第９表　縄文時代石器組成表

	石鏃	磨石	敲石	磨石・敲石	凹石	石皿・凹石	有溝砥石	部分研磨石器	剥片	総計
SK-14		1								1
SK-15				1						1
SK-16					1	1				2
SK-17									2	2
SK-19								1		1
SK-26	1	1	1							3
SK-33				1						1
SK-38		1								1
SE-1					1					1
遺構外（表採，攪乱）				2			1			3
総計	1	3	1	4	2	1	1	1	2	16

第 10 表　縄文時代石材別器種組成表

	石鏃	磨石	敲石	磨石・敲石	凹石	石皿・凹石	有溝砥石	砥石	部分研磨石器	剥片	総計
安山岩				1		1					2
輝石安山岩		1	1								2
石英安山岩		1			2						3
頁岩									1		1
黒曜石	1									1	2
砂岩				2			1				3
閃緑岩		1		1							2
石英										1	1
総計	1	3	1	4	2	1	1	0	1	2	16

第 11 表　出土地点別石材組成表

縄文時代遺構

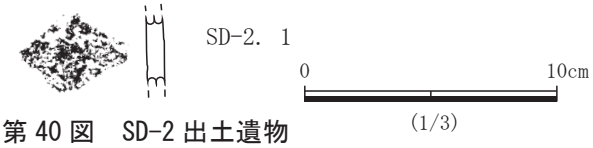
	安山岩	輝石安山岩	石英安山岩	花崗岩	軽石	頁岩	黒曜石	砂岩	石英閃緑岩	閃緑岩	石英	チャート	ホルンフェルス	瑪瑙	礫岩	総計
SK-14		2		7				15				23	1	7		55
SK-15				5	2			11		3		8		7		36
SK-16	1		1	6	3		2	9				18	4	12		56
SK-17				1			1	2		1	1	8	1			15
SK-19						2						1				3
SK-20	1					1		7	1			1			2	13
SK-36																0
総計	2	2	1	19	5	3	3	44	1	4	1	59	6	26	2	178

中世遺構・遺構外

	安山岩	輝石安山岩	石英安山岩	花崗岩	軽石	凝灰岩	頁岩	結晶質石灰岩	黒色片岩	黒曜石	砂岩	閃緑岩	チャート	ヒン岩	片麻岩	ホルンフェルス	瑪瑙	不明	総計
SB-2																	1		1
SD-2	1			8							15		8	1		1	5		39
SK-2	5			20	1	1	2				35	2	8	2	1	1	3		81
SK-9																		1	1
SK-10											1					1			2
SK-12				1							5		1						7
SK-13													4						4
SK-26		1	1							1	4	3	2			1			13
SK-27				2									2	1					5
SK-28								1			2								3
SK-32				2							4			1			1		8
SK-33	1										2								3
SK-34											1		1						2
SK-37				4			1				2		2						9
SK-38												1							1
SE-1	1		1	1							2					2	2		9
SE-3				1							1		2						4
Pit-30				1															1
Pit-33											1								1
遺構外・試掘						1	1		2	1	10		2	3			3		23
総計	8	1	2	40	1	2	4	1	2	2	85	6	32	8	1	6	15	1	217

第２節　弥生時代

該期の遺構は検出されなかったが，SD-2（中世）の覆土から摩耗した壺細片が１点だけ出土した（第40図，第12・17表，写真図版24）。



第40図　SD-2出土遺物

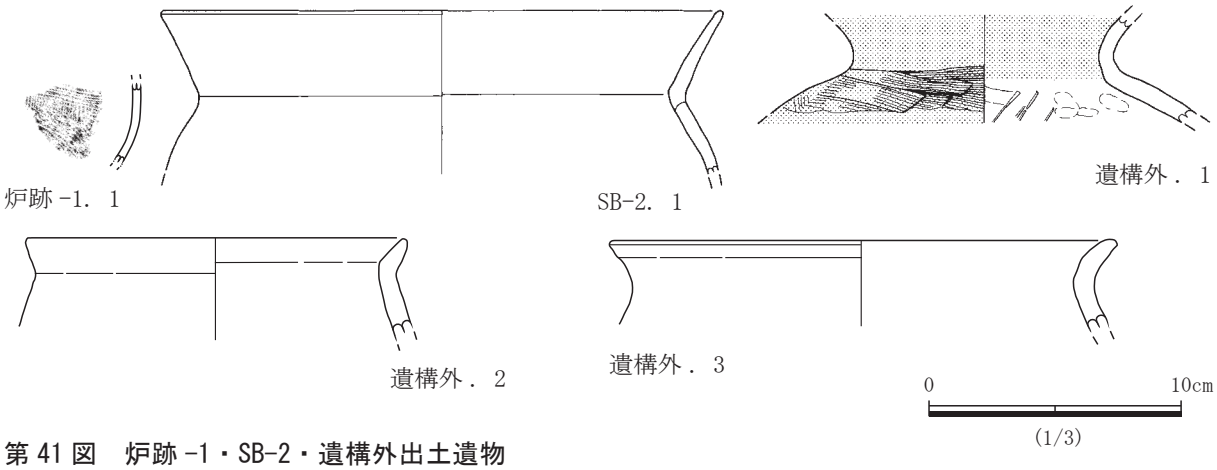
第12表　弥生時代遺物観察表

（ ）は復元値，[ ] は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①技法等　②胎土　③色調　④焼成等	時期	備考
40	SD-2	1	弥生土器 壺	胴部片	—	—	[3.2]	①付加条縄文を施文。②石英少量含み，密。 ③10YR5/2灰黄褐　④良好	後期ヵ	写24

第３節　古墳時代

該期の遺構は検出されなかったが，55点の土師器片が出土した。この内図示可能な５点を掲載した（第41図，第13・17表，写真図版24）。



第41図　炉跡-1・SB-2・遺構外出土遺物

第13表　古墳時代遺物観察表

（ ）は復元値，[ ] は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①技法等　②胎土　③色調　④焼成等	推定年代	備考
41	炉跡-1	1	土師器 甕	胴部片	—	—	[3.5]	①外面：ハケ目。内面：ナデ。②石英・長石・雲母少量含み，密。③7.5YR5/4にぶい褐　④普通	４世紀代	写24
	SB-2	1	土師器 甕	口縁～胴部片	(29.7)	—	[8.6]	①外面：口縁部・胴部上位ナデ　内面：口縁部ヨコナデ。胴部上位ナデ。②石英・長石中量，小礫少量含み，密。③5YR6/6橙　④良好	５世紀 前半ヵ	内・外面煤付着 写24
	遺構外	1	土師器 甕	口縁～肩部片	—	—	[4.1]	①外面：口縁部ヨコナデ。肩部ハケ目。内面：口縁部ヨコナデ。肩部ヘラナデ。指頭痕残る。②石英・長石少量含み，密。③10YR7/3にぶい黄橙　④普通	４世紀代	内面口縁部赤彩・外面口縁～肩部赤彩。写24
		2	土師器 甕	口縁部片	(20.2)	—	[5.1]	①外面：ヨコナデ　内面：ヨコナデ。②石英・長石中量，雲母少量含み，密。③7.5YR5/4にぶい褐　④不良	5世紀代	写24
		3	土師器 甕	口縁部片	(26.7)	—	[4.6]	①外面：ヨコナデ　内面：ヨコナデ。②石英・長石中量，雲母少量含み，密。③7.5Y4/2灰褐　④不良	5世紀代	写24

第４節　中世

出土した遺物は 15 世紀後半～ 16 世紀を主体とした陶磁器と土器で，そのほとんどが破片であり完形あるいはそれに近い遺物はカワラケ３点のみであった。このうち出土数が最も多いものは内耳土鍋で遺構内出土が 378 点，遺構外出土は 39 点を数え，計 417 点である。ついで常滑窯産の陶器壺・甕・捏鉢 12 点，カワラケ６点，瀬戸・美濃窯の陶器碗・皿類３点，瓦質土器の火舎と考えられる１点，景徳鎮窯産の青白磁合子と考えられる１点であった。なお，第 17 表出土遺物一覧表に出土地点毎の詳細を記載している。

舶載品は青白磁合子と考えられる破片が，溝跡（SD-2）の覆土上層から１点出土した。SD-2. 1（第 42・43 図，第 15・17 表，写真図版 25）はロクロ成形で外面に型押しの印花文を陽刻する。13 ～ 14 世紀の景徳鎮窯産製品であろうか。

碗は，瀬戸・美濃窯の製品である。地下式坑（SK-26）から出土している。SK-26. 1（第 42・45 図，第 15・17 表，写真図版 27）は口縁～体部片で内外面に灰釉を施し貫入が入る。15 世紀後半の所産である。

甕は常滑窯製品が出土している。SK-26. 2（第 42・45 図，第 15・17 表，写真図版 27）は口縁部片で，口縁を折り返している。15 世紀後半の常滑 10 型式である。

壺も常滑窯製品である。SK-32. 1 は肩部片で棒状の工具による浅い沈線が１条廻る。SK-32. 2 は胴～底部片で，底部に砂目跡がみられる（第 42・45 図，第 15・17 表，写真図版 27）。SK-33. 1・2 は胴部片で同個体である（第 46 図，第 15・17 表，写真図版 28）。時期はいずれも 15 世紀代，おそらく両者ともに共伴遺物を参考にすると後半の可能性が高い。

捏鉢も常滑窯製品である。SK-32. 3 は口縁～底部の破片で使い込まれており，底部が摩滅によって薄くなった結果割れたと考えられる。SK-32. 4 は体～底部の破片で同様に使い込まれている。（第 42・45 図，第 15・17 表，写真図版 27）。時期はいずれも 15 世紀後半の常滑 10 型式である。

SK-32 出土の陶器壺片１点と壺・甕類１点，捏鉢片３点（内２点は同個体と考えられる）は常滑窯製品であり，破損の後熱を受けている。

卸皿は瀬戸・美濃窯の製品である。SD-2. 2（第 42・43 図，第 15・17 表，写真図版 25）は底部片で回転糸切り痕があり，卸目には白色の釉が認められる。割れ口は砥石として二次利用された可能性があり，褐色の付着物が確認される。15 世紀後半の後期様式とみられる。

これら中世陶器について分類と編年については『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～　発表要旨集』(2005) を基準とした。編年については，15 世紀末～ 16 世紀にまとまり，さらに，遺構の重複関係も顕著でないことから，各遺構間の編年図は作成せず，第 42 図中世陶器・カワラケ・内耳土鍋集成図とした。

土器はカワラケ・内耳土鍋が出土している（第 42 ～ 46 図，第 14・15・17 表，写真図版 25 ～ 28）。

カワラケは SD-2 から出土した SD-2. 3（第 42・43 図，第 15・17 表，写真図版 25）が口縁～体部片で，内面には煤が僅かに付着しており，灯明皿として使用された可能性がある。SK-2. 1・2・4 も

内面及び内外面に煤が僅かに付着していることから，灯明皿として使用された可能性がある。SK-2でのカワラケの出土状況は，地下式坑底面に置かれている状況ではなく覆土下層（底面近く）及び中層からであり，中層から出土したカワラケは流れ込みと判断される。竪坑の入り口部付近に置かれていたものであろうか。15 世紀末～ 16 世紀前葉の所産である。井戸跡(SE-1)から出土した SE-1. 1(第42･46 図，第 15･17 表，写真図版 28)は底部のみの残存である。15 世紀末～ 16 世紀前葉の所産である。

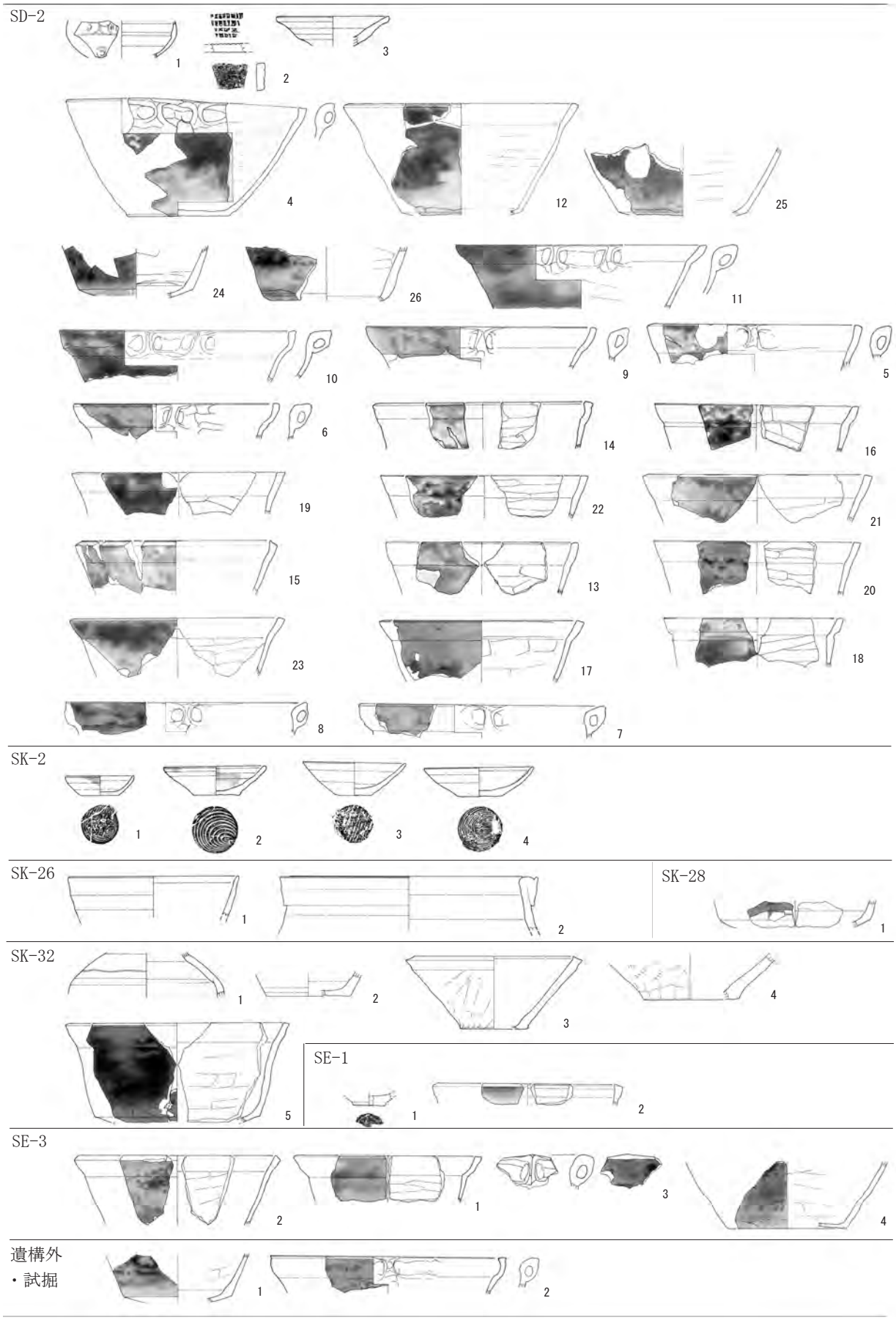
カワラケは SK-2 から出土した４点と SD-2 から出土した１点について分類と編年を行った（第 42 図)。分類と編年は宇留野氏の研究を参考にした（東国中世考古学研究会茨城研修会 2004, 桜川市教育委員会 2006)。宇留野氏が分類した A ～ J 類（A・D・E 類については細分類有り）の内，本遺跡では A・C・D 類に分類された。A2 類は SK-2. 2 と 3, A3 類は SK-2. 4, C 類については強いてあてはめるなら SD-2. 3, D3 類は SK-2. 1 であった。編年では SD-2 が真壁城外曲輪第Ⅰ期（15 世紀後半～ 16 世紀初頭），SK-2 は真壁城外曲輪Ⅱ期（16 世紀前半）にあたると考えられる。

内耳土鍋は溝跡（SD-2）南側の覆土中層からの出土数が多く，314 点と遺構内出土総数の約７割を占める。ただし，個体に復元できたものは無く，1/2 程度の復元が限度であった。口縁～体部までの破片には煤の付着が多く見られ，使用程度を示している。時期は 15 世紀後半～ 16 世紀である。時期については両角まり氏の「内耳鍋から焙烙へ－近世江戸在地系焙烙の成立－」（考古学研究会 1996）を参考にした。

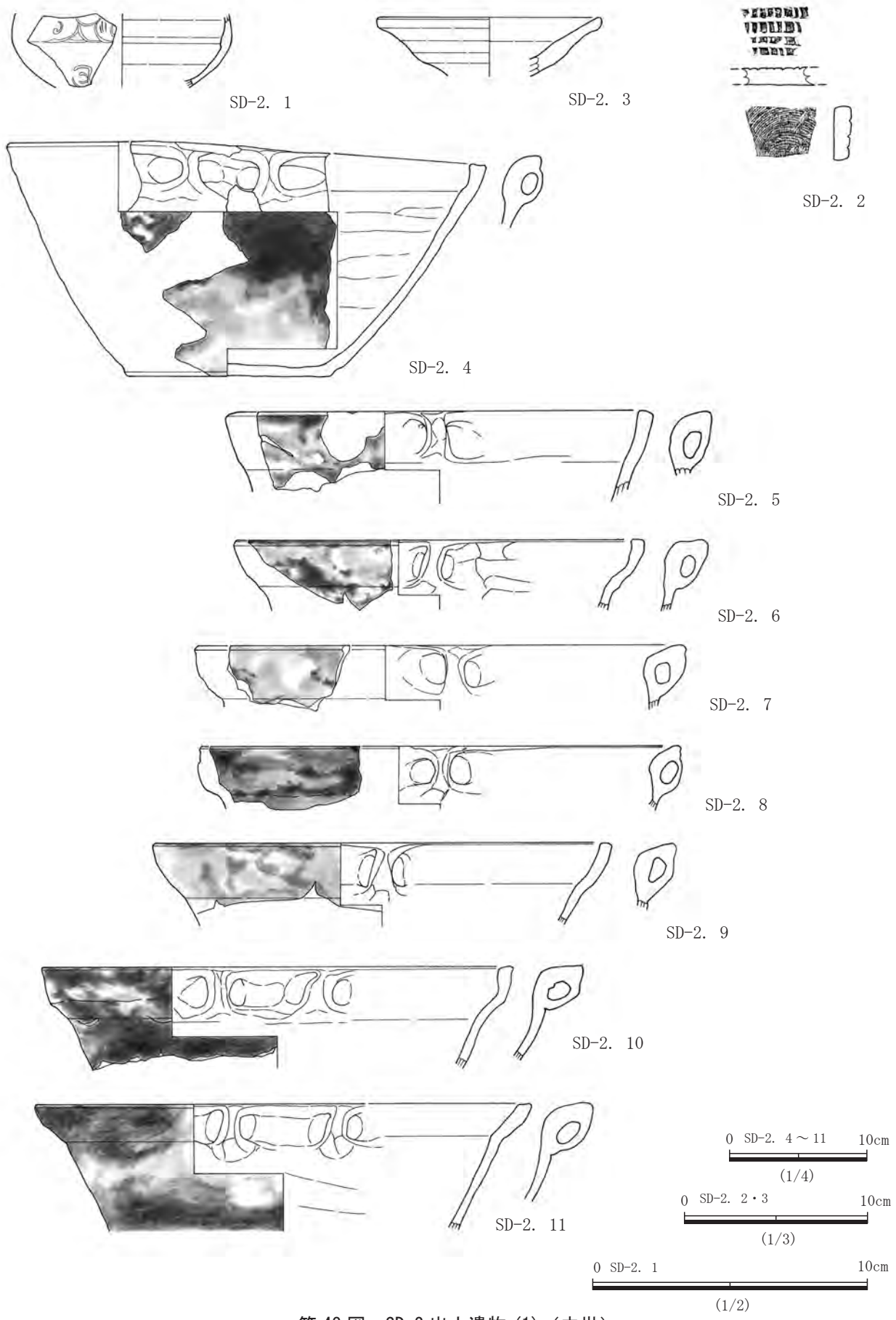
なお，出土した全ての内耳土鍋については丸底・平底の器形で分類し，体部については不明として扱い，以下の表にまとめた。

第 14 表　内耳土鍋分類表

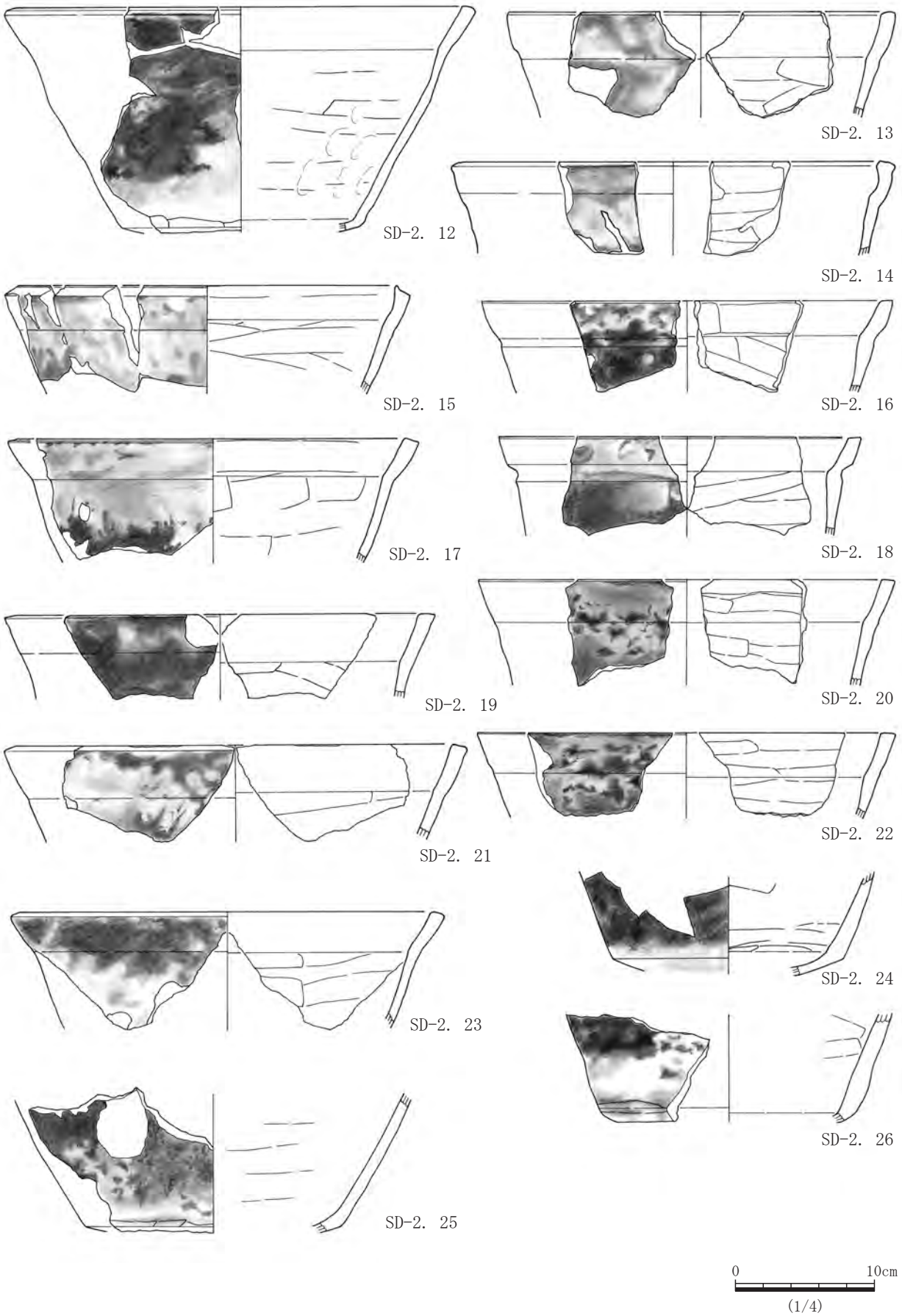
遺構名	口縁部	口縁～底部（丸底）	口縁～底部（平底）	口縁～体部	体部	体部～底部（丸底）	体部～底部（平底）	底部（丸底）	底部（平底）	底部（不明）	合計
SD-1	1				15						16
SD-2	34	1	1	14	222	3		19	16	4	314
SK-9					1						1
SK-13	1										1
SK-28								1			1
SK-32		1			1						2
SK-34	1				2						3
SK-37					2						2
SE-1	3				5						8
SE-3	6			2	16		1	2	3		30
遺構外	9				14	1		1	2		27
試掘	1				10					1	12
合計	56	2	1	16	288	4	1	23	21	5	417



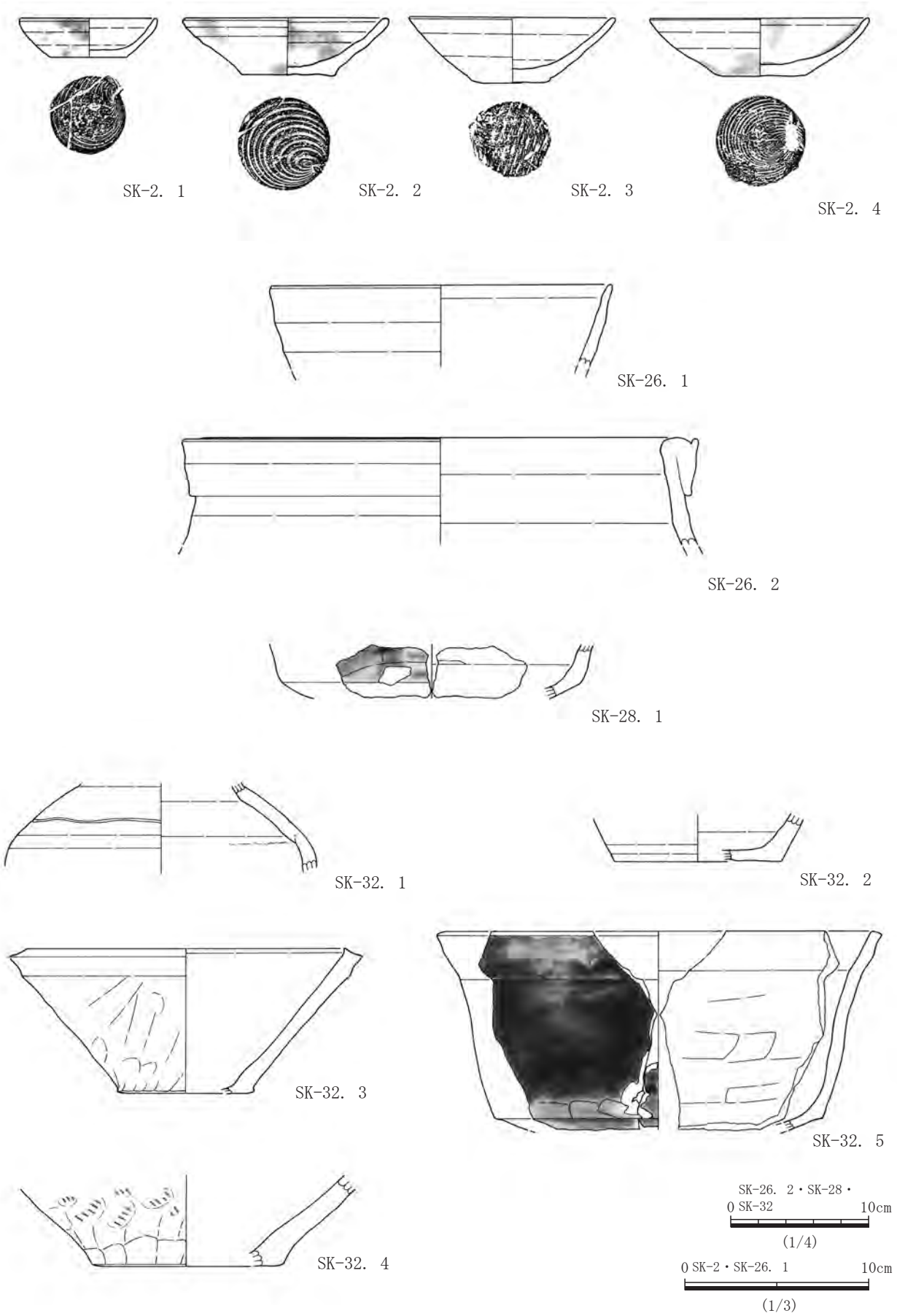
第 42 図　中世陶器・カワラケ・内耳土鍋集成図



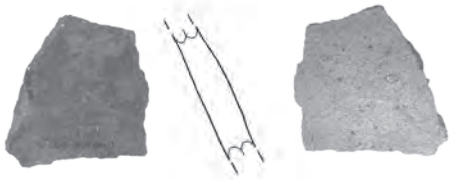
第 43 図　SD-2 出土遺物 (1)（中世）



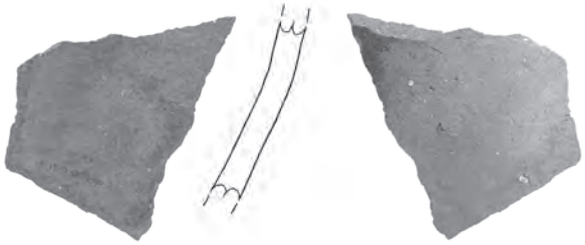
第 44 図　SD-2 出土遺物 (2)（中世）



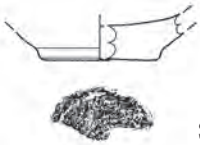
第 45 図　SK-2・26・28・32 出土遺物（中世）



SK-33. 1

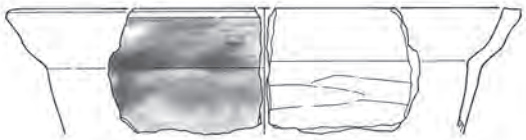


SK-33. 2

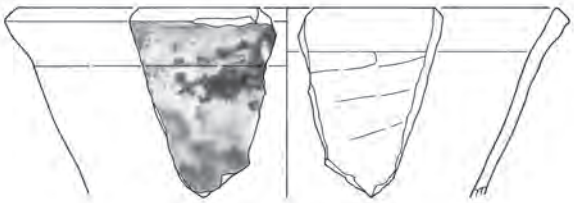


SE-1. 1

SE-1. 2

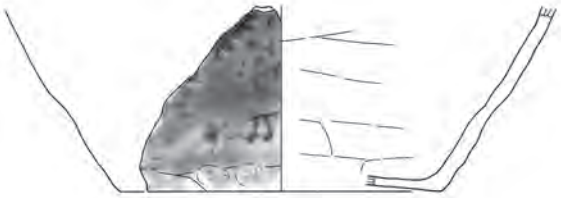


SE-3. 1

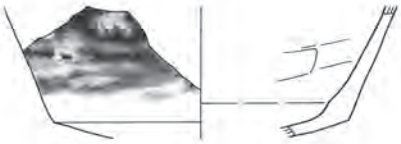


SE-3. 2

SE-3. 3



SE-3. 4



遺構外．1

遺構外．2

SE-1. 2・SE-3・遺構外　0　10cm　(1/4)

SK-33・SE-1. 1　0　10cm　(1/3)

第 46 図　SK-33・SE-1・3・遺構外出土遺物（中世）

第 15 表　中世遺物観察表

（ ）は復元値，[ ] は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①技法等　②胎土　③色調　④焼成等	推定生産地	推定年代	備考
43	SD-2	1	青白磁合子ヵ	肩部片	—	—	[2.6]	①ロクロ成形。外面：印花文ヵを陽刻。②緻密。 ③外-10G7/1明緑灰　内-5G7/1明緑灰　④良好	景徳鎮ヵ	13～14世紀	写25
		2	陶器　卸皿	底部片	—	—	[0.9]	①ロクロ成形。底部回転糸切り。内面底部白色の釉が施された卸目。卸目は先端の尖った工具により刻まれ,一方向に数条の沈線を施した後垂直方向に沈線を施す。②石英・1mm以下の砂粒少量含み,密。 ③10YR8/3浅黄橙　④良好	瀬戸・美濃	15世紀後半	割れ口を二次利用のため一部磨く。写25
		3	カワラケ	口縁～体部片	(12.0)	—	[3.2]	①ロクロ成形。②石英・黒色粒微量含み,密。 ③7.5YR6/6橙　④良好	—	15世紀末～16世紀前葉	内面煤付着。写25
		4	内耳土鍋	口縁～底部1/3	(34.9)	14.8	17.1	①外面：口縁～体部指圧。内面：耳貼付け後ナデ。平底。②石英・長石・雲母・赤色粒少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的・底部煤付着。写25
		5	内耳土鍋	口縁部片	(29.2)	—	[6.6]	①外面：口縁部指圧後ヘラナデ。内面：耳貼付け後ヘラナデ。②雲母・石英・長石・黒色粒少量含み,密。 ③7.5YR7/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写25
		6	内耳土鍋	口縁部片	(29.8)	—	[5.1]	①外面：口縁部指圧後ヘラナデ。内面：耳貼付け後ヘラナデ。②雲母・石英・長石・赤色粒少量含み,密。 ③7.5YR6/6橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写25
		7	内耳土鍋	口縁部片	(35.8)	—	[4.7]	①外面：口縁部ヘラナデ。内面：耳貼付け後ヘラナデ。②雲母・石英・長石・黒色粒少量含み,密。 ③10YR8/4浅黄橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写25
		8	内耳土鍋	口縁部片	(35.2)	—	[4.6]	①外面：口縁部指圧後ナデ。内面：耳貼付け後ヘラナデ。②雲母中量、石英・長石・赤色粒少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写25
		9	内耳土鍋	口縁～体部片	(33.6)	—	[6.0]	①外面：口縁～体部ナデ。内面：耳貼付け後ヘラナデ。②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写25
		10	内耳土鍋	口縁～体部片	(34.0)	—	[7.5]	①外面：口縁～体部指圧後ナデ。内面：耳貼付け後ヘラナデ。②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写25
		11	内耳土鍋	口縁～体部1/4	(36.2)	—	[9.2]	①外面：口縁部ヨコナデ。体部指圧。内面：耳貼付け後ヘラナデ。②石英・角閃石・黒色粒少量,海綿骨針微量含み,密。 ③7.5YR6/6橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写25
44		12	内耳土鍋	口縁～底部1/5	(32.1)	(17.0)	[16.3]	①底部丸底。外面：口縁～体部ナデ。体部下端～底部ヘラ状工具による削り後丁寧な磨き。内面：口縁～体部上位ヨコナデ。体部指圧。体部下端～底部ヘラナデ。②石英・長石・黒色粒少量,海綿骨針微量含み,密。③10YR8/4浅黄橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		13	内耳土鍋	口縁～体部片	(27.7)	—	[7.6]	①外面：口縁～体部指圧後ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。②石英・長石・黒色粒少量含み,密。③10YR8/3浅黄橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		14	内耳土鍋	口縁～体部片	(32.0)	—	[6.7]	①外面：口縁～体部指圧後ナデ。内面：ヘラナデ。②石英・長石・黒色粒・雲母・赤色粒少量含み,密。 ③7.5YR5/4にぶい褐　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		15	内耳土鍋	口縁～体部1/4	(27.2)	—	[7.8]	①外面：口縁部ヨコナデ。体部指圧の後ナデ。内面：ヘラナデ。②石英・長石・雲母・赤色粒子少量含み,密。③7.5YR5/4にぶい褐　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		16	内耳土鍋	口縁～体部片	(29.4)	—	[6.5]	①外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面：ヘラナデ。②石英・長石・黒色粒少量含み,密。 ③7.5YR7/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		17	内耳土鍋	口縁～体部1/4	(27.6)	—	[9.0]	①外面：口縁部指圧後ヘラナデ。体部指圧後ナデ。内面：ヘラナデ。②雲母・石英・長石・赤色粒少量含み,密。③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		18	内耳土鍋	口縁～体部片	(25.0)	—	[7.1]	①外面：口縁～体部指圧後ナデ。内面：ヘラナデ。②石英・長石・黒色粒・赤色粒・雲母少量含み,密。 ③10YR6/4にぶい黄橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		19	内耳土鍋	口縁～体部片	(29.0)	—	[6.1]	①外面：口縁～体部指圧後ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。②石英・長石・赤色粒・雲母少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26

（ ）は復元値，［ ］は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①技法等　②胎土　③色調　④焼成等	推定生産地	推定年代	備考
44	SD-2	20	内耳土鍋	口縁～体部片	(30.0)	—	［7.6］	①外面：口縁～体部指圧後ナデ。内面：ヘラナデ。②石英中量、長石・黒色粒・雲母少量含み,密。 ③5YR6/6橙 ④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		21	内耳土鍋	口縁～体部片	(31.4)	—	［7.0］	①外面：口縁～体部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。②石英・長石・黒色粒・雲母少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい橙 ④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		22	内耳土鍋	口縁～体部片	(30.0)	—	［6.1］	①外面：口縁～体部指圧後ナデ。内面：ヘラナデ。②石英・長石・黒色粒・赤色粒・雲母少量含み,密。 ③5YR6/6橙 ④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		23	内耳土鍋	口縁～体部1/6	(29.7)	—	［8.4］	①外面：口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。②石英・長石・黒色粒少量含み,密。 ③7.5YR6/6橙 ④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		24	内耳土鍋	体～底部1/4	—	(16.6)	［7.0］	①底部丸底。外面：体部指圧の後ナデ。体部下端～底部ヘラ状工具による削り。内面：ヘラナデ。 ②石英・長石・雲母・黒色粒子少量含み,密。 ③7.5YR6/4にぶい褐 ④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的・底部に煤付着。写26
		25	内耳土鍋	体～底部片	—	(18.3)	［10.0］	①底部丸底。外面：体部指圧後ナデ。体部下端～底部ヘラ状工具による削り後丁寧な磨き。内面：ヘラナデ。 ②石英・長石・角閃石少量,海綿骨針微量含み,密。 ③7.5YR7/4にぶい橙 ④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写26
		26	内耳土鍋	体～底部片	—	—	［7.7］	①底部丸底。外面：体部指圧の後ナデ。体部下端～底部ヘラ状工具による削り。内面：ヘラナデ。 ②石英・長石・黒色粒子少量含み,密。 ③7.5YR7/4にぶい橙 ④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的・底部に煤付着。写26
45	SK-2	1	カワラケ	口縁～底部1/5	(7.5)	4.1	2.1	①ロクロ成形。外面：底部回転糸切り。内面：見込みナデ。 ②黒色粒少量含み,密。 ③7.5YR7/4にぶい橙 ④良好	—	15世紀末～16世紀前葉	外面煤付着。写27
		2	カワラケ	口縁～底部2/3	11.2	5.0	3.2	①ロクロ成形。外面：底部回転糸切り。②雲母・海綿骨針微量含み,密。 ③10YR6/4にぶい黄橙 ④良好	—	15世紀末～16世紀前葉	内・外面煤付着。写27
		3	カワラケ	完形	11.1	4.2	3.6	①ロクロ成形。外面：底部回転糸切り後木目状の圧痕。 ②石英・長石・角閃石少量含み,やや発泡。 ③10YR6/6明黄褐 ④不良	—	15世紀末～16世紀前葉	写27
		4	カワラケ	口縁～底部3/4	11.9	4.9	3.1	①ロクロ成形。外面：底部回転糸切り。②黒色粒少量含み,密。 ③10YR6/3にぶい黄橙 ④良好	—	15世紀末～16世紀前葉	内・外面煤付着。写27
	SK-26	1	陶器　平碗	口縁～体部片	(18.4)	—	［4.4］	①ロクロ成形。内・外面に灰釉を施す。貫入。②石英・1mm以下の砂粒少量含み,密。③2.5Y7/2灰黄 ④良好	瀬戸・美濃	15世紀後半	写27
		2	陶器　甕	口縁部片	(37.3)	—	［7.7］	①ロクロ成・整形。口縁部を折り返し,段をつくり出す。口唇部端部はロクロ整形時に削り出し,溝をつくる。内・外面施釉。③石英・長石・1mm以下の砂粒少量含み,密。④2.5YR4/2灰赤 ⑤良好	常滑窯	15世紀後半	写27
	SK-28	1	内耳土鍋	体～底部片	—	—	［3.8］	①外面：体部下端指圧。丸底。②石英・長石少量含み,密。 ③10YR6/4にぶい黄橙 ④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面煤付着。写27
	SK-32	1	陶器　壺	肩部片	—	—	［6.5］	①紐作り。外面：ナデ調整。肩部に棒状の工具による浅い横線が一条廻る。内面：指圧。②石英・長石中量含み,発泡。 ③2.5YR4/2灰赤 ④良好	常滑窯	15世紀代	外面一部分被熱。写27
		2	陶器 壺・甕類	胴部～底部片	—	(12.2)	［3.2］	①紐作り。外面：ナデ調整。底部砂目跡。内面：ナデ調整。 ②石英・長石中量含み,やや発泡。 ③2.5YR5/2灰赤 ④良好	常滑窯	15世紀代	写27
		3	陶器　捏鉢	口縁～底部1/5	(23.0)	(9.97)	［10.5］	①紐作り。外面：体部指圧。②石英少量含み密。やや発泡。 ③5YR4/3にぶい赤褐 ④良好	常滑窯	15世紀後半	外面一部分被熱。写27
		4	陶器　捏鉢	体部～底部片	—	(14.0)	［6.5］	①紐作り。外面：体部平行タタキ後指圧と指ナデ。内面：ナデ。②長石多量、石英少量含み、密。 ③7.5YR4/1褐灰 ④良好	常滑窯	15世紀後半	外面一部分被熱。写27
		5	内耳土鍋	口縁～底部1/4	(31.0)	(23.8)	［14.4］	①底部丸底。外面：口縁～体部指圧後ヘラナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部指圧後ヘラナデ。②石英・長石・雲母少量含み,密。 ③10YR8/3浅黄橙 ④良好	—	15世紀後半～16世紀	底部・体部下端を除き煤付着。写27

（ ）は復元値，[ ] は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

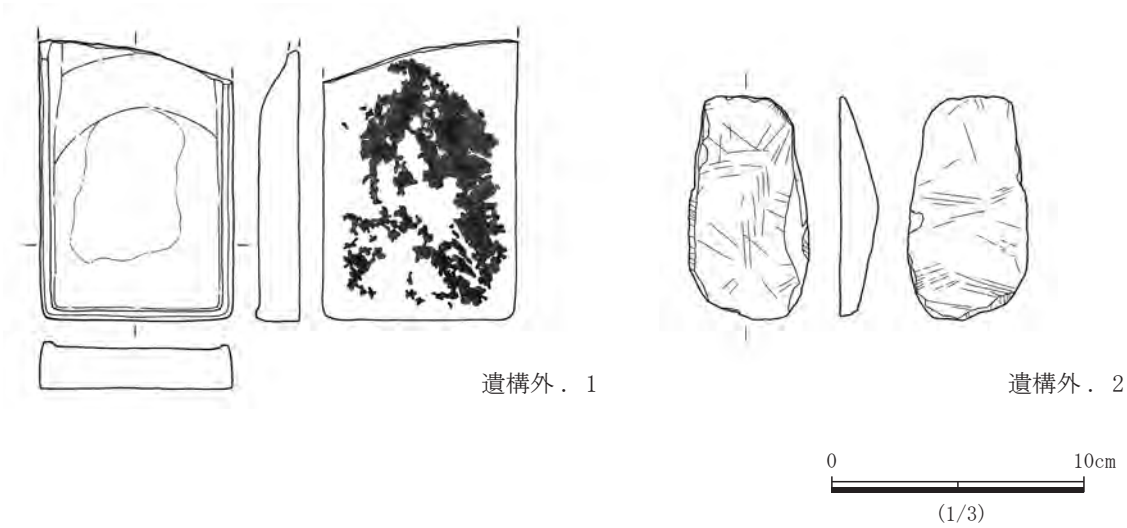
図版番号	出土地点	番号	種別・器種	部位・残存値	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	①技法等　②胎土　③色調　④焼成等	推定生産地	推定年代	備考
46	SK-33	1	陶器　壺	胴部片	—	—	[4.6]	①紐作り。外面：ナデ。内面：ナデ。②長石・黒色粒少量含み、密。③2.5Y5/2灰赤色　④良好	常滑窯	15世紀代	SK-33.№2と同一個体。写28
		2	陶器　壺	胴部片	—	—	[7,0]	①紐作り。外面：ナデ。内面：ナデ。②長石中量、黒色粒少量含み、密。③10YR5/3にぶい黄褐　④良好	常滑窯	15世紀代	SK-33.№1と同一個体。写28
	SE-1	1	カワラケ	底部片	—	(4.5)	[1.8]	①ロクロ成形。外面：底部回転糸切り。②長石中量、石英少量含み、密。③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	—	15世紀末～16世紀前葉	写28
		2	内耳土鍋	口縁部片	(25.6)	—	[3.0]	①外面：口縁部ヨコナデ。内面：口縁部ヘラナデ。②雲母中量、石英・長石・赤色粒少量含み,密。　③5YR6/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面口唇部煤付着。写28
	SE-3	1	内耳土鍋	口縁～体部片	(25.4)	—	[6.6]	①外面：口縁部ヨコナデ。体部指圧後ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。②雲母・石英・長石少量含み,密。③10YR7/4にぶい黄橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写28
		2	内耳土鍋	口縁～体部片	(30.0)	—	[10.0]	①外面：口縁部ヨコナデ。体部指圧後ナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。②雲母・石英・長石少量含み,密。③10YR8/4浅黄橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写28
		3	内耳土鍋	口縁部片	—	—	[5.0]	①外面：口縁部ナデ。内面：耳貼付け後ヘラナデ。②雲母・石英・長石・赤色粒・黒色粒少量含み,密。　③7.5YR7/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写28
		4	内耳土鍋	体～底部片	—	(17.0)	[9.8]	①底部平底。外面：体部指圧後ナデ。内面：ヘラナデ。②雲母多量、石英・長石・赤色粒少量含み,密。　③7.5YR7/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面・底部煤付着。写28
	遺構外	1	内耳土鍋	体～底部片	—	(15.5)	[6.9]	①底部丸底。外面：体～底部ナデ。内面：ヘラナデ。②雲母・石英・長石・黒色粒少量含み,密。　③7.5YR6/6橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面全体的に煤付着。写28
		2	内耳土鍋	口縁部片	(34.0)	—	[5.3]	①外面：口縁部ナデ。内面：耳貼付け後ヘラナデ。②雲母・石英・長石・赤色粒・黒色粒少量含み,密。　③7.5YR6/4にぶい橙　④良好	—	15世紀後半～16世紀	外面煤付着。試掘。写28

第５節　近現代

遺構外（表採）から磁器の皿細片が１点と陶器の甕と考えられる破片が２点出土している。試掘においては磁器の蓋が１点出土している。いずれも明治時代以降のものであると考えられる（第 17 表）。

第６節　時代不明

遺構外（表採）から出土した石製硯と砥石を図示した。硯は粘板岩製と考えられ，海の部分から上端が破損している。海の部分の磨り減った状況から，使い込まれていることがわかる。硯陰には黒色物質が付着している（第 47 図，第 16・17 表，写真図版 28）。砥石も使い込まれており，先端が薄くなっている。また，煤の付着が部分的に僅かにみられる（第 47 図，第 16・17 表，写真図版 28）。（小川）



第 47 図　遺構外出土遺物（時代不明）

第 16 表　時代不明遺構外出土遺物観察表

（ ）は復元値，[ ] は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号を示す。

図版番号	番号	出土地点	検出層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
47	1	遺構外	―	硯	[11.1]	7.6	1.9	260	粘板岩ヵ	硯陰に黒色物質が付着。表採。写28
	2	遺構外	―	砥石	[8.8]	4.8	1.6	72.82	流紋岩	４面使用。一部欠損。擦痕と切り目がみられる。部分的に煤付着。表採。写28

第 17 表　出土遺物一覧表

出土地点	出土遺物			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計
				破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	
SB-1	縄文土器	不明	不明	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SB-2	縄文土器	阿玉台	深鉢	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
			不明	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		勝坂	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			深鉢ヵ	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
			不明	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		不明	不明	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	土師器		甕	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕ないし壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	5
	石・礫		瑪瑙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
SD-1	土器		内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
SD-2	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	33	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33
		阿玉台Ⅱ	深鉢	14	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
		阿玉台Ⅲ	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台Ⅳ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台	深鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
		大木8a	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		大木	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		加曽利EⅠ(EⅡ初ヵ)	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	29	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
			深鉢ヵ	13	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
			不明	140	0	140	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140
		中期ヵ	不明	12	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
		加曽利B	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明	不明	21	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
	土師器		甕	0	0	0	0	0	0	14	0	14	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
			甕ヵ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	6
	須恵器		壺類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			壺ないし甕	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
	土器		弥生後期ヵ　壺	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			カワラケ　在地	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	313	1	314	0	0	0	0	0	0	0	0	0	314
	陶器		甕ヵ　常滑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			灰釉卸皿 瀬戸・美濃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	磁器		青白磁合子ヵ 景徳鎮ヵ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		安山岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	8
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	15	15
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	8
			ヒン岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			ホルンフェルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			瑪瑙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	5
SD-3				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SE-1	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		阿玉台Ⅲ以降ヵ	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台Ⅳヵ	深鉢ヵ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台	深鉢ヵ	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
		大木	浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期中葉	深鉢ヵ	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		中期	深鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
			不明	16	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
		不明	不明	18	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
	土師器		甕ないし壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	6
	土器		カワラケ　在地	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	石器	凹石	石英安山岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		安山岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			ホルンフェルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			瑪瑙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
SE-2				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

出土地点	出土遺物			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計
				破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	
SE-3	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		大木	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		堀之内	不明	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	土師器		甕ないし壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	土器		内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
	石・礫		花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
SK-1	縄文土器	阿玉台	深鉢ヵ	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		大木7bヵ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期後半	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
SK-2	縄文土器	前期	不明	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅰb	深鉢	61	0	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61
		阿玉台Ⅰb～Ⅱ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅱ	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		大木8a	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		大木	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期中葉	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		中期	深鉢	45	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45
			深鉢ヵ	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	173	0	173	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	173
		中期ヵ	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		加曽利B	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		不明	不明	96	0	96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	96
	土師器		坏	0	0	0	0	0	0	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
			甕	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	8
			不明	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	22	24
	陶器		甕　常滑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			皿類 瀬戸・美濃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	土器		カワラケ　在地	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	石・礫		安山岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5	5
			花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	3	20	20
			軽石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			凝灰岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			頁岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	35	35
			閃緑岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	8
			ヒン岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			片麻岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			ホルンフェルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			瑪瑙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3
SK-3				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-4	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			不明	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK-5				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-6				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-7	欠番																											
SK-8				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-9	縄文土器	中期	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	土器		内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
SK-10	縄文土器	中期	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			不明	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		不明	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	21	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
	石・礫		砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			ホルンフェルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
SK-11	縄文土器	中期	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		不明	不明	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	土師器		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3

出土地点	出土遺物			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計
				破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	
SK-12	縄文土器	前期	不明	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅰb	深鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
		阿玉台Ⅱ	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台Ⅱ～Ⅲ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅲ	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台Ⅲ以降	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅲ～Ⅳ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台	深鉢ヵ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中峠並行	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期中葉	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		中期	深鉢	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
			不明	54	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54
		不明	不明	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	石・礫		花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5	5
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
SK-13	縄文土器	中期	不明	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	土器		内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4
SK-14	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	84	1	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	85
		阿玉台Ⅰb～Ⅱ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅱ	深鉢	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
		阿玉台	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		大木7b	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		大木7bヵ	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		大木	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		大木ヵ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	19	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
			深鉢ヵ	94	0	94	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	94
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			浅鉢ヵ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			不明	63	0	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63
	石器	磨石	輝石安山岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		輝石安山岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	7	7
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	15	15
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	2	23	23
			ホルンフェルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			瑪瑙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	7
SK-15	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	24	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
		阿玉台Ⅱ	深鉢	67	1	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68
			浅鉢	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台	深鉢	12	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
		中期	深鉢	76	0	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	76
			不明	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		後期以降ヵ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	31	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31
	石器	磨石・敲石	閃緑岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5	5
			軽石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	2	11	11
			閃緑岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	8	8
			瑪瑙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	7	7
SK-16	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	142	0	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	142
		阿玉台Ⅱ	深鉢	55	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55
			浅鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			浅鉢ヵ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台	深鉢	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
			深鉢ヵ	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		大木7b	深鉢	4	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
		中期	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			深鉢ヵ	131	0	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	131
			不明	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
		中期ヵ	深鉢	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
			不明	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		不明	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			不明	121	0	121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	121

出土地点	出土遺物			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計
				破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	
SK-16	土製品	阿玉台Ⅱ	土製円盤	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石器	凹石	石英安山岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		石皿・凹石	安山岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	6
			軽石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3
			黒曜石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	9	9
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0	18	18
			ホルンフェルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	4
			瑪瑙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	12	12
SK-17	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	23	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
		阿玉台Ⅱ	深鉢	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅱｶ	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			深鉢ｶ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			深鉢ｶ	48	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48
		中期ｶ	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		不明	不明	24	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
	石器	剥片	黒曜石	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			石英	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			閃緑岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	8	8
			ホルンフェルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
SK-18	欠番																											
SK-19	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		阿玉台Ⅱ後半	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台Ⅲ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		大木8a	深鉢	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
		中期中葉	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			深鉢ｶ	18	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期ｶ	浅鉢ｶ	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		不明	不明	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	石器	部分研磨石器	頁岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		頁岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
SK-20	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		阿玉台Ⅰb～Ⅱ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅱ	深鉢	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
			浅鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台Ⅲ以降	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台Ⅲないし Ⅳ	深鉢	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		阿玉台Ⅳ	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		大木7b	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		大木8a	深鉢	19	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		大木	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
			深鉢ｶ	14	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
			浅鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		中期ｶ	深鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
			不明	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	土製品	中期中葉	土製円盤	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		安山岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	7	7
			石英閃緑岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			頁岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			礫岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
SK-21				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-22				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

出土地点	出土遺物			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計
				破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	
SK-23				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-24				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-25				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-26	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
			不明	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台Ⅰb～Ⅱ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅲ以降	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		大木8	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			深鉢ヵ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	土製品	中期中葉	土製円盤	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	土師器		甕	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	4
	陶器		甕　常滑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			灰釉平碗 瀬戸・美濃	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石器	石鏃	黒曜石	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		敲石	輝石安山岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		磨石	石英安山岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4
			閃緑岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			ホルンフェルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
SK-27	縄文土器	中期ヵ	浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明	不明	11	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
	土器	土師器	甕ないし壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	石・礫		花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			ヒン岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
SK-28	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅰ～Ⅱ	深鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
		大木8	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	土器	瓦質	火舎ヵ　在地	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		結晶質石灰岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2
SK-29				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-30				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-31				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-32	縄文土器	中期	不明	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	土師器		高坏	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	陶器		壺　常滑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			壺・甕類　常滑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			捏鉢　常滑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	土器		内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	石・礫		花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4	4
			ヒン岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			瑪瑙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
SK-33	縄文土器	前期	不明	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	不明	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	陶器		壺　常滑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕ヵ　常滑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石器	磨石・敲石	安山岩	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	石・礫		砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
SK-34	縄文土器	中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	土師器		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3
	土器		内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	石・礫		砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
SK-35				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

出土地点	出土遺物			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計
				破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	
SK-36	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			深鉢ヵ	16	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
		阿玉台Ⅱ	深鉢	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		大木8a	深鉢ヵ	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		勝坂	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明	不明	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
SK-37	縄文土器	阿玉台Ⅱ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台	深鉢	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		中期中葉	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		中期	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			不明	29	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
	須恵器		埦ないし壺類ヵ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	土師器		皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	6
	土器		内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	石・礫		花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4	4
			頁岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
SK-38	縄文土器	阿玉台	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		中期中葉	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			深鉢ヵ	9	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	瓦		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	石器	磨石	閃緑岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SK-39				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SK-40	欠番																											
SK-41				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
炉跡-1	土師器		甕	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit群-1.Pit-1	縄文土器	阿玉台	深鉢ヵ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		勝坂	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢ヵ	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		中期ヵ	深鉢ヵ	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	土師器		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
Pit群-1.Pit-2	土師器		甕	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit群-2.Pit-3	土師器		甕	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit群-2.Pit-4	縄文土器	阿玉台Ⅳ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit-2	縄文土器	阿玉台	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期ヵ	不明	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
Pit-4	縄文土器	不明	不明	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	土師器		甕ないし壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
Pit-5	縄文土器	阿玉台Ⅳ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit-6	縄文土器	阿玉台	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期ヵ	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		不明	不明	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
Pit-7	縄文土器	大木8a	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit-8	縄文土器	中期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit-21	土師器	不明	甕ないし壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	9	9
Pit-22	縄文土器	阿玉台	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期	不明	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
Pit-30	石・礫		花崗岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
Pit-33	縄文土器	不明	不明	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	土師器		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
	石・礫		砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
Pit-34	縄文土器	阿玉台	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		大木	深鉢ヵ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期ヵ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Pit-35	縄文土器	中期	深鉢ヵ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

出土地点	出土遺物			縄文			弥生			古墳			奈・平			中世			近世			近・現代			不明			総計
				破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	破片	個体	小計	
遺構外	縄文土器	早期ヵ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅰb	深鉢	37	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37
		阿玉台Ⅰb～Ⅱ	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		阿玉台Ⅱ	深鉢	22	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
			深鉢ヵ	16	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
		阿玉台Ⅲ	深鉢	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		阿玉台Ⅳ	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		阿玉台	深鉢	21	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
		大木7b	深鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		大木	深鉢	11	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
		大木ヵ	深鉢	13	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
		勝坂	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中峠	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期中葉	深鉢	26	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
		中期	深鉢	54	0	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54
			浅鉢	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			浅鉢ヵ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	47	0	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47
		中期ヵ	不明	8	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
		後期	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		不明	不明	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	土師器		坏	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
			甕	0	0	0	0	0	0	14	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
			甕ないし壺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
	土器		内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
		瓦質	火鉢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	陶器		甕ヵ　鉄釉 産地不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
			甕ヵ　産地不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	磁器		皿　産地不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
	瓦		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	石製品	硯	粘板岩ヵ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
		砥石	琉紋岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	石器	有溝砥石	砂岩	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		磨石・敲石	砂岩	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	石・礫		凝灰岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			頁岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			黒曜石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			砂岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	7	7
			チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			ヒン岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
			瑪瑙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3
試掘	縄文土器	阿玉台Ⅰb	深鉢	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		阿玉台Ⅱ	深鉢	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		阿玉台	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		大木	深鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		中期中葉	深鉢	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
		中期	深鉢	14	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
			浅鉢	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
		中期ヵ	不明	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	土師器		坏	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			坏類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			甕	0	0	0	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
			高台ないし器台	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
			不明　高台部分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	土器		内耳土鍋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
	磁器		蓋　プリントヵ 産地不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
	石・礫		チャート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
			ヒン岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
			黒色片岩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2
	鉄製品		不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1
総　計				2643	13	2656	1	0	1	55	0	55	7	0	7	436	4	440	0	0	0	4	1	5	442	27	469	3633

第Ⅵ章　総　括

第１節　縄文時代における土地利用と中期の土坑

標高 38m 前後の台地縁辺部に位置する本調査区で検出された縄文時代の遺構は，中期阿玉台式期の遺物を主体とする袋状土坑７基と，遺物の出土がみられなかった袋状土坑１基，陥し穴状土坑５基であった。

袋状土坑は中期集落において検出されることの多い遺構の一つであり，本遺跡及び近隣遺跡でいくつかの調査例が報告されている。

本調査地点から南西 300m に位置する圷遺跡の第１地点（井上・鈴木 1996）第一調査区（調査面積 210 ㎡）では，中期の住居跡４軒と中期の大型土坑 11 基，第二調査区（調査面積 60 ㎡）では同時期の土坑が４基検出され，阿玉台Ⅰ～Ⅳ式・大木 7b・8a・8b 式・加曽利Ｅ式の土器が出土している。遺構は重複関係を有しており，住居跡と土坑，あるいは土坑と土坑とで切り合う。大型土坑の平面形は，円形・不整円形・楕円形・不整楕円形を呈し，壁がほぼ垂直に立ち上がる筒状が大多数を占めている。他方，袋状土坑は１基であった。

出土遺物によって明らかとなる第３地点で検出された遺構の時期は，中期前葉に帰属する阿玉台Ⅰｂ式期が SK-14, 阿玉台Ⅰｂ～Ⅱ式期が SK-17, 中期中葉の阿玉台Ⅱ式期が SK-15・16・36, 阿玉台Ⅲ式期が SK-19, 阿玉台Ⅳ式期が SK-20 であった。SK-21 は遺物が出土していないため不明であるが，形態は SK-20 と同一であることから，阿玉台Ⅳ式期に近い時期と考えられる。なお，阿玉台Ⅰｂ式期の SK-14 では大木 7b 式，阿玉台Ⅳ式期の SK-20 では，阿玉台Ⅰｂ～Ⅲ式・大木 7b・8a 式の土器が混在しており，いずれも混入遺物と判断した。

第３地点では，第１地点で顕著であった加曽利Ｅ式や大木 8b 式に帰属する土器が少なく，全体として第３地点は第１地点より時期が先行する。分布状況においても，本調査地点の袋状土坑は調査区東側にまとまって存在し，形態はすべて袋状であり，遺構間の重複は認められず，第１地点と様相を異にしている。

また，浅い支谷を挟んで 500m 東に位置する，高天原遺跡（井上 1985）（調査面積不明）でも袋状土坑が４基検出され，出土した土器は大木 8b 式とされている。第３地点の調査で検出された袋状土坑は，中期前葉～中葉へかけてと限定的であるが，これらの成果を併せると，この地域では，中期前葉から後葉へかけて袋状土坑が構築されたとみられる。

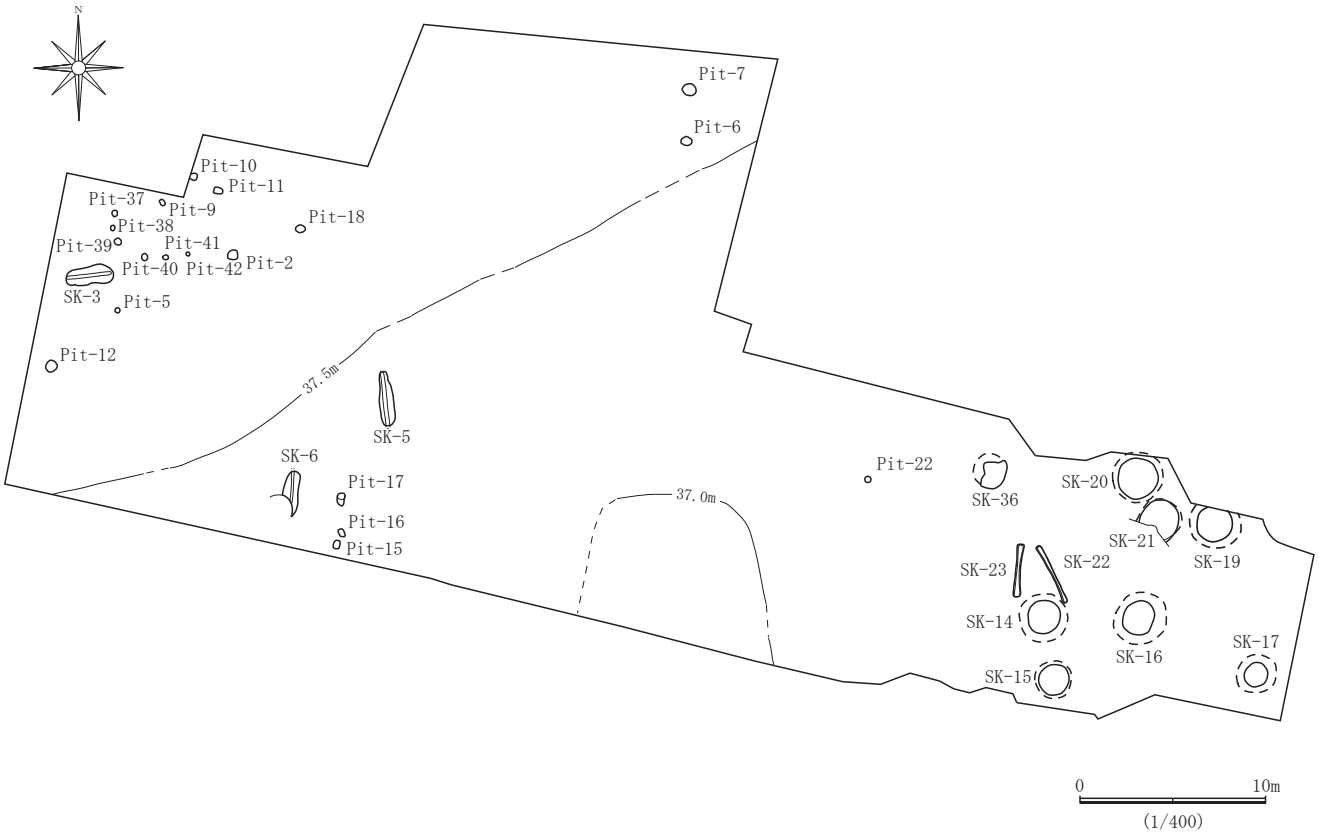
さらに，本調査における袋状土坑は調査区の東側において北と南へ広がることが明らかで，全体の分布状況としては環状を呈する可能性がある。

陥し穴状土坑は第３地点でのみ検出されている。５基（SK-3・5・6・22・23）の内，２基（SK-22・23）は削平されて底面に近い部分だけの検出であった。形状は平面形が長楕円形を呈し，断面がおおよそＶ字状であることから，機能は小動物などの捕獲を意図した陥し穴と判断した。

分布状況は袋状土坑の位置する東側に対して，SK-3・5・6の３基は調査区西側の約8m×16mと限られた範囲にのみ位置する。SK-5・6については南の谷津に向かい長軸線を等高線に対し直交して揃える配置が読みとれる。いずれの土坑からも遺物の出土がなく時期決定は難しいが，覆土の状況は中期の袋状土坑と類似していた。

SK-22・23は袋状土坑が存在する一角にあり，1～2mの距離で近接する。また，袋状土坑（SK-14）のオーバーハングする部分と約10～30cmしか離れてない。このことから，SK-22・23とSK-14が同時期に存在していたとは考えにくく，陥し穴状土坑と袋状土坑は中期の所産とみられるも，そこには時間差が想定される。

このように本調査地点が所在する台地上には，縄文時代中期の阿玉台Ⅰｂ～Ⅳ式・大木7b・8a・8b式・加曽利Ｅ式期を中心とした時期に遺構が集中している。未だ限られた範囲の調査でしかないが，出土した土器の種類と量からみても，縄文時代においては該期を盛期とする可能性が高い。今後調査例が増加していくにしたがって，より具体的な坏遺跡の様相が明らかになることであろう。　（小川）



第48図　縄文時代遺構分布図

第２節　坏遺跡と河和田城

－中世常陸国における村落と城館の一例－

第１項　問題の所在

坏遺跡はかねてより縄文時代の拠点的集落であることが指摘されてきたが，今次調査によってもう一つの重要な知見がもたらされた。それが第Ⅳ章第２節で報告した中世期のまとまった遺構群の検出であり，第Ⅴ章第４節で報告した内耳土鍋をはじめとする陶磁器・土器類の出土である。第Ⅱ章で述べたように，桜川北岸の台地縁辺部には坏遺跡をはじめとして西には赤塚遺跡，東には高天原遺跡・若林遺跡という縄文時代の遺構・遺物群が検出される顕著な縄文遺跡群が約２㎞にわたって展開しているが,その中で中世の土地利用はほとんどみられなかった。したがって中世の土地利用については,これまで等閑視されていたといってよい。かかる中，今次調査によって発見された遺構・遺物は坏遺跡における初の中世に関する所見であるだけでなく，本遺跡周辺の中世の土地利用を考える場合，重要な意義を有するものと考える。なぜならば坏遺跡の南を流れる桜川の対岸には，中世の水戸地域の中で顕著な歴史的展開を辿ったとされる中世城館「河和田城」が存在するからである。

そこで本節では，第Ⅳ章第２節および第Ⅴ章第４節で示された事実報告をふまえ，まず第３地点における中世の土地利用の変遷をまとめる。ここでは他の中世遺跡などの外的要素はあまり考慮せずに，あくまでも出土した遺構・遺物をもとにして積極的な考察を行うこととする。

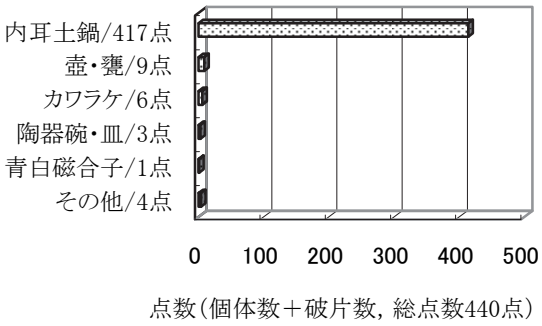
そして次に，中世の土地利用の変遷をより豊かなものとするため，周囲の中世遺跡の知見を坏遺跡の成果に援用し，中世坏遺跡の景観復元に向けて肉付けをはかりたい。なかでも中心となるのは河和田城と坏遺跡の関わりである。河和田城は中世江戸氏の本拠地であり，中妻 33 郷と呼ばれる江戸氏の根本となる支配地を束ねる要の城館として，常に歴史の表舞台にあった。この河和田城の対岸わずか 60 ～ 70 ｍ程の距離に，坏遺跡第３地点は位置している。時期もほぼ一致しており，坏遺跡と河和田城は密接な関係があったと理解するのが自然と思われるが，具体的にはどのような関係性が窺えるのであろうか。本節は，かかる疑問に答えるためのささやかな試みである。

第２項　中世における土地利用の変遷－遺跡理解のための基礎的考察－

(1)中世遺構の概要　坏遺跡第３地点では,中世の遺構として掘立柱建物跡２棟・溝状遺構３条・地下式坑４基・土坑22基・井戸跡３基・ピット52基・ピット群２カ所が検出されている。調査面積に対して遺構密度はさほど高いというわけではない。遺構確認面はローム層上面の一面のみであるが，調査区の東側約 250 ㎡の範囲については基礎工事によって約 60 ㎝程度削平を余儀なくされている（第Ⅰ章第２節)。したがってこの範囲については,小規模な土坑・ピット・溝状遺構等が存在したとしても,調査開始前に完全に失われてしまっていることを考慮しなければならない。逆にこの範囲で検出されたピットや土坑は，相当の深度を有するものと言えるだろう。

このうちまとまった遺物を出土したのが溝 SD-2 と，地下式坑 SK-2･26･32 である。これらの遺構出土遺物は本地点の土地利用の変遷を辿る上での実年代の指標として位置づけられる。

(2) 器種組成の分析　出土遺物は総点数440点が出土している。これは個体・破片を含めた総数であり，出土地点毎の器種を個体・破片毎にカウントした出土遺物一覧表を第Ⅴ章第４節に示した。出土遺物一覧表は平成18年度以降，水戸市の報告書が継続的に提示している手法で，その目的は「図示されない遺物を含め，出土遺物をできるだけ具体的に把握することで，遺構の性格・廃棄のあり方，そして産地組成や器種組成などによる生活史・流通史の復元に迫る資料を提示すること」にある（関口他2006）。本項でも遺跡の性格を窺うため，出土遺物一覧表をもとに器種組成の分析を実施する。



第18表　中世遺物器種組成表 (1)

本地点の中世遺物の器種組成(第18表)をみると，総点数440点中内耳土鍋が417点(うち個体１点)出土していることが，第一に特筆される事柄であろう。実に出土遺物の95%にのぼる。次に壺・甕９点（全て破片），カワラケ６点（うち個体３点），陶器碗・皿３点（全て破片，瀬戸・美濃産），青白磁合子１点（破片）と続く。内耳土鍋の際だった出土量に比べると，他の器種の過多はほとんど問題にならないようにみえる。すなわち内耳土鍋は調理具，壺・甕は貯蔵具，カワラケ・碗・皿は食膳具，合子は嗜好品に分類されるが，本地点では調理具が他の出土遺物の大半を占めているのである。

しかしながら，出土遺物中の大半が破片で占められていることは注意しなければならない。本地点の個体数は全部で４点，その内カワラケが３点と顕著であるが，内耳土鍋に関しては１点に過ぎない。内耳土鍋のほとんどは煤の付着が認められ，何度も火を受けて脆くなり，使用に耐えられなくなって廃棄されたことが窺える。したがって細片が多くなることは自明であり，実際の個体数はかなり少なくなるはずである。本来であれば総重量から個体数を推定するといった分析を試みたかったところであるが，残念ながら所与の都合により叶わなかった。敢えて推定するとすれば，掲載可能遺物が32点を数えており，器形や胎土の所見から掲載遺物同士が接合する可能性が低いことを考慮して，少なくとも30～40個体位にはなるものと思われる。他の遺物が数点～10点程度であることを踏まえれば，30～40個体という数はさほど不自然な数ではないだろう。いずれにせよ，出土遺物の中で顕著な存在であることは変わらないことが指摘できる。

(3)時期区分の設定　以上のように本地点は確認面がローム層上面のみで，面的な把握ができなかったこと，切り合いが少ないこと，出土遺物が限定されていること等の状況にあり，中世の土地利用の変遷を追っていくための情報はさほど多くない。あまり恵まれた環境ではないが，だからといって変遷を追うことが全く不可能な状況ではないとも考えている。その大きな指標となるのが，各々の遺構の主軸方位である。

遺構全体図（第Ⅱ章第７図）を一瞥すると分かるように，本地点のなかで明らかに主軸方位が異なるのが，SD-1とSD-3の二つの溝状遺構である。前者はほぼ南北軸であるのに対し，北東－南西軸に傾いていることが分かる。どうやらこの二つの軸線が重要な決め手になりそうである。そうしてみる

と，SD-2 に切られている SK-28･29 は，SD-1 の軸線に直交していることが窺え，これを SD-1 と同時期の遺構と捉えれば，SD-1 は SD-3 よりも古い溝であることが指摘できる。

さらに掘立柱 SB-1･2 は，SD-2 同様に傾きがあるが，さらに北東－南西軸の傾きが顕著になっていくこともみて取れ，ここにも時期を設定できるものと思われる。

このような主軸方位の観察と群としてのまとまりをふまえ，以下の３期の時期設定を試みた。

○Ⅰ期(廃絶年代:15 世紀中葉～)･････････････ N－80°～90°－W の軸線を基準とする遺構群。

○Ⅱ期(廃絶年代:15 世紀後葉～ 16 世紀初頭)･･･ N－15°～25°－E の軸線を基準とする遺構群。

○Ⅲ期（廃絶年代:16 世紀前半）･････････････････ N－40°～50°－W の軸線を基準とする遺構群。

各期の推定年代はわずかに出土している瀬戸・美濃製品やカワラケ等を指標としているが，これらはⅡ・Ⅲ期の遺物であり，Ⅰ期については年代の参考となる遺物が出土していないが，前後関係から 15 世紀中葉以降と推定した。Ⅱ期とⅢ期の前後関係はカワラケの編年と，より軸線の傾きが顕著になっていく状況を考慮した。

本地区出土遺構を各時期にあてはめたのが第 19 表で，さらに各期の器種組成をまとめたのが第 20 表である。以下，この二つの表をもとにして，各期の土地利用の変遷を追っていきたい。

	Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	計
調理具	17	359		376
貯蔵具		7	2	9
食膳具		4	5	9
嗜好品		1		1
暖房具	1			1
計	18	371	7	396

第 20 表　中世遺物器種組成表 (2)

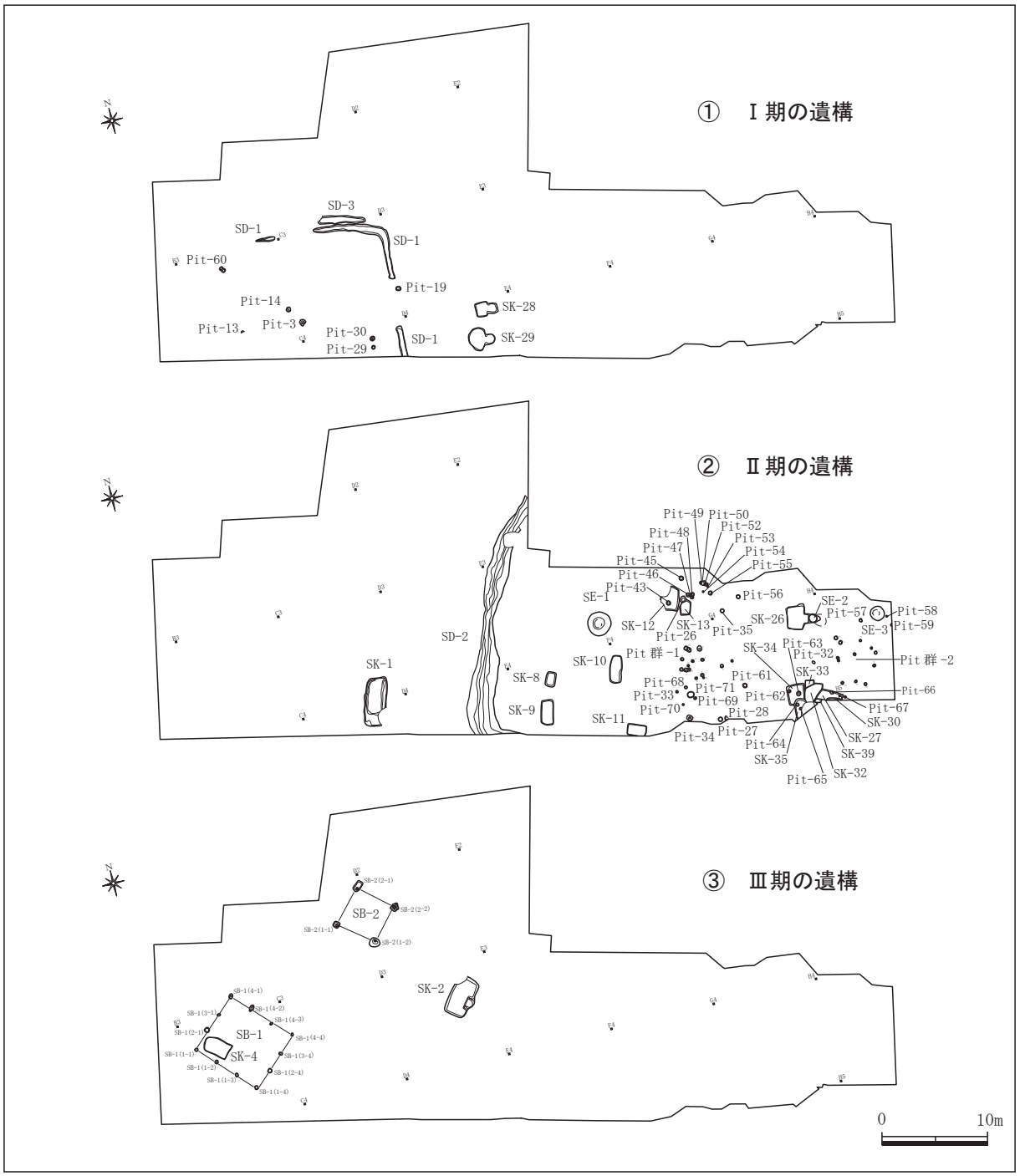
(4) Ⅰ期の土地利用－小屋敷の出現－（第 49 図①）

中世圷遺跡における最初の土地利用は，二重の溝状遺構（SD-1･3）と地下式坑（SK-28･29）を中心とするⅠ期の遺構群である。溝状遺構は浅く，土層堆積状況では水成作用は確認されないことから，防禦や用水

廃絶時期		遺構種別					
		掘立柱建物	堀	地下式坑	土坑	井戸	ピット
Ⅰ期	15c中葉以降	－	SD-1･3	SK-28･29	－	－	Pit-3･13･14･19･29･30･60
Ⅱ期	15c後葉～16c前半	－	SD-2	SK-26	SK-1	SE-1～3	Pit群-1
							Pit群-2
					SK-8～13		Pit-26･35･43･45～56
							Pit-33･34･68～71
					SK-27･30･32～35･39		Pit-27･28
							Pit-61
							Pit-32･62～67
							Pit-57～59
Ⅲ期	16c後半か	SB-1･2	－	SK-2	SK-4	－	
不明		－	－	－	SK-31･37	－	Pit-1･4･8･21･23～25･31･36

第 19 表　中世遺構の変遷一覧

路としての用途は考えられず，場を区画することのみを目的としたものと判断される。したがってこの溝状遺構 SD-1･3 についての認識を，堀と溝をめぐる研究史をふまえ「堀」と捉える（橋口 2006）。堀の周囲には土塁や生垣・柵列等の痕跡もなく，いたって簡素な堀である。遺存状況が芳しくないため確証はないが，鉤の手状に折れ曲がっていることから，正方形もしくは長方形に囲繞していたと考えたほうが自然であろう。堀が途切れる東側が入り口だったものと考えられ，入り口付近にある Pit-19 は簡素な門扉を想定してもよいかもしれない。堀の内側の空間に建物の痕跡はないが，Pit-3･13･14･29･30･60 などの遺構が幾つかあることから，生活空間としては機能していたもの



第 49 図　中世遺構変遷図　(S=1/600)

と思われる。堀に囲繞された小規模な屋敷地を想定しておきたい。建物についてもピットからは掘立柱建物は復元できない。いわゆる転がし根太のような簡易な作りのものだったのであろうか。

さてもう一つの主要遺構である二つの地下式坑（SK-28･29）は区画堀の外，すなわち屋敷の外６～７ｍの近接地に同軸で並ぶ。注目されるのは屋敷の入り口付近に設置されていることである。これだけで地下式坑の機能を判断することは難しいが，貯蔵施設にせよ宗教（葬送）施設にせよ，屋敷付属の倉庫または墓としての説明はつくだろう。

遺物は調理具が 17 点（内耳土鍋）と暖房具が１点（火舎）にとどまる。遺物からみても土地利用はさほど活発でなかったことが窺える。

(5) Ⅱ期の土地利用－中世村落の成立と展開－（第 49 図②）　Ⅱ期になると，Ⅰ期のささやかな生活の営みとは打って変わり，突如として活発な生活の痕跡が認められるようになる。本地点で検出された遺構・遺物の多くがⅡ期に位置づけられる。これらの遺構は必ずしも一過性のものではなく，何度も切り合いを重ねていることから，一定期間にわたって一定の人々が定住していたことが窺える。したがってⅡ期の遺構群の現出をもって，圷遺跡における中世村落の成立と捉えることとしたい。

さてⅡ期の遺構配置で顕著なのは，調査区中央を南北方向に走る SD-2 の東側に展開し，Ⅰ期の屋敷地がある西側での土地利用は１基の土坑（SK-1）以外確認されていないことである。SD-2 は断面がＶ字状を呈するが，傾斜角はたいへん緩やかであり，防禦を目的としたとは考えにくい。また水成作用もみられなかったことから，用水路としての機能もなかったものと思われる。したがってその目的とするところは，SD-1･3 同様，単純に場を区画するものであった可能性が高い。しかし場を区画し，生活空間を創出することへの意識はⅠ期に比べると格段に高い。したがって SD-3 についても中世村落を囲繞する「堀」と理解するのが妥当であろう。

堀の内側には井戸が３基，地下式坑が１基，土坑が 14 基，２つのピット群をはじめとする多数の柱穴が検出されている。E4･F3･F4 区付近に展開する土坑群 SK-8 ～ 13 は堀と同一軸線に切り合うことなく分布し，井戸（SE-1）を取り囲むように整然とした配置をなす。機能を判断するのは難しいが，形態から貯蔵施設と捉えておきたい。この貯蔵施設群のすぐ西側にピット群が展開する。群として記録したのは２つにとどまるが，そのほかにも① Pit-26･35･43･45 ～ 56，② Pit-33･34･68 ～ 71，③ Pit-32･62 ～ 67 などが一単位として把握することができ，結果として５つのピット群＝５つの建物群を想定することができるであろう。

各ピット群は複雑に切り合っており，建物プランを想定することが困難であったが，一つの群が直径 4m 圏内で収束することから，Ⅰ期同様簡素な建物であったと考えられ，居住施設としての認識には疑問が残る。また５つの建物群は堀の軸線を意識して分布し，なおかつ２基の井戸（SE-2･3）と１基の地下式坑（SK-26）を取り囲むような配置が窺える。

なお③としたピット群に関しては土坑群 SK-27･30･32 ～ 35･39 と切り合い関係が見られ，ピット群が古い。建物を取り壊して土坑群が設置され，頻繁は掘り返しが何度も行われたことは確実であるが，出土遺物を見る限り顕著な時期差は見受けられない。また主軸方位もまちまちであることから，これらの土坑群はさきの貯蔵施設とした土坑群とは別の機能であったと考えられる。規格性もなく短

期間に何度も掘り返しを行っていることからみて，廃棄土坑群として理解できよう。

さらに地下式坑（SK-26）はピット群に取り囲まれる形で単独で検出されたことを考えると，貯蔵施設群や廃棄土坑群とは明らかに異なる意図によって配置されており，何か特殊な機能を付加されていたと考えたほうがよいだろう。

遺物は調理具 359 点，貯蔵具７点，食膳具４点，嗜好品１点が出土している。前述のように調理具の大半が内耳土鍋の破片であり，個体数に換算すれば 30 ～ 40 点あたりと推定されることから，調理具の割合が若干高いことは留意すべきだが，いずれにせよ生々しい日常生活の様子を彷彿とさせる器種組成である。

(6) Ⅲ期の土地利用－中世村落の変容－（第 49 図③）　Ⅱ期に現出・展開した中世村落は，Ⅲ期になるとその様相を大きく変貌させる。堀で囲まれた村落は放棄され，堀の西側に新たな生活空間が営まれるようになるのである。

Ⅲ期の遺構としては，２棟の掘立柱建物（SB-1･2）と１基の地下式坑（SK-2）である。SB-1 は３間×３間，SB-2 は１間×１間で主軸方位は同軸だが，柱間寸法は大きく異なる。すなわち前者は桁行 7.6 尺（2.3 m）・梁行 6.6 尺（2.0 m）であるのに対し，後者は桁行 12.8 尺（3.9 m）・梁行 13.2 尺（4.0 m）と 12.2 尺（3.7 m）であり，SB-2 は SB-1 の約２倍前後の寸法を有している。中世後期～近世期の掘立柱民家の柱間寸法は６～７尺台が一般的に採用されているようであり（羽柴 2001），その意味では SB-1 について民家として把握することは問題ないと思われる。

理解が難しいのが 13 尺前後の柱間寸法を有する SB-2 である。SB-1 と SB-2 は主軸方位が同じであることから，柱間寸法の差異は時期差というよりは機能差を反映していると考えたほうがよいだろう。セクション図でも SB-1 に比べ SB-2 の掘形は格段に念入りである。１間 × １間という特異なプランを考えても，居住空間とは考えられない。では高床倉庫などの施設かというと，束柱を伴わない 13 尺という広い柱間寸法で果たして床が耐えられるかどうか疑問が残る。根拠に乏しいものの，持仏堂など小規模な堂宇を想定したほうが良いであろうか。

さて掘立柱建物の東側には１基の地下式坑（SK-2）がある。全体を方形に掘った後に黒褐色土を版築状に固めて階段にしている。事実記載では地下式坑としたものの，セクションからは天井を有していた形跡も認められず，地下式坑と定義できるものかどうかは疑問である。機能は階段をあえて取り付けていることを考えれば継続的な使用を意図しており，貯蔵施設である可能性が高い。

Ⅲ期の出土遺物は全て SK-2 からであり，貯蔵具２点（常滑甕），食膳具５点（カワラケ４点と瀬戸・美濃皿１点）である。４点のカワラケのうち３点は個体であり，うち２点が床直出土であることから意図的な埋納行為を感じる。そして注目されるのは，出土遺物で圧倒的な数量を誇っていた内耳土鍋がⅢ期では１点も検出されていないことである。Ⅱ期とⅢ期の生活空間に質的な変容があったことを物語っているのではなかろうか。

(7) 小結　最後に本項で述べてきた中世の土地利用について再度確認し，次項へのつなぎとしたい。

Ⅰ期は，中世の最初の土地利用が認められた時期であり，浅い堀に囲繞された簡素な屋敷地とそれに付随する２基の地下式坑で構成される。なお奈良・平安時代～中世前期にかかる遺構は見出せず，前代からの継続性はないものと判断される。

Ⅱ期になると遺構群は調査区東側に移転し，堀に囲繞された定住的な性格を持つ中世村落が現出する。堀・井戸・建物・貯蔵施設・地下式坑・廃棄土坑など，中世村落における典型的な遺構群が備わっている。ただし住居施設としての掘立柱建物の確認には至らなかった。これは調査区外に展開している可能性も含め，今後の課題として確認しておきたい。

Ⅲ期は，生活の場が再び西へ移動する。住居施設としての掘立柱建物１棟と堂宇と推測される建物１棟，貯蔵施設１基というシンプルな構成であるが，住居施設が調査区外に展開しているのか，本地区のみで収束するのかは不明である。住居の規模からは国人層というより百姓層を想定できるが，堂宇及びしっかりとした貯蔵施設を整然と配置していることなどから，Ⅱ期に比べて有徳の者が生活を営んでいたものと思われる。

第３項　中世坏遺跡の歴史的位置

(1) 中世の水戸と河和田　本節冒頭でも述べたように河和田城の所在する河和田の地は，一地方の土豪から戦国大名にまでのし上がり，水戸地域を中心に常陸国内に大勢力を築いた江戸氏の中心拠点の一つであった。坏遺跡第３地点の中世の土地利用は，江戸氏とその重臣である春秋氏の支配下にあり，彼らの栄枯盛衰と無関係ではあるまい。そこでここでは伊東ほか 1963 の成果をもとに，中世常陸の動向を織り交ぜながら河和田の歴史を概観する。

《12 世紀末～ 13 世紀》12 世紀末，吉田郡内の土着の武士団であった馬場資幹は，源頼朝麾下の有力御家人となり馬場館（後の水戸城）を本拠として勢力を飛躍的に拡大，常陸大掾職を多気氏から継承して常陸国府を統べるまでとなる。資幹の 10 人の子供も所領を分割相続され水戸地域に根を下ろし，９男某（川和田九郎）が河和田郷地頭となったとされるが，詳細は不明である。ただ鎌倉期を通じて水戸地域が大掾氏領域の中心であったことは事実であり，河和田の地に大掾氏の一族を配したことは十分考えられる。

なお建保６(1218) 年，親鸞の直弟子である唯円が河和田榎本に道場を開き隆盛をみたが，親鸞帰京後の弘通はさほど展開せず，在地の道場として 16 世紀まで法灯を伝えたという。

《14 世紀》河和田城は建武４(1337) 年，大掾氏家臣の鍛冶弾正貞国（川和田入道）が築いたとされるが諸説あって確証はない。前年には南朝方の楠木・小田・那珂氏らと北朝方の佐竹・大掾氏らとの間で瓜連城の戦いがあるなど，1330 ～ 40 年代は馬場氏も南北朝の動乱に加わった時期である。このタイミングに河和田城を築いたとすれは，どのような意図があったのだろうか。河和田地区の歴史にとって興味深い出来事といえよう。

いずれにせよ，南北朝の動乱のなかで常陸守護佐竹氏は着々と所領を拡大し，14 世紀中頃の佐竹義篤の代には水戸地区の南北を佐竹勢力に挟まれるほどになる。そしてこの時期，下江戸郷（那珂市）の土豪である那珂道泰の子通高が江戸氏を名乗り，佐竹配下となっていた。

河和田地区の大きな転機となった事件が，元中４(1387) 年の難台城の戦いである。この戦は小山・

小田氏と上杉・佐竹氏の争いで後者が勝利を収めた。そして軍功により佐竹配下の江戸氏が大掾氏の領域内に所領を与えられ，水戸市域内に進出する契機となったのである。これにより江戸氏当主通景は，関東管領足利氏満から大掾氏の旧領河和田・鯉淵・赤尾関の地を与えられ，河和田に本拠を移した。鍛冶貞国の子貞基は河和田城を追われた。河和田城は大掾氏の本拠馬場館の４km西方という至近であり，大掾氏にとって大変な脅威であったことは想像に難くない。

《15 世紀》大掾氏は応永 23(1416) 年の上杉禅秀の乱でも佐竹氏と対抗して敗れ，衰退の一途を辿る。それとは対象的に通景は河和田城を本拠として弟の通重・金永をそれぞれ赤尾関城・鯉淵城に配し，中妻 33 郷と呼ばれる広大な領域を手中に収めた（第 50 図）。

第 50 図　中妻 33 郷

（南 1996 を改変，図中行政区分は当時）

そして応永 33(1426) 年，通景の子通房は大掾満幹の留守を狙って水戸城を奪取するという，水戸地区の歴史のエポックとなる事件が起こった。これによって大掾氏は水戸領域を完全に奪われ，江戸氏が水戸城を居城として戦国大名として勢力を拡大していく。この事件後，河和田城は江戸氏の家臣春秋氏が城主となる。春秋氏は常陸平氏の流れを汲む土豪である。江戸氏重臣として有力な地位をなし，河和田城の他にも見川城や長者山城などにも一族が城主として配された。水戸城奪取後に河和田城主となったのは嘉吉３(1443) 年没とされる春秋幹治と推察されるが確証はない。幹治死後は息子の幹安が継いだ。幹安は父の菩提を弔うため河和田に伝舜院（曹洞宗）を開き，幹安没後はその子幹勝が泉渓寺（曹洞宗）を建立したという。幹勝の名は河和田報仏寺に伝わる文明 13(1481) 年の銘がある阿弥陀仏像の台座裏に，「当檀那春秋尾張守平朝臣幹勝」とある人物である。これは河和田道場を僧実了が願主となって中興した際，幹勝が檀那として支援したことを意味している。さらに幹勝は文明年中（1469 ～ 87)，河和田八幡宮（現在の吉田社）を建てるなど，寺社への活発な支援が認められる。このように河和田の地は江戸氏の隆盛を礎として，15 世紀後半に相応の発展をみたようである。

いずれにせよ江戸氏は 15 世紀に水戸城を本拠としながら常陸南部にも進出し，さらに佐竹・山入両氏のいわゆる「佐竹の乱」とよばれる対立に乗じて佐竹領にも進出していくのである。

《16 世紀》永正元 (1504) 年，佐竹義舜は山入氏を滅亡させ，佐竹領国を統一する。この間，江戸通雅・通泰父子は佐竹氏麾下のもと軍功を挙げ，ついには永正７(1510) 年，江戸氏は佐竹一門同位の格式を与えられるまでとなった。これに先立つ永正３(1506) 年，江戸通雅の弟通式が河和田春秋氏の養子となり春秋上総介を名乗るなど，江戸氏の隆盛とともに春秋氏も主家とのつながりを密にしていった。

戦国大名として発展した江戸氏は忠通の代に主家である佐竹氏との間で合戦となるが（1545 ～ 50 年)，抗しきれず再び佐竹氏麾下の武将となる。以後主に常陸南部に勢力を拡大させ，但馬守重道の代，天正 13(1585) 年～ 16(1588) 年には大掾清幹と常陸府中で合戦を繰り広げるまでになる。

しかし江戸氏内部でも天正 16(1588) 年，神生の乱と呼ばれる家臣間の争いから勃発した内乱があり，

領内に不穏の動きがあったという。翌 17 年には中妻境目不穏につき，河和田城の守護を増強させる発令があった。河和田の地も戦乱とは無関係ではなかったのである。

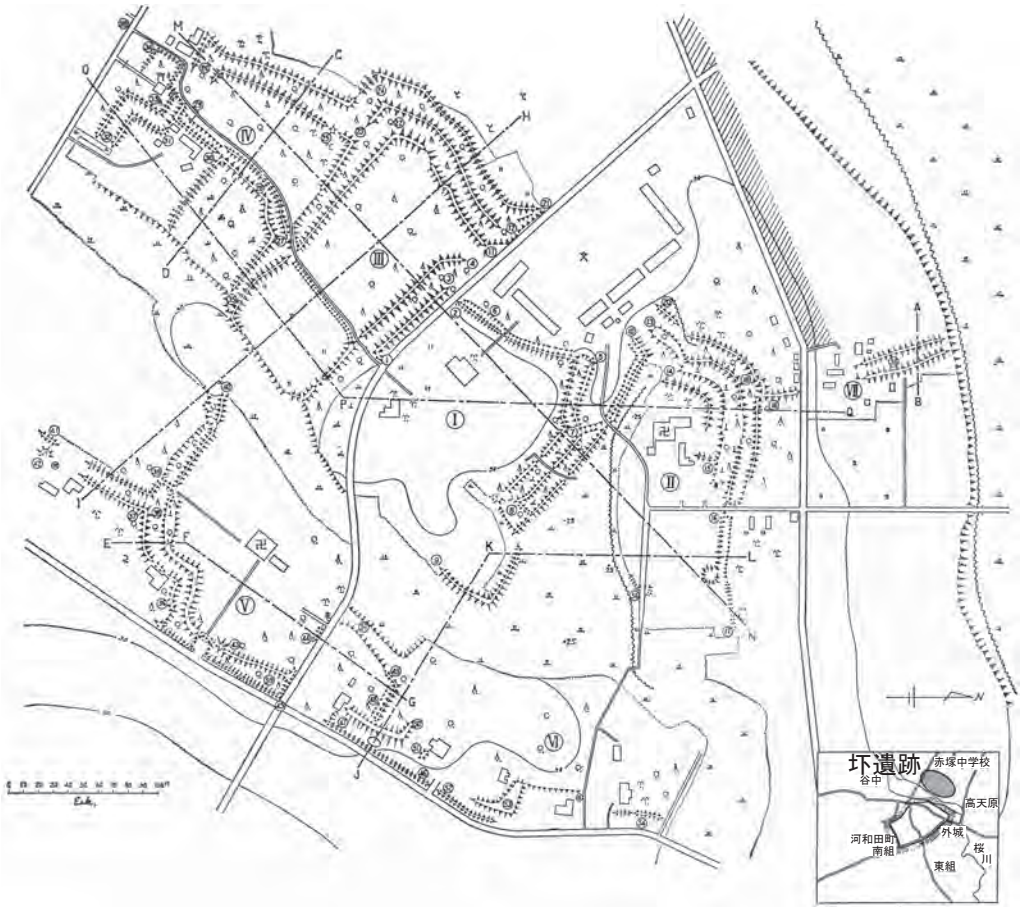
中世常陸で覇を唱えた江戸氏は中央の事件によって突然転機を迎える。天正 17(1589) 年，豊臣秀吉が関東奥領国惣無事令を発令し，翌 18 年に小田原合戦への参陣を関東の群雄に求めたのである。佐竹義宣は諸将を従えて小田原入りしたが，江戸重道は病と称し参礼しなかった。これが江戸氏の運命を決することとなった。同年，豊臣政権下の大名となった義宣は水戸城譲渡を重道に求めたが拒否されたため，12 月 19 日に水戸城を急襲したのである。重道は奮戦するも抗しきれず，城を棄てて結城に落ちのびた。翌 20 日，佐竹軍は江戸氏の諸城を攻撃，次々と落城した。河和田城もこの時焼き払われ落城した。この後春秋氏がいかなる運命を辿ったのか定かではないが，いずれにせよ 200 年の長きにわたって河和田の地を治めた江戸氏は一夜にして没落し，変わって佐竹氏が慶長 7 (1602) 年に秋田転封を家康から命ぜられるまでの 11 年間，河和田の地を支配することとなったのである。

(2) 河和田城の性格　以上の中世河和田をめぐる歴史的環境は河和田城がその中心にあった。そこで次に河和田城の立地と縄張を確認しておきたい。

河和田城は周知の埋蔵文化財包蔵地としての河和田城跡は水戸市河和田町地内の東西約 900 m，南北約 900 mの広大なエリアである。うち天徳寺・報仏寺・八坂神社・河和田小学校が所在する東西約 510 m，南北約 600 mのエリアには土塁・堀等の遺構がよく残っており，水戸市を代表する城館の一つとして著名である。中世期には報仏寺・天徳寺・八坂神社は現位置にはない。当時の面影を伝えるのが城域の北東，岩間街道の北側に鎮座する吉田神社で，これが先述した春秋幹勝が文明年中（1469 ～ 87）に建立した河和田八幡宮である。

河和田城の実測図（第 51 図）をもとに復元的考察を試みた小室栄一氏は「現存の遺構から考えられる河和田城は,本丸（図Ⅰ）があり,その北西地域を除き,本丸を図Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵなどの外郭で取り囲み，五重または六重の土塁，三重または四重の空堀（水濠）で防禦したものである。その規模は広大であるが郭の配置から考えれば，決して複雑な進歩したものとはいい難い。（中略）やはり戦国後期の平城と見て大差はないであろう」と評価している（小室 1963)。

すなわち河和田城の特徴は，防禦に工夫を凝らした要害というよりは，岩間街道と桜川に接する交通の要衝に位置し，広大な面積と複数の郭を有する平城という特徴が挙げられよう。岩間街道・桜川を西に進めば赤尾関城・鯉淵城など江戸氏領国の中心をなした中妻 33 郷が広がり，また東に進めば 4 ㎞先に江戸氏惣領の居城水戸城がある。水戸城と中妻 33 郷を結ぶ中間地点にあるということが，この城館の理解には最も重要なポイントと考える。防禦上必要な土塁と堀を擁した上で，物資の中継・集積センターとしての機能も併せ持った城館なのではあるまいか。このことを裏付けるように，春秋氏が河和田城主となってから，15 世紀後半代に河和田八幡宮，伝舜院，泉渓寺，地蔵院が次々と建立され，にわかに河和田が活気を帯びてくる。少なくとも前３者は春秋氏が願主である。さらに春秋氏は河和田道場中興の檀那ともなり，寺社の建立・庇護に力を注いでいる。かかる事蹟は江戸氏家臣のなかでも際だっており，富裕な財力に裏付けられていたと考えるほかない。それは中妻 33 郷からの租税や物資を統べる位置にあった，河和田城だからこそ可能だったのである。



第 51 図　河和田城実測図　(S=1/500，小室 1963 を一部改変)

(3) 坪遺跡と河和田城　坪遺跡第３地点における３期にわたる変遷も，江戸氏・春秋氏の盛衰と河和田城の性格のなかで解釈が可能である。

坪遺跡で中世の土地利用が始まったのは，すでに江戸氏が水戸城を奪取し，春秋氏が河和田城主となってからのことと推察される。坪遺跡と河和田城は桜川を挟んで対面しており，春秋氏の支配域の中でも直近の集落といえる。Ⅰ期に廃絶された屋敷が構えられたのは,春秋幹治・幹安父子が城主だった頃だろうか。屋敷の主は遺構・遺物からみると百姓層が妥当と思われる。春秋氏が城主となり河和田城が中継の城としての役割を担っていくに従い，対岸の台地上にも定住者が出始めたのである。

Ⅰ期の廃絶時期はⅡ期でみられた村落が形成される時期でもある。当時は春秋幹勝が河和田城当主だった頃で，Ⅱ期の遺構・遺物にみられる中世村落の活発な土地利用は，河和田のめざましい発展をよく物語っている。調査では村落の一部のみしか検出できず,特に住居が検出できなかったことから,居住者の比定までには至らなかった。しかし遺跡の立地や青白磁合子が出土していることを鑑みれば,春秋氏一族郎党や有徳人などを想定しても良いのではなかろうか。

15 世紀中頃に形成された村落はⅡ期の期間中に何らかの理由で廃絶し，変わってⅢ期にみられる新たな居住空間が現出する。遺物量は激減するものの，遺構プランに計画性が見られ，堂宇らしき建物も敷設していることを鑑みれば，村落が衰退したのではなく発展的変容を遂げたと考えたい。ちょうどこの時期，春秋幹勝・通式の時代は前述のように最も河和田城が活発化したとみられる。そしてこれは主家である江戸氏も同様で，佐竹一門に列し名実ともに戦国大名として常陸に確固たる地位を築

いた時期であった。無論，その地位は相次ぐ戦役で獲得したものであり，佐竹・江戸氏領国の百姓に少なからぬ負担があっただろう。永正 7（1510）年に両氏の間に人返しの協定が締結されるなど，領内百姓層の動揺が窺える。だが人返しの協定は領民の他領引越・逃散を阻止し，領内の生産の基礎を確保しようとする江戸氏の強い意志の現れともとれる。江戸氏はこの時期に領国経営の基礎を固めるために十分な配慮をしたのであろう。Ⅲ期を画期とする中世村落の発展的変容は，江戸氏の領内経営の梃子入れ，春秋氏の富の蓄積，それに伴う河和田の活性化といった事柄と矛盾しない。

そして 16 世紀後半，再び集落は廃絶する。Ⅲ期は江戸氏・春秋氏の発展と突如の没落の時期である。天正 18（1590）年の河和田城の落城により周辺村落は荒廃したのであろうか。江戸氏没落後，河和田の地は佐竹領となり，また近世期には戸数 130 戸余・石高約 1200 石の一村落となっていくが，その頃の遺構・遺物は見出せない。少なくとも本地点における中世～近世移行期は，継続的ではなく断絶的なことが窺えるのである。

第 4 項　中世東国村落としての坏遺跡

ここまで，坏遺跡と河和田城は，双方の盛衰について少なからぬ一致が見出せることを論述してきたが，最後に中世東国史研究の中での坏遺跡の位置付けと課題を述べ，まとめとしたい。

従来中世東国の村落研究は城館研究に比べ低調であったが，近年は千葉県や栃木県の大規模集落遺跡の発掘成果の提示とともに研究が進展しつつある。特に房総の集落遺跡の調査によって，村落と城館の従来知られていなかった関係が提示されるようになる。それは柴田龍司氏の「恒久的な防御施設である堀や土塁で区画され，かつ恒常的に維持・管理される城館は，14 世紀後半以降に急速に集村化する村落が成立して，初めて出現するのである。村落が集村化し，定着性が高まり，地縁的な共同体が成立することで守るべき資産が増大し，多人数を動員することで，初めて恒久的な防御施設として機能する城館が必要不可欠になったといえよう」という言に端的にまとめられている（柴田 2005）。

翻って筆者は，本節で坏遺跡の中世村落は河和田城の物流拠点としての機能拡大に呼応する形で成立したであろうことを述べてきた。房総の「村から城へ」という動向と坏遺跡の「城から村へ」という動向は一見反対のように思えるが，房総の事例は村落そのものが城館化する事例を理解したものであり，城館に近接する村落の様相を捉えたものではない。一つの地域に人・モノが集まりはじめたとき，そのエネルギーが村落と城の成立と展開を促したことは双方ともに共通である。

その意味で坏遺跡と河和田城もまた，中世東国の村落と城館の関係をよく示した事例であると思う。しかし中世常陸の村落に係る考古学的研究は他地域に比べ遅れているため，坏遺跡の評価を定めるには時期尚早である。茨城県内でも集落遺跡の調査は散見されるようになり，調査事例が少ないからという決まり文句はもはや通用しまい。河和田における調査事例の進展とともに新たな知見も提示されるであろう。このように課題は多い。本節を坏遺跡と河和田城の関係性を窺う試み＝問題提起と位置づけるゆえんである。（関口）

おわりに

本書は水戸市における坏遺跡の２冊目の報告書である。本遺跡に初めて調査の鍬が入ったのが平成８年であったから，実に 10 余年ぶりの報告となる。坏遺跡が水戸市を代表する縄文集落遺跡の一つであることは当時からよく知られていたことであったが，調査の結果，当初考えてもいなかった２つの新知見を，私たちは得ることができたのである。

＊　＊

縄文時代の成果については，阿玉台式期の遺物を伴う袋状土坑群が切り合うことなく，一つのグループとなって検出されたことが注目されよう。共伴する出土遺物にも恵まれ，SK-36 から出土した阿玉台Ⅱ式の深鉢など（口絵写真参照），いくつかの優品を提示することができた。

注目すべきは，坏遺跡に該期の土坑が集中する事実は第１地点でも見られたが，形態や切り合い状況などに偏差を認めることができたことである。さらに出土遺物の分析から，これらの土坑群は第１地点に先行するものであることも明らかとなった。さらに土坑群の展開時期についても、阿玉台Ⅰ～Ⅳ式期前後の時期についてはきわめて低調であり,限定的な土地利用が窺えるということも判明した。第１地点が長期間にわたって生活が営まれたことと比べると対照的である。これらの興味深い様相については，第Ⅵ章第１節で小川が総括しているのでご参照いただきたい。

いずれにせよ,「縄文中期の大集落」として半ば定説化されていた坏遺跡の評価において，かかる事実が提示できた意義は少なくない。縄文時代の坏遺跡は思っていたより複雑な，そして魅力的な様相をみせそうである。

＊　＊　＊

さらに私たちの耳目を動かしたのは，調査区全体に広がる中世の遺構・遺物群であった。坏遺跡で初めて発見された中世の埋蔵文化財を眼前にして，私たちは戸惑いを隠せなかった。中世坏遺跡の理解に河和田城の存在が欠かせないであろうことは調査中から自覚していたが，では河和田城と坏遺跡を具体的にどう結びつけ，どう解釈していくのか，皆目検討がつかなかったのである。

そこでまずは考古学の基本に立ち返って遺構・遺物を徹底分析することにした。その前提として，小川による精緻な事実報告なくしては立ちゆかなかったことも強調しておきたい。遺跡の最終見届け人として，どこまで踏ん張って事実記載を提示ができるかが，地域の貴重な歴史資料の価値につながってゆく。そして実際，精緻な事実報告によって私たちは，３期にわたる土地利用を抽出することができたのである。

暗中模索の中，筆者が第Ⅵ章第２節で考察したことは現段階におけるひとまずの回答である。限られた情報から最大限の知見を引き出したいがために，できうる限り積極的な遺構・遺物の解釈を試みたが，積極的というよりはいささか強引に過ぎたかもしれない。大方のご批判をお待ちしたい。

このような多くの成果をもたらした第３地点の調査は，株式会社グリーン・ハウジング様の全面的な御協力なしには実現できませんでした。地域の貴重な歴史の発掘に御理解と御支援を頂いたことに対し,株式会社グリーン･ハウジング様，地域住民の皆様に厚く御礼申し上げます。　（関口）

引用・参考文献

池田晃一　1996 『上入野遺跡　青木遺跡　後側遺跡　前側遺跡－主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書－』（茨城県教育財団文化財調査報告第 226 集）　財団法人茨城県教育財団

石井毅　1981 「松原遺跡」『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』（茨城県教育財団文化財調査報告書第ＸＩ集）　財団法人茨城県教育財団

伊東重敏　1971 『水戸市埋蔵文化財包蔵地基本調査報告書（応急版）』　水戸市教育委員会

伊東重敏　1974 『向井原発掘調査報告書　SITE No. 4273・4261・4231』　水戸市教育委員会

伊東多三郎ほか　1963 『水戸市史』上巻　水戸市役所

稲田義弘　2006 『新善光寺跡　宍戸城跡－主要地方道大洗友部線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書－』（茨城県教育財団文化財調査報告第 256 集）　財団法人茨城県教育財団

井上義安　1985 『水戸市下畑遺跡　市道酒門 8 号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　水戸市下畑遺跡発掘調査会

井上義安　1985 『高天原　水戸市河和田町地内団地造成工事に伴う古墳および住居址・土壙の発掘調査記録』　水戸市高天原古墳発掘調査会

井上義安・鈴木浩子　1996 『水戸市圷遺跡　共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　水戸市教育委員会

井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本睦子　1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書（平成 10 年度版）』　水戸市教育委員会

宇留野主税　2004 「真壁町真壁城跡」『中世居館　－茨城県内と周辺部の様相－』東国中世考古学研究会茨城研修会

宇留野主税　2006 『史跡真壁城跡Ⅲ－外曲輪　中央部・東部・北部の調査概要－』（史跡真壁城跡発掘調査報告第３集）　桜川市教育委員会

江原　英ほか　1989 『中里遺跡　4　－遺物Ｉ－』　東北新幹線中里遺跡調査会

江原忠昭　1984 「水戸の自然と歴史」『水戸の水道史』第 1 巻歴史編　水戸市水道部

近江屋成陽・宮崎賢司　2000 『河和田城跡－発掘調査報告書－』　水戸市教育委員会

小澤重雄・小野克敏　2004 『当向遺跡Ｉ－北関東自動車道（協和～友部）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書－』（茨城県教育財団文化財調査報告第 224 集）　財団法人茨城県教育財団

小野寺淳　1999 「自然環境と人々の営み」『概説水戸市史』水戸市役所

金子進・川崎純徳・渡辺明　1973 『茨城県における先土器時代資料（一）』常総台地研究会

鴨志田篤二　1999 「狩猟・漁労・採集の生活」『概説水戸市史』水戸市役所

川又清明・野田良直・吹野富美夫・浅野和久　2002 『宮後遺跡 1 －やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－』（茨城県教育財団文化財調査報告第 188 集）　財団法人茨城県教育財団

川村満博・大塚雅昭　2001 『鎌田遺跡－主要地方道取手つくば線及び一般県道高岡藤代線緊急地方道整備事業地内埋蔵文化財調査報告書－』（茨城県教育財団文化財調査報告第 176 集） 財団法人茨城県教育財団

黒澤秀雄　2003 『北田遺跡－主要地方道石岡下館線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書－』（茨城県教育財団文化財調査報告第 206 集） 財団法人茨城県教育財団

黒澤彰哉・瓦吹　堅・池田敏宏・川口武彦・渥美賢吾・蓼沼香未由　2004 『台渡里廃寺跡－集合住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』 水戸市教育委員会

古泉　弘ほか　1991 『竹橋門－江戸城址北丸竹橋門地区発掘調査報告－』 東京国立近代美術館遺跡調査委員会

小林　修・日沖剛史・小出拓磨・和久裕昭　2005 『横野地区遺跡群Ⅵ　三原田諏訪上遺跡Ⅲ－縄文時代中期編－　平成 14 年度県営農村振興総合整備事業横野地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』群馬県勢多郡赤城村教育委員会

小室栄一　1963 「河和田城址」『水戸市史』上巻　水戸市

齋藤　洋・新垣清貴　2005 『大鋸町遺跡－グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（水戸市埋蔵文化財調査報告書第 3 集） 水戸市教育委員会

坂誥秀一ほか　1996 『武蔵国府関連遺跡調査報告　17』（府中市埋蔵文化財調査報告第 17 集） 府中市教育委員会

柴田龍司　2005 「考古学からみた中世房総の城館と村・町」『城郭と中世の東国』高志書院

白田正子　1998 「茨城県における中世末から近世にかけての土師質内耳土器について」『研究ノート』7 号　財団法人茨城県教育財団

関口慶久・川口武彦・瓦吹　堅・小野寿美子・中尾麻由美　2006 『吉田古墳Ⅰ　史跡整備計画に伴う吉田古墳群第 1 号墳の第 1 次・第 2 次発掘調査報告書』 水戸市教育委員会

中央大学文学部日本史学研究室　2005 『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～発表要旨集』 全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会

外山泰久　1983 『常陸赤塚－国道 50 号水戸バイパス道路建設に伴う発掘調査－』国道 50 号水戸バイパス埋蔵文化財発掘調査会

橋口定志　2006 「武家屋敷の境界施設のあり方をめぐって」『近世の屋敷境とその周辺』（第 7 回四国城下町研究会発表資料集） 四国城下町研究会

羽柴直人　2001 「柱間寸法が語るもの」『掘立と竪穴－中世遺構論の課題－』高志書院

橋本勝雄　1995 「茨城の旧石器時代」『茨城県考古学協会誌』第 7 号　茨城県考古学協会

平岡和夫・間宮正光・長谷川里実・渡辺健二　2006 『追花遺跡（第 4 地点）』（柏市埋蔵文化財報告書 56）　株式会社アイダ設計・山武考古学研究所

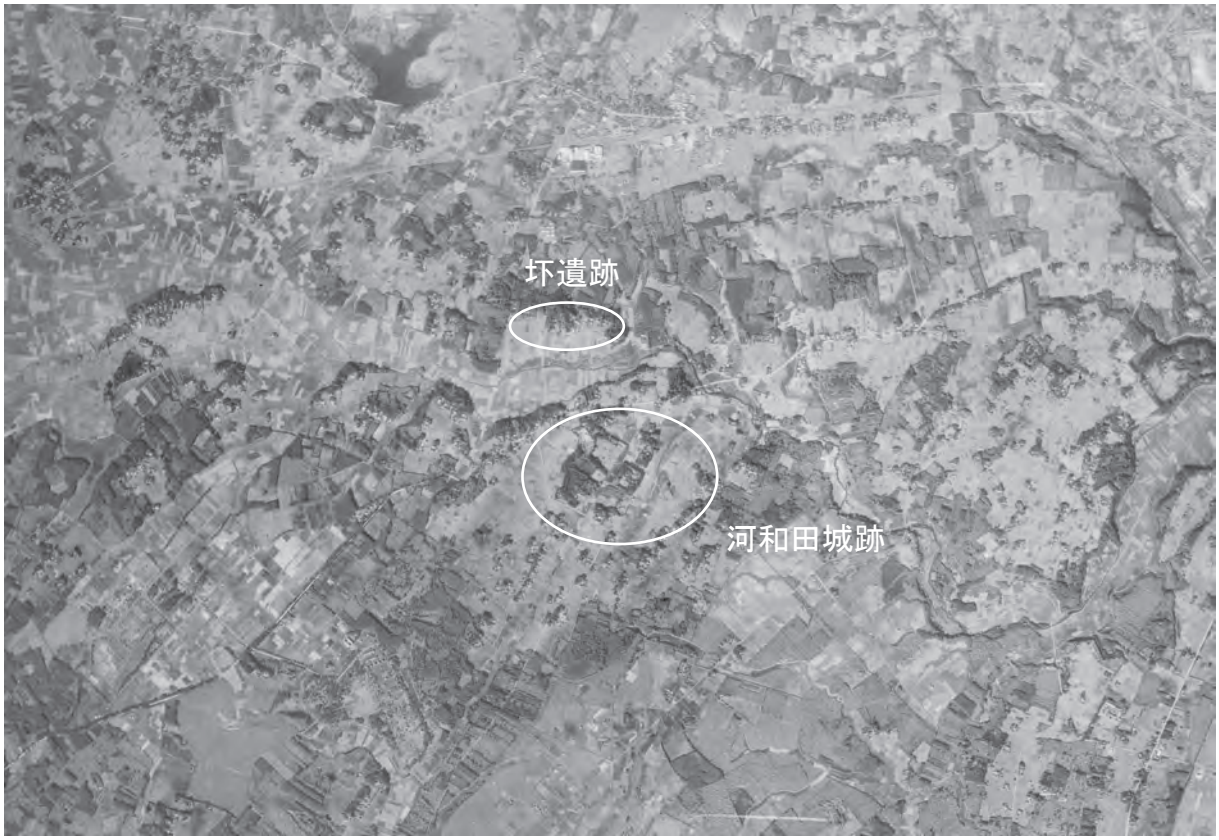
平松孝志　2000 『古峯 A 遺跡　古峯 B 遺跡　高土台塚群－北関東自動車道（友部～水戸）建設工事地内埋蔵文化財調査報告書－』（茨城県教育財団文化財調査報告第 168 集） 財団法人茨城県教育財団

南秀利　1996 「江戸氏の発展」『内原町史』通史編　内原町

宮崎報恩会編　1969 『新編常陸国誌』常陸書房
両角まり　1996 「内耳鍋から焙烙へ－近世江戸在地系焙烙の成立－」『考古学研究』第 42 巻第 4 号 考古学研究会
横倉要次　2004 『松田古墳群－北関東自動車道(協和～友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書－』(茨城県教育財団文化財調査報告第 226 集)　財団法人茨城県教育財団
和田清典・吹野富美夫・浅野和久・荒蒔克一郎・駒澤悦郎　2005 『宮後遺跡 2 －やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書－』(茨城県教育財団文化財調査報告第 240 集) 財団法人茨城県教育財団

写　真　図　版

調査地点の位置　（数字は地点名，平成 15 年撮影）



坏遺跡と河和田城跡　（昭和 22 年米軍撮影）

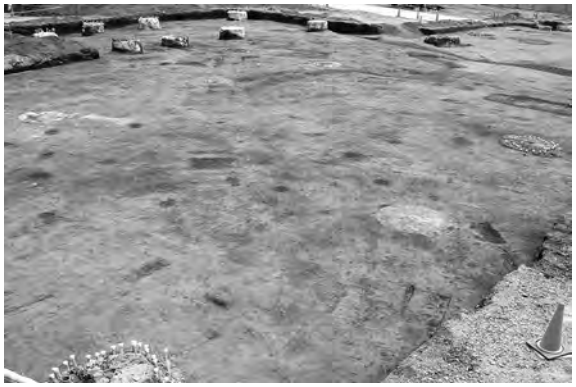
写真図版　２

遺構全景（1）（南から）

遺構全景（2）（東から）

遺構全景（3）（北から）

遺構全景（4）（北東から）



遺構検出状況　（南西から）

遺構検出状況　（北西から）

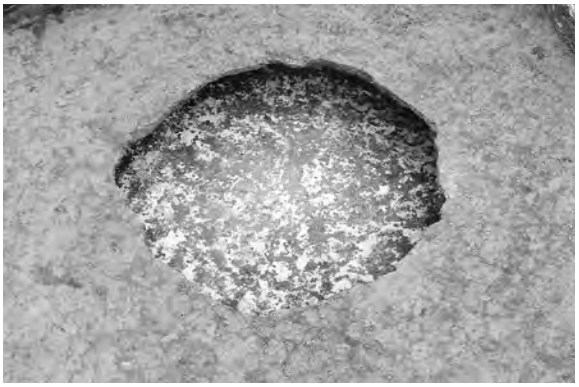
SK-14 土層断面　（南から）

SK-14（遺物番号 1）深鉢出土状況（西から）

SK-14 完掘　（北から）

SK-15 土層断面　（南から）

SK-15 土器出土状況　（北西から）



SK-15 完掘　（北から）

遺構検出状況・縄文時代の遺構 (1)

SK-16 土層断面　（南から）

SK-16 土器出土状況　（東から）

SK-16（遺物番号 48）深鉢出土状況　（東から）

SK-16 完掘　（北西から）

SK-17 土層断面　（南から）

SK-17 完掘　（南から）

SK-19 土層断面　（南から）

SK-19 完掘　（南から）

SK-20 土層断面　（南東から）

SK-20 完掘　（南西から）

SK-21 土層断面　（南から）

SK-21 完掘（西から）

SK-36 土層断面　（東から）

SK-36 土器出土状況　（東から）

SK-36（遺物番号 2）深鉢出土状況　（東から）

SK-36 完掘　（東から）

SK-3 土層断面　（南西から）

SK-3 完掘　（東から）

SK-5 調査風景　（北から）

SK-5 完掘　（南から）

SK-6 完掘　（北から）

SK-22・23 完掘　（北から）

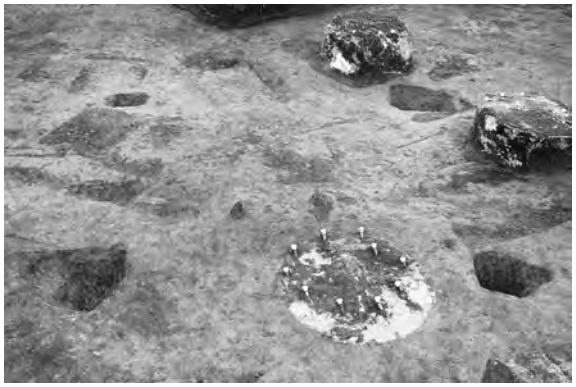
SB-1 P(1-3) 土層断面　（南から）

SB-1 完掘　（北東から）

縄文時代の遺構 (4)・中世以降の遺構 (1)

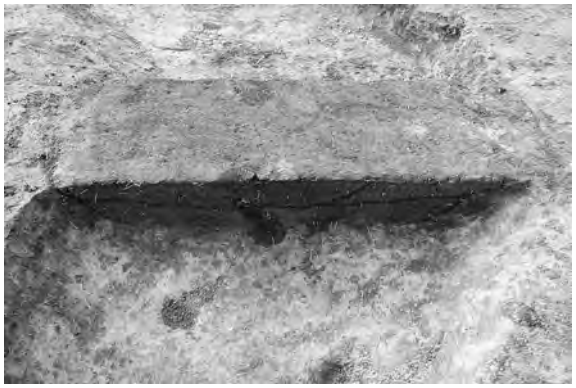
SB-2 P(2-1) 土層断面　（南東から）

SB-2 P(2-1) 完掘　（東から）



SB-2 完掘　（南東から）

SD-1 土層断面 D　（北から）



SD-1 土層断面 B　（南東から）

SD-1・3 完掘　（北から）

SD-2 土層断面 A　（南西から）

SD-2 土層断面 B　（南から）

SD-2 土層断面 C　（南から）

SD-2 土層断面 D　（北から）

SD-2 遺物出土状況　（北から）

SD-2 完掘　（北から）

SK-2 土層断面　（南東から）

SK-2 遺物出土状況　（南東から）

SK-2（遺物番号 3）カワラケ出土状況　（南から）

SK-2 完掘　（南から）

中世以降の遺構 (3)

SK-26 土層断面　（南西から）

SK-26 完掘　（西から）

SK-29 土層断面　（北西から）

SK-29 完掘　（北西から）

SK-41 土層断面　（北西から）

SK-41 玄室部上端　（南西から）

SE-1 土層断面　（南から）

SE-1 全景　（南から）

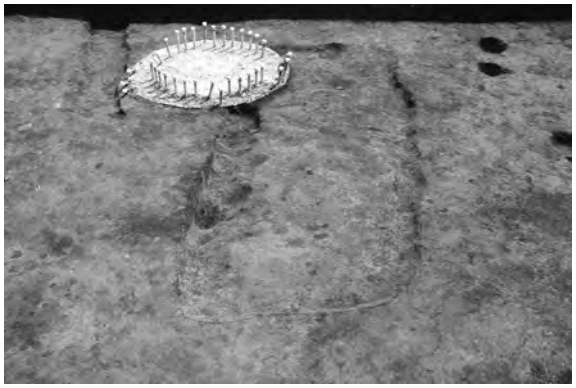
SE-2 土層断面　（南西から）

SE-2 全景　（西から）

SE-3 土層断面　（西から）

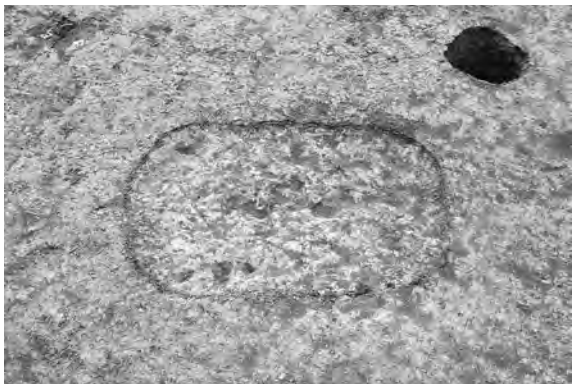
SE-3 全景　（西から）

SK-1 土層断面　（西から）



SK-1 完掘　（北から）

SK-4 完掘　（南から）



SK-8 完掘　（東から）

中世以降の遺構 (5)

SK-9 完掘　（東から）

SK-10 完掘　（東から）

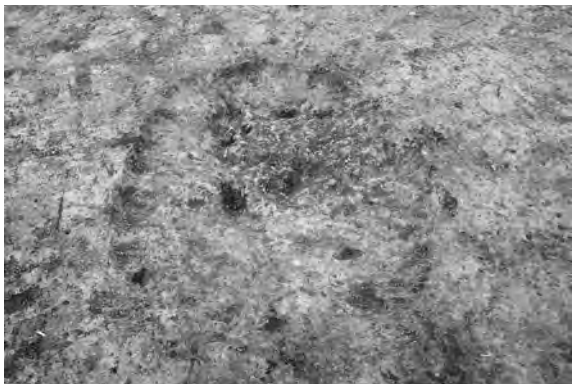
SK-11 土層断面　（北から）

SK-11 完掘　（北から）

SK-12・13 完掘　（南から）

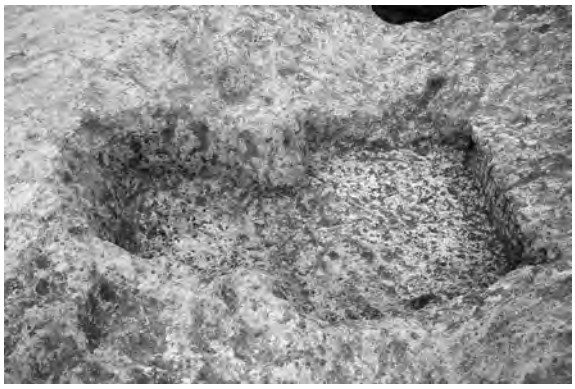
SK-24 完掘　（東から）

SK-25 土層断面　（東から）



SK-25 完掘　（東から）

SK-28 土層断面　（北から）

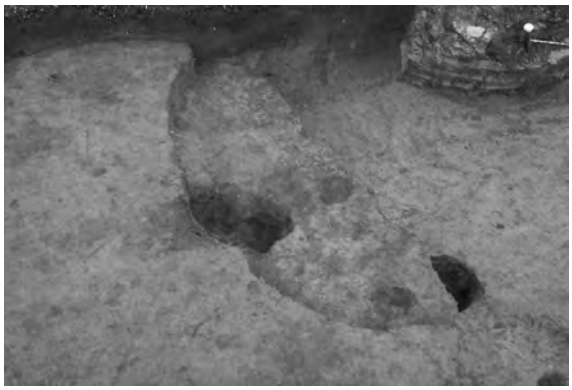


SK-28 完掘　（北から）

SK-27・30・32・33・39 完掘　（北から）

SK-32・33 遺物出土状況　（北から）

SK-34・35 完掘　（北から）



SK-31 完掘　（南から）

SK-37 完掘　（北から）

SK-38 土層断面　（南東から）

SK-38 完掘　（北から）

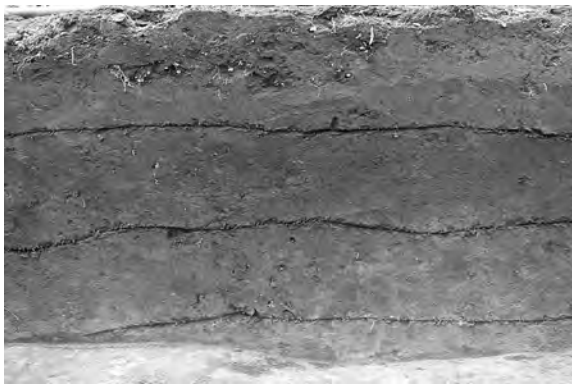
Pit 群 -1 P-2 土層断面　（北東から）

Pit 群 -1 完掘　（西から）

Pit 群 -2 完掘　（東から）

炉跡 -1 検出状況　（南から）

調査区東壁土層　（西から）



調査区西壁土層　（東から）

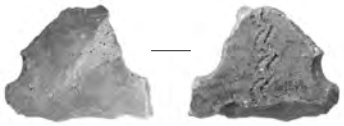
調査参加者

中世以降の遺構 (8)・時代不明の遺構・調査区壁土層・調査参加者

SK-14. 1

SK-14. 2

SK-14. 3


SK-14. 4

SK-14. 5

SK-14. 6

SK-14. 7

SK-14. 8

SK-14. 9

SK-14. 10

SK-14. 11

SK-14. 12

SK-14. 13

SK-14. 14

SK-14. 15

SK-14. 16

SK-14. 18

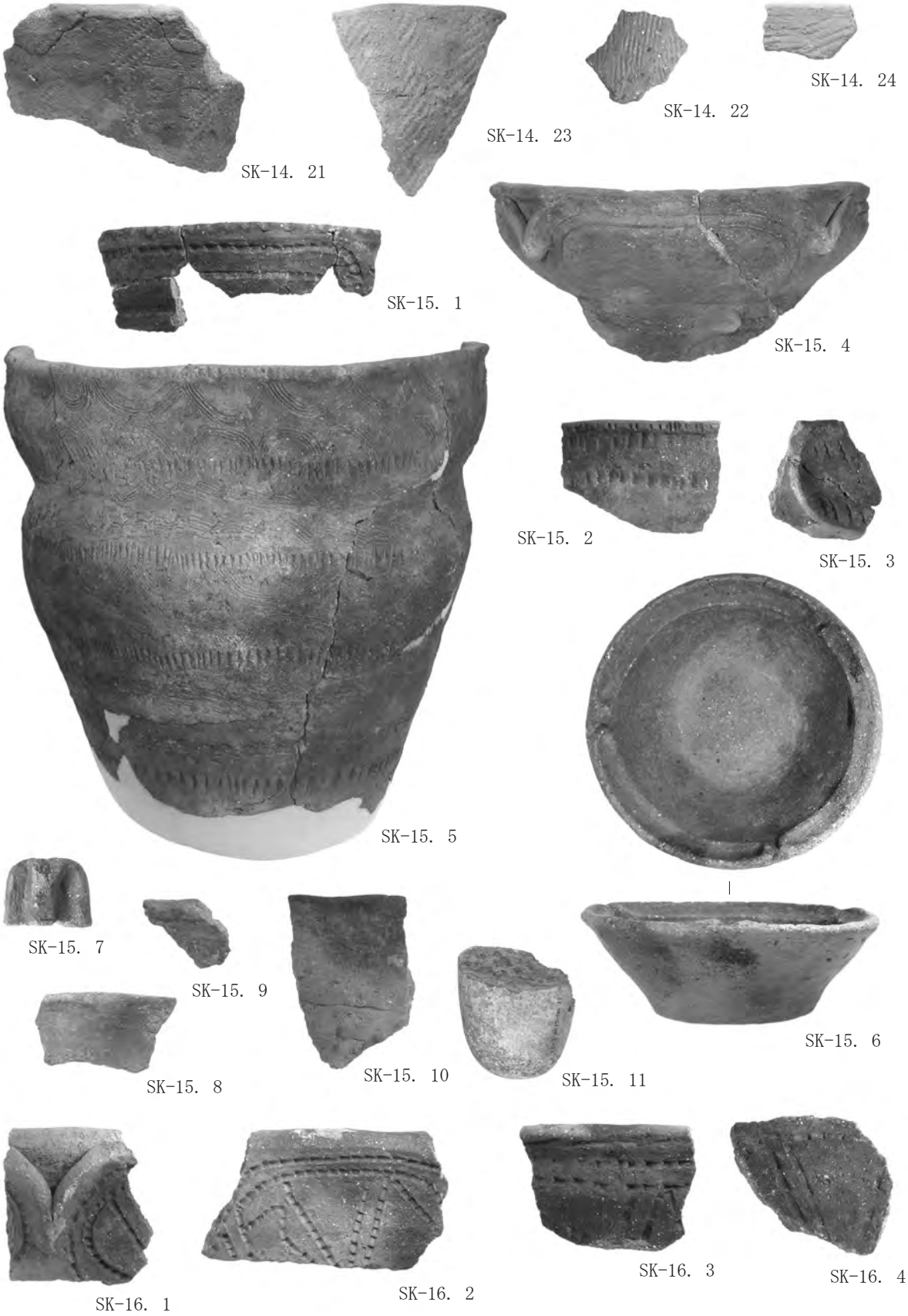
SK-14. 17

SK-14. 19

SK-14. 20

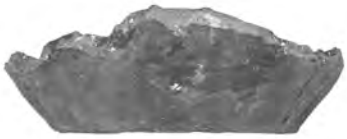
SK-14. 25

SK-14 出土遺物 (1) （縄文時代）



SK-14 出土遺物 (2)・SK-15 出土遺物・SK-16 出土遺物 (1)（縄文時代）

SK-16 出土遺物 (2)（縄文時代）


SK-16. 23

SK-16. 24

SK-16. 25

SK-16. 26

SK-16. 28

SK-16. 29

SK-16. 30

SK-16. 31

SK-16. 33

SK-16. 34

SK-16. 35

SK-16. 32

SK-16. 36

SK-16. 37

SK-16. 38

SK-16. 39

SK-16. 40

SK-16. 41

SK-16. 42

SK-16. 43

SK-16. 44

SK-16. 45

SK-16. 46

SK-16 出土遺物 (3) （縄文時代）

SK-16. 47

SK-16. 50

SK-16. 51

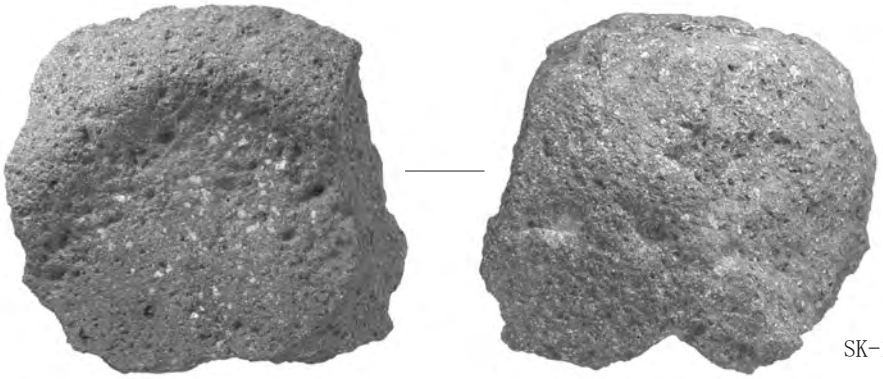
SK-16. 52

SK-16. 53

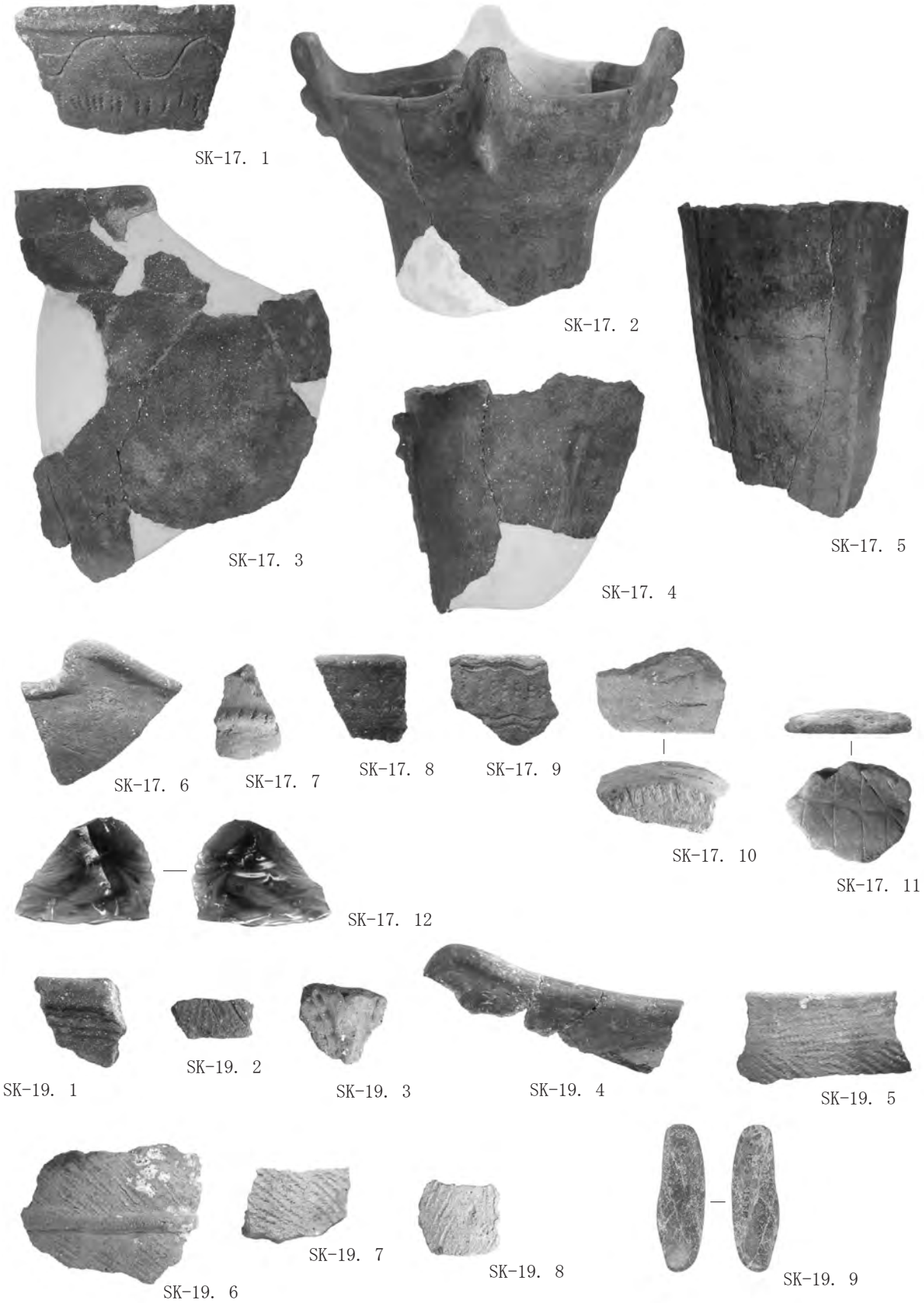
SK-16. 48

SK-16. 49

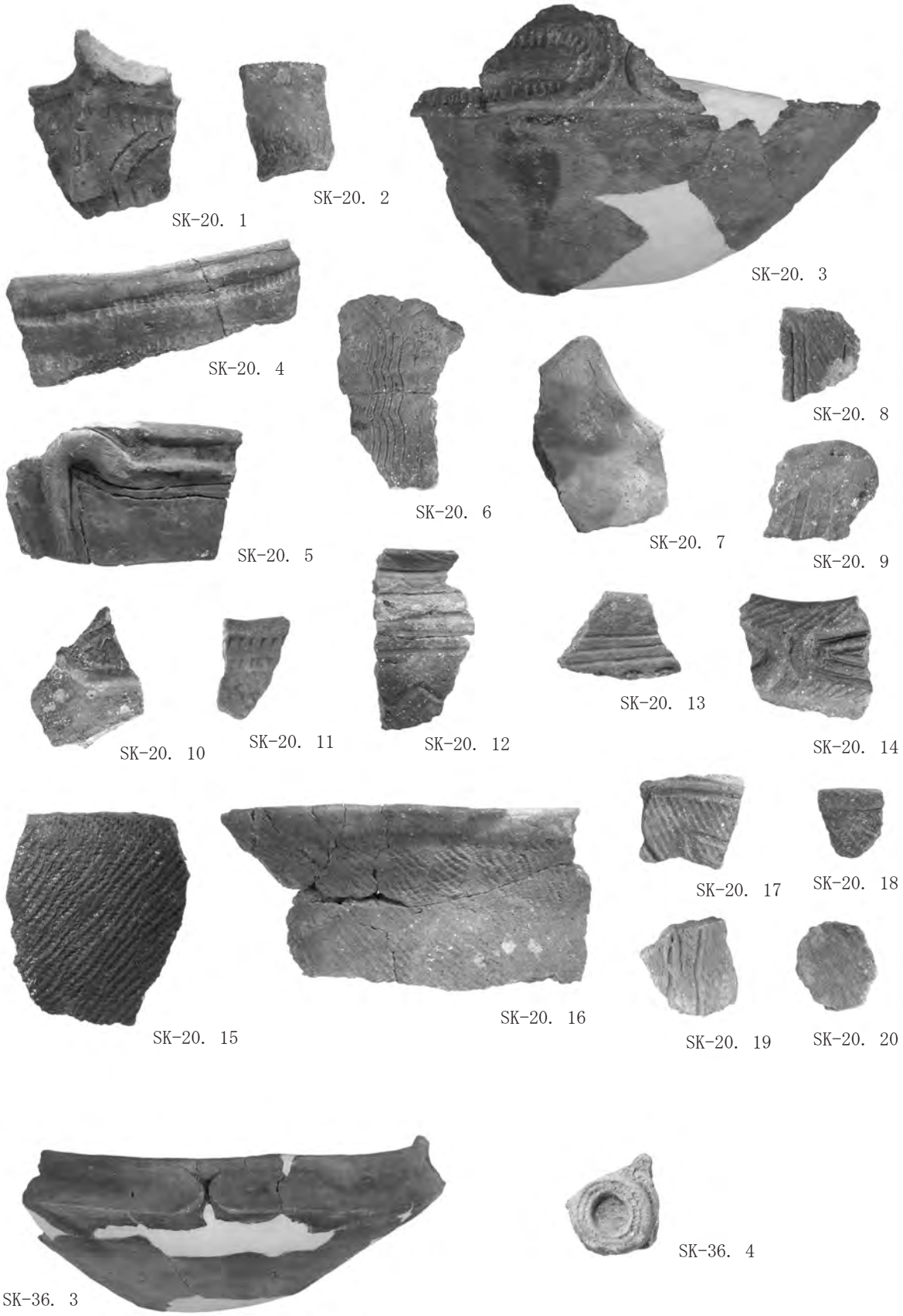
SK-16. 54


SK-16. 55

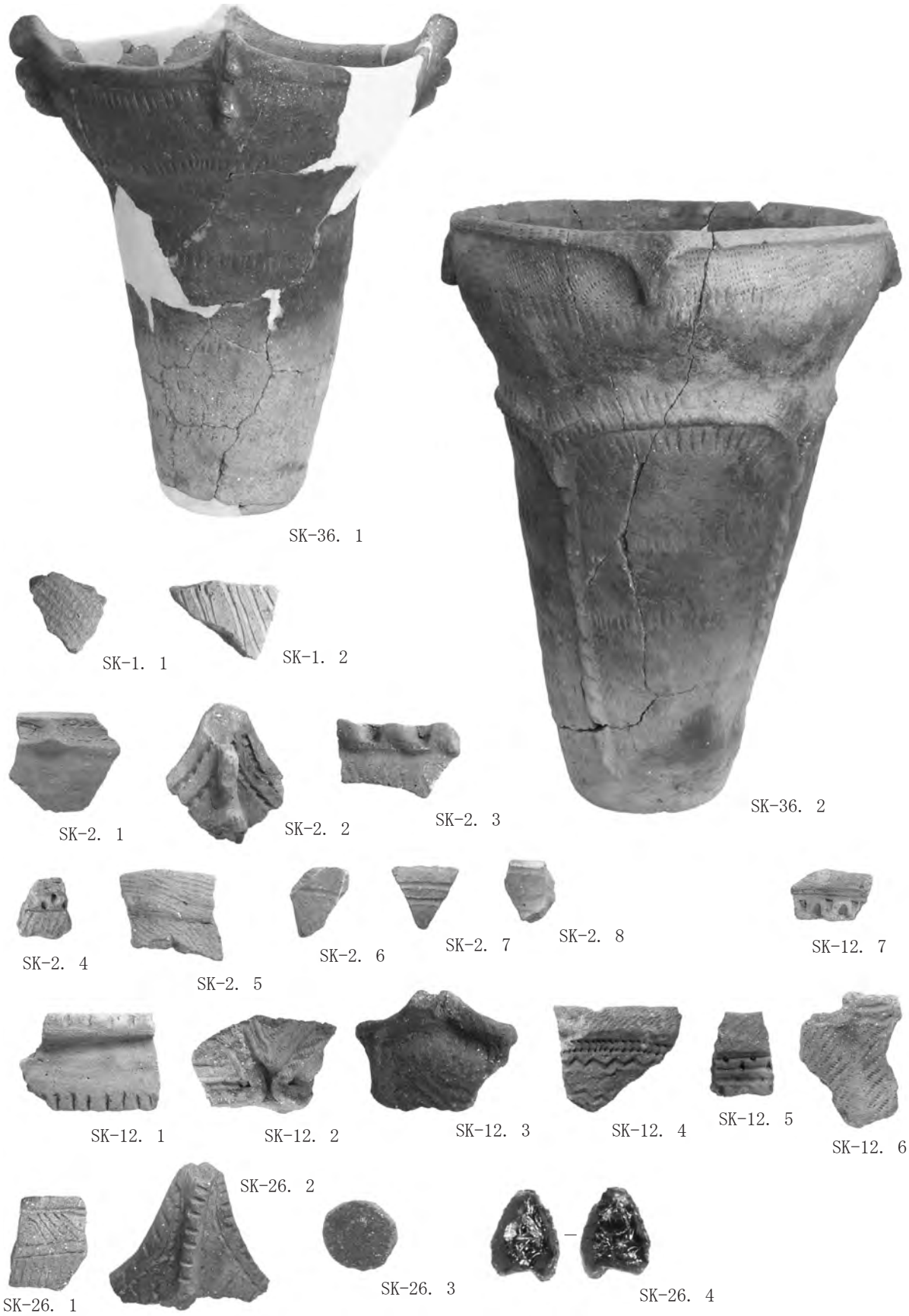
SK-16 出土遺物 (4) （縄文時代）



SK-17・19 出土遺物（縄文時代）



SK-20 出土遺物・SK-36 出土遺物 (1)（縄文時代）



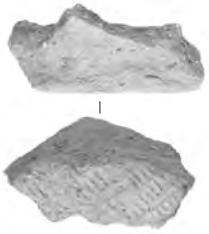
SK-36 出土遺物 (2)・SK-1・2・12 出土遺物・SK-26 出土遺物 (1)（縄文時代）

SK-26. 5

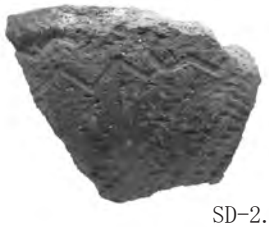
SK-26. 6

SK-33. 1

SK-38. 1


SK-38. 2

SB-2. 1


SD-2. 1

SD-2. 2

SD-2. 3

SD-2. 4

SD-2. 5

SD-2. 6

SD-2. 7

SD-2. 8

SD-2. 9

SD-2. 10

SD-2. 11

SE-1. 1

SE-1. 2

SE-1. 3

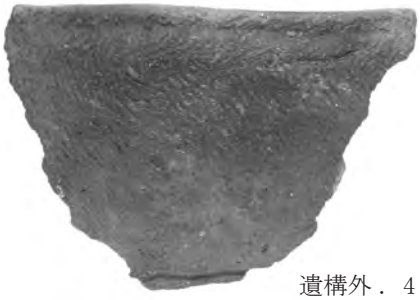
Pit 群 -1. 1

Pit 群 -2. 1

遺構外．1

遺構外．2

SK-26 出土遺物 (2)・SK-33・38・SB-2・SD-2・SE-1・Pit 群 -1・2・遺構外出土遺物 (1)（縄文時代）


遺構外．4

遺構外．3

遺構外．5

遺構外．6

遺構外．8

遺構外．9

遺構外．7

遺構外．10

遺構外．11

遺構外．12

遺構外出土遺物 (2)（縄文時代）

SD-2．1

SD-2 出土遺物（弥生時代）

炉跡 -1．1

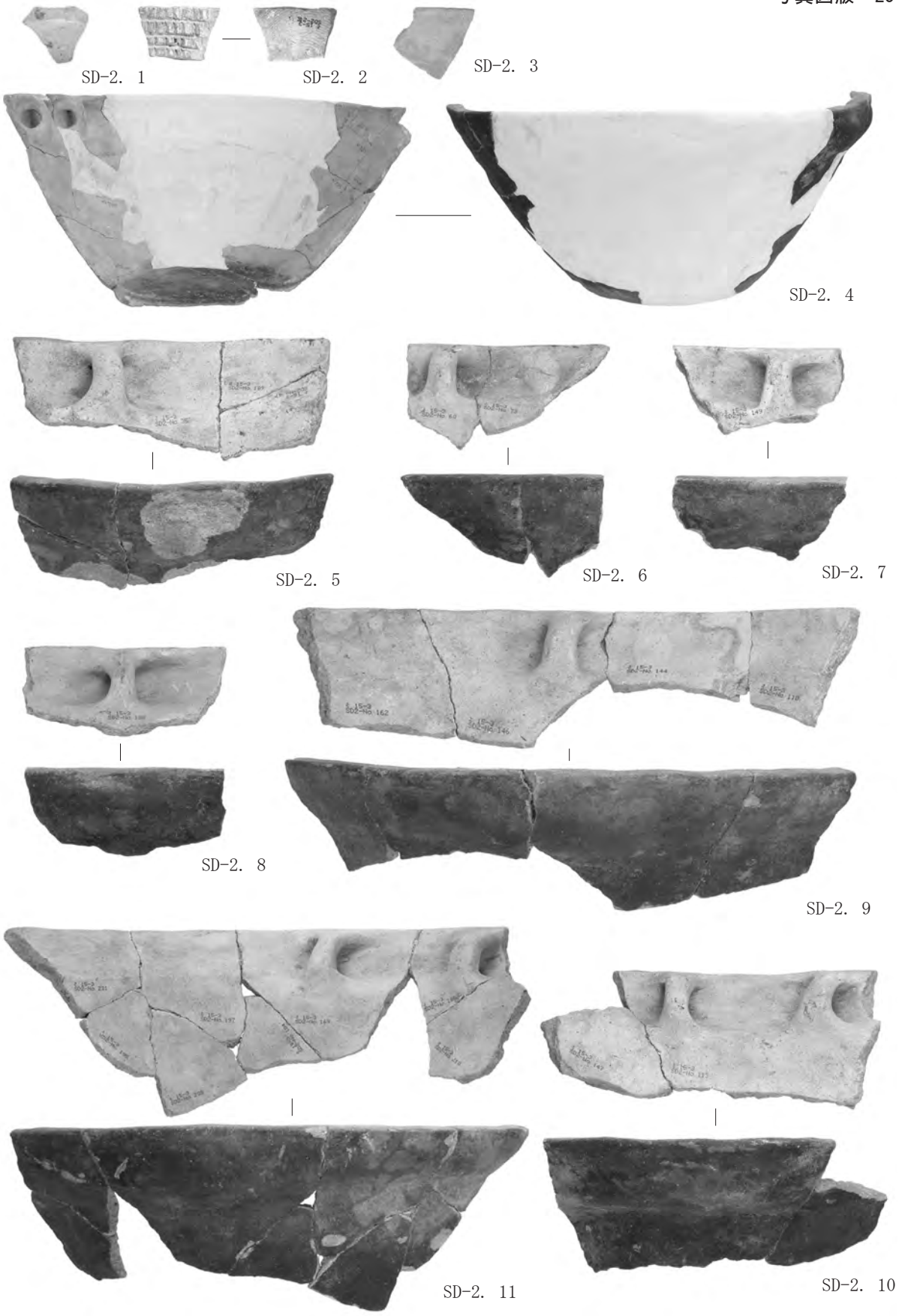
SB-2．1

遺構外．1

遺構外．2

遺構外．3

SB-2・炉跡 -1・遺構外出土遺物（古墳時代）



SD-2 出土遺物 (1)（中世）

SD-2. 12

SD-2. 13

SD-2. 14

SD-2. 15

SD-2. 16

SD-2. 17

SD-2. 18

SD-2. 19

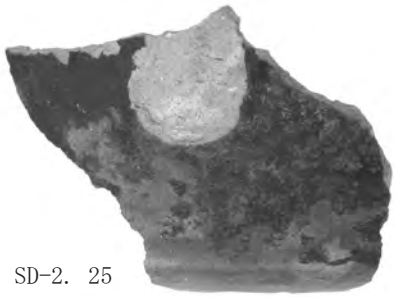
SD-2. 20

SD-2. 21

SD-2. 22

SD-2. 23

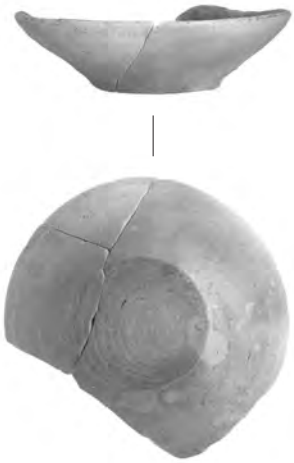
SD-2. 24


SD-2. 25

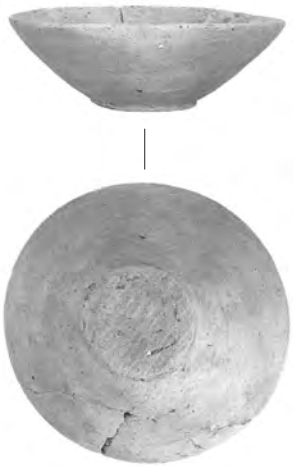
SD-2. 26

SD-2 出土遺物 (2) （中世）

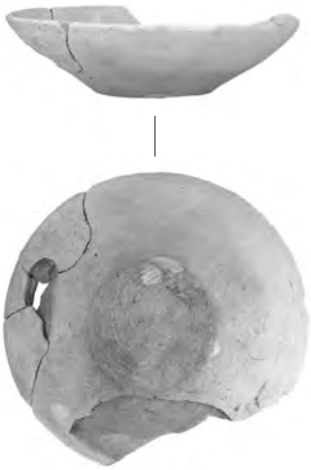
SK-2. 1



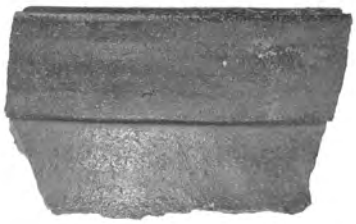
SK-2. 2



SK-2. 3



SK-2. 4



SK-26. 2

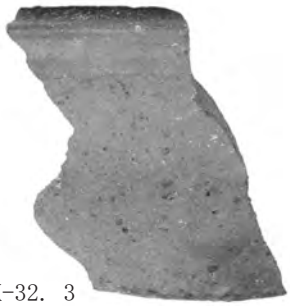
SK-26. 1

SK-28. 1

SK-32. 1

SK-32. 2

SK-32. 5

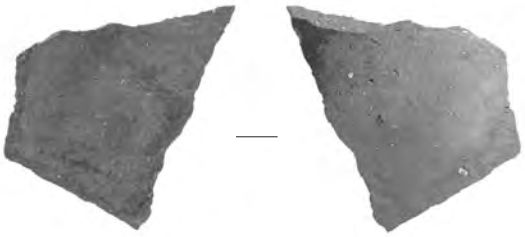


SK-32. 3

SK-32. 4

SK-2・26・28・32 出土遺物（中世）

SK-33. 1

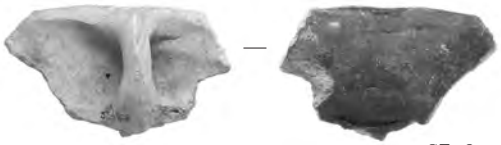


SK-33. 2

SE-1. 1

SE-1. 2

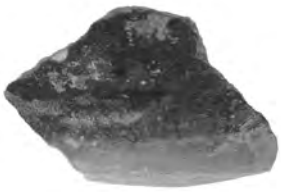
SE-3. 1



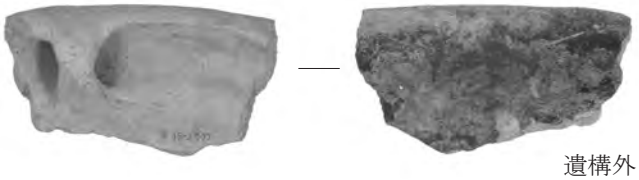
SE-3. 3

SE-3. 2

SE-3. 4

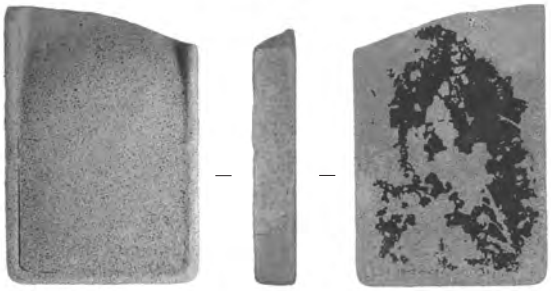


遺構外．1

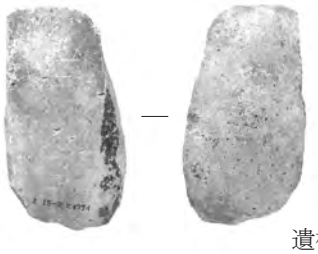


遺構外．2

SK-33・SE-1・3・遺構外出土遺物（中世）



遺構外．1



遺構外．2

遺構外出土遺物（時代不明）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	あくついせき（だいさんちてん）
書　　名	圷遺跡（第３地点）
副　書　名	ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告　第８集
編集者名	小川将之
著　者　名	小川将之　関口慶久　川口武彦　新垣清貴
編集機関	株式会社 地域文化財コンサルタント　/　〒286-0201　千葉県富里市日吉台1-23-12
発行機関	水戸市教育委員会　/　〒310-8610　茨城県水戸市中央1-4-1 株式会社 グリーン・ハウジング　/　〒311-4151　茨城県水戸市姫子1-793-4 株式会社 地域文化財コンサルタント　/　〒286-0201　千葉県富里市日吉台1-23-12
発行年月日	2007(平成19)年３月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
圷遺跡 （第３地点）	茨城県水戸市 河和田1丁目 1645-13地内	8201	201-15	36° 22′ 27″	140° 24′ 47″	2006.6.21 ～ 2006.7.12	1,445㎡	マンション建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
圷遺跡 （第３地点）	集落跡	縄文	袋状土坑　８基 陥し穴状土坑　５基	土器・土製品（円盤）・石器
		弥生		土器
		古墳		土師器
		中世	掘立柱建物跡　２棟 溝跡　３条 土坑　20基 地下式坑　４基 井戸跡　３基 ピット群　２ヶ所	磁器・陶器・カワラケ・内耳土鍋
		近現代	炭焼き関連施設　３基	磁器・陶器
		不明	炉跡　１基	土師器・石製品（硯）・瓦

要　約

圷遺跡では縄文時代中期の住居跡・土坑，古墳時代後期の住居跡等が検出されている。第３地点の調査において住居跡の検出は無かったが，縄文時代中期の阿玉台式期を主体とする袋状土坑８基が検出された。中世については，１km南に位置する河和田城跡との関連が想定される15～16世紀代の村落と思われる遺構群が検出された。

水戸市埋蔵文化財調査報告

第１集　**台渡里廃寺跡**－範囲調査確認報告書－　2005 年３月発行

第２集　**台渡里廃寺跡**

－市道常磐 17 号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）－　2005 年４月発行

第３集　**大鋸町遺跡**

－グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－　2005 年８月発行

第４集　**台渡里廃寺跡**

－市道常磐 17 号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）－　2006 年３月発行

第５集　**台渡里廃寺跡**

－集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－　2006 年３月発行

第６集　**吉田古墳Ⅰ**－史跡整備計画に伴う吉田古墳群第１号墳の

第１次・第２次発掘調査報告書－　2006 年３月発行

第７集　**大鋸町遺跡**（第３地点）

－市道浜田 207 号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－　2006 年３月発行

第８集　**坏遺跡**（第３地点）

－ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－　2007 年３月発行

水戸市埋蔵文化財調査報告　第８集

坏遺跡（第３地点）

－ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書－

発　行　日　　平成19年３月26日

編　集	株式会社 地域文化財コンサルタント　〒286-0201　千葉県富里市日吉台1-23-12 TEL 0476-93-0770　FAX 0476-93-0538　URL http://www.chibun.co.jp
発　行	水戸市教育委員会　〒310-8610　茨城県水戸市中央1-4-1 株式会社 グリーン・ハウジング　〒311-4151　茨城県水戸市姫子1-793-4 株式会社 地域文化財コンサルタント　〒286-0201　千葉県富里市日吉台1-23-12
印　刷	社会福祉法人　東京コロニー　コロニー印刷　〒165-0023　東京都中野区江原町2-6-7 TEL 03-3953-3536　FAX 03-3951-9163　URL http://colony.gr.jp/